和鉄の道　Iron Road　2018【18】

たたら製鉄　和鉄の道・Iron Road　製鉄関連遺跡を訪ねて

和鉄の道 ・ Iron Road

―　日本の源流・たたら遺跡探訪　―

Mutsu Nakanishi Home Page より

http://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/

2018. 3. 5.

西アジアで生まれた人工鉄の起源　そしてそこからはるばるユーラシア大陸を東遷して、東端の日本に伝来した製鉄技術。　今 そのたたら製鉄の最大の謎がベールを脱ぎ始めた。

また、たたら製鉄ではぐくまれた製鉄技術が根底にある明治の近代化産業遺産が世界遺産に登録された。

さらに、鉄器が使われる前　世界でも類例のない約１万年の長きにわたり　永続する社会を作り上げた日本の縄文「日本人の心の故郷　縄文の心」が世界の関心を集めています。

日本に「鉄」が伝来してから「たたら製鉄」が行われるまで、約 800 年の長きにわたって製鉄法の模索が続き、さらに磨き高めながら 1500 年続いてきた日本独自の製鉄技術。その製鉄関連遺跡には製鉄遺構・生産の痕跡とともに、携わった人々の賑わいや数々のドラマ・歴史が周りの美しい景色とともに埋もれて残っています。

古代から現代に至るまで、日本各地で繰り広げられた鉄に携わる現場で繰り広げられてきた数々のドラマ。

その痕跡の風景を少しでも残しておきたいと日本各地を Country Walk しつつ集めています。

「鉄は国家なり・産業の米」と「鉄」の力が強調される一方で、文化を育み、そこに住む人たちの生活を豊かにし、現在に至る日本の国造りを推進してきた「鉄」。

その根底にはそれを使う人々の力・心であり、日本人の心の故郷といわれる「心優しき縄文の世界」がある。

「鉄」の持つ魅力　「鉄のまばゆい輝き・閃光」と「鉄の黒光り・肌光」

その美しさをこれからも大事にしたいと思っています。

日本の源流・たたら遺跡探訪

By　Mutsu　Nakanishi

たたら製鉄概説　　風来坊　和鉄の道・iron road　製鉄関連遺跡を訪ねて

和鉄の道（わてつ　みち）　・　Iron Road

鉄の「まばゆい輝き・閃光」と「黒光り・肌光」

日本には「たたら製鉄」という鉄鉱石や砂鉄の塊から、「硬くてねばい鋼」を直接作り出す日本古来の製鉄法がある。ヒッタイトが人工鉄を発明した当初の姿を現代まで残し、現在の製鉄法にも負けない高品質の鋼を作り出す技術に高め、維持している日本独自の製鉄法である。

日本に「鉄」が伝来して、この「たたら製鉄」が行われるまで、約800年の長きにわたってたたら製鉄法の摸索が続き、その技術をさらに磨き高めながら1500年続いてきた日本独自の製鉄技術。　「鉄は国家なり」「鉄は産業の米」と「鉄」の力が強調されるが、一方で文化を育み、　そこに住む人たちの生活を豊かにし、現在に至る日本の国造りを作ってきた。

そんな今、急速な社会変革の中で　この製鉄にともなう数々のドラマが忘れ去られ、日本各地の「たたら製鉄」遺跡もろとも消え去ろうとしている。

　製鉄炉は生産された鉄塊の取り出し毎に壊されるので　製鉄関連遺跡に残っている遺構はそんな生産設備の残骸。　製鉄関連遺跡にはそんな遺構・生産の痕跡とともに、それに携わった人々の賑わいや数々のドラマ・歴史が周りの美しい景色とともに埋もれて残っています。

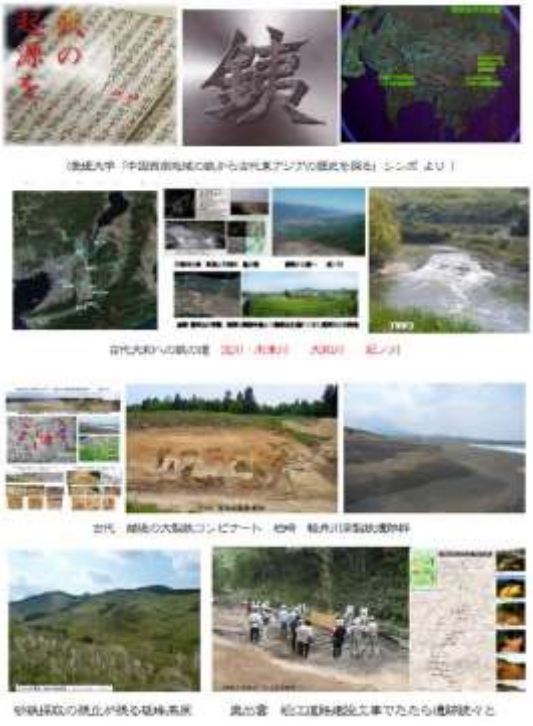
日本で繰り広げられた数々のドラマ　そして　その痕跡の風景を少しでも残しておきたいと「和鉄の道・Iron Road」として日本各地をCountry Walk しつつ集めています。

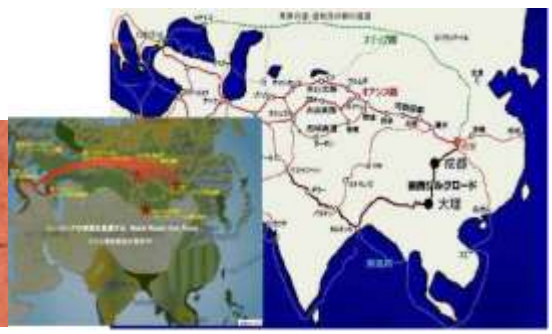
鉄は「文化」をはぐくむとともに数々の「戦さ」をも生んだといわれる。それだけ　鉄の力の大きさの証明であり、そうだろうと思いますが、大事なのは それを使う人々の力・心。

その根底には日本人の心の故郷「心優しき縄文の世界」がある。

「鉄」の持つ魅力　「鉄のまばゆい輝き・閃光」と「鉄の黒光り・肌光」

その美しさをこれからも大事にしたいと思っています。





2018年　和鉄の道・Iron Road　口絵

口絵-1　鉄の惑星「地球」35億年前　現在の生物起源に遡るIron Road の絶景
≪NHK BS ドキュメンタリー「南極 氷の下のタイムカプセル」≫ より
光合成を初めて行い、大気の酸素を作るシアノバクテリアの不思議な世界

口絵-2　地球35億年前の痕跡
シアノバクテリアが作り出した酸素と　化石ストロマイトと縞状鉄鉱床

口絵-3　南極氷　第５８次南極観測隊　岡田雅樹博士からの贈り物
数万年も前の空気の泡を一杯閉じ込めて真っ白な南極氷

口絵-4　淡路島　津名丘陵　舟木集落遺跡【弥生後期・終末期】
「国生み神話の島　淡路島」から「国生みの島」へ 国造り&たたら製鉄源流の謎を解く鍵を秘める
海人族と密接な鉄器加工・製塩などの生産工房を持つ淡路島山間地集落遺跡群の中心

口絵-5　古代たたらの故郷 湖北　伊吹山山麓　たたらの里に眠る「金太郎」伝承walk

伊吹の里 & 長浜市西黒田地区(旧坂田郡西黒田村)

口絵-1　　鉄の惑星「地球」35 億年前　現在の生物起源に遡る Iron Road の絶景

≪NHK BS ドキュメンタリー「南極 氷の下のタイムカプセル」≫ より

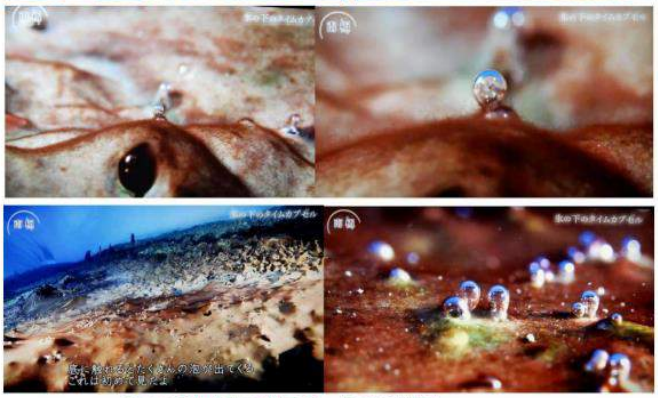
光合成を初めて行い、大気の酸素を作るシアノバクテリアの不思議な世界

南極昭和基地近く宗谷海岸の中にある「アンターセー湖」4m 厚さの氷に覆われた湖の水底に不思議な世界が広がっている

林立する「こぶ」はシアノバクテリアの集合体　表面の密集した毛状のところから、酸素の泡が出ている
３５億年前の原始の生態系が現在も生き続けているという
こんな不思議な世界が南極の厚さ 4m も氷に覆われた極寒の湖の底にある
［BS プレミアム］南極　氷の下のタイムカプセルより

口絵-2　地球　35 億年前の痕跡

シアノバクテリアが作り出した酸素と　化石ストロマイトと縞状鉄鉱床



シアノバクテリアが酸素を放出している　初めて見る映像です

オーストラリア　ピルバラ周辺に残る35億年前の痕跡
化石ストロマトライトと縞状鉄鉱床

アンターセー湖　湖底のこぶとそっくり同じこぶ状の化石(ストロマトライト)が並ぶ オーストラリア　ピルバラ

シアノバクテリアのこぶ断面　　シアノバクテリアこぶ上集合体骨格痕跡が見える化石 ストロマトライト

シアノバクテリアが放出した酸素で海中の鉄が酸化堆積したオーストラリアの縞状鉄鉱床

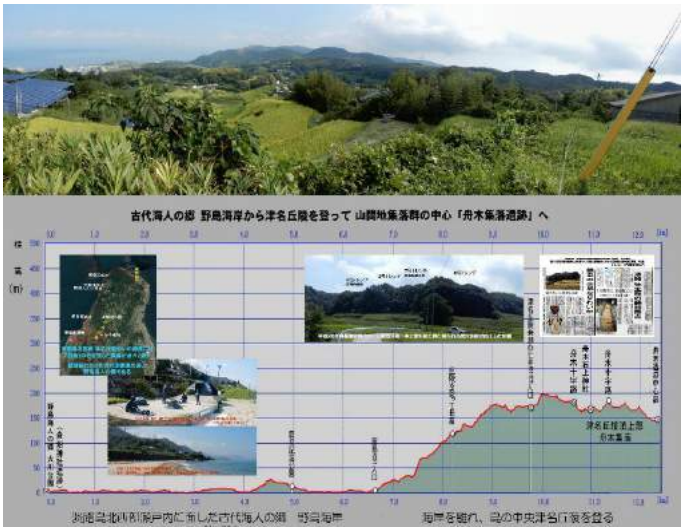
口絵-3　南極氷　　第５８次南極観測隊　岡田雅樹博士からの贈り物

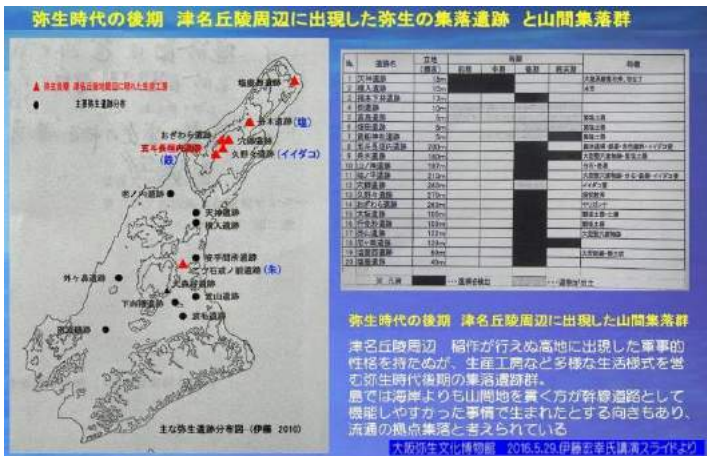
数万年も前の空気の泡を一杯閉じ込めて真っ白な南極氷

口絵-4　　津名丘陵　舟木集落遺跡　【弥生後期・終末期】

「国生み神話の島　淡路島」から「国生みの島」へ　国造り&たたら製鉄源流の謎を解く鍵を秘める

海人族と密接な鉄器加工・製塩などの生産工房を持つ淡路島山間地集落遺跡群の中心





口絵-5　古代たたらの故郷 湖北　伊吹山山麓　たたらの里に眠る「金太郎」伝承 walk

伊吹の里 & 長浜市西黒田地区（旧坂田郡西黒田村）

伊吹の里の秋景色　　伊吹山から流れ出た豊富な水が伊吹の里の豊かさの象徴か?

金太郎生誕の伝承の地　伊吹山の前に臥竜山寝そべる旧坂田郡西黒田地区

和鉄の道・Iron Road　たたら製鉄関連遺跡探訪　2018

ま え が き

西アジアで生まれた人工鉄がユーラシア大陸を東遷し、中国・朝鮮半島にわたってきた鉄器・人工鉄の生産技術が「何時・どのように日本海を渡り、そして　たたら製鉄の源流となったのか……」

「和鉄の道　もっと直接　鉄の謎に迫りたいなぁ」と毎年抱く「解けそうで解けない鉄の謎」。

道はまだまだ。でも　2018 年もいろいろ新しい「和鉄の道」を眼にすることが出来ました。

また、今までの数多い断片的な記事を読み返しながら、整理することをはじめています。

「2018 年 和鉄の道・Iron Road」　ざっと頭に浮かぶことを記載すると下記のとおり。

◎鉄の惑星「地球」35 億年前　現在の生物起源に遡る Iron Road の絶景「南極 氷の下のタイムカプセル」のこと

縞状鉄鉱床そして生命に必須である大気の酸素を作り出し、現在の生物起源となり、そして、その過程で海中に膨大な鉄を堆積して、現代の製鉄産業を支える鉄鉱資源を生み出したシアノバクテリア。これぞ　Iron road の源と昂奮。約 35 億年前の地球で演じられたシアノバクテリアの世界をそのまま映像で映し出され、くぎ付けに。

◎訪問したかった 淡路島津名丘陵　舟木集落遺跡　弥生後期・終末期】現地探訪　やっと訪れることができました

海人族と密接につながる鉄器加工・製塩などの生産工房等を持つ弥生後期の山間地集落遺跡群の中心

日本の国造り　たたら製鉄源流の謎を解く鍵を秘めているという　弥生時代の山間地集落の中心　舟木遺跡をやっと訪ねることが出来ました。また、淡路島の海人族が古代朝鮮半島の鉄素材輸入にかかわっている可能性についても少し知識が増えました。

国生み伝承に加え、弥生後期日本最古最大級の鍛冶工房村 五斗長垣内遺跡・松帆銅鐸と相次ぐ日本の国生みを解く鍵とみられる遺物・遺跡の出土が続く淡路島。日本の国生み・たたら製鉄の謎にせまれると興味津々。

海に近い丘陵の尾根筋　海人測と生産工房が一緒になって、鉄を求める古代大陸交易を推進した交易の中心集落　舟木遺跡。国生みの謎を解くとの期待とともに、高地性集落の性格評価も変えるかも。

明石海峡を隔ててすぐ南にいつも眺める淡路島に期待一杯です。

◎　和鉄の道・Iron road　日本各地の製鉄関連遺跡訪問　記事読み返しと地域レビュー　をはじめました

現地訪問や鉄の地域研究レビューの資料などを見る機会を得て、「西播磨　宍粟の鉄」「近江の鉄」について、記事読み返し、整理とともに、掲載記事のリストアップ紹介。また、毎年記載してきた「節分の鬼」も読み返しています。

新しく製鉄遺跡を訪ねることはできませんでしたが、古代たたらの故郷 湖北 伊吹山山麓　たたらの里に眠る「金太郎」伝承 & 「近江の鉄」 空白だった琵琶湖側伊吹山山麓のたたら伝承を「近江の鉄」に付け加えることが出来て、一応琵琶湖周辺の古代製鉄地帯をめぐったことになり、整理せねばと。

私にとっては、気が付かなかった新しい視点・思い違いや間違いの発見など。

できれば 1 編に整理してまとめたいのですが、なかなか頭回らす、とりあえずのリストアップです。

だんだん　行動半径も小さく、頭も回らずですが、「鉄」「たたら」をキーワードにした日本各地の探訪。

まだまだ　好奇心もあり、うれしい Iron Road です。

和鉄の道・Iron Road　たたら製鉄関連遺跡探訪 2018

2018 年掲載トピックス

西アジアで生まれた人工鉄がユーラシア大陸を東遷し、中国・朝鮮半島にわたってきた鉄器・人工鉄の生産技術が「何時・どのように日本海を渡り、そして　たたら製鉄の源流となったのか……」

「和鉄の道　もっと直接　鉄の謎に迫りたいなぁ」と毎年抱く「解けそうで解けない鉄の謎」。

道はまだまだ。でも　2018 年　いろいろ新しい「和鉄の道」を眼にすることが出来ました。

●　鉄の惑星「地球」35 億年前　現在の生物起源に遡る Iron Road の絶景

≪NHK BS ドキュメンタリー「南極 氷の下のタイムカプセル」≫

南極氷の下のタイムカプセル　光合成を初めて行い、大気の酸素を作るシアノバクテリアの不思議な世界

南極の氷に閉ざされた誰も何もいない湖の下で　もくもくと酸素を生み出す原始生物シアノバクテリア。

鉄の惑星　地球で、35 億年前その鉄の助けをかりて豊富にあった水と炭酸ガスから、太陽のエネルギーで光合成を初めて行い、酸素を大量に放出。生命を維持するのに必要な有機物を得て、限られた環境でしか生きられなかった世界を大きく拡大した。その後、シアノバクテリアは進化して、植物の中に入り込み、葉緑体に。

一方　有機物を酸素で分解する動物たちも、その進化を急速に早めた。現代の地球に存在する動植物の起源がこのシアノバクテリアにあるとされるゆえんである。また、この光合成の過程でシアノバクテリアは水中に大量にあった鉄を酸化させ、沈殿させ、現在の縞状鉄鋼床を作り、現代の製鉄を支えている。

いわば、35 億年前にさかのぼる Iron Road の絶景が今も氷に閉ざされた南極の湖の底に今も生きている。

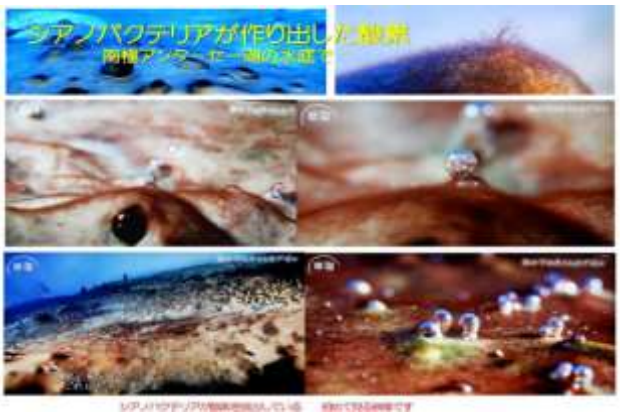
現世の生物そしてその頂点にいる人間の存在もまた、現代社会の繁栄の礎となった大量の鉄鉱石もこのシアノバクテリアにつながっている。もう　びっくりを通り越し、今こんな世界を見られることに興奮。テレビの世界に釘付け。

鉄の惑星「地球」で「鉄」が演じる「もし地球に鉄がなかりせば…」のすごい役割の始まりを見るのも初めて。

鉄の惑星「地球」35 億年前　現在の生物起源に遡る Iron Road の絶景。いまだ興奮冷めやらず。

人工鉄・製鉄技術の起源の一番根元にあるシアノバクテリアと水中に溶けた鉄との共同作業。

Iron Road の出発点ともいえる鉄の惑星　地球の不思議との遭遇です。ここから Iron Road が始まると……・



◎　第５８次南極観測隊　岡田雅樹博士からの贈り物　数万年も前の空気の泡を一杯閉じ込めて真っ白な南極氷

時をおなじくして、３月に南極から帰国直後の第５８次南極観測隊副隊長兼越冬隊長　岡田博士から、南極氷が届いたことも　うれしいニュース。　こっちは　数万年も前の大気が閉じ込められた南極氷そのもの。水で溶けるときに「シュワー」と音がし、光にかざすと　氷に閉じ込められた空気の泡がきらきらと輝いて見え、宝石のよう。

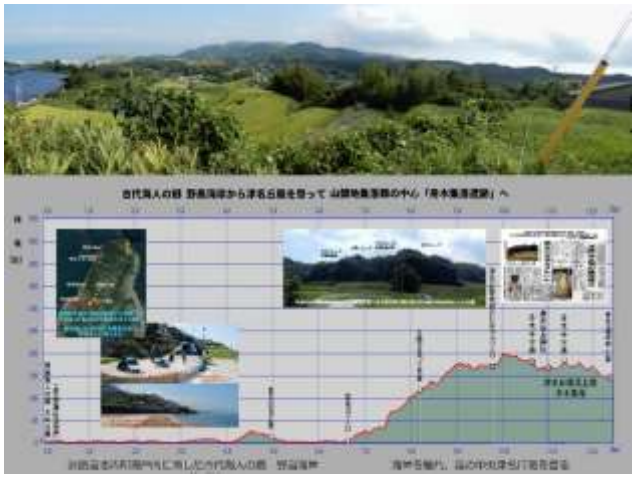
遠い昔の和鉄の道を思い浮かべつつ、南極氷の焼酎ロックで、うれしい一杯。

また、家族・孫たちや近くの小中学生や仲間たちにも喜んでもらいました。

●　津名丘陵　舟木集落遺跡【弥生後期・終末期】　「国生み神話の島　淡路島」から「国生みの島」へ

日本の国造り　たたら製鉄源流の謎を解く鍵を秘めている

海人族と密接な鉄器加工・製塩などの生産工房を持つ淡路島山間地集落遺跡群の中心



淡路島南部の三原平野からは弥生時代の終焉を告げると言われる大量の埋納銅鐸（松帆銅鐸）が出土。

また、淡路島北部を南北に走る津名丘陵周辺から、弥生中期から後期にかけての大規模な鍛冶工房跡「五斗長垣内遺跡」が出土。そして、西に瀬戸内海東に大阪湾を見晴らす津名丘陵の尾根筋の上に　弥生中・後期舟木遺跡を中心とする鉄器加工や製塩・干イイダコなどの生産工房を持ち交易を生業とする山間地集落群が展開していることが明らかになってきた。

しかも　南北に走る津名丘陵の西側海岸部には航海術にたけ、大陸・朝鮮半島と初期大和王権と密接につなぐ役割をしたとみられる海人達の拠点があることも分かっている。

これらのことから、淡路島が当時最重要視された半島の鉄素材を中心とした交易を通じて、日本の国生みに大きな役割を果たしたとして、「国生み神話の島淡路島」から「国生みの島　淡路島」への期待がにわかに高まっている。

今この渦中の中心にあるのが、弥生後期から終末期津名丘陵の尾根筋に出現した山間地生産工房集落群野中心で、鉄器工房などの生産工房を有し、交易の中心とみられる舟木遺跡。まだ、発掘調査は一部ですが、その存在感は高まるばかり。是非現地に行ってみたいと思いながら,中々行けなかったのですが、８月末　淡路島北西部　野島海人の本拠地　野島海岸から津名丘陵の尾根の上にある淡路市舟木集落・舟木遺跡の現地周辺 walk ができました。

舟木遺跡域の大半は私有地で立ち入られませんでしたが、西に野島海岸から瀬戸内を見晴らす尾根の上　古代から守り継がれている女人禁制の磐座を中心に樹木に包まれた小さな丘をいくつも連らね、舟木集落がありました。この磐座を中心に現在の居住域を除く集落の田園全体が遺跡でした。

まだ、発掘はごく一部ですが、舟木遺跡の現地調査資料や遺跡地図を眺めながら、遺跡域をめぐりました。

日本の国造りの始まりそして　ヤマトへの実用鉄器製造技術・たたら製鉄の源流を解き明かしてくれるタイムカプセルが目の前の森にある。また、古代からの姿をそのまま残し、今も女人禁制　村人たちにより　素朴な神事が守り継がれている舟木集落の中心 舟木神社の磐座の森にも感銘をうけました。

この舟木集落　「生活実態は変われども　村人たちによりいまも古代の森・丘が守り継がれている。」いると強く感じました。まだ、調査はごく一部ですか、丘から見下ろす美しい眺めとともに、「日本の国造り　たたら製鉄源流の謎を解く鍵を秘めている」「国生み神話の島淡路島」から「国生みの島　淡路島」へ　今後も淡路島の発掘調査に期待一杯。

● 和鉄の道・Iron road　日本各地の製鉄関連遺跡訪問　記事読み返しと地域レビュー

たたら跡　日本各地の製鉄関連遺跡　製鉄関連伝承などを訪ねて記事にしてきましたが、その数も膨大になり、また、同じことを繰り返し紹介していることも。そんな記事を時代を通して、その地域　そして人々の暮らしとどのようにつながり、どんな展開をもたらしてゆくのか…。すこし、掲載してきた資料全体をながめたいと日本各地の現地訪問記と

ともに、その地域について　記録してきたこと全体をリストアップし、読み返すことを始めました。
現地訪問や鉄の地域研究レビューの資料などを見る機会を得て、　「西播磨　宍粟の鉄」「近江の鉄」について、記事読み返し、整理とともに、掲載記事のリストアップ紹介をしました。
私にとっては、気が付かなかった新しい視点・思い違いや間違いの発見など。
できれば１編に整理してまとめたいのですが、なかなか頭回らす、とりあえずリストアップ。

◎　和鉄の道・Iron road　『西播磨(宍粟・佐用)の鉄』　2018 レビュー　2018.5.15.
　兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室編　『ひょうご歴史研究室紀要』第３号◇特集「播磨のたたら製鉄」

◎　古代たたらの故郷 湖北 伊吹山山麓　たたらの里に眠る「金太郎」伝承
　＆「近江の鉄」　和鉄の道掲載リスト　　2018. 11. 12.

◎　2018 年節分に　仲間としての鬼に思う － 鬼にされた製鉄集団　　2018. 2. 3.

● 番外　日本人の心の故郷　縄文　　北東北・北海道の縄文遺跡を　ユネスコ世界遺産に
一万年も平和で豊かな生活が続いた世界に類のない日本の「縄文」社会
そのエンジンは「他人を思いやる心」だったである。

北海道・北東北の縄文遺跡群」が 2020 年登録を目指すユネスコ世界遺産の日本申請候補に選ばれました。
世界遺産登録へ一歩前進とうれしくなりましたが、
残念ながら日本からの 2020 年登録推薦から外れました。
なにか日本の政治に翻弄されているようで、気になりますが、引き続きご支援お願いします

このほか、いろいろな姿を見せる現代の鉄にも出会いあえ、この１年色々思いを巡らしながらのうれしい「和鉄の道」。
私にとっては、気が付かなかった新しい視点・思い違いや間違いの発見など。
整理のつかない身勝手な記事ばかり。
できれば１編に整理してまとめたいのですが、なかなか頭回らず、とりあえずのリストアップです。
だんだん　行動半径も小さく、頭も回らずですが、「鉄」「たたら」をキーワードにした日本各地の探訪。
まだまだ　好奇心もあり、うれしい Iron Road です。
よろしくお願いします。

和鉄の道･Iron Road 2018　たたら遺跡探訪　掲載記事目次

◆ 和鉄の道・Iron Road 口絵　18iron00.pdf

1. 資料　和鉄の道　鬼に関する掲載記事の再整理　2018.2.3.　18iron01.pdf
   2018 年節分に　仲間としての鬼に思う － 鬼にされた製鉄集団 －
   A. 神戸の鬼　関西での伝承
   B. 日本各地 鬼伝説 和鉄の道・Iron Road 掲載リスト 整理

2 ≪NHK BS ドキュメンタリ-「南極 氷の下のタイムカプセル「≫　2018.3.5.　18iron02.pdf
   鉄の惑星「地球」35 億年前　現在の生物起源に遡る Iron Road の絶景
   光合成を初めて行い、大気の酸素を作るシアノバクテリアの不思議な世界

3 卑弥呼の時代を解き明かす?　神戸新聞より　2018.3.23.　18iron03.pdf
   淡路島弥生後期の大山間地集落群淡路市舟木遺跡
   弥生期の鉄製ヤスが出土 海の民や北部九州とのつながりを示す?

4【情報紹介】西播磨の鉄【宍粟・佐用】概要レビュー　by Mutsu Nakanishi　2018.5.5.　18iron04.pdf
   1. 兵庫県立歴史博物館　ひようご歴史研究室編
      『ひょうご歴史研究室紀要』第３号特集「播磨のたたら製鉄」刊行の紹介
   2. 和鉄の道・Iron Road　西播磨の鉄【宍粟・佐用】概要 レビュー
      ◎「たたらのふるさと」　兵庫県西播磨県民局発行
      ◎ 和鉄の道・Iron Road 西播磨の鉄【宍粟・佐用】主要 掲載記事リスト

5. 湖北 伊吹山山麓 近江国 旧坂田郡に残る金太郎伝承　2018.6.1.　18iron05.pdf
   旧坂田郡 長浜市　旧坂田郡 長浜市西黒田

6. 海人族と密接な鉄器加工・製塩などの生産工房を持つ淡路島山間地集落遺跡群の拠点集落
   【津名丘陵　舟木集落遺跡　弥生後期・終末期】現地探訪　2018.8.29.　18iron06.pdf
   1. 淡路島の西北部の狭い海岸に点々と続く野島海人の郷「野島」
      弥生後期の製塩工房 貴船神社遺跡 淡路市野島大川海岸
   2. 弥生後期　鉄器など生産工房を持つ淡路島山間地集落群の中心 交易拠点「舟木遺跡」
      野島海岸を見晴らす津名丘陵の頂上部 樹木に包まれた古代から続く淡路市舟木集落
   【参考】インターネット検索 & Iron Road 資料整理
      PDF 「国生み淡路島の実像 -津名丘陵山間地集落群の中心集落 舟木遺跡 概要-」
      http://www.infokkkna.com/ironroad/2018htm/iron14/1809awajifunakiwebkensaku.pdf

7. 古代たたらの故郷 湖北　伊吹山山麓　たたらの里に眠る「金太郎」伝承 walk
   伊吹の里 & 長浜市西黒田地区(旧坂田郡西黒田村)　2018.11.12.　18iron07.pdf
   1. 正面に巨大な伊吹山がそびえるたたらの郷　米原市伊吹の里
   2. 南北に長く寝そべる丘 臥竜山の山裾に点々と連なる金太郎の里集落
      長浜市西黒田地区(旧坂田郡西黒田村)
   【参考】「近江の鉄」　和鉄の道掲載リスト　by Mutsu Nakanishi
      古代鉄の先進地　近江の鉄　掲載記事を書き出してみました

番外　日本人の心の故郷　縄文　北東北・北海道の縄文遺跡を　ユネスコ世界遺産に
   http://www.infokkkna.com/ironroad/prezen/2008jyomon/jyomonslide.htm
   一万年も平和で豊かな生活が続いた世界に類のない日本の「縄文」社会
   そのエンジンは「他人を思いやる心」だったのである。
   ◆ PDF　縄文帰りの勧め　◆ 縄文の心を映すストーンサークル

2018 Iron
00

Iron Road【18】2018

2018年　和鉄の道・Iron Road　口絵

口絵-1　鉄の惑星「地球」35億年前　現在の生物起源に遡るIron Road の絶景
≪NHK BS ドキュメンタリー「南極 氷の下のタイムカプセル」≫ より
光合成を初めて行い、大気の酸素を作るシアノバクテリアの不思議な世界

口絵-2　地球35億年前の痕跡
シアノバクテリアが作り出した酸素と　化石ストロマイトと縞状鉄鉱床

口絵-3　南極氷　第５８次南極観測隊　岡田雅樹博士からの贈り物
数万年も前の空気の泡を一杯閉じ込めて真っ白な南極氷

口絵-4　淡路島　津名丘陵　舟木集落遺跡【弥生後期・終末期】
「国生み神話の島　淡路島」から「国生みの島」へ 国造り&たたら製鉄源流の謎を解く鍵を秘める
海人族と密接な鉄器加工・製塩などの生産工房を持つ淡路島山間地集落遺跡群の中心

口絵-5　古代たたらの故郷 湖北　伊吹山山麓　たたらの里に眠る「金太郎」伝承walk

伊吹の里 & 長浜市西黒田地区(旧坂田郡西黒田村)

口絵-1　　鉄の惑星「地球」35 億年前　現在の生物起源に遡る Iron Road の絶景

≪NHK BS ドキュメンタリー「南極 氷の下のタイムカプセル」≫ より

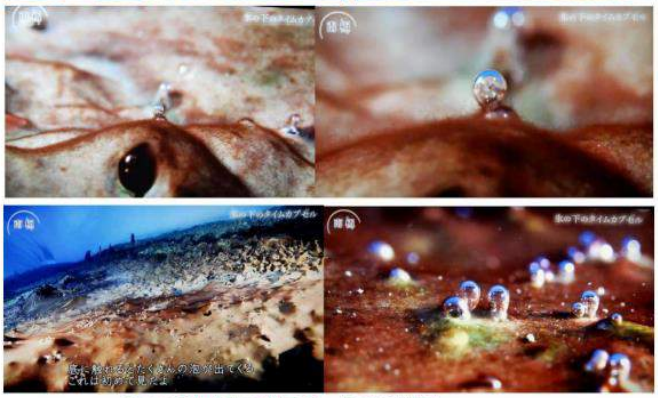
光合成を初めて行い、大気の酸素を作るシアノバクテリアの不思議な世界

南極昭和基地近く宗谷海岸の中にある「アンターセー湖」4m 厚さの氷に覆われた湖の水底に不思議な世界が広がっている

林立する「こぶ」はシアノバクテリアの集合体　表面の密集した毛状のところから、酸素の泡が出ている
３５億年前の原始の生態系が現在も生き続けているという
こんな不思議な世界が南極の厚さ 4m も氷に覆われた極寒の湖の底にある
［BS プレミアム］南極　氷の下のタイムカプセルより

口絵-2　地球　35 億年前の痕跡

シアノバクテリアが作り出した酸素と　化石ストロマイトと縞状鉄鉱床



シアノバクテリアが酸素を放出している　初めて見る映像です

オーストラリア　ピルバラ周辺に残る35億年前の痕跡
化石ストロマトライトと縞状鉄鉱床

アンターセー湖　湖底のこぶとそっくり同じこぶ状の化石(ストロマトライト)が並ぶ オーストラリア　ピルバラ

シアノバクテリアのこぶ断面　　シアノバクテリアこぶ上集合体骨格痕跡が見える化石 ストロマトライト

シアノバクテリアが放出した酸素で海中の鉄が酸化堆積したオーストラリアの縞状鉄鉱床

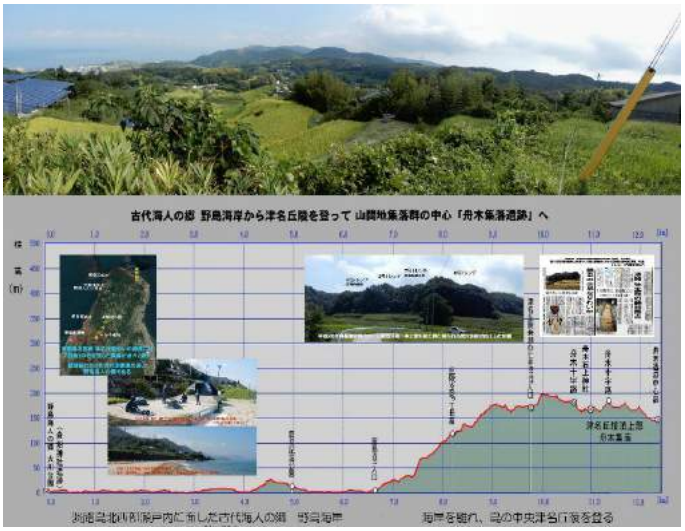
口絵-3　南極氷　　第５８次南極観測隊　岡田雅樹博士からの贈り物

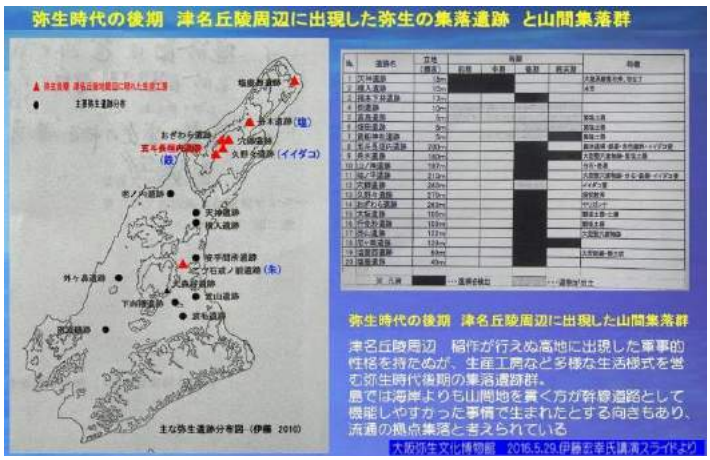
数万年も前の空気の泡を一杯閉じ込めて真っ白な南極氷

口絵-4　　津名丘陵　舟木集落遺跡　【弥生後期・終末期】

「国生み神話の島　淡路島」から「国生みの島」へ　国造り&たたら製鉄源流の謎を解く鍵を秘める

海人族と密接な鉄器加工・製塩などの生産工房を持つ淡路島山間地集落遺跡群の中心





口絵-5　古代たたらの故郷 湖北　伊吹山山麓　たたらの里に眠る「金太郎」伝承 walk

伊吹の里 & 長浜市西黒田地区（旧坂田郡西黒田村）

伊吹の里の秋景色　　伊吹山から流れ出た豊富な水が伊吹の里の豊かさの象徴か?

金太郎生誕の伝承の地　伊吹山の前に臥竜山寝そべる旧坂田郡西黒田地区

2018 Iron 01

和鉄の道　鬼に関する掲載記事の再整理　2018. 2. 3.

by Mutsu Nakanishi

2018年節分に　　仲間としての鬼に思う

「仲間としての鬼　－ 鬼にされた製鉄集団 －」

「鬼は外　副は内」から　「福は内　鬼も内」へ

競争社会から成熟社会へ移行する日本に必要なのは

鬼に抱く日本人の心情・日本の縄文が育てた心のやさしさでは・・・・

一万年も平和で豊かな生活が続いた時代　世界に類のない日本の「縄文」そのエンジンは「他人を思いやる心」
「鬼は外　福は内」と言いながらも、愛すべき鬼たちに寄せる心情が各地の鬼伝承・新春・節分の集落挙げての追儺式・鬼踊りとして、現在まで延々と続いている。
これこそが日本人の心の故郷として縄文が育んだ人類が生き延びてきた本能財産「心のやさしさ・他人を思いやる心」である。　激変する国際社会の中で振り回され、核戦争の脅威に平和が脅かされる今　１万年もの長きにわたって、平和な永続社会を築いた縄文　そして愛すべき鬼たちの心情を考えてもよいのではないかと思っている。
積極的平和主義などというわけのわからぬ造語でまくしたてる人たちからは「なまっちろい　理想論」と言われようがよっぽど現実的で事実の積み重ねなのである。
遠い昔の縄文や鬼たちの姿にまで　さかのぼらなくても幾つも事実がある。

- 戦後日本が繁栄して今に至っているこの時代　戦争がない平和がもたらしたもの
- 今　介護の世界で　相手の目を見つめ、優しい笑顔で語りかけ、ハグすることが認知症・脳細胞の活性・再生にきわめて有効であることが実践を通じて証明されつつある。

何度も取りあげた記事の再録で、home page にも掲載したのですが、
この節分の時期に　鬼にされた仲間の鬼への共感に日本の縄文を重ね合わせ、
日本の各地に残る仲間の鬼について、ほんの一部ですが紹介します。

たたら衆や山で働く金属採掘集団などが日本各地の鬼伝承のベースとして幾つも残っていて、和鉄の道を訪ねた時に、何度も「鬼」ゆかりの地に出会ったこともあって、節分・２月が近づくといつも日本の「鬼」が気にかかる。
古来から、日本では　人に災いをもたらす目に見えぬ隠れた者を『鬼・隠オニ』と呼んできた。
でも　災いをもたらす者とは立場・集団の思いによって数々の『鬼・隠オニ』が作られてきた。特に施政者・支配者と民衆との思いには大きな差があり、鬼に寄せる心情も大きく異なり、民衆の思いが記録の残らぬ仲間の鬼伝承として広く各地で受け継がれてきた。
いろんな鬼をざっと整理すると　次のような鬼の系譜が見える。

- ◎ 本来の鬼　　人に災いをもたらす目に見えない隠れた恐ろしい鬼
- ◎ 神や仏の化身の鬼　神や仏に出会って改心し、神や仏の従者となって、神や仏の代わりに働く鬼もいる
- ◎ 奉ろわぬものとして　施政者・統治者によって鬼にされた鬼
- ◎ 里人の中に生まれた仲間の鬼　　どこか間が抜けていて、悪さもするが、人や村を助けてくれた鬼

等々　日本各地に数多くの鬼が生まれた。

私はこんな中で「里人の中に生まれた仲間の鬼」が好き。　鬼とされたたたら衆の鬼伝承の多くもそんな鬼である。
本来「悪者・恐ろしい者」とされる「鬼」に対しても「仲間・親しみのある情」を抱く感情は、
幾多の積み重ねではあろうが、人類の人類たるゆえん本能的な「他人を思いやる心」に発し、
縄文人が育んだ「心の深さ」にルーツがあると思っている。

（ 縄文が日本人の心の故郷と言われ、　また、１万年の長きにわたる永続社会を築いた日本の縄文のベースであろう
また　一方 弥生人が我々日本人のルーツと思い込む人たちによって　縄文人も「鬼」にされた誤りもある。）
最近では「戦さを知らぬ縄文人」「心優しき縄文人」「日本人の心の奥深さ・多様なこころ縄文」などと耳にする機会も多くなった。ぜひ、この鬼への心情のベースが日本の縄文の中にあり、世界に誇る「縄文」が世界遺産に登録されることを願っている。

ふっと現実に立ち返って今を眺めてみる。
最近激烈な競争の中で、自分さえよければ・・・・と「鬼」を作り、排除してゆく構図が益々激しくなっていると感じることが多い。数の多さに傘を着た傲慢・仲間政治　どこか「鬼づくり」に似ていませんか・・・・・・
いじめの構図の中にも　仲間の鬼とは無縁の鬼づくりが見える。

仲間といつも一緒でないと不安な社会の中で、たえず「鬼」をさがそうとし、集団のそばに「鬼」がいると安心する。
一旦仲間から外れると 今度は自分が「鬼」にされてしまうとの恐怖感も。
ふっと立ち止まると、手が差し伸べられず、「鬼」にされた人がなんと多いことか・・・・・。
そして、この構図の中に知らず知らずのうちに自分が巻き込まれていることにはっと気が付く。
最近のTV番組はひどい。公正と言われるTVニュースまでもが汚染に染まりぬいている。
自分も加害者になっていませんか・・・・・　ちょっとそんな目でTVをみることも

ちょっとストップ。　立ち止まって考えよう。
あのすごい憤怒の形相をした蔵王権現三体を本尊とする吉野の金峯山寺ではどんな「鬼」も迎え入れる。
「福は内　鬼も内」　お互いがお互いを思いやれる社会　そんな穏やかな社会に早く舵を切ってほしい。

2018.2.3.　　節分に　from Kobe　Mutsu Nakanishi

◎ 神戸の鬼 & 生駒山の鬼　神や仏の化身となって厄を払う鬼（追儺式・鬼踊り）

神戸の鬼　長田神社　追儺式

神戸の鬼 稲美野寺高薗寺追儺式

神戸の鬼 押部谷高和　性海寺　鬼踊り

生駒山の鬼　髪切り集落　慈光寺の鬼

神戸の鬼　妙法寺　追儺式

◎ 節分豆撒きで追い払われる鬼 & 退治された鬼の伝承

節分の鬼　故郷尼崎の大覚寺では豆を撒いて
鬼を追い払う身振り狂言「節分厄払い」

退治された鬼　大江山の鬼・酒呑童子
たたら衆との関連した伝承か?
2001年掲載の古い資料　久しぶりに取り出しました

◎　日本各地に伝承されている鬼　　鬼にされた愛すべき仲間の鬼たち

鬼伝承　鬼にされた愛すべき仲間の鬼　　青森　岩木山(嶽鬼山)山麓　鬼の里「鬼沢」

古代 奉ろわぬものたちとして「鬼」にされたたたら衆や山を生業としてきた衆そして辺境の人たち等々。
愛すべき鬼・仲間の鬼たちや開拓神の伝承も日本各地に残る。神になった鬼・神に仕えて、民を助ける鬼もいる。
今回もそんな鬼を新たに訪ねて　お伝えることができませんでしたが、今までに集めた「愛すべき鬼たち」

また　愛すべき鬼たちの中に縄文の心を見る。
一万年も平和で豊かな生活が続いた時代
世界に類のない日本の「縄文」 そのエンジンは「他人を思いやる心」

日本人の心の故郷「縄文」北東北・北海道の縄文遺跡をユネスコ世界遺産に

ほんの一部ですが下記に。

「鬼」伝承やことわざに　縄文からの「日本人の奥深い心情」を見る

◎「仲間としての鬼」-鬼にされた たたら製鉄集団-　http://www.infokkkna.com/ironroad/2014htm/iron10/1402oni00.htm

◎「日本各地の鬼伝説」和鉄の道 掲載リスト　http://www.infokkkna.com/ironroad/2013htm/iron9/13iron01list.pdf

◎「日本人の心の故郷「縄文」　http://www.infokkkna.com/ironroad/2015htm/iron11/jyomonslide.htm

ちょっと立ち止まって見ると　愛すべき鬼たちの姿も　見えてくる。
スピード・恣意的な噂話に惑わず、　ちょっと立ち止まっては・・・

2018.2.3.　　from Kobe

資料　和鉄の道　鬼に関する掲載記事の再整理　2018.2.3.

神戸の鬼　東播磨稲美　野寺高薗寺の鬼追式

Ａ．神戸の鬼　関西での伝承

◆　節分　神戸の鬼　追儺式・鬼踊り　　神・仏の代わりに舞い踊り厄を払う

1. 神戸長田の森「長田神社の鬼」と 稲美町野寺「高薗寺の鬼」　　2012.２月
   1. 神の化身 7 匹の鬼が燃えさかる松明を掲げて舞踊る 神戸長田神社 節分・追儺式 2012.2.3.
   2. 仏の化身 赤鬼・青鬼 災い払う火の粉舞う伝統の鬼の舞 稲美町野寺 高薗寺 鬼追式 2012.2.10.
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/12iron02.pdf
2. 神戸 神戸摂播国境 白川街道沿い「妙法寺の新年招福の追儺式」 2013.1.3.
   「妙法寺」に古くから伝えられてきた 10 匹の鬼踊 新年招福の追儺式
3. 西神戸 押部谷 高和　性海寺　新春の修正会 追儺式・鬼おどり　2016.1.11.
   http://www.infokkkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1602syoukaiji00.htm

◆　節分の鬼　　身振り狂言「節分　厄除け」　　2014.2.2.＆ 2.3
笛・鉦・太鼓のお囃子のリズムに合わせて繰り広げられる身振り・手ぶりの無言劇
－　京都壬生寺 壬生狂言・尼崎大覚寺.　身振り狂言
http://www.infokkkna.com/ironroad/2014htm/iron10/1403setsubun00.htm

◆　生駒山暗峠周辺の髪切・鬼取の郷に鬼伝承を訪ねる　　2015.1.25.
役行者に退治され、従者となった古い鬼　前鬼・後鬼
生駒山上の暗峠をはさむ大阪側　東大阪市髪切集落と奈良側生駒鬼取町
http://www.infokkkna.com/ironroad/2015htm/iron11/1502ikoma00.htm

◆　鬼の住む山大江山　　酒呑童子　　2001.8.12.
大江山の鬼伝説に　Iron Road のロマンを掻き立てて
http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/jstlbb06.pdf

退治された鬼　酒呑童子伝説の大江　　酒呑童子の生まれは　越後の弥彦山との伝承がある

B. 日本各地 鬼伝説 和鉄の道・Iron Road 掲載リスト 2013.1.15. 整理 & 2018.2.3 修正追記

http://www.infokkkna.com/ironroad/2013htm/iron9/13iron01list.pdf

1. 日本各地の鬼伝説　鬼伝承の鬼は本当に悪者か??? 2003.2.3.

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/jstlbb10.pdf .

日本各地の鬼伝説　リスト

1. 伯耆国　孝謙天皇　鬼退治伝説　鳥取県　溝口町
   日野川流域　楽楽福神社の伝承
2. 北上の鬼　蝦夷の雄「アテルイ」　岩手県一関・胆沢
   坂上田村麻呂の蝦夷征伐
3. 丹後国　大江山酒天童子伝承　京都府　大江町
4. 吉備国　「桃太郎伝説」の鬼ケ城　岡山県総社市
5. 青森県　岩木山(巌鬼山)山麓の鬼伝説　青森県弘前市・鰺ヶ沢市

1. 溝口 鬼伝説と伯耆の国の製鉄地帯 ー日本最古の鬼伝説からー 2000.3.10.
   孝霊天皇 鬼伝説 伯耆溝口　山陰 古代鉄の王国 - 伯耆の国 -より
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/jstlaa05.pdf　P9-P11
2. 北上の鬼　蝦夷の雄「アテルイ」 2016.3.
   http://www.infokkkna.com/ironroad/2016htm/1603tpb01aterui.pdf
   参考　蝦夷の鉄　http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/ir3kc01.pdf
   参考　蝦夷の鉄　東北の和鉄の道９編まとめ　2004.1.
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/4iron06.pdf
3. 丹後の国　大江山酒呑童子 2001.8.12.
   大江山の鬼伝説に　Iron Road のロマンを掻き立てて
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/jstlbb06.pdf
4. 吉備国　「桃太郎伝説の鬼ヶ城」 2010.1.15.
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/10iron02.pdf
5. 古代鉄の大王国　津軽　岩木山北山麓　鬼伝説と古代津 軽の大製鉄地帯　2000.3.
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/jstlaa06.pdf
   ● 弘前ねぷたと岩木山北麓　鬼伝説の里　鬼沢　鬼神 社・十腰内　巌鬼山神社を訪ねて　2000.8.
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/jstlaa08.pdf

2. 弘前ねぷた と 岩木山北麓 鬼伝説の里 鬼沢 鬼神社・十腰内 巌鬼山神社を訪ねて　200.8.4.
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/jstlaa08.pdf
3. 蝦夷の鉄・東北 和鉄の道 東北地方 和鉄の道 ９編 取りまとめ　2004.1.18.
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/4iron06.pdf
4. 蝦夷の雄「アテルイ」の足跡 「清水寺・将軍塚」　2006.2.9.
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/6iron03.pdf
5. 日本人の祖先の一部 節分の「鬼」　From Kobe 2008 より　2008.2.3.
   http://www.infokkkna.com/ironroad/2008htm/walk5/0802oni00.htm
6. 今年も節分の鬼によせて 「福は内 鬼も内」　From Kobe 2008 より　2010.1.30
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/mutsu/fkobe1002.pdf .

****

7. 越後弥彦山の開拓神伝承　酒呑童子は弥彦山の生まれとの伝承　2007.5.16.
   日本三彦山の一つ　越後 弥彦山　Walk　古代鉄の国「越」　弥彦山に鍛冶神の痕跡を探して
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/7iron10.pdf

2018.2.3.　by Mutsu Nakanishi 整理

鉄の惑星「地球」35億年前 現在の生物起源に遡る原始Iron Roadの絶景

光合成を初めて行い大気気の酸素を作るシアノバクテリアの不思議な世界

【和鉄の道・Iron Road】≪BS ドキュメンタリー PDF メモ≫ *2018.3.5. by Mutsu Nakanishi*

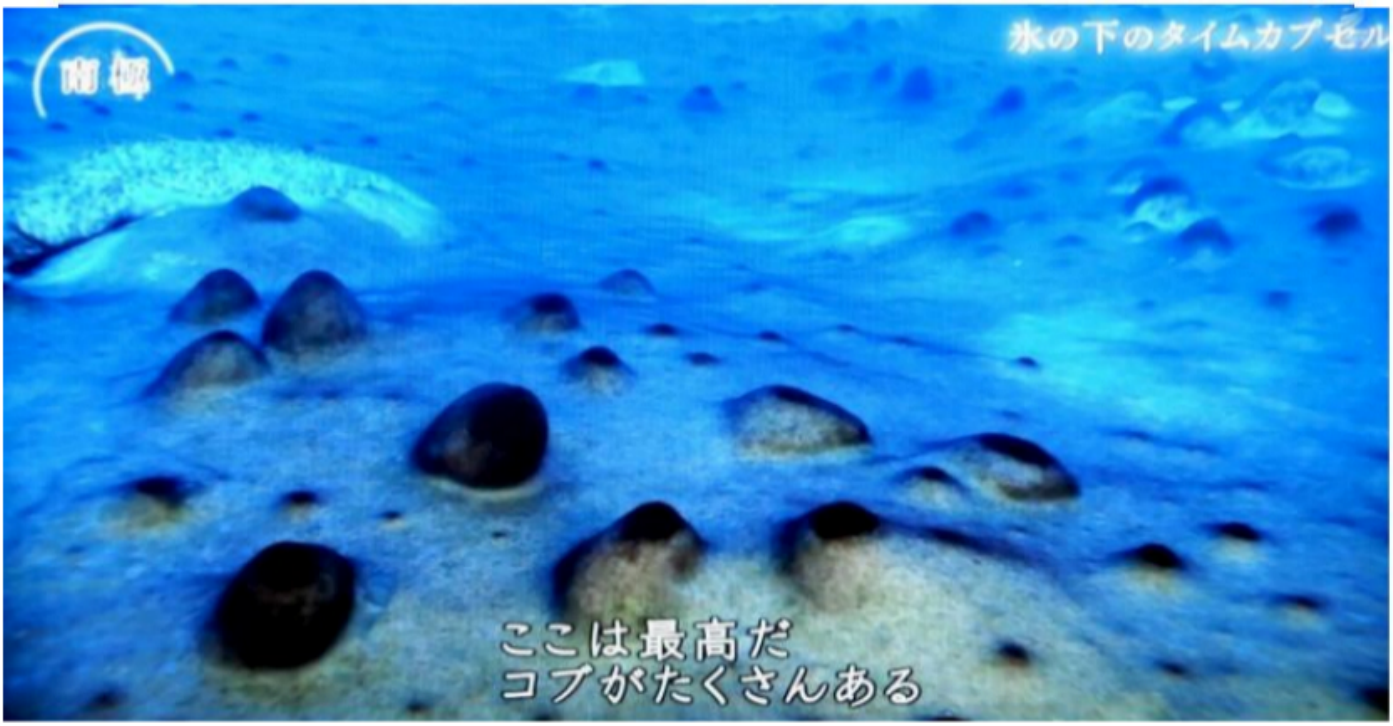
2018 Iron 02

南極 氷の下のタイムカプセル［BS プレミアム］２月24日（土）後9:00

南極の湖に３５億年前の世界があった　ここは宇宙？　湖の底にある原始の地球を撮影

35 億年前　光合成で大気の酸素を作り始めたシアノバクテリアが今もひっそり酸素を作り続けている

南極昭和基地近く岩山群の中にある「アンターセー湖」4m 厚さの氷に覆われた湖の水底に不思議な世界が広がっている



林立する「こぶ」はシアノバクテリアの集合体　表面の密集した毛状のところから、酸素の泡が出ている

３５億年前の原始の生態系が現在も生き続けているという

こんな不思議な世界が南極の厚さ 4m も氷に覆われた極寒の湖の底にある

［BS プレミアム］南極　氷の下のタイムカプセルより

35 億年前のタイムカプセル。　この不思議な世界は南極昭和基地に近い岩山群の中の氷に閉ざされた大陸内部の小さな湖「アンターセー湖」の湖底に広がる世界。初めて見る世界に　もう　びっくりで映像に釘付けになりました。

３５億年前(３０億年前との説もある) 地球上に現れた原始生物シアノバクテリアの生態系の世界。酸素のない地球に生命体が誕生した約 40 億年前の原始世界は原始の微生物の世界である。まもなく原始生物シアノバクテリアが誕生し、太陽のエネルギーで豊富にあった水と炭酸ガスとで、光合成をおこない、大気中に大量の酸素を放出した。

光合成で生命を維持に必須の有機物を手に入れ、火山や熱水周辺以外でも生き述べる手段を手に入れたシアノバクテリアはその後、植物に入り込み葉緑体になり、地球植物のルーツである。一方　酸素で有機物を分解し、大きなエネルギーを得られるようになった動物は　その進化スピードをあげていった。　地球上の生物が進化・繁栄してゆく生物物質循環・地球環境整備の基を作った原始生物。それが、シアノバクテリア。また、このシアノバクテリアが大量の酸素を大気中へ放出する過程で、当時大量に水中に溶け込んでいた鉄を酸化沈殿させて形成されたのが、現代製鉄の最重要原料である膨大な縞状鉄鉱床で、現在の鉄を支えている。

35 億年前のタイムカプセル　アンターセー湖

アンターセー湖　湖底のこぶとそっくり同じこぶ状の化石(ストロマトライト)が並ぶ オーストラリア　ピルバラ

シアノバクテリアのこぶ断面　　シアノバクテリアこぶ上集合体骨格痕跡が見える化石: ストロマトライト

シアノバクテリアが放出した酸素で海中の鉄が酸化堆積したオーストラリアの縞状鉄鉱床

「鉄」とかかわる中で、シアノバクテリアについては、何度もよく聞く名前で、知っていましたが、シアノバクテリアが大気を放出するプロセス　そして　縞状鉄鉱床が作られていく原始の地球にはどんな景色がひろがっていたのか?
興味津々。　シアノバクテリアの痕跡が残る化石ストロマトライト(シアノバクテリアとそれが出す泥との集合体)から、勝手に想像するしかなかった原始の地球の「Iron Road」に広がる世界を、今に垣間見られる35億年前のタイム カプセルが南極の「アンターセー湖」。
湖の極寒の地 南極の湖底で、今も酸素をひそかに放出し続けている。もう　びっくりです。
なお　上記写真はすべて［BS プレミアム］南極　氷の下のタイムカプセルの映像から切り出しました。
まだ、内容についても、整理がついていませんので、取り違えもあるかもしれません。
また、　本紹介内容等　すでにお知りでしたら、ごめんなさい。

****** ■ 参考　「葉緑体とミトコンドリアの起源」より　**** by Mutsu Nakanishi
https://www.nhk.or.jp/kokokoza/tv/seibutsukiso/archive/resume007.html

シアノバクテリアは酸素の働きなしで、有機物を分解して、生命活動のエネルギーを得ていた。
そして、大気に酸素が豊富にあるようになると酸素を使って、有機物を分解して　大きな生命活動のエネルギーを得る生物が現れ、それがますます繁栄して現在に至っている。
一方、シアノバクテリアはその後、植物の中に入り込み、葉緑体となり、植物の生息域をひろげてゆく。
35億年前のシアノバクテリアの進化した姿が　現在地球の全植物なのである。
細胞内共生説というのだそうですが、
「酸素をつかう細菌」が「酸素をつかわない生物の細胞」の中に入り込んで、一緒に生活するようにると、
「酸素をつかう細菌」は酸素をつかって　酸素を使わない生物の作ったたんぱく質を分解して
大きなエネルギーをつくり、そのエネルギーを「酸素をつかわない生物の細胞」に与える。
「酸素をつかう細菌」から見ると「酸素をつかわない生物の細胞」に、エネルギーの素、タンパク質をつくってもらうようになる。
このように、生物が別の生物を取り込んで共に生きる　細胞内共生のシステム　が生まれる。
- 「酸素をつかわない生物の細胞」の内に入り込んだ「酸素をつかう細菌」が 現在の**ミトコンドリア**になり、この細胞が動物細胞に進化したと考えられています。
- 植物細胞の場合は、「ミトコンドリアをもった細胞」が、さらに光合成を行うシアノバクテリアを取り込み、このシアノバクテリアが 植物細胞の**葉緑体**になったと考えられています。

なお、「鉄の地球」で　鉄イオンが、シアノバクテリアそのものの生命維持活動にかかわったという証拠は良く知らないが、鉄イオンがないと葉緑体が黄色に変色する原因と言われ、光合成が十分行えず、繁殖できなくなることが知られている。
- 動物の血液中のヘモグロビンの作用
- 植物の光合成をおこなう葉緑体にとっては不可欠である。

これらのことから、地球上のすべての生物にとっては「もし、地球に鉄がなければ・・・・」ということになる。

また、この番組を見て、　南極のアンターセー湖などをすぐにインターネットで調べていて、
このアンターセー湖の解明の先駆者に日本の女性冒険家で、極地研の研究者である田邊優貴子さんを知りました。
下記などに概要があり、本資料作りの参考・follow にさせていただきました。

■　「南極の凍った湖に潜って 原始地球の生態系を追う」　田邊優貴子　極地研究所
http://natgeo.nikkeibp.co.jp/atcl/web/15/423715/051300002/

■　フロンティア　　田邊優貴子 著　　南極の湖に広がる神秘の生態系をさぐる
http://repository.tufs.ac.jp/bitstream/10108/84945/1/field-14_p28-29.pdf

2018.3.4.　BS 南極　氷の下のタイムカプセルの番組を見て
Mutsu Nakanishi

◎　BS 映像切り出し集　３５億年前のタイムカプセル　南極　アンタ-セ-湖

南極 氷の下のタイムカプセル［BS プレミアム］２月 24 日（土）後 9:00 より、

和鉄の道・Iron Road　:原始の地球の Iron Road　私の記録メモですので、ご配慮ください

田邊優貴子さんのインターネット資料より、記録メモの作成参考・補足に使わせていただきました。

■　「南極の凍った湖に潜って 原始地球の生態系を追う」　田邊優貴子　極地研究所

http://natgeo.nikkeibp.co.jp/atcl/web/15/423715/051300002/

南極　ノボラザレフスカヤ基地や昭和基地の近く、35 億年前のタイムカプセル「アンターセー湖」

● 35 億年前のタイムカプセル　南極「アンターセ-湖」へは　飛行機でノボラザレフスカヤ基地へ行き、そこから北へ約１２０キロほどの岩山地帯にあるアンターセ-湖へ

南極への航空路があるのにびっくりしました。

南アフリカ　ケープタウンから　ロシアのノボラザレフスカヤ基地への航空路があるのを初めて知りました。

ケープタウンから南極のノボラザレフスカヤ基地まで約６時間ちょっとだと　。

南極行の航空路　田邊優貴子さんの「南極の凍った湖に潜って 原始地球の生態系を追う」より

ロシアのノボラザレフスカヤ基地の氷の滑走路に着陸　飛行場からピックアップトラックで Base へノボラザレフスカヤ基地か?

【参考】　● DROMLAN（ドローニングモードランド航空網）　*インターネットより*

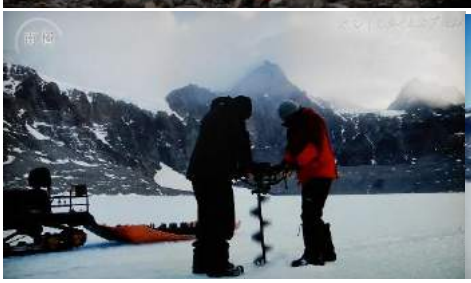
東南極に基地を持つ 11 か国が民間空機をチャーターして 2002 年から運用。ALCI という民間航空会社が、IL-76 ジェット機を 11 月から 2 月まで約 11 往復運行。ケープタウンからロシアのノボラザレフスカヤ基地付近の裸氷上滑走路に離着陸。ノボラザレフスカヤからはスキー付きバスラーターボ機などに乗り換えそれぞれの基地やフィールドに向かう。昭和基地の海氷上滑走路や大陸の雪上滑走路に毎年飛来。

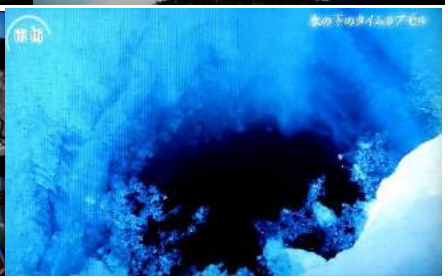
● ロシアのノボラザレフスカヤ基地の北約 120 キロの岩山群の中にある「アンターセー湖」にベースキャンプ
湖底から採取したものをすぐ分析・検討できるよう機材を持ち込む

アンターセー湖の位置は開示されていないのでよくわからないが、ノボラザレフスカヤ基地の北約 120 キロの岩山群の中にあるという

ノボラザレフスカヤ基地の北約 120 キロの岩山群の中にあるというアンターセー湖へ向かう

● アンタ-セ-湖岸に基地設営し、厚さ 4m の氷にドリルで穴をあけて、湖底へ潜水する準備

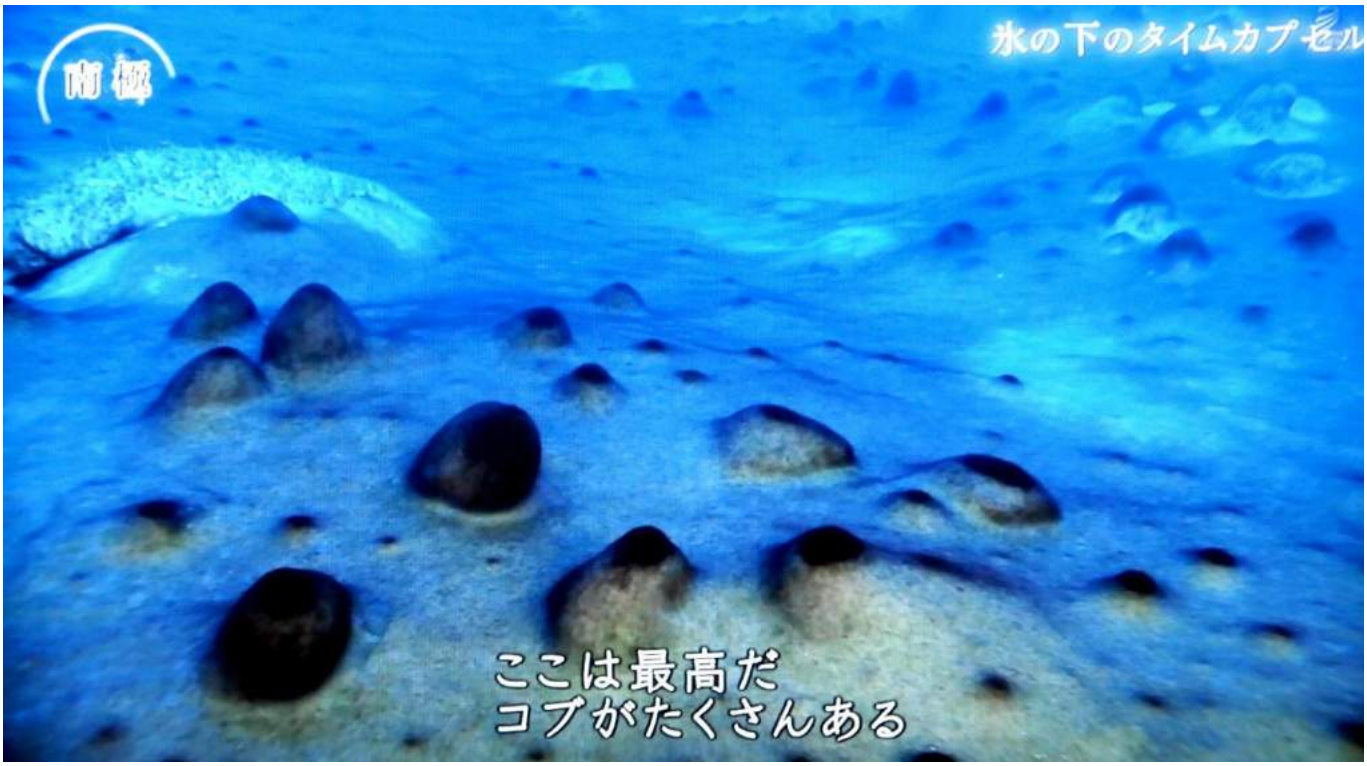




ドリルで穴をあ　け、湖水を組み上げ、再度湖に戻すことで、穴の壁を温め、穴を広げる。潜水穴を作るのも一苦労である

● 湖底へ潜って、湖底の調査並びに湖底撮影開始

● 35 億年前のタイムカプセル　アンターセー湖　湖底調査の映像

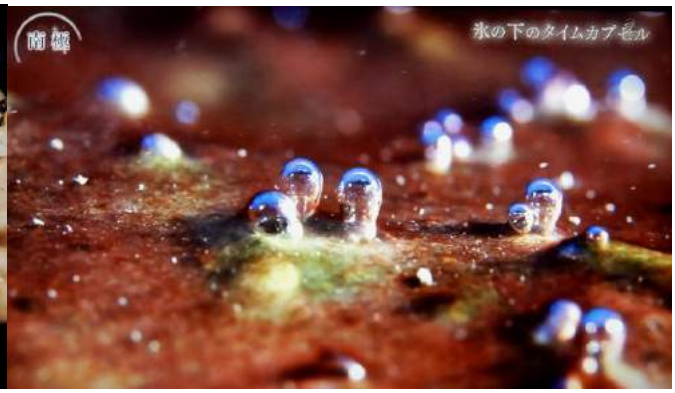


湖底に林立するこぶはシアノバクテリアの集合体　こぶの表面には無数の１μ以下のひげが絡み合って上へ伸び、
それに小さな酸素の泡がいくつもついている　ほかには何も生物はいない。　*潜水後の解析でより*

また、こぶ状のシアノバクテリアの集合体のほか、湖底から小さな針状に伸びたものなど、いくつかのタイプのあることが分かったが、他の生物はおらず、35 億年前のシアノバクテリアの生態系が維持されている。

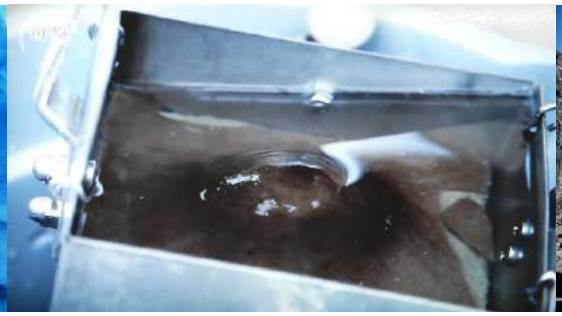
氷に閉ざされた 35 億年前のシアノバクテリアの生態系が維持されている湖はほかにもあるが、発見された湖で状況は異なり、このアンターゼー湖はシアノバクテリアのみの世界が維持されている。（インターネットより）

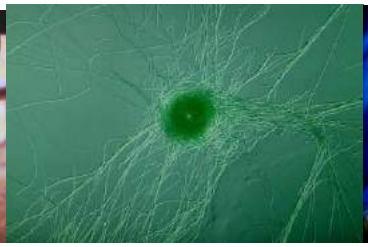
ひげのようなものの間に小さな気泡が見える　　ここで酸素が生まれてる



シアノバクテリアが酸素を放出している　　初めて見る映像です

●アンターセー湖の湖底に林立する「こぶ」と気泡の採取とその確認

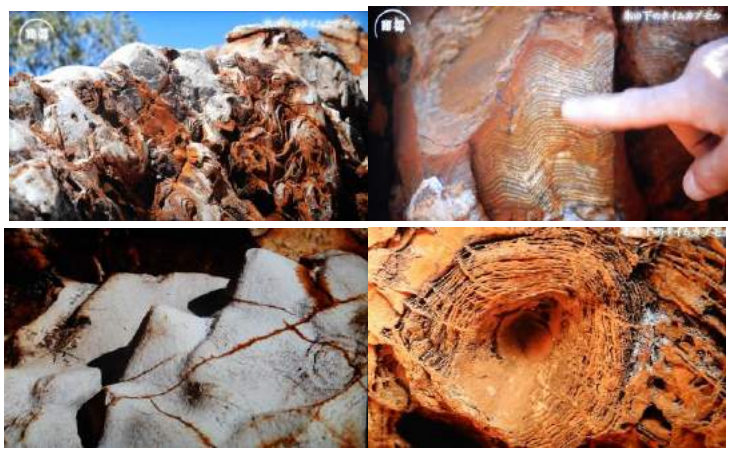




アンターセー湖の林立するコブはシアノバクテリアの集合体　ほかの姿を見せるシアノバクテリアもいるが、シアノバクテリアだけの世界

● アンターセー湖底にシアノバクテリアが作りだした姿がオーストラリアの 35 億年前の化石にみえる

34 億年前のストロマトライト(シアノバクテリアとそれが出す泥の集合体)の化石　そしてこぶ状の化石もみつかった

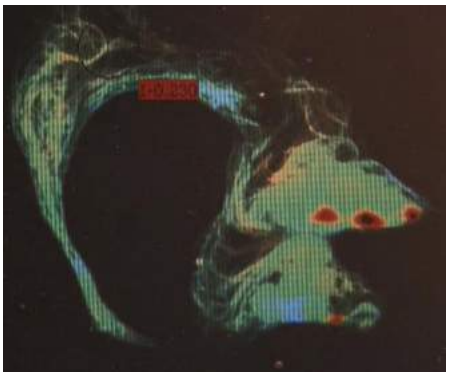


アンターセ湖の湖底のシアノバクテリア集合体の群立とほぼ同じ姿で、ストロマトライト(シアノバクテリアとそれが出す泥の集合体)の化石が見つかっている。

オーストラリア　シャーク湾ではシアノバクテリアと自らが出す泥とが一緒に固まったストロマライトが今も生きていて、表面ではその酸素を出している

● 光が非常にとどきにくい深いアンターセー湖の一番深い光が弱い水底　(約 180m?)の無人潜水機調査

光の届きにくい深い底でも、シアノバクテリアが光合成をして、酸素を放していることが、無人潜水機の映像と採取サンプルから明らかになった。　茶色いシアノバクテリア分析器で緑色になった部分が光合成をしていると確認された部分である



ほとんど光が届かぬ深い湖底でもシアノバクテリアの光合成が行われている証拠。
ほんのわずかの光で、光合成をして生き延びられる。
地球全凍結の危機をシアノバクテリアが乗り越えてきた証拠のひとつでもある。

● 湖の表面や水中に浮くシアノバクテリアの集合体　光合成をしながら移動して　その域を広げていった

水中を浮き上がってくるシアノバクテリアの集合体　酸素の泡を抱いているのが見える

アンターセー湖の氷の表面にいくつも見られる湖底から浮き上がったシアノバクテリアの集合体
自らが作った酸素の気泡を抱き、その浮力で水中を漂い、やがて、氷の中に取り込まれ、
氷の表面に顔を出し、この南極各地に広がっていったのだろう。

● シアノバクテリアが作ったオーストラリアの縞状鉄鉱床　　かつては海底だった

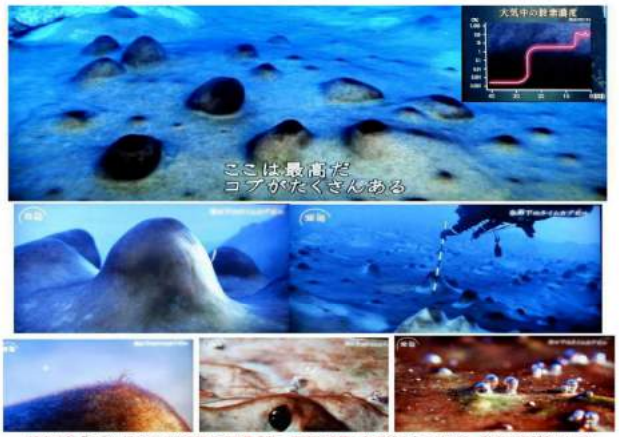
● まとめ　南極アンターセー湖に広がる 35 億年前　原始の地球　そっくり
初めて酸素を作り、地球生物の大きな進化の歴史の基を作った原始生物シアノバクテリアの絶景

微生物の原始の世界から、今私たちがいる現在の地球へ大きな進化の歴史をスタートさせたのが、
酸素を作ったシアノバクテリアである。
35 億年前　原始微生物の世界の中で、光合成をおこない、酸素を生み出し、その後植物の中に入り込み
葉緑体となったシアノバクテリア。現在の植物はシアノバクテリアが変化した姿である。
一方　シアノバクテリアが生み出した豊富な酸素により、大きなエネルギーを得た動物の進化のスピードは
急速となり、現在その頂点にいるのが私たち人間である。

微生物の原始の世界から私たちが住む現在の地球へ　大きな進化の原点を作り出したのが、シアノバクテリア。
その 35 億年前のシアノバクテリアの生態系の絶景が南極の厚い氷におおわれた湖「アンターセー湖」に広がって
いる。

なお　写真はすべて［BS プレミアム］南極　氷の下のタイムカプセルの映像から切り出し、番組のストーリーが
紹介できるように構成しましたが、番組ではよくわかる点も多々あり、インターネットで見つけたアンターセー湖
解明の先駆者に日本の女性冒険家で、極地研の研究者である田邉優貴子さんの
「南極の凍った湖に潜って 原始地球の生態系を追う」のルポ記事を補足に使わせていただきました。
http://natgeo.nikkeibp.co.jp/atcl/web/15/423715/051300002/

2018.3.10.　補足修正　by Mutsu Nakanishi



林立する「こぶ」はシアノバクテリアの集合体　表面の密集した毛状のところから、酸素の泡が出ている
３５億年前の原始の生態系が現在も生き続けているという
こんな不思議な世界が南極の厚さ 4m も氷に覆われた極寒の湖の底にある
[BS プレミアム] 南極　氷の下のタイムカプセルより

林立する「こぶ」はシアノバクテリアの集合体　表面の密集した毛状のところから、酸素の泡が出ている
３５億年前の原始の生態系が現在も生き続けているという
こんな不思議な世界が南極の厚さ 4m も氷に覆われた極寒の湖の底にある
[BS プレミアム] 南極　氷の下のタイムカプセルより

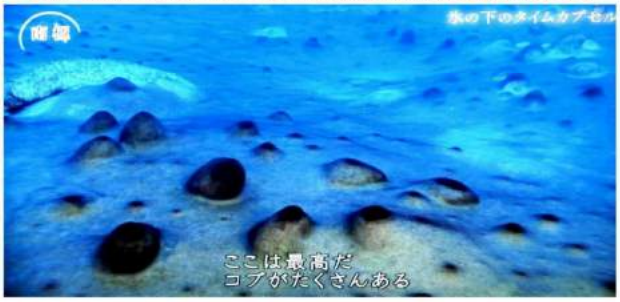
【和鉄の道・Iron Road】《BS ドキュメンタリー　PDF メモ》 2018.3.5 by Mutsu Nakanishi

南極 氷の下のタイムカプセル [BS プレミアム] ２月24 日（土）後9:00

南極の湖に３５億年前の世界があった　ここは宇宙？　湖の底にある原始の地球を撮影

３５億年前　光合成で大気の酸素を作り始めたシアノバクテリアが今もひっそり酸素を作り続けている

南極昭和基地近く岩山群の中にある「アンターセー湖」4m 厚さの氷に覆われた湖の水底に不思議な世界が広がっている



食い入るように興味津々で視聴したNHK BS 2.24. 「南極　氷の下のタイムカプセル」の映像にくぎづけでした。
原始の地球に立ち戻るIron Road。地球に原始生命体が現れて約40億年。
もし地球に鉄と水がなかりせば・・。そして、35億年前　原始シアノバクテリアが酸素を大量に放出しなかったなら、生物が地球全表面へ生活域を広げ、進化を遂げることはできなかった。
（まだ　証明されたとかどうか不明であるが、動物のヘモグロビンの働きと同じく、
この光合成にも、む鉄が絡んでいたと考えられているようだ。）
また、このシアノバクテリアの働きの副産物　膨大な縞状鉄鉱床が現在の鉄を支えている。
（縞状鉄鉱床は大量の酸素が大気中へ放出される過程で、水中に溶け込んでいた鉄を酸化沈殿させて形成された鉄鉱石　現代製鉄の最重要原料である）
地球に生命体・原始生物が現れて間もない３５億年前、
シアノバクテリアが水と炭酸ガスから　初めて光合成をおこない、大量の酸素を大気に放出。
生物が生きて行ける地球環境・生態系ができる始まりとなった。

話は聞いて知っていても、本当はどんな景色がひろがっていたのか・・・興味津々でした。
シアノバクテリアの痕跡化石(ストロマトライト)から勝手に想像するしかなかった世界です。

地球上の生物にとってはなくてはならぬ「酸素と鉄の出会い」が、３５億年前のシアノバクテリアの生態系世界を通じて見えてくる。
南極昭和基地に近い岩山群の中の氷に閉ざされた湖に35億年前のシアノバクテリアの生態系の世界がそっくりそのまま残っていて、その海底の様子の様子が放映されました。
初めて、目にする世界。食い入るように視聴。
BSの映像からPhoto切り出しましたので、写真をご紹介。すでに見ておられたらごめんなさい。
また、番組とは別ですが、この発見調査のパイオニアに日本の女性冒険家で極地研の
研究者である田邊優貴子さんがおられることを知りました。
南極の厳しい環境のダイビングのパイオニアの一人が日本女性であることにもびっくり。
南極の鉄は氷原に落ちる隕石ぐらいの知識しかありませんでしたが、うれしい映像でした。

３５億年前のタイムカプセル。　この不思議な世界は南極昭和基地に近い岩山群の中の氷に閉ざされた大陸内部の小さな湖「アンターセー湖」の湖底に広がる世界。初めて見る世界に　もう　びっくりで映像に釘付けになりました。

３５億年前（３０億年前との説もある）地球上に現れた原始生物シアノバクテリアの生態系の世界。酸素のない地球に生命体が誕生した約４０億年前の原始世界は原始の微生物の世界である。まもなく原始生物シアノバクテリアが誕生し、太陽のエネルギーで豊富にあった水と炭酸ガスとで、光合成をおこない、大気中に大量の酸素を放出した。
光合成で生命を維持に必須の有機物を手に入れ、火山や熱水周辺以外でも生き述べる手段を手に入れたシアノバクテリアはその後、植物に入り込み葉緑体になり、地球植物のルーツである。一方　酸素で有機物を分解し、大きなエネルギーを得られるようになった動物は　その進化スピードをあげていった。　地球上の生物が進化・繁栄してゆく生物物質循環・地球環境整備の基を作った原始生物。それが、シアノバクテリア。また、このシアノバクテリアが大量の酸素を大気中へ放出する過程で、当時大量に水中に溶け込んでいた鉄を酸化沈殿させて形成されたのが、現代製鉄の最重要原料である縞状鉄鉱床で、現在の鉄を支えている。

３５億年前のタイムカプセル　アンターセー湖

オーストラリア　ピルバラ周辺に残る35億年前の痕跡
化石ストロマトライトと縞状鉄鉱床

アンターセー湖　湖底のこぶとそっくり同じこぶ状の化石(ストロマトライト)が並ぶ オーストラリア　ピルバラ

シアノバクテリアのこぶ断面　　シアノバクテリアこぶ上集合体骨格痕跡が見える化石 ストロマトライト

シアノバクテリアが放出した酸素で海中の鉄が酸化堆積したオーストラリアの縞状鉄鉱床

原始地球のIron Road　「鉄の惑星　地球　もし鉄がなかりせば‥‥」

現世の動植物のルーツをたどると
豊富な鉄と水のある地球で生まれた原始生物シアノバクテリアに行きつく

****** ■ 参考　「葉緑体とミトコンドリアの起源」より **** by Mutsu Nakanishi
https://www.nhk.or.jp/kokokoza/tv/seibutsukiso/archive/resume007.html

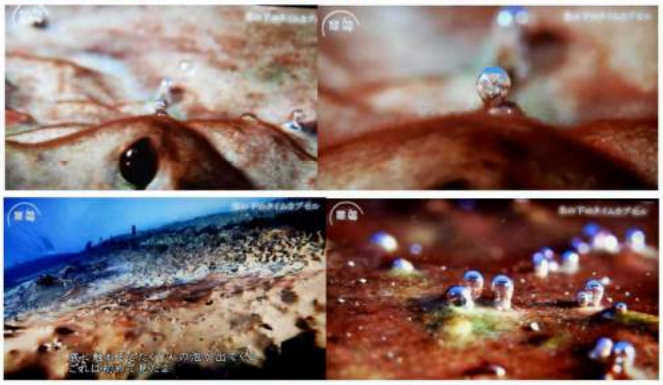
シアノバクテリアは酸素の働きなしで、有機物を分解して、生命活動のエネルギーを得ていた。
そして、大気に酸素が豊富にあるようになると酸素を使って、有機物を分解して　大きな生命活動のエネルギーを得る生物が現れ、それがますます繁栄して現在に至っている。
一方、シアノバクテリアはその後、植物の中に入り込み、葉緑体となり、植物の生息域をひろげてゆく。
35 億年前のシアノバクテリアの進化した姿が　現在地球の全植物なのである。
細胞内共生説というのだそうですが、
「酸素をつかう細菌」が「酸素をつかわない生物の細胞」の中に入り込んで、一緒に生活するようになると、
「酸素をつかう細菌」は酸素をつかって　酸素を使わない生物の作ったたんぱく質を分解して
大きなエネルギーをつくり、そのエネルギーを「酸素をつかわない生物の細胞」に与える。
「酸素をつかう細菌」から見ると「酸素をつかわない生物の細胞」に、エネルギーの素、タンパク質を
つくってもらうようになる。
このように、生物が別の生物を取り込んで共に生きる　細胞内共生のシステム　が生まれる。

- 「酸素をつかわない生物の細胞」の中に入り込んだ「酸素をつかう細菌」が　現在のミトコンドリアになり、この細胞が植物細胞に進化したと考えられています。
- 植物細胞の場合は、「ミトコンドリアをもった細胞」が、さらに光合成を行うシアノバクテリアを取り込み、このシアノバクテリアが 植物細胞の葉緑体になったと考えられています。

なお、「鉄の地球」で　鉄イオンが、シアノバクテリアそのものの生命維持活動にかかわったという証拠は
良く知らないが、鉄イオンがないと葉緑体が黄色に変色する原因と言われ、光合成が十分行えず、
繁殖できなくなることが知られている。

- 動物の血液中のヘモグロビンの作用
- 植物の光合成をおこなう葉緑体にとっては不可欠である。

これらのことから、地球上のすべての生物にとっては「もし、地球に鉄がなければ・・・・」ということになる。



シアノバクテリアが酸素を放出している　初めて見る映像です

「鉄」とかかわる中で、シアノバクテリアについては、何度もよく聞く名前で、知っていましたが、シアノバクテリアが大気を放出するプロセス　そして　縞状鉄鉱床が作られていく原始の地球にはどんな景色がひろがっていたのか?興味津々。　シアノバクテリアの痕跡が残る化石ストロマトライト(シアノバクテリアとそれが出す泥との集合体)から、勝手に想像するしかなかった原始の地球の「Iron Road」に広がる世界を、今に垣間見られる 35 億年前のタイム カプセルが南極の「アンターセー湖」。
湖の極寒の地 南極の湖底で、今も酸素をひそかに放出し続けている。もう　びっくりです。
なお　上記写真はすべて [BS プレミアム] 南極　氷の下のタイムカプセルの映像から切り出しました。
まだ、内容についても、整理がついていませんので、取り違えもあるかもしれません。
また、　本紹介内容等　すでにお知りでしたら、ごめんなさい。

◎ BS映像切り出し集　35億年前のタイムカプセル　南極　アンターセ-湖

南極 氷の下のタイムカプセル［BSプレミアム］2月24日（土）後9:00より、

和訳の語・Iron Road　原始の地球のIron Road　私の記録メモですので、ご了承ください

田邊優貴子さんのインターネット資料より、記録メモの作成参考・補足に使わせていただきました。

■　「南極の凍った湖に潜って 原始地球の生態系を追う」　田邊優貴子　極地研究所

http://natgeo.nikkeibp.co.jp/atcl/web/15/423715/051300002/

35億年前のタイムカプセル　南極「アンターセ-湖」へは　飛行機でノボラザレフスカヤ基地へ行き、

そこから北へ約120キロほどの岩山地帯にあるアンターセ-湖へ

南極への航空路があるのにびっくりしました。

南アフリカ　ケープタウンから　ロシアのノボラザレフスカヤ基地への航空路があるのを初めて知りました。

ケープタウンから南極のノボラザレフスカヤ基地まで約6時間ちょっとだと　。

南極行の航空路　田邊優貴子さんの「南極の凍った湖に潜って 原始地球の生態系を追う」より

ロシアのノボラザレフスカヤ基地の氷の滑走路に着陸　飛行場からピックアップトラックで Base へノボラザレフスカヤ基地へ

【参考】　● DROMLAN（ドローニングモードランド航空網）　インターネットより

南南極に基地を持つ11 ヶ国が共同運航機をチャーターして 2002 年から運航。ALCI という民間航空会社が、IL-76 ジェット機を

11 月から 2 月まで約 11 往復運行。ケープタウンからロシアのノボラザレフスカヤ基地付近の氷上滑走路に着陸。

ノボラザレフスカヤからはスキー付きバスラーター小機などに乗り換えそれぞれの基地やフィールドに向かう。

昭和基地の海氷上滑走路や大陸の雪上滑走路に毎年来。

● ロシアのノボラザレフスカヤ基地の北約120キロの岩山群の中にある「アンターセ-湖」にベースキャンプ

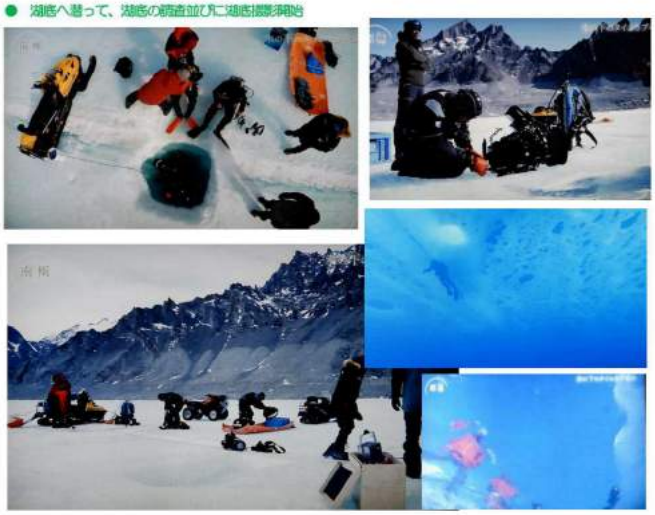
湖底から採取したものをすぐ分析・検討できるよう機材を持ち込む

アンターセ-湖の位置は明示されていないのでよくわからないが、ノボラザレフスカヤ基地の北約 120 キロの岩山群の中にあるという

ノボラザレフスカヤ基地の北約 120 キロの岩山群の中にあるというアンターセ-湖へ向かう

ドリルでマ巻あ　け、湖水を組み上げ、再度湖に戻すことで、その熱を温め、穴を広げる。湖水で巻作るのも一苦労である

● 湖底へ潜って、湖底の調査並びに湖底撮影開始



● 35億年前のタイムカプセル　アンターセー湖　湖底調査の映像

湖底に林立するこぶはシアノバクテリアの集合体　こぶの表面には厚さの 1μ以下のひだが絡み合って上へ伸び、

それに小さな結晶の泡がいくつもついている　ほかには何も生物はいない。　溶氷後の解析でより

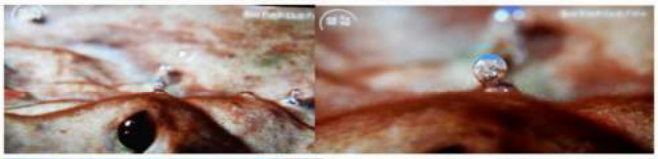
また、こぶ状のシアノバクテリアの集合体の頂が、湖底から小さな針状に伸びたものなど、いくつかのタイプのあることが分かったが、

他の生物はおらず、35億年前のシアノバクテリアの生態系が維持されている。

氷に閉ざされた35億年前のシアノバクテリアの生態系が維持されている湖はほかにもあるが、発見されて間で既は異なり、

このアンターセ-湖はシアノバクテリアのみの世界が維持されている。（インターネットより）

ひげのようなものの周辺に小さな気泡が見える　ここで酸素が生成されてる



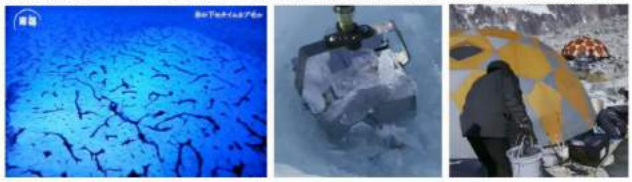
シアノバクテリアが酸素を放出している　初めて見る酸素です

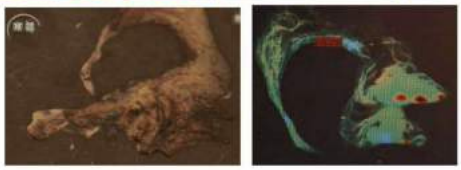
● アンターセー湖底にシアノバクテリアが作りだした姿がオーストラリアの35億年前の化石にみえる

34億年前のストロマトライト(シアノバクテリアとそれが出す泥の集合体)の化石　そしてこぶ状の化石もみつかった

● 光が非常にとどきにくい深いアンターセー湖の一番深い所が暗い水底　(約180m?)の無人潜水機調査

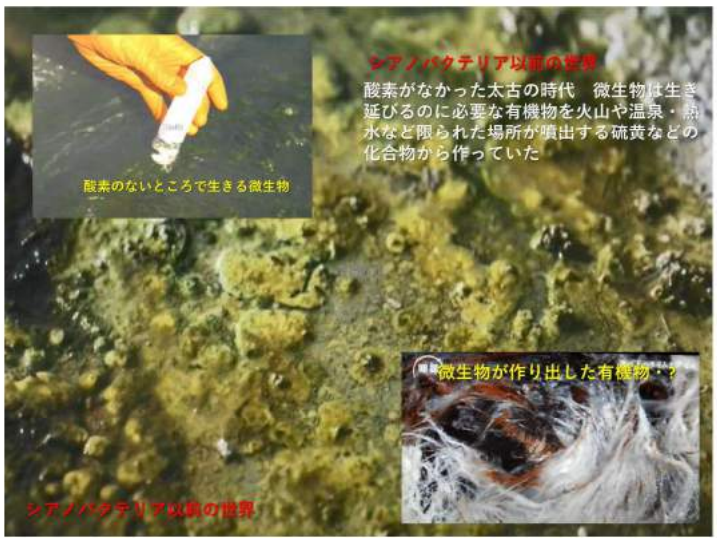
光の届きにくい深い底でも、シアノバクテリアが光合成をして、酸素を放していることが、無人潜水機の映像と採取サンプルから明らかになった。　茶色いシアノバクテリア分析器で緑色になった部分が光合成をしていると確認された部分である





ほとんど光が届かない深い湖底でもシアノバクテリアの光合成が行われている証拠。
ほんのわずかの光で、光合成をして生き延びられる。
地球全凍結の危機をシアノバクテリアが乗り越えてきた証拠の1つとつである。

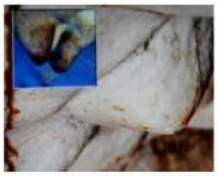
シアノバクテリアが光合成をおこない、炭酸ガスを大量に使い、酸素を放出する地球環境変化により、地球は全球凍結による生物絶滅の危機を何度か経験する。しかし、シアノバクテリアは弱い光の中でも光合成をおこなうことができ、この危機を乗り越えてきた



●アンターセー湖の湖底に林立する「こぶ」と気泡の採取とその確認

アンターセー湖の林立するコブはシアノバクテリアの集合体　ほかの姿を見せるシアノバクテリアもいるが、シアノバクテリアだけの世界

コブ状シアノバクテリアの縦断面　1cm成長するのに2500年かかるという



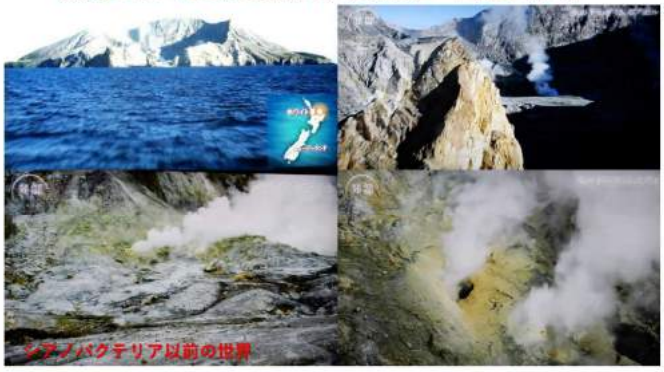
アンターセ湖の湖底のシアノバクテリア集合体の群立とほぼ同じ姿で、ストロマトライト(シアノバクテリアとそれが出す泥の集合体)の化石が見つかっている。

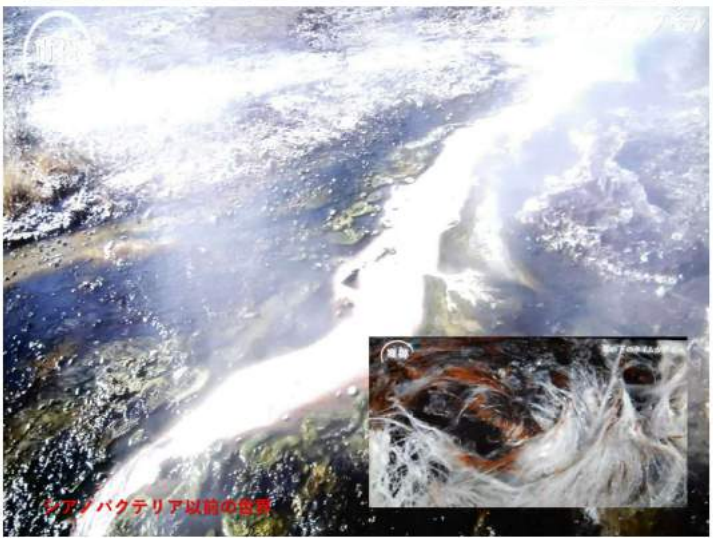
オーストラリア　シャーク湾ではシアノバクテリアと自らが出す泥とが一緒に固まったストロマライトが今も生きていて、表面ではその酸素を出している

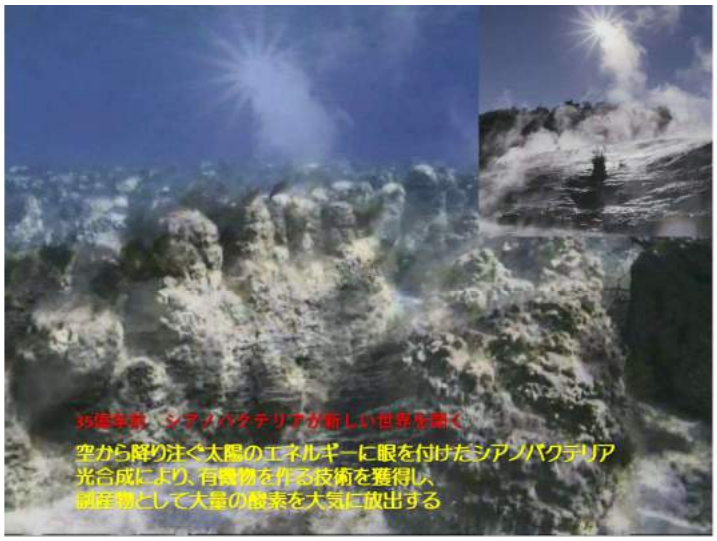
● シアノバクテリア以前の世界　活火山の島　ニュー自ランド　ホワイト島

酸素がなかった時代　微生物は生き延びるのに必要な有機物を火山や温泉・熱水など限られた場所が噴出する硫黄などの化合物から作っていた。このため、火山や温泉・熱水の周辺でしか、生きることができなかった。

光合成による有機物・酸素が得られることにより、生物は生存域の広がりと大きなエネルギ置換の手段を得て、進化のスピードを速めてゆく。







シアノバクテリアから、光合成をおこなうたんぱく質を抽出し、究極の電子顕微鏡「SACLA」にかけ、短波長のX光を当てて、原子の動きを観察
この結果　酸素発生のメカニズムが解ってきた。

参考　原子の動きが見える究極の顕微鏡「SACLA」　　インターネットより

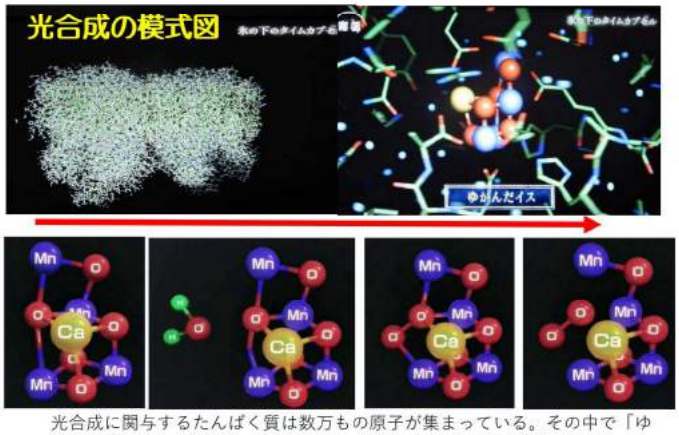
原子１個の動きまでが見える究極の顕微鏡
ヒミツは**太陽光の１億倍×１億倍の光**（見たいモノのサイズが小さくなるほど、光の量も減るため従来の「ＳＰｒｉｎｇ－８」は太陽光の１億倍だった。

● **SACLAは世界でもっとも波長の短いＸ線を出すＸ線自由電子レーザー。**
強い光を出すため、電子を電子を光の速さの９９．９９９９％まで加速し、また、小さいものを見るためには波長が短い光が必要で、SACLAは波長の短いＸ線を出す＝最短波長０.０６ｎｍ

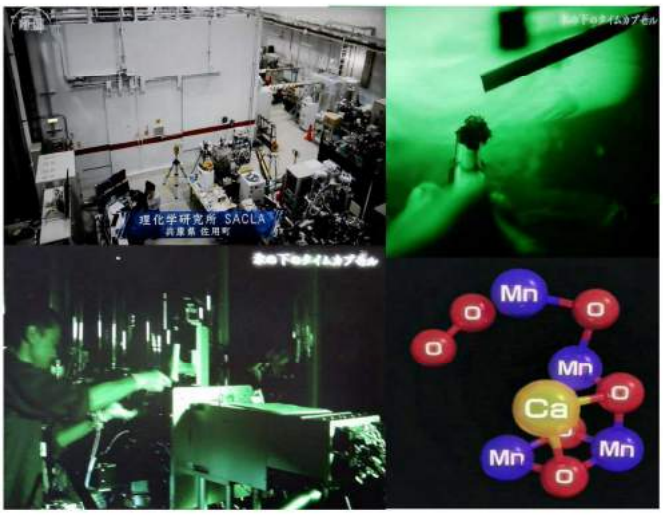
●光合成に関わる謎の触媒の正体とは！？]
触媒はイスのような形と判明したが、
強い光を１秒間たんぱく質の結晶に当てる際、
強い光のために構造が損傷して変形している
ことが分かった。

一瞬で見ることで本来の構造が分かる（これまでは１０％ほど違っていた。０．２ｎｍ！全体の構造が１０％違うと、どの部分がどう動くのか正確に分からない。

●生きている状態での生命活動を原子レベルで見れる！？
従来は見たい物質を取り出して、キレイに並べて結晶化するプロセスが必要だった。
このサイズの微生物が、生きたままX線で捉えられたのは世界初。



光合成に関与するたんぱく質は数万もの原子が集まっている。その中で「ゆがんだ椅子」と呼ばれるCa・Mn・O　原始10個からできた部分がある。
歪んでいるため、不安定で水分子が取り込まれる時に椅子の形が変化し、
その結果酸素の原子が飛び出して、離れてくる



● 湖の表面や水中に浮くシアノバクテリアの集合体　光合成をしながら移動して　その域を広げていった

水中を浮き上がってくるシアノバクテリアの集合体　酸素の泡を抱いているのが見える

アンターセー湖の氷の表面にいくつも見られる湖底から浮き上がったシアノバクテリアの集合体
自らが作った酸素の気泡を抱き、その浮力で水中を漂い、やがて、氷の中に取り込まれ、
氷の表面に顔を出し、この南極各地に広がっていったのだろう。

● シアノバクテリアが作ったオーストラリアの縞状鉄鉱床　　かつては海底だった

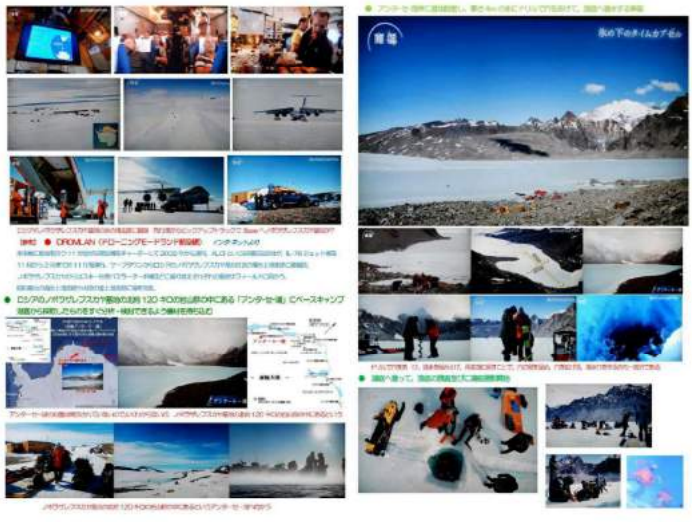
● まとめ　南極アンターセー湖に広がる 35 億年前　原始の地球　そっくり
初めて酸素を作り、地球生物の大きな進化の歴史の基を作った原始生物シアノバクテリアの絶景

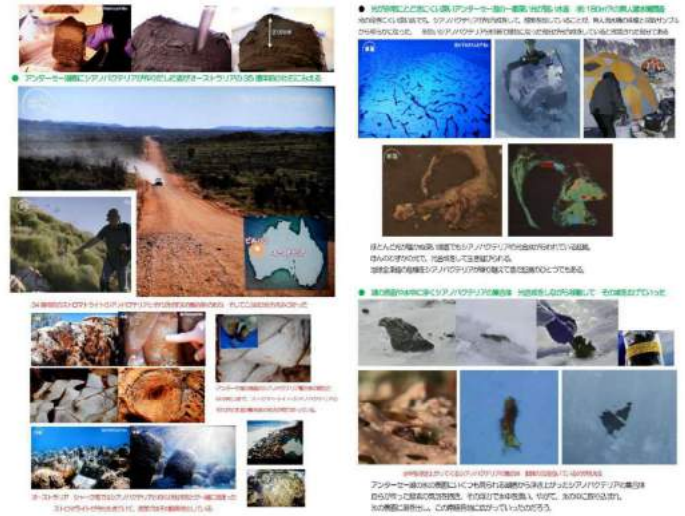
微生物の原始の世界から、今私たちが いる現在の地球へ大きな進化の歴史をスタートさせたのが、
酸素を作ったシアノバクテリアである。
35 億年前　原始微生物の世界の中で、光合成をおこない、酸素を生み出し、その後植物の中に入り込み
葉緑体となったシアノバクテリア。現在の植物はシアノバクテリアが変化した姿である。
一方　シアノバクテリアが生み出した豊富な酸素により、大きなエネルギーを得た動物の進化のスピードは
急速となり、現在その頂点にいるのが私たち人間である。

微生物の原始の世界から私たちが住む現在の地球へ　大きな進化の原点を作り出したのが、シアノバクテリア。
その 35 億年前のシアノバクテリアの生態系の絶景が南極の厚い氷におおわれた湖「アンターセー湖」に広がっている。

なお　写真はすべて［BS プレミアム］南極　氷の下のタイムカプセルの映像から切り出し、番組のストーリーが紹介できるように構成しましたが、番組ではよくわからない点も多々あり、インターネットで見つけたアンターセー湖解明の先駆者に日本の女性量子力学者である田邊優貴子さんの
「南極の凍った湖に潜って 原始地球の生態系を追う」のルポ記事を補足に使わせていただきました。
http://natgeo.nikkeibp.co.jp/atcl/web/15/423715/051300002/

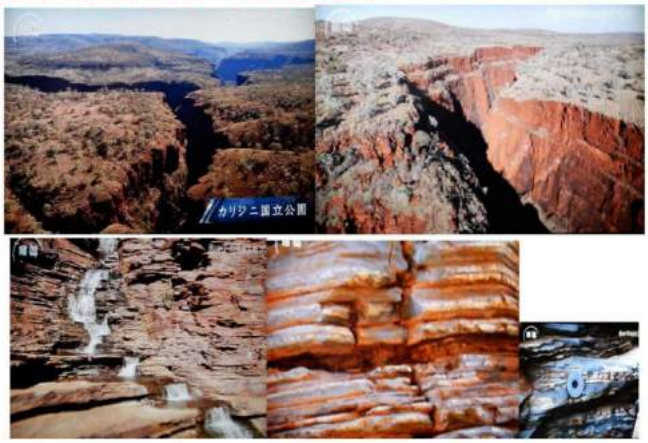
2018.3.10.　補足修正　by Mutsu Nakanishi





NHK Bs 南極 氷の下のタイムカプセルより
映像切り出し作成　2018.3.15.　Mutsu Nakanishi

● シアノバクテリアが作ったオーストラリアの縞状鉄鉱床



http://www.infokkkna.com/ironroad/2018htm/iron14/1803cyanobacteria.pdf

---

鉄の惑星「地球」35億年前 現在の生物起源に遡る原始Iron Roadの絶景

光合成を初めて行い大気気の酸素を作るシアノバクテリアの不思議な世界

【和鉄の道・Iron Road】≪BS ドキュメンタリー　PDF メモ≫ *2018.3.5. by Mutsu Nakanishi*

2018 Iron 02　南極 氷の下のタイムカプセル [BS プレミアム] 2月24日（土）後9:00

南極の湖に３５億年前の世界があった　ここは宇宙？　湖の底にある原始の地球を撮影

35 億年前　光合成で大気の酸素を作り始めたシアノバクテリアが今もひっそり酸素を作り続けている

南極昭和基地近く岩山群の中にある「アンターセー湖」4m 厚さの氷に覆われた湖の水底に不思議な世界が広がっている

● シアノバクテリアが作ったオーストラリアの縞状鉄鉱床　　かつては海底だった

卑弥呼の時代を解き明かす？　淡路島

弥生後期の大山間地集落群　淡路市舟木遺跡から弥生期の鉄製ヤスが出土

海の民や北部九州とのつながりを示す？　　2018.3.23.　神戸新聞より

本年１月ご紹介した淡路島の北部津名丘陵　弥生後期の大山間地集落群の中心集落遺跡淡路市舟木遺跡から「かえし」があるなど弥生時代の北部九州の鉄器加工の先端化技術で作られた鉄製のヤスが出土した。

国生み神話があり、国内最大級の弥生の鍛冶工房村五斗長垣内遺跡の出土。そして、時代の大転換を示す多数の初期埋納銅鐸松帆銅鐸の出土している淡路島。弥生時代から古墳時代への大きな転換期　卑弥呼の時代に「淡路島が重要な役割を果たした」との期待がにわかに高まってきた。

国づくりが始まる当時の最重要課題は朝鮮半島の鉄素材の確保とその交易の覇権。

そんな中で、淡路島の北部津名丘陵には、各種生産工房を有し、交易を生業とすると考えられる淡路市「舟木遺跡」を中心とする大山間地集落群の存在が明らかになってきた。

新しい時代を開く集落群として注目を集め、淡路島の海岸部には野島や三原の海人とよばれる瀬戸内海を庭とする海の民がいることもあって、「淡路島の交易ネットワークが卑弥呼の時代の謎を解き明かすのではないか?」との期待の元にわかに脚光を浴びている。

そんな昨今　淡路島の発掘調査に注目が集まる中、　３月23日淡路市舟木遺跡で弥生時代の「かえし」のある鉄製ヤスが、出土し、北部九州から持ち込まれたと考えられるとの新聞報道が関西に大きく流れた。

金曜日　神戸新聞　（第3種郵便物認可）

弥生期の鉄製ヤス出土

淡路・舟木遺跡で近畿初

高度な技術 九州などから流通か

淡路市舟木にある弥生時代の山間地集落遺跡「舟木遺跡」の発掘調査で、鉄製のヤスが見つかり、同市教育委員会が22日、発表した。弥生期の鉄製ヤスの出土は山陰地方や九州北部で例があるが、近畿では初めてという。（渡辺裕司）

標高約150㍍の山上にある同遺跡から漁具の鉄器が見つかったことで、同市教委は鉄器流通の背景に、海を往来しながら生活していた「海の民」のネットワークがあったことを示す貴重な資料とみている。

出土した鉄製ヤスは長さ16・5㌢、幅は最大1・4㌢。全体がさびで覆われていたが、エックス線写真で分析した結果、先端から約1・5㌢下方に「かえし」が見られた。ヤスや釣り針にかえしをつくるには高度な技術が必要といい、鉄器製造が盛んだった九州などから持ち込まれた可能性がある。

また、2016年度調査の出土品から、鉄製の釣り針も確認された。弥生期の釣り針の出土は、県内では会下山遺跡（芦屋市）に次いで2例目という。

弥生期の鉄製ヤスや釣り針は、山陰や九州北部で出土する例が多い。愛媛大東アジア古代鉄文化研究センターの村上恭通センター長は「山陰は九州から鉄製漁具を受け入れ、漁民が鉄器の交易を促進した」と分析。今回の発見で、漁具が日本海側だけでなく「瀬戸内側を伝わって来た可能性もある」と指摘する。

今回の調査で淡路市教委は、3次元レーザーを使って上空から同遺跡の測量も実施。地表面の起伏を詳細に分析した結果、遺跡の範囲が従来より北に約300㍍広がる可能性があることも分かった。

調査成果の報告や出土遺物の展示は25日午後1時半から、同市小倉の北淡震災記念公園セミナーハウスである。申し込み不要。同公園☎0799・82・3400

エックス線で撮影した画像には「かえし」があることが分かる（淡路市教委提供）

出土した鉄製ヤス

2018.3.23.　神戸新聞　朝刊

ことの評価はまだこれからであるが、下記注目点

- ◆　出土した鉄製「ヤス」には「かえし」があり、当時の北部九州の先端技術。北部九州から持ち込まれた。
  また、今回のかえしのある弥生期やすりの出土は近畿で初めてであるが、北部九州・山陰で出土例。
- ◆　淡路島の山間地集落群は生産工房があり、周辺との交易を生業とする。
  この中心舟木遺跡からの出土から、海岸ぶの「海の民」とのつながり・ネットワークが見えてくる。
  これからも興味津々。　淡路島の大山間地集落群とその中心舟木遺跡です。

神戸新聞 Next 2018. 3.23. 記事　書き写し　**弥生期の鉄製ヤス出土 淡路で近畿発**

兵庫県淡路市舟木にある弥生時代の山間地集落遺跡「舟木遺跡」の発掘調査で、鉄製のヤスが見つかり、同市教育委員会が２２日、発表した。弥生期の鉄製ヤスの出土は山陰地方や九州北部で例があるが、近畿では初めてという。標高約１５０メートルの山上にある同遺跡から漁具の鉄器が見つかったことで、同市教委は鉄器流通の背景に、海を往来しながら生活していた「海の民」のネットワークがあったことを示す貴重な資料とみている。
出土した鉄製ヤスは長さ１６・５センチ、幅は最大１・４センチ。全体が錆で覆われていたが、エックス線写真で分析した結果、先端から約１・５センチ下方に「かえし」が見られた。ヤスや釣り針にかえしをつくるには高度な技術が必要といい、鉄器製造が盛んだった九州などから持ち込まれた可能性がある。

また、２０１６年度調査の出土品から、鉄製の釣り針も確認された。弥生期の釣り針の出土は、県内では会下山遺跡（芦屋市）に次いで２例目という。
弥生期の鉄製ヤスや釣り針は、山陰や九州北部で出土する例が多い。愛媛大東アジア古代鉄文化研究センターの村上恭通センター長は「山陰は九州から鉄製漁具を受け入れ、漁民が鉄器の交易を促進した」と分析。今回の発見で、漁具が日本海側だけでなく「瀬戸内側を伝わって来た可能性もある」と指摘する。

今回の調査で淡路市教委は、３次元レーザーを使って上空から同遺跡の測量も実施。地表面の起伏を詳細に分析した結果、遺跡の範囲が従来より北に約３００メートルほど広がる可能性があることも分かった。
調査成果の報告や出土遺物の展示は２５日午後１時半から、同市小倉の北淡震災記念公園セミナーハウスである。申し込み不要。同公園ＴＥＬ０７９９・８２・３４００

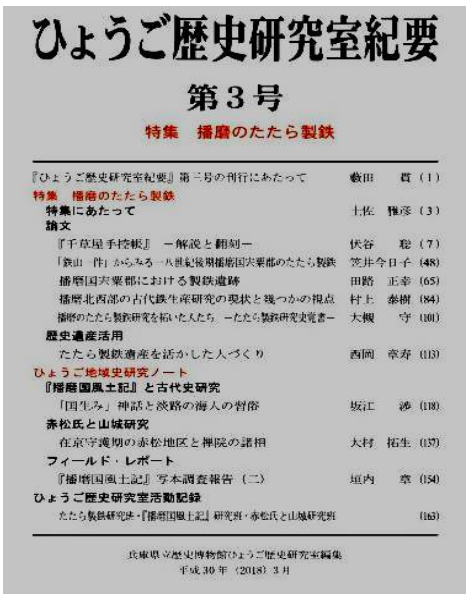
出土したヤス　エックス線で撮影した画像には「かえし」があることが分かる（淡路市教委提供 。

参考１:【和鉄の道･Iron Road 】淡路市舟木遺跡を中心とした弥生後期の大山間地集落群
http://www.infokkkna.com/ironroad/2017htm/iron13/1702funaki00.htm
参考２　神戸新聞 Next 2018. 3.23.　弥生期の鉄製ヤス出土 淡路で近畿発
https://www.kobe-np.co.jp/news/sougou/201803/0011093126.shtml
参考３　神戸新聞Next　2018.3.3.　淡路で古代史シンポ 海人や国生み神話に新視点
https://www.kobe-np.co.jp/news/sougou/201803/0011034677.shtml

2018 Iron 04

【情報】　和鉄の道・Iron road　『西播磨の鉄』レビュー

兵庫県立歴史博物館　ひょうご歴史研究室編
『ひょうご歴史研究室紀要』第３号　特集「播磨のたたら製鉄」刊行



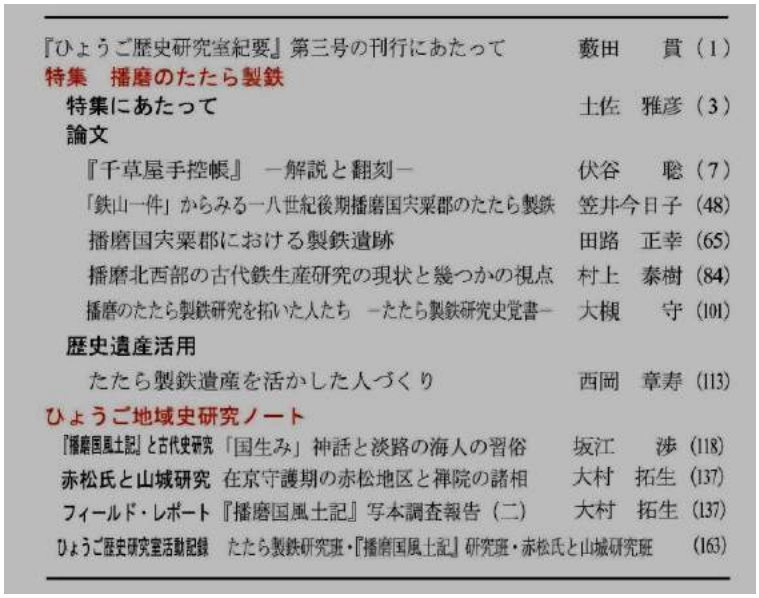
ひょうご歴史研究室紀要

第３号

特集　播磨のたたら製鉄

『ひょうご歴史研究室紀要』第三号の刊行にあたって　藪田　貫（1）
特集　播磨のたたら製鉄
特集にあたって　土佐　雅彦（3）
論文
『千草屋手控帳』　―解説と翻刻―　伏谷　聡（7）
「鉄山一件」からみる一八世紀後期播磨国宍粟郡のたたら製鉄　笠井今日子（48）
播磨国宍粟郡における製鉄遺跡　田路　正幸（65）
播磨北西部の古代鉄生産研究の現状と幾つかの視点　村上　泰樹（84）
播磨のたたら製鉄研究を拓いた人たち　―たたら製鉄研究史覚書―　大槻　守（101）
歴史遺産活用
たたら製鉄遺産を活かした人づくり　西岡　章寿（113）
ひょうご地域史研究ノート
『播磨国風土記』と古代史研究
「国生み」神話と淡路の海人の習俗　坂江　渉（118）
赤松氏と山城研究
在京守護期の赤松地区と禅院の諸相　大村　拓生（137）
フィールド・レポート
『播磨国風土記』写本調査報告（二）　垣内　章（154）
ひょうご歴史研究室活動記録
たたら製鉄研究班・『播磨国風土記』研究班・赤松氏と山城研究班　（163）

兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室編集
平成30年（2018）3月



『ひょうご歴史研究室紀要』第三号の刊行にあたって　藪田　貫（1）
特集　播磨のたたら製鉄
特集にあたって　土佐　雅彦（3）
論文
『千草屋手控帳』　―解説と翻刻―　伏谷　聡（7）
「鉄山一件」からみる一八世紀後期播磨国宍粟郡のたたら製鉄　笠井今日子（48）
播磨国宍粟郡における製鉄遺跡　田路　正幸（65）
播磨北西部の古代鉄生産研究の現状と幾つかの視点　村上　泰樹（84）
播磨のたたら製鉄研究を拓いた人たち　―たたら製鉄研究史覚書―　大槻　守（101）
歴史遺産活用
たたら製鉄遺産を活かした人づくり　西岡　章寿（113）
ひょうご地域史研究ノート
『播磨国風土記』と古代史研究　「国生み」神話と淡路の海人の習俗　坂江　渉（118）
赤松氏と山城研究　在京守護期の赤松地区と禅院の諸相　大村　拓生（137）
フィールド・レポート　『播磨国風土記』写本調査報告（二）　大村　拓生（137）
ひょうご歴史研究室活動記録　たたら製鉄研究班・『播磨国風土記』研究班・赤松氏と山城研究班　（163）

姫路にある兵庫県立歴史博物館では　2015年４月　兵庫県内の歴史研究のため、ひょうご歴史研究室が設置され、

1.「播磨風土記」　2.赤松氏と山城　3.たたら製鉄　の３つをテーマに地域史の視点で、博物館内外の研究者や大学・地域研究諸団体の人々も加わり、総合研究が続けられている。

この３月刊行された「ひょうご歴史研究室紀要」第３号にその研究成果の一端を示す特集「播磨のたたら製鉄」が刊行され、県内図書館棟で閲覧できると共にインターネットで、閲覧ダウンロードできましたのでご紹介。

2018.6.1.　by Mutsu Nakanishi

岡山県吉備・美作と接する中国山地の東部、古代たたら製鉄神降臨の地伝承があり、「播磨風土記」には数多くの製鉄伝承が残る日本で　いち早くたたら製鉄が始ったとされる地の一つでる。

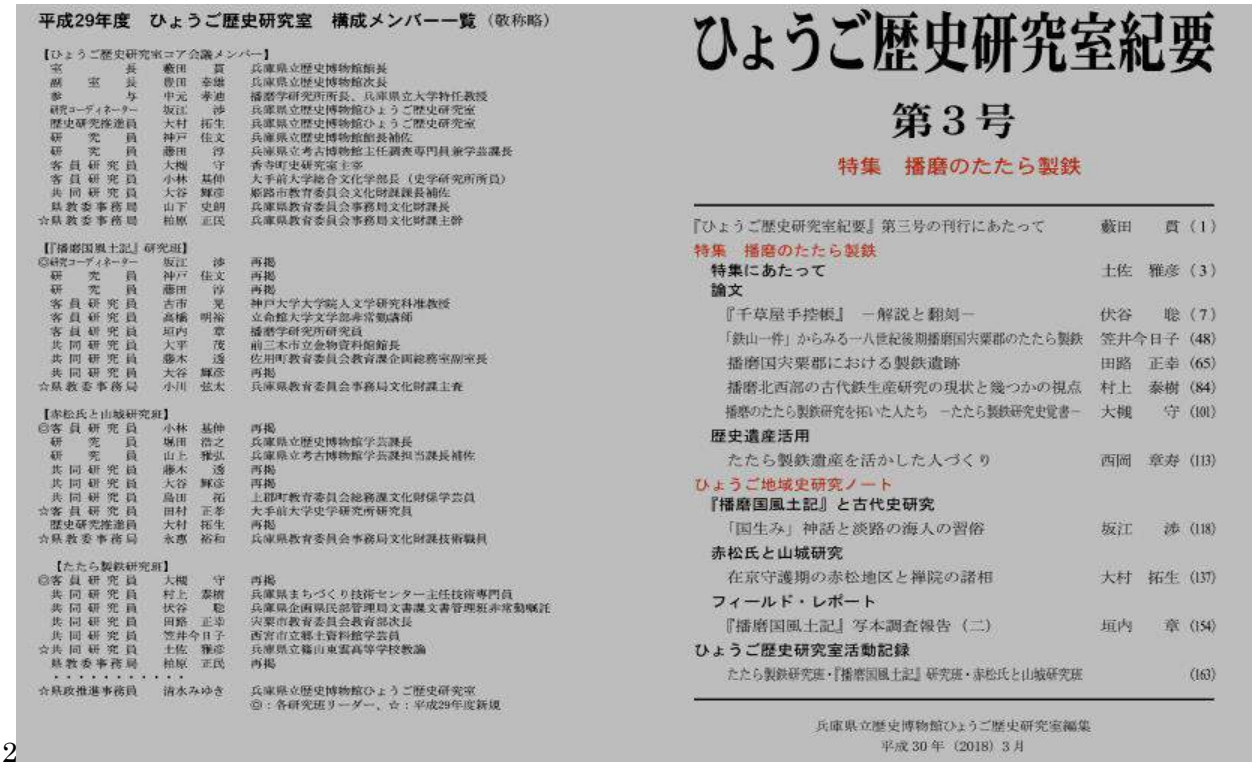
中国山地から流れ下る千種川・揖保川水系の谷筋には、古くから数多くのたたら跡が点在し、近世には「千種鉄」「宍粟鉄」と全国的に隆盛した西播磨。

数多くの伝承や古いたたら跡の痕跡は数多く残り、発掘調査や地域調査研究が進むにつれ、断片的には解明された点も多い。しかし、西播磨でのたたら製鉄の始まりやたたら製鉄の具体的な様相　そして、時代の流れに沿ってたたら製鉄そのものが変化してゆく中での人々の暮らしの変化など地域社会の全変化をとらえる視点での解明が大きな課題。

地域開発が急速に進行し、残された時代の痕跡が根こそぎどんどん消えてゆく中で、地域の暮らしが時間をかけて変化してきた様子をしっかり見つめることが、次の地域発展の重要なヒントであり、また鍵

となる。　これをないがしろにした開発失敗事例が実に多いのが、日本の現状。
兵庫県立歴史博物館の取組はまさに新しい西播磨展開への大きな指針を与えるだろう。
「古代から今に及ぶ西播磨のたたら製鉄と人々の暮らしが、
　他の地域の暮らしとどのように繋がり、今後どんな展開になるのか・・そんなことが知りたい」
解明はまだこれからでしょうが、総合的に西播磨のたたら製鉄を考える視点で始まったたたら製鉄班の研究の第一回総括の５編の論文に示されていますので、情報お知らせします。
　なお、**『ひょうご歴史研究室紀要』第３号　特集「播磨のたたら製鉄」に掲載された論文は**
　下記　インターネット　兵庫県立博物館のホームページから　閲覧・ダウンロードできます。

『ひょうご歴史研究室紀要』第３号　特集「播磨のたたら製鉄」
2018.3 月　兵庫県立歴史博物館　ひょうご歴史研究室編


平成29年度　ひょうご歴史研究室　構成メンバー一覧（敬称略）

【ひょうご歴史研究室コア会議メンバー】
室長　藪田　貫　兵庫県立歴史博物館館長
副室長　豊田　幸雄　兵庫県立歴史博物館次長
参与　中元　孝迪　播磨学研究所所長、兵庫県立大学特任教授
研究コーディネーター　坂江　渉　兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室
歴史研究推進員　大村　拓生　兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室
研究員　神戸　佳文　兵庫県立歴史博物館館長補佐
研究員　藤田　淳　兵庫県立考古博物館主任調査専門員兼学芸課長
客員研究員　大槻　守　香寺町史研究室主宰
客員研究員　小林　基伸　大手前大学総合文化学部長（史学研究所所員）
共同研究員　大谷　輝彦　姫路市教育委員会文化財課課長補佐
県教委事務局　山下　史朗　兵庫県教育委員会事務局文化財課長
☆県教委事務局　柏原　正民　兵庫県教育委員会事務局文化財課主幹

【『播磨国風土記』研究班】
◎研究コーディネーター　坂江　渉　再掲
研究員　神戸　佳文　再掲
研究員　藤田　淳　再掲
客員研究員　古市　晃　神戸大学大学院人文学研究科准教授
客員研究員　高橋　明裕　立命館大学文学部非常勤講師
客員研究員　垣内　章　播磨学研究所研究員
共同研究員　大平　茂　前三木市立金物資料館館長
共同研究員　藤木　透　佐用町教育委員会教育課企画総務室副室長
共同研究員　大谷　輝彦　再掲
☆県教委事務局　小川　弦太　兵庫県教育委員会事務局文化財課主査

【赤松氏と山城研究班】
◎客員研究員　小林　基伸　再掲
研究員　堀田　浩之　兵庫県立歴史博物館学芸課長
研究員　山上　雅弘　兵庫県立考古博物館学芸課担当課長補佐
共同研究員　藤木　透　再掲
共同研究員　大谷　輝彦　再掲
共同研究員　島田　裕　上郡町教育委員会総務課文化財保学芸員
☆客員研究員　田村　正孝　大手前大学史学研究所研究員
歴史研究推進員　大村　拓生　再掲
☆県教委事務局　永恵　裕和　兵庫県教育委員会事務局文化財課技術職員

【たたら製鉄研究班】
◎客員研究員　大槻　守　再掲
共同研究員　村上　泰樹　兵庫県まちづくり技術センター主任技術専門員
共同研究員　伏谷　聡　兵庫県企画県民部管理局文書課文書管理班非常勤嘱託
共同研究員　田路　正幸　宍粟市教育委員会教育部次長
共同研究員　笠井今日子　西宮市立郷土資料館学芸員
☆共同研究員　土佐　雅彦　兵庫県立篠山東雲高等学校教諭
県教委事務局　柏原　正民　再掲
・・・・・・・・・・・・
☆県政推進事務局　清水みゆき　兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室
◎：各研究班リーダー、☆：平成29年度新規

ひょうご歴史研究室紀要
第３号
特集　播磨のたたら製鉄

『ひょうご歴史研究室紀要』第三号の刊行にあたって　藪田　貫（1）
特集　播磨のたたら製鉄
特集にあたって　土佐　雅彦（3）
論文
『千草屋手控帳』 －解説と翻刻－　伏谷　聡（7）
「鉄山一件」からみる－八世紀後期播磨国宍粟郡のたたら製鉄　笠井今日子（48）
播磨国宍粟郡における製鉄遺跡　田路　正幸（65）
播磨北西部の古代鉄生産研究の現状と幾つかの視点　村上　泰樹（84）
播磨のたたら製鉄研究を拓いた人たち －たたら製鉄研究史覚書－　大槻　守（101）
歴史遺産活用
たたら製鉄遺産を活かした人づくり　西岡　章寿（113）
ひょうご地域史研究ノート
『播磨国風土記』と古代史研究
「国生み」神話と淡路の海人の習俗　坂江　渉（118）
赤松氏と山城研究
在京守護期の赤松地区と禅院の諸相　大村　拓生（137）
フィールド・レポート
『播磨国風土記』写本調査報告（二）　垣内　章（154）
ひょうご歴史研究室活動記録
たたら製鉄研究班・『播磨国風土記』研究班・赤松氏と山城研究班　（163）

兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室編集
平成 30 年（2018）3 月

2

◎　**兵庫県立歴史博物館　ひょうご歴史研究室**　http://www.hyogo-c.ed.jp/~rekiken/
研究論文なので、文字ばかりで、ちょっと読みにくいかもしれませんが、
西播磨のたたら製鉄を総括的に知るにはうれしいレビューです。

また、合わせて　和鉄の道・Iron road に掲載してきた西播磨のたたら製鉄関連遺跡や地域探訪記事を抜き出し、リストアップしました。

和鉄の道・Iron Road 西播磨の鉄(宍粟・佐用)概要レビュー

西播磨のたたら跡幾つかの探訪記と共に四季折々の西播磨たたらの里の景色などの記事をリストアップしましたので、お暇なときにでもご覧ください。

和鉄の道・Iron Road　西播磨の鉄【宍粟・佐用】概要レビュー　2018.6.5
和鉄の道・Iron Road 掲載　西播磨の鉄【宍粟・佐用】主要記事　リスト　by Mutsu Nakanishi

和鉄の道・Iron Road　西播磨の鉄【宍粟・佐用】概要 レビュー

和鉄の道・Iron Road に掲載してきた記事をまとめてリストアップし、そのうち４篇の概要記事を兵庫県西播磨県民局発行の案内冊子「たたらのふるさと」といっしょに掲載記録しました

兵庫県千種の位置
兵庫県宍粟郡　岡山県との境

千種鉄　和鉄　発祥の地 千種 と 千種川

国道沿い千種岩野辺に建つ
金屋子神　降臨の碑

製鉄神　金屋子神と千種　古代製鉄発祥の地伝承

播磨国宍粟郡の山間の村岩鍋に天から神が示現。「わたしは金山彦。天目一箇神ともいう金屋子神である」と明かす。

村人にタタラによって鉄を作ることを教え、様々な道具を作る技術を人々に授けた。そして、「これから西の方へ行き、鉄を吹き道具を作ることをさらに多くの人々に教えねばならない」と、白鷺に乗って天空高く飛び立った。その後、金屋子神は出雲国に飛来し、能義郡比田の森に降り立ったと言う。

西下野　中国縦貫道と千種川　対岸の山裾の谷に西下野製鉄遺跡がある　2003. 11. 14.

大坂泉屋が経営した千種岩野辺(岩鍋)荒尾鉄山遺跡を訪ねる　2016. 7. 20.

和鉄の道・Iron Road　西播磨の鉄【宍粟・佐用】概要 レビュー

◎　「たたらのふるさと」　兵庫県西播磨県民局 発行　作成協力　宍粟鉄を保存する会・宍粟市・佐用町

◎　和鉄の道・Iron Road 掲載　西播磨の鉄【宍粟・佐用】主要記事　by Mutsu Nakanishi

◆　和鉄の道・Iron Road 掲載　西播磨の鉄【宍粟・佐用】主要記事リスト ◆

1. 和鉄のふるさと「千種・岩鍋」2001. 1 月掲載
   古代たたら製鉄神　金屋子神降臨伝承地「千種岩鍋」＆ 近世 千種鉄の中心　千種天児屋鉄山遺跡
2. 播磨風土記　古代製たたら製鉄の中心地　「讃容(佐用)の里」Walk　2003. 11 月掲載
   播磨風土記に掲載された西播磨 佐用の古代たたら製鉄の中心　佐用町大撫山周辺
3. 播磨風土記御方里(三方)周辺　平安時代末期の安積山製鉄遺跡探訪　宍粟郡一ノ宮町　2004.　2 月掲載
   千種とならぶ西播磨 宍粟の古代たたら製鉄の中心地
4. 大阪の鉄商 泉屋が経営した千種岩野辺(岩鍋)　近世の荒尾山鉄山遺跡を訪ねる　2016.　8 月掲載
   近世の千種鉄の中心生産地　千種天児屋鉄山とならぶ中心の製鉄遺跡

中国縦貫道の際　大撫山南面の谷にある永谷製鉄遺跡　全景　後ろは大撫山
永谷B遺跡　　西の縁に遺跡が残る永谷地　　谷底の中にスラグ層が見がる永谷C遺跡
大撫山南面の谷にある永谷製鉄遺跡　(8 世紀半ばから 10 世紀にまたがる重複遺跡)

安積山製鉄遺跡　正面が丸山　道の右手に城山がそびえる　2004. 2. 11.
丸山の東斜面に沿って広がる遺跡　安積山製鉄遺跡　　土居の城山　間歩跡

上流側 南側鉄から天児屋たたら跡全景　2013. 7. 19.
千種 天児屋鉄山　全景　2013. 7. 19.
天児屋鉄山全景 (1) 天児屋鉄山跡の上流側へ道を登ったところから見下ろす

和鉄の道・Iron Road　宍粟・佐用の鉄　関連 掲載記事　URL: アクセスリスト

1. たたらの話 あれこれ〔たたら製鉄概説〕　－ 風来坊　和鉄の道を訪ねて －　2010.1 月
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/10iron01.pdf
   - Iron road　たたらの源流
   - 日本独自の直接製鉄法　たたら製鉄
   - たたらの語源 & 関連の言葉や地名
   - 奥出雲・播磨　たたら「金屋子神」の伝承
   - 日本各地に残る和鉄の道　風景リスト
   - 東アジア　鉄の歴史年表　中国・朝 2010.1.鮮・日本
2. 古代鉄の大王国 播磨国「千種鉄」　古代製鉄神　金屋子神　降臨伝承の地「岩鍋」　2001.1 月
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/jstlbb01.pdf
3. 播磨国 風土記　和鉄の道【1】
   古代製鉄の一大生産地「讃容の里」Walk　西播磨　佐用町　大撫山製鉄遺跡を訪ねて　2003.11 月
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/4iron01.pdf
4. 播磨国 風土記　和鉄の道【2】
   「御方里」周辺　安積山製鉄遺跡(平安末期の遺跡) 探訪　一宮町　2004.2 月
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/4iron07.pdf
5. 播磨国風土記　和鉄の道【3】
   産鉄の地　「御方里」の 里を訪ねて　一宮町
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/4iron10.pdf　2004.　6 月
6. たたら製鉄の原料　砂鉄採取の地形が残る西播磨　砥峰高原　2007.10 月
   初秋の 西播磨の山郷　一面ススキが覆いつくす　砥峰高原
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/7iron18.pdf
7. 奥播磨　かつてのたたらの郷に「ジキタリス」の花園を訪ねる　2009.6 月
   奥黒尾山西北山麓　宍粟市山崎町野々隅原　大国牧場　花の Walk
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/9iron07.pdf
8. 奥播磨　千種川に注ぐ恋文川源流　2010.7 月
   たたらの郷　宍粟市山崎町小茅野（こがいの）集落を訪ねる
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/10iron08.pdf
9. 千種川流域に咲くひまわり畑と製鉄神「天目一筒神」を祭る「天一神社」を訪ねる　2012.8.月
   ひまわりの夏 2012　古代たたらの郷　佐用　西播磨佐用町（旧南光町）林崎
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/12iron06.pdf
10. 久しぶりに西播磨 古代からの製鉄の地「宍粟市千種」を訪ねる」　2013.7 月
    千種天児屋たたら跡・岩鍋古代製鉄発祥の地伝承の碑を訪ねる
    1. 江戸時代初期から明治まで操業の千種 西河内　天児屋鉄山跡再訪　学習館併設のたたら公園
    2. 今ユリの花満開のちぐさ高原の「ユリ園」に立ち寄る
    3. 千種川水系家千種から東の揖保川水系へ　山越ルート国道４２９号線
       宍粟の製鉄地帯の中心部　岩鍋の古代製鉄発祥の地碑を見て　波賀・一宮町から山崎へ
    http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/13iron10.pdf
11. 雨に先駆けて山麓の湿地に　ひっそり咲くピンクの花　クリンソウ　2015.5.月
    千種 天児屋たたら跡に咲くクリンソウを訪ねる
    http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/15iron08.pdf
12. 奥播磨千種 古代の製鉄神金屋子神降臨の伝承地 千種岩野辺(岩鍋)　2016.8.月
    近世の製鉄遺跡 大坂泉屋が経営した荒尾山鉄山遺跡を訪ねる
    1. 山崎と千種・佐用の境切窓峠を越えて　佐用下三河から千種川を遡って千種へ
    2. 千種から西へ国道 429 号　岩野辺川に沿う谷筋を岩野辺荒尾　荒尾山鉄山遺跡へ
    3. 荒尾山鉄山製鉄遺跡　荒尾山山中のたたら跡を歩く
    4. 国道２９号線がトンネルで抜ける鳥ケ乢　旧４２９号で山を登り　鳥ヶ乢の「峠」へ
    http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/16iron09.pdf
13. 奥播磨の中国山地から古代たたらの郷を流れ出た千種川の河口　赤穂 】　2017.8.月
    兵庫 100 名山 赤穂市「黒鉄山」と赤穂千種川河口 walk－千種川 砂鉄の痕跡を探して －
    http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/17iron06.pdf

【番外】■「初期大和王権の成立に大きな役割を演じた西播磨」
西播磨で古墳時代後期末の鍛冶炉跡が出土有年 牟礼・井田遺跡を訪ねる　2011.3 月
http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/11iron02.pdf

【番外】■　和鉄の道 【3】口絵　2003　たたら製鉄が地域 の自然や文化に与えた影響　2004.1 月
赤穂に塩田を作りだした播磨北部のたたら製鉄より
http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/ir3kc04.pdf

和鉄の道・Iron Road　西播磨の鉄【宍粟・佐用】概要レビュー　　2018.5.5.

和鉄の道・Iron Road に掲載してきた記事をまとめてリストアップし、
そのうち４篇の概要記事を兵庫県西播磨県民局発行の案内冊子「たたらのふるさと」といっしょに掲載記録しました

◎　「たたらのふるさと」　兵庫県西播磨県民局 発行　作成協力　宍粟鉄を保存する会・宍粟市・佐用町

◎　和鉄の道・Iron Road 掲載　西播磨の鉄【宍粟・佐用】主要記事　by Mutsu Nakanishi

◆　和鉄の道・Iron Road 掲載　西播磨の鉄【宍粟・佐用】主要記事リスト ◆

1. 和鉄のふるさと「千種・岩鍋」　2001. 1 月掲載
   古代たたら製鉄神　金屋子神降臨伝承地「千種岩鍋」＆ 近世 千種鉄の中心　千種天児屋鉄山遺跡
2. 播磨風土記　古代製たたら製鉄の中心地　「讃容(佐用)の里」Walk　2003. 11 月掲載
   播磨風土記に掲載された西播磨 佐用の古代たたら製鉄の中心　佐用町大撫山周辺
3. 播磨風土記御方里(三方)周辺　平安時代末期の安積山製鉄遺跡探訪　宍粟郡一ノ宮町　2004.　２月掲載
   千種とならぶ西播磨 宍粟の古代たたら製鉄の中心地
4. 大阪の鉄商 泉屋が経営した千種岩野辺(岩鍋)　近世の荒尾山鉄山遺跡を訪ねる　2016.　８月掲載
   近世の千種鉄の中心生産地　千種天児屋鉄山とならぶ中心の製鉄遺跡

2018.5.5.　Mutsu Nakanishi 作成

和鉄の道・Iron Road 掲載　西播磨の鉄【宍粟・佐用】主要記事　リスト by Mutsu Nakanishi

1. たたらの話 あれこれ〔たたら製鉄概説〕－ 風来坊　和鉄の道を訪ねて －　2010.1 月

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/10iron01.pdf

- Iron road　たたらの源流
- 日本独自の直接製鉄法　たたら製鉄
- たたらの語源 ＆ 関連の言葉や地名
- 奥出雲・播磨　たたら「金屋子神」の伝承
- 日本各地に残る和鉄の道風景リスト
- 東アジア　鉄の歴史年表　中国・朝鮮・日本

2. 古代鉄の大王国 播磨国「千種鉄」古代製鉄神　金屋子神　降臨伝承の地「岩鍋」2001.1 月

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/jstlbb01.pdf

3. 播磨国 風土記　和鉄の道【1】　2003.11 月

古代製鉄の一大生産地「讃容の里」Walk　西播磨　佐用町　大撫山製鉄遺跡を訪ねて

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/4iron01.pdf

4. 播磨国 風土記　和鉄の道【2】　2004.2 月

「御方里」周辺　安積山製鉄遺跡(平安末期の遺跡)探訪　一宮町

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/4iron07.pdf

5. 播磨国風土記　和鉄の道【3】　2004.　6 月

産鉄の地　「御方里」の 里を訪ねて　一宮町

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/4iron10.pdf

6. たたら製鉄の原料　砂鉄採取の地形が残る西播磨　砥峰原　2007.10 月

初秋の 西播磨の山郷　一面ススキが覆いつくす　砥峰高原

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/7iron18.pdf

7. 奥播磨　かつてのたたらの郷に「ジキタリス」の花園を訪ねる　2009.6 月

奥黒尾山西北山麓　宍粟市山崎町野々隅原　大国牧場　花の Walk

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/9iron07.pdf

8. 奥播磨　千種川に注ぐ恋文川源流　2010.7 月

たたらの郷　宍粟市山崎町小茅野（こがいの）集落を訪ねる

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/10iron08.pdf

9. 千種川流域のひまわり畑 と 製鉄神 天目一筒神の「天一神社」を訪ねる　2012.8.月

ひまわりの夏 2012　古代たたらの郷　佐用　西播磨佐用町（旧南光町）林崎

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/12iron06.pdf

10. 久しぶりに西播磨 古代からの製鉄の地「宍粟市千種」を訪ねる」　2013.7 月

千種天児屋たたら跡・岩鍋古代製鉄発祥の地伝承の碑を訪ねる

1. 江戸時代初期から明治まで操業の千種 西河内　天児屋鉄山跡再訪
2. 今ユリの花満開のちぐさ高原の「ユリ園」に立ち寄る
3. 千種川水系家千種から東の揖保川水系へ　山越ルート国道４２９号線

宍粟の製鉄地帯の中心部　岩鍋の古代製鉄発祥の地碑　波賀・一宮町から山崎へ

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/13iron10.pdf

11. 雨に先駆けて山麓の湿地に　ひっそり咲くピンクの花　クリンソウ　2015.5.月

千種 天児屋たたら跡に咲くクリンソウを訪ねる

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/15iron08.pdf

12. 奥播磨千種 古代の製鉄神金屋子神降臨の伝承地 千種岩野辺(岩鍋)　2016.8.月

近世の製鉄遺跡 大坂泉屋が経営した荒尾山鉄山遺跡を訪ねる

1. 山崎と千種・佐用の境切窓峠を越えて　佐用下三河から千種川を遡って千種へ
2. 千種から西へ国道 429 号　岩野辺川に沿う谷筋を岩野辺荒尾　荒尾山鉄山遺跡へ
3. 荒尾山鉄山製鉄遺跡　荒尾山山中のたたら跡を歩く
4. 国道２９号線がトンネルで抜ける鳥ケ乢　旧４２９号で山を登り　鳥ヶ乢の「峠」へ

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/16iron09.pdf

13. 【風来坊･Country Walk】 毎年春になると待ちかねて　出かける播州路　2017.4.12.

2017 春 たたらの郷 西播磨佐用へ　原チャリで駆ける

2.1. 古代たたらの里の一本桜 漆野 光福寺の大糸桜

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/walk/17walk06.pdf

14. 奥播磨の中国山地から古代たたらの郷を流れ出た千種川の河口　赤穂 】　2017.8.月

兵庫 100 名山 赤穂市「黒鉄山」と赤穂千種川河口 walk－千種川 砂鉄の痕跡を探して －

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/17iron06.pdf

【番外】■「初期大和王権の成立に大きな役割を演じた西播磨」

西播磨で古墳時代後期末の鍛冶炉跡が出土有年 牟礼・井田遺跡を訪ねる　2011.3 月

【番外】■　和鉄の道　【3】口絵　2003　たたら製鉄が地域 の自然や文化に与えた影響

赤穂に塩田を作りだした播磨北部のたたら製鉄より

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/ir3kc04.pdf

上記リストのほか、毎年四季折々の風景を訪ねて西播磨を訪問した記事　西播磨たたらの里の四季の掲載記事が多数「風来坊 Country walk」に掲載しています

「たたらのふるさと」　兵庫県西播磨県民局 発行
作成協力　宍粟鉄を保存する会・宍粟市・佐用町
https://chikusatown.net/file/img/guide/harima/harima.pdf

金屋子神掛図

たたらのふるさと 西播磨

■発　　行　兵庫県西播磨県民局
〒678-1205 兵庫県赤穂郡上郡町光都2-25
TEL 0791-58-2365 FAX 0791-58-2327
■作成協力　宍粟鉄を保存する会・宍粟市・佐用町
■印　　刷　有限会社サンスタジオコーポレーション
■参考文献　「たたらと村―千草鉄とその周辺―」鳥羽弘毅 著
「風土記」吉野　裕 訳
22西播P2-007A4

[写真] 大撫山から見た朝霧の風景

たたらの歴史

西播磨

「鉄は国家なり」と言われるように、古代から現代に至るまで、鉄産業は国家の政治・経済・文化を支える基幹産業として重要な役割を果たしてきました。現在でも世界の全金属生産量の約九四%は鉄が占めると言われ、日常生活を見渡しても、建築材・自動車・電化製品など多くのものに鉄が使われています。

西播磨地域では、古代から宍粟市や佐用町を中心に「たたら」と呼ばれる鉄づくりが盛んに行われていました。「たたら」は、砂鉄を木炭で燃やすことで、砂鉄から鉄を取り出す方法です。明治初期に西洋から鉄鉱石をコークスで燃やす近代的な製鉄技術が伝わるまで行われていました。特に宍粟市や佐用町で盛んに「たたら」による鉄づくりが行われていたのは、鉄づくりに適した良質な砂鉄と木炭の材料となる豊かな森林に恵まれていたからです。

〝たたらの神様〟降臨伝説

宍粟市には、たたらの神様である「金屋子神」が天から舞い降りたという伝説が残っています。島根県安来市広瀬町にある金屋子神社に伝わる祭文には、「村人が雨乞いをしていたところ、播磨国志相郡岩鍋という所に、天より神が舞い降り、驚く村人に『吾は金屋子神である』と告げられ、人々が安全に暮らせ、作物がよく実るようにと、傍らの岩石をもって鍋を作られた。このため、この地を『岩鍋』という。だが、ここには住み給うべき山がなく白鷺に乗って出雲の地に行かれた」と記されています。

播磨国志相郡岩鍋は、現在の宍粟市千種町岩野辺のことであり、古代製鉄〝たたら〟のルーツは、この地にあるとも言われています。

国道429号脇に立つ「古代製鉄の神 金屋子神降臨の地 岩鍋」の碑（宍粟市千種町岩野辺）→P15地図❼

CONTENTS

たたらの歴史……P1
たたらの工程……P3
たたらの遺跡……P5
たたらの村……P7
たたらの流通……P9
たたらと名刀……P11
たたらの学習……P13
たたらマップ……P15

たたら年表

年号	（西暦）	出来事
大化元～白雉五	（六四五～六五四）	讃容郡鹿庭山（現在の佐用郡大撫山）で鉄を作り、孝徳天皇に献上→P2
和銅六	（七一三）	「播磨国風土記」の編纂始まる→P2
嘉暦四	（一三二九）	備前長船の刀匠景光と景政が宍粟郡三方西（現在の宍粟市波賀町小野）で作刀→P11
嘉吉元	（一四四一）	赤松満祐が備前長船の刀匠康光に播磨で三〇〇振りを作刀させ、将軍足利義教を暗殺（嘉吉の乱）
寛永二	（一六二五）	平瀬源右衛門清信が千草谷で鉄山開業。以降、平瀬家が宝暦六年（一七五六）まで六代百三十年余鉄山を経営→P10
寛永一〇	（一六三三）	平瀬家が山崎（現在の宍粟市山崎町）に出て千草屋を開く。後に大阪で支店鉄問屋千草屋を開設→P10
宝暦六	（一七五六）	山崎千草屋、鉄山経営から撤退。鳩屋孫右衛門が後を継ぎ、以降三代八〇年余鉄山を経営→P10
天保一〇	（一八三九）	平瀬露香生まれる→P10
安政四	（一八五七）	南部藩（現在の岩手県釜石市）で鉄鉱石を原料とした近代製鉄始まる
明治一八	（一八八五）	天児屋、荒尾などの鉄山が閉山
昭和一九	（一九四四）	地質調査所の田邊健一技師（後に東北大学教授）が宍粟郡内のたたらによる鉄滓の堆積状況を調査→P5
昭和五二	（一九七七）	財団法人日本美術刀剣保存協会が島根県でたたら製鉄を復活→P11
平成九	（一九九七）	たたらの里学習館がオープン→P14
平成九	（一九九七）	千種中学校で第一回たたら総合学習を実施（以降毎年実施）→P13
平成一九	（二〇〇七）	「宍粟鉄を保存する会」が発足

『播磨国風土記』に見る鉄の産地

『播磨国風土記』は、奈良時代初期の和銅六年（七一三）頃に播磨国（現在の兵庫県南西部）の各地の地名の由来や産物、伝承などを朝廷に報告するために作成された記録です。この記録によると、当時の鉄の産地として、次の三ヶ所の記述があります。

〔1〕敷草の村（現在の宍粟市千種町）

草を敷いて神の御座所とした。だから敷草という。この村に山がある。その南方十里ばかりのところに沢がある。広さは二町ばかりある。この沢に菅が生え、笠を作るのに最適である。檜・杉・栗・黄蓮・黒葛などが生える。鉄を産する。狼・熊が住む。

〔2〕御方の里（現在の宍粟市一宮町）

大内川・小内川・金内川　大きい方の川を大内といい、小さいのを小内と称し、鉄を産するのを金内と称する。その山には、檜・杉・黒葛などが生える。狼・熊が住む。

〔3〕讃容の郡（現在の佐用郡佐用町）

鹿を放した山を鹿庭山（現在の大撫山→P15地図❶）と呼ぶ。山の四面に十二の谷がある。みな鉄を産する。難波の豊前の朝廷に初めて献上した。

＊「難波の豊前の朝廷」は、孝徳天皇在位の大化元年（六四五）から白雉五年（六五四）までの間であり、播磨国風土記が書かれた半世紀以上前には既に鉄の生産が行われていたことが分かります。

たたらの工程

西播磨

近世（江戸時代）の「たたら」は、次の四つの工程で成り立っていました。

1 鉄穴流し（水路に砂鉄を含んだ土砂を流し、比重によって砂鉄を分離する）

鉄穴口（掘り場）
砂鉄を多く含む風化した花崗岩の山を堀り崩し、水路に流下させ、比重によって、砂鉄と土砂を分離しました。

砂鉄洗い揚げ場
秋の彼岸から春の彼岸までと期間が定められていて、村人たちも農閑期の稼ぎに鉄穴師の下で働きました。

2 炭焼き

大炭・小炭焼き
大炭は炉で砂鉄を溶かすために使う炭。小炭は炭素の含有量の多い銑鉄などから炭素を減らして割鉄を作る大鍛冶用の炭。

3 鉄づくり（炉を造り、砂鉄を木炭で燃やす）

炉づくり
炉を造る粘土を元釜土といい、出来る鉄の質と量に大きく影響するので、土の選定は村下の重要な役割でした。

鉄吹き
村下の指図のもと砂鉄と木炭を追いくべしながら、三昼夜吹き続けました。

鈩出し
四日目の早朝炉を壊して、約4トンの鈩（鉄の塊）を引き出し冷却しました。一工程を一代といいます。年間50代ほど操業しました。

4 割鉄づくり（炉から取り出した鈩を小割にし、脱炭して割鉄に仕上げる）

銅場
冷却した鈩は銅場で大割り、中割り、小割りして拳ほどの大きさにしました。

選別
割った鈩は、銑・歩鈩（銑より質の劣る鉄）と鉄に選別しました。

大鍛冶
鋳物鉄としてそのまま出荷する以外の鉄は、左下場で脱炭（炭素を減らす）して左下鉄とし、歩鈩と合わせて本場で質の均一な割鉄に仕上げました。

たたらの遺跡

西播磨

鉄山跡

たたら製鉄が行われていた場所は、「鉄山跡」と呼ばれています。鉄山跡には、今も鉄滓（砂鉄を溶かす際、砂鉄に含まれていた不純物が溶け出して固まったもの。一般的に「かなくそ」と呼ばれている。）がたくさん落ちています。昭和一九年（一九四四）に地質調査所の田邊健一技師（後に東北大学教授）が、一ヶ月間にわたり当時の宍粟郡内のたたらによる鉄滓の堆積状況を調査されています。その報告書によると、宍粟郡内には、二七三ヶ所の堆積地があり、その堆積量は、三一・七万トンと記されています。堆積地は、千種町をはじめ、山崎町、一宮町、波賀町の郡内全域に及んでおり、広い範囲でたたら製鉄が行われていたことが分かります。

これは、たたら製鉄が、多量の木炭を必要とし、長年同一場所で操業すると、近辺の雑木林がなくなり、木炭の運搬に困難をきたしたため、新しい場所を次々と求めたことによると考えられています。

宍粟郡内の鉄滓の堆積状況
（昭和19.4.20～5.23調査）

地域	現在の市町域	堆積箇所	堆積量（万t）
千種谷	宍粟市千種町 佐用郡佐用町	139	19.0
志文谷	宍粟市千種町 宍粟市山崎町	37	6.0
岩上谷	宍粟市山崎町	18	0.8
引原谷	宍粟市波賀町 宍粟市一宮町	67	5.2
三方谷	宍粟市一宮町	12	0.7
計		273	31.7

（＊）出典：田邊健一「兵庫県宍粟郡下の「タタラ」鉄滓調査報告」

天児屋鉄山跡（兵庫県指定史跡）

豪壮な石積みの天児屋鉄山跡（宍粟市千種町西河内）

宍粟市千種町西河内にある宍粟市を代表する鉄山遺跡。背後の広大な山林を利用してたくさんの鉄を産出しました。遺跡は中世の山城を思わせるような豪壮な石積みがなされています。昭和五九年から実施された調査によって、炉の地下構造が明らかになり、地下四メートル近く掘り込んで、入念に排水、防湿の工事が施されています。→P15地図❹

荒尾鉄山跡（宍粟市指定史跡）

宍粟市千種町岩野辺にあり、入口には、安全祈願の石仏が立っています。この鉄山跡より上流三〇〇メートルほど上がった所に「金屋子神」が天から舞い降りたとされる所があり、桂の木の古い株があって、根元に小さな祠の跡があります。→P15地図❽

荒尾鉄山跡の石仏（宍粟市千種町岩野辺）

高羅鉄山跡

宍粟郡千種町河内にあり、鉄山跡の横を流れる川の向かいの斜面には、鉄山で働いていた職人や家族のものと思われる荒れ果てた墓石が二〇〇基余り残されています。→P15地図❺

高羅鉄山跡の墓石群（宍粟市千種町河内）

鉄穴流し場

鉄穴流し場は、山腹に人工の水路と数ヶ所の溜池を作り、そこに砂鉄を含んだ土砂を流しました。軽い土砂は、池の下流に排出され、砂鉄を含んだ重い土砂は池の底に残りました。これを何度か繰り返すことで、砂鉄の純度を高め、良質の砂鉄を採取しました。

宍粟市千種町西河内にある「森の上鉄穴流し場」（宍粟市指定史跡）は、通常の水路が、山肌に二～四キロメートルにわたって掘られているのに対し、ここでは、最初の砂溜池から最後の池まで約三〇〇メートル（高低差四五メートル）という短い距離で仕上げるよう水路を直角に曲げたり、滝のように落差を作ったり工夫をこらした構造となっています。

鉄穴流しは、川水を濁して田の稲に影響を及ぼさないよう秋の彼岸から春の彼岸までの冬の期間に限られて行われていました。→P15地図❷

森の上鉄穴流し場（平面図）

森の上鉄穴流し場（宍粟市千種町西河内）

砂鉄の種類

砂鉄は、我が国のように火山・火成岩地の多い所ではどこでも取れ、次の二種類に分類されます。

①真砂砂鉄
花崗岩・花崗斑岩など酸性の母岩が風化したものの中に含まれる黒色で光沢があり、硫黄・燐・チタンなど不純物が少ない鉄の品位が高い砂鉄。

②赤目砂鉄
閃緑岩・安山岩など塩基性の母岩からできた赤褐色のもので、真砂砂鉄に比べ、不純物が多く含まれ、鉄の質がやや劣る砂鉄。

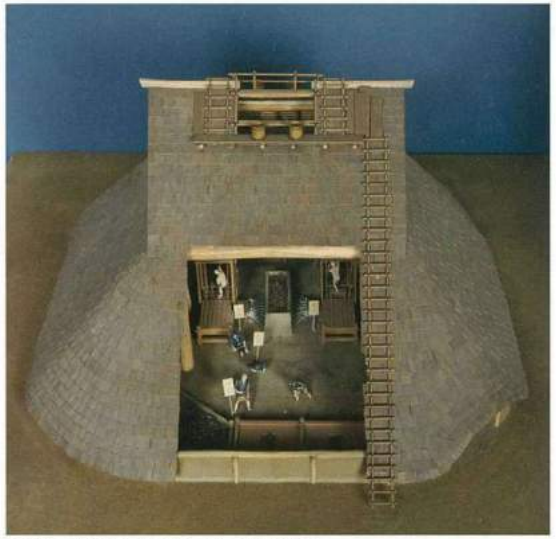
全国的には赤目砂鉄が取れる地帯が多い中で、宍粟の山の土は、花崗岩の風化した真砂砂鉄を多く含み、たたら製鉄には最も適したものでした。この良質の砂鉄から生み出された「宍粟鉄」は高い品質を誇っていました。

たたらの村

西播磨

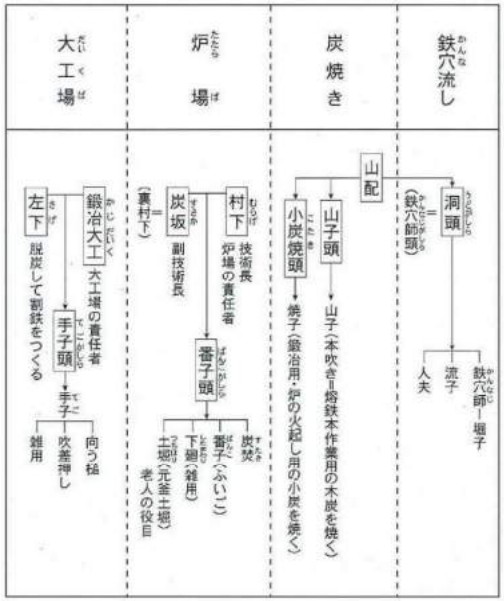
近世（江戸時代）のたたら製鉄は、大規模な施設をつくり、三〇～五〇戸の集団が同一場所で、十数年から数十年にわたって操業するため一つの村を形成していました。

作業は、鉄穴流し、炭焼き、炉場、大工場の4つに分業され、職制組織が成り立っていました。このため、作業の流れに従って、手順よく施設が配置され、砂鉄を木炭で燃やすための炉のあった「高殿」を中心として、勘定場（管理事務所）、大鍛場（炉から引き出した鋼を分割する所）、鍛冶小屋、砂鉄小屋、炭小屋、山内小屋（職人・家族の住居）などから構成されていました。



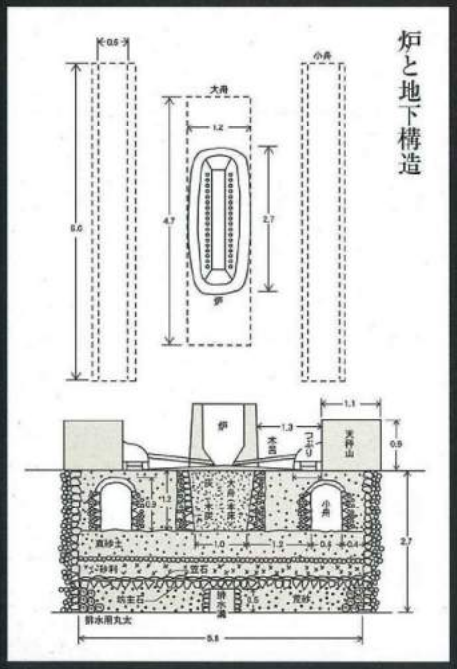
「高殿」の模型（宍粟市千種町　たたらの里学習館）

職制組織



天児屋鉄山の配置図

炉と地下構造



炉の構造

たたらの三要素は、砂鉄と木炭と元釜土と言われています。元釜土は炉を作る粘土で、その良し悪しが鉄のでき方に大きく影響しました。したがって元釜土の選定と炉の作り方は村下（砂鉄溶解作業の総責任者。炉の炎の色、熱、光などから判断し、数種の砂鉄を使い分け、炉への投入を指示した。）の重要な役割でした。

製鉄作業は極端に湿気を嫌いました。湿気が残ると、蒸気爆発を起こしたり、炉内の温度が上がらず、鉄の溶解が進まないという事態を引き起こしたりしました。このため、炉の下部を舟底状に掘り、空焚きをして底部を硬く乾燥させ、木炭や灰などを敷き詰め、湿気が炉に上がらないようにしました。

たたら唄

鉄が沸く沸く　よしこの山で
手前な　黄金で五十五だん

寒や北風冷たかろう　鉄穴師さん
わたしの思いで　南風とする

婿に持つなら　鉄穴師さんがまかろ
花の三月　山住まい

行くぞ皆さん　あの山越えて
鉄砂七里に　炭三里

男もつなら　大工さんか　左下さん
たたら番子にゃ　やるなかれ

たたら番子は乞食より劣る
乞食　寝もする楽もする

＊「鉄砂七里に　炭三里」とは、砂鉄は容積が少なく運搬しやすいが、木炭は容積が大きく遠距離の運搬は高くついたことから、運搬距離の限界は、砂鉄が七里（約二八キロメートル）、木炭が三里（約一二キロメートル）と言われていました。

＊「番子」は炉の温度を上げるために風を送る「ふいご」を踏む労働者のこと。たたらの操業は、三日間、昼夜なく行われたため、寝る間もなく、重労働で嫁の来てもないと言われました。順番に交代することを「かわりばんこ」と言いますが、語源はここから来ていると言われています。

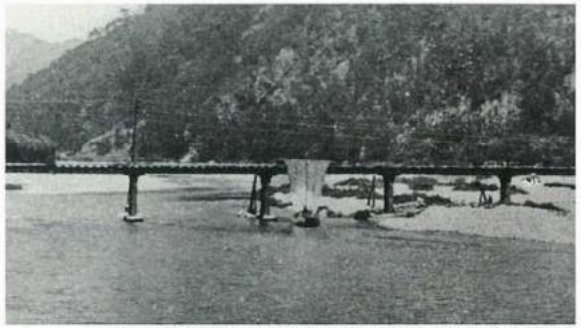
宍粟鉄の運搬経路

宍粟鉄は、備前長船の刀匠が活躍していた中世末までは、主に西を向いて岡山方面に運搬されていましたが、近世初めには、山崎（現在の宍粟市山崎町）に問屋ができ、揖保川の高瀬舟による運搬が始まると、東を向いて、姫路・大阪方面へ盛んに運搬されました。

揖保川の高瀬舟

揖保川の高瀬舟は、中世には、水量が多く、激流のない現在のたつの市北部まで運行されていましたが、現在の宍粟市の山崎まで運行が延びたのは、江戸初期と言われています。山崎へは、一五〇艘以上の船が行き来していたと考えられています。下りは年貢米、薪炭、鉄類など地域の特産品を運び、上りは、塩、味噌などの日用品を運んでいました。

山崎の舟着場は、現在の宍粟市役所庁舎の東の河川敷にあったことから、河川整備にあわせて復元が計画されています。→P15地図⑩



揖保川の高瀬舟（1920年頃、現在のたつの市新宮町付近　出典：「龍野市史　第3巻」）

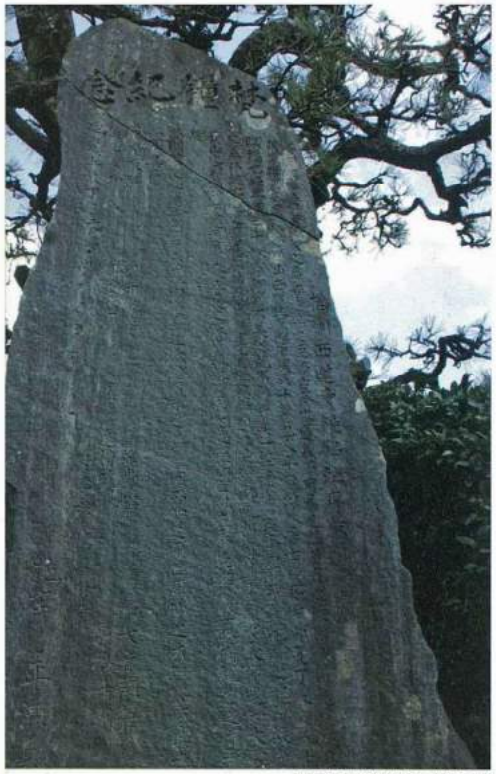
平瀬家の鉄山経営

平瀬家は、初代源右衛門清信から代々「源右衛門」を名乗り、六代源右衛門布古まで約一三〇年間にわたり、宍粟で鉄山経営を行いました。初代清信は、寛永二年（一六二五）から千草谷で鉄山経営を始め、寛永一〇年には、次男保古を連れて当時の宍粟郡経済の中心地山崎に出て千草屋を開き、ついで三男道閑を大阪に出して、鉄問屋千草屋を開店させました。

二代保古は、高瀬舟の所有を許され、鉄の生産・運搬・販売の一貫経営を行い、寛文一一年（一六七一）頃に宍粟郡内のほとんどの鉄山を独占経営しました。享保一八年（一七三三）に六代布古が山崎千草屋を継ぎましたが、次第に家運が傾き、宝暦六年（一七五六）に山崎千草屋は鉄山経営から撤退しました。その後を鳩屋孫右衛門が引き継ぎ、それ以降三代八〇年余にわたり鉄山を経営しました。

西蓮寺の石碑

宍粟市千種町千草にある西蓮寺の境内に、一体の石碑が立っています。そこに刻まれた文には、延宝五年（一六七七）に、亡父平瀬源入（初代清信）の供養のために西蓮寺の梵鐘を改鋳した平瀬貞把（二代保古）の親孝行を称える内容となっています。このように鉄山師たちは、神社や寺院への寄進を積極的に行い、数多くの文化遺産を残しています。→P15地図❻



西蓮寺の石碑（宍粟市千種町千草）

山崎千草屋を経営した平瀬家の菩提寺である大雲寺（宍粟市山崎町上寺）→P15地図❹

最後の粋人　平瀬露香（一八三九～一九〇八）

平瀬露香は、天保一〇年（一八三九）に大阪の富裕な両替商「千草屋」に生まれました。幕末維新の激動期に当主となった露香は、維新の動乱を何とか乗り切り、近代大阪財界の要職を歴任した財界人である一方、茶道や能楽など三一もの趣味を極めて「上方の最後の粋人」と称されました。

露香を生んだ平瀬家は、大阪で鉄販売のみならず、その流通網を利用した諸国物産の問屋経営や大名への貸し付けを行い、経済力を蓄えました。明治四年（一八七一）の調べでは、千草屋の諸藩への貸し付けは、約四〇藩にわたり、その額は幕府を含めて実に七六万両に及んでいました。金一両が米一石の相場で、現在の米価に換算すると約四〇〇億円に近い莫大な金額でした。

平瀬露香肖像画 松原三五郎作 個人蔵（出典：「大阪歴史博物館特別展図録集」）

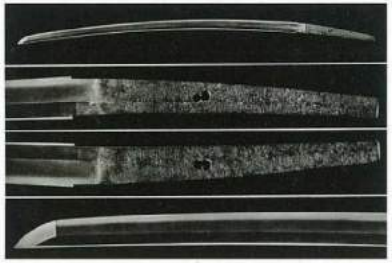
たたらと名刀

日本刀は日本固有のもので、世界の鉄工芸品の中でも最高峰に位置づけられています。これは、日本刀が武器として「折れず、曲がらず、良く切れる」ことをめざして、刀匠（刀を作る職人）が心血を注いで工夫を積み重ねてきたからです。

日本刀の原料となる鉄は、特に「玉鋼」と呼ばれ、日本古来の製鉄技術である「たたら」によって生産され、その品質は他に比類がないほど優れたものでした。

日本刀最大の生産地は、備前国（現在の岡山県東部）です。平安時代から多くの有名な刀匠を輩出し、鎌倉時代には、わが国の作刀の中心地となりました。現在、国宝や重要文化財の刀剣八〇〇余りの約半数は、備前刀と言われています。江戸時代の刀剣鑑定の入門書である『察刀規矩』には「播州宍粟鉄また千草鉄ともいう。水折れ折れ口白く光り至極細やかなるを上とす。この鉄にて作りたる道具は刃色白く細かに見ゆる・・・備前の鍛冶多くこの鉄を使う」と記されています。当時、「宍粟鉄（千草鉄）」は、ブランド化し、備前の刀匠たちに珍重されていたことが分かります。

日本刀の原料となる玉鋼
（宍粟市千種町 たたらの里学習館蔵）



嘉暦4年（1329）に備前長船の刀匠景光と景政が宍粟郡三方西（現在の宍粟市波賀町小野）で作ったことが銘に刻まれた国宝の太刀（埼玉県立歴史と民俗の博物館蔵　出典：『日本刀大鑑　古刀篇二』）

日刀保たたら

たたら製鉄は、明治初期に近代的な西洋式の製鉄技術が導入され、廃れてしまいました。刀匠たちは、日本刀の原料となる鋼が入手できず、困っていました。このため、財団法人日本美術刀剣保存協会（略称「日刀保」）が、昭和五二年（一九七七）、島根県横田町（現在の奥出雲町）でたたら製鉄を復活させました。

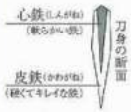
毎年一月から二月の約三週間、日本で唯一のたたら製鉄の操業が行われています。これを「日刀保たたら」と呼んでいます。毎年春頃、この「日刀保たたら」で作られた鋼は、作刀技術の保存と伝承のため、全国の刀匠（約二五〇人）に提供されています。

「日刀保たたら」の様子（島根県奥出雲町）

日本刀の製作工程

1 材料の玉鋼（たまはがね）を薄く平らに打ち延ばし、焼きを入れる。（水に入れて急冷する）。

2 玉鋼を小割りにし、硬くてキレイなものと軟らかいものに分ける。



3 同質の鋼で作った台の上に、それぞれ積み重ねる。

4 およそ一三〇〇度まで、松炭を使って熱し、鍛接（たんせつ＝たたいてくっ付ける）する。

5 切れ目を入れて何度も折り返す。【折り返し鍛え】

6 短冊状に切り分け、並べる。【拍子木づくり】

7 拍子木づくりしたものを鍛錬する。【仕上げ鍛え】

8 軟らかいもとなる心鉄（しんがね）に硬い皮鉄（かわがね）をかぶせ、焼いて長く伸ばしていく。【素延べ】

9 長く延ばしたものを、小槌を使って日本刀としての形に整えていく。このとき、切先（きっさき）も打ち出す。【火造り】

10 火造りしたものを、センという鉋（かんな）のような道具とヤスリで形を整えていく。

11 刀身を一様に加熱（約八〇〇度）したものを水槽に入れて急冷する。日本刀の反りもこのときに加わる。【焼き入れ】

12 反りを修正し、荒砥ぎを経て、研師（とぎし）など他の職人へ渡す。

◉インタビュー◉

刀匠　高見國一さん

Q 刀匠になろうと思われたのはどうしてですか？

A 日本刀の写真を見た時、その美しさに思わず引き寄せられました。刀の写真の横に刀匠の顔写真が載っており、今でも刀が作られていることを知り、自分にはこの道しかないと直感しました。

Q 刀づくりの魅力はどんなところにありますか？

A 世界無比の鉄の芸術と言われる日本刀を自分の手で作れることです。私にとって人生をかけるに値する仕事だと思っています。

Q 刀づくりで一番苦労されていることは何ですか？

A 上手くなればなるほど、自分の理想も要求も高くなります。とにかく失敗にめげないこと、負けないことです。

Q 刀の原料となる鋼はどうやって入手されていますか？

A 島根県奥出雲町の『日刀保たたら』で作られた玉鋼を購入しています。また戦前までの釘や農機具などに使われていた和鉄を集め、それを使ったりしています。

Q 宍粟鉄は高見さんにとってどんな鉄ですか？

A 現存する多くの名刀に使われた素晴らしい鋼です。今も宍粟鉄があるならば、私もそれを使ってぜひ刀を作ってみたいです。

Q 今後の目標をお聞かせください。

A 他の追随を許さないような仕事が出来るよう、日々努力していきたいです。

PROFILE
高見國一（たかみ くにいち）
昭和48年、佐用町に生まれる。佐用高校を卒業後、平成4年に奈良県東吉野村の刀匠河内國平さんに入門。厳しい修行を経て、平成10年、刀匠（美術刀剣類製作承認）の資格を取得。新作名刀展に初出品初入選。その後、数々の賞を受賞。平成11年に独立し、佐用町家内（けない）に鍛刀場を開設。平成22年には、二度目の日本一となる「日本美術刀剣保存協会会長賞」を受賞。

たたらの学習

西播磨

宍粟市千種町の千種中学校では、平成九年（一九九七）から毎年、二年生の生徒全員（約四〇名）が、先人たちの知恵を学ぶため、砂鉄から鉄を取り出す「たたら製鉄」の体験学習に取り組んでいます。生徒たちは、夏休み期間中に千種川から約四〇～五〇キロの砂鉄を採取し、小型の製鉄炉に、砂鉄と木炭を交互に入れ、丸一日かけて燃やした後、約一〇～二〇キロの鉄の塊を取り出します。

この体験学習は、「宍粟鉄を保存する会」や地元の方々の支援を受けて実施されています。

平成一七年には、それまでの体験学習で取り出した鉄をもとに、刀匠に依頼し、二振りの日本刀が製作されています。

ある生徒さんの感想文

とても楽しみにしていた「たたら製鉄学習」は、予想以上に楽しかったです。炉の中に炭と砂鉄を入れるのは熱くて怖かったけど、二回やると二回目はあまり怖くなかったです。炉で砂鉄を溶かしている時は、炭を割る仕事をしていました。それがすごく面白くて、きれいに割れた時は、とても気持ちがよかったです。そしていに、「鍛出し」をしました。不純物が焼けた光景はすごい迫力で、水につけられた不純物が暴れていました。そしてついに灼熱の炎に包まれた鉄が姿を現しました。それは砂鉄採取から鉄穴流し、そして炉で砂鉄を焼いていたこれまでのたたら学習の総決算でした。水につけると、不純物とは比べ物にならない暴れ方でした。奈良時代からの伝統、それを引き継げたことは、たたらという歴史にかかわった気分でした。

たたら製鉄の原理

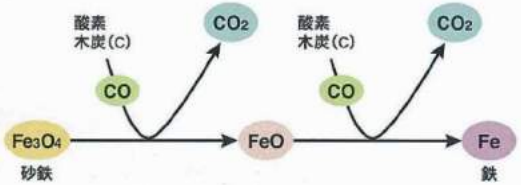
たたら製鉄は、いわゆる「酸化と還元」の原理を利用しています。

酸化は、酸素と結合すること。還元は、反対に酸素を失うことです。

一般的に、地上では酸素が多いので、酸化が起こりやすくなっています。一方の還元は、目的を持って利用されていることが多いので、産業や生活の発展に役立っています。例えば、酸素と結びついた酸化化合物から酸素を取り除き還元すると、それが金属の化合物ならば、純粋な金属が取り出せるというわけです。

たたら製鉄では、酸化鉄を含む砂鉄を、炭と一緒に燃焼することで酸素を奪い、還元させて純物質の鉄を取り出しています。

〔炭素・一酸化炭素による還元〕



たたらの里学習館（兵庫県宍粟市千種町）

三室山、後山などの県境の山々の緑に囲まれた千種川の源流、天児屋川のほとりに「たたらの里学習館」は建っています。

館内には、隣接する「天児屋鉄山跡」の遺跡を復元した模型や宍粟鉄で作られた名刀、農機具等が展示されています。また、解説ビデオによって、たたらの歴史や工程について学習したり、「たたら唄」を聞くこともできます。

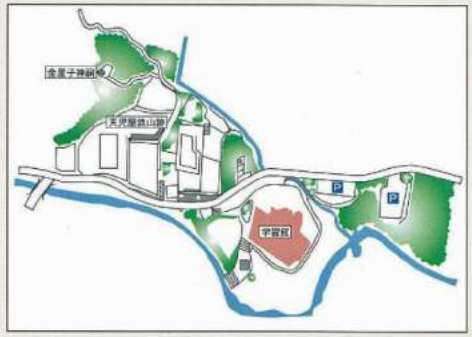
『鉄と自然と人間』が作り出した宍粟の魅力を再発見できるとともに、先人たちの製鉄の歴史を後世に伝えています。

■開館時間
午前9時～午後5時

■休館日
毎週水曜日
12月1日～翌年3月31日（冬期休業）

■入館料
一般　200円
大学生・高校生　150円
中学生・小学生　100円

■所在地→P15地図❸
宍粟市千種町西河内1048-38
TEL 0790(76)3833



備前長船刀剣博物館（岡山県瀬戸内市長船町）

鎌倉時代より日本刀の一大産地として栄えた長船の地にある全国でも数少ない日本刀の常設展示博物館。博物館に併設された鍛刀場では、日本刀の刀身を作る刀匠が、一三〇〇度の高熱で玉鋼を打ち延ばす古式鍛錬が公開されています。（毎月第二日曜日）

また、刀剣の里工房では、塗師、白銀師、刀身彫刻の匠が作品づくりをされているところを見学することができます。

■開館時間
午前9時～午後5時
（入場4時30分まで）

■休館日
毎週月曜日（ただし祝日の場合は、翌日に振り替え）
12月28日～1月4日、祝日の翌日

■入館料
一般　500円
大学生・高校生　300円
中学生以下　無料

■所在地
岡山県瀬戸内市長船町長船966
TEL 0869(66)7767

和鉄の道・Iron Road 日本の源流・製鉄関連遺跡探訪リスト　by Mutsu Nakanishi

和鉄の道・Iron Road　西播磨の鉄【宍粟・佐用】概要 レビュー

和鉄の道・Iron Road に掲載してきた記事をまとめてリストアップし、そのうち４篇の概要記事を兵庫県西播磨県民局発行の案内冊子「たたらのふるさと」といっしょに掲載記録しました

1. **和鉄のふるさと「千種・岩鍋」2001. 1 月掲載**
   古代たたら製鉄神　金屋子神降臨伝承地「千種岩鍋」＆ 近世 千種鉄の中心　千種天児屋鉄山遺跡
2. **播磨風土記　古代製たたら製鉄の中心地　「讃容(佐用)の里」Walk　　2003. 11 月掲載**
   播磨風土記に掲載された西播磨 佐用の古代たたら製鉄の中心　佐用町大撫山周辺
3. **播磨風土記御方里(三方)周辺　平安時代末期の安積山製鉄遺跡探訪**　宍粟郡一ノ宮町　2004.　２月掲載
   千種とならぶ西播磨 宍粟の古代たたら製鉄の中心地
4. **大阪の鉄商 泉屋が経営した千種岩野辺(岩鍋)　近世の荒尾山鉄山遺跡を訪ねる　　2016.　８月掲載**
   近世の千種鉄の中心生産地　千種天児屋鉄山とならぶ中心の製鉄遺跡

西下野　中国縦貫道と千種川　対岸の山裾の谷に西下野製鉄遺跡がある　2003. 11. 14.

和鉄の道・Iron Road　西播磨の鉄【宍粟 千種】
古代たたら製鉄神　金屋子神降臨伝承地「千種岩鍋」& 近世 千種鉄の中心　千種天児屋鉄山遺跡

1.

「たたら」製鉄の神　金屋子神　降臨伝承の地

和鉄のふる里『千種・岩野辺』

chigsa1.htm　by M.Nakanishi

1.1. 播磨国　「千種鉄」　千種・岩鍋　Country Walk
　　古代製鉄の神　金屋子神　降臨伝承の地 COUNTRY WALK
1.2. 古代製鉄の神 金屋子神社 COUNTRY WALK　と 金屋子神 神話島根県　広瀬町
1.3. 兵庫県立歴史博物館〔1〕　「千種鉄　たたら」　ビデオライブラリー
1.4. 兵庫県立歴史博物館〔2〕　兵庫歴博ゼミナール「発掘が語る兵庫の歴史　兵庫の鉄」

1.1.　和鉄のふる里『千種・岩野辺』

1. 和鉄「千種鉄」のふるさと『 兵庫県 千種・岩鍋』と その歴史
2. 千種　天児屋たたら公園と天児屋鉄山跡
3. 古代金屋子神降臨の地　岩野辺(岩鍋)

1.『 兵庫県　千 種 』と その歴史

金屋子神 千種岩鍋　降臨の伝承

播磨国志相郡岩鍋なる桂の木に高天が原より、はしらの神天降り座すあり。
民驚きて「如何なる神ぞ」と問いまつる。
時に、神託げて曰く、「われは是れ、作金者金屋子の神なり。 …吾は西の方を守る神なれば、むべ住むところあらん」として、白鷺に乗りて西の国に趣たまふ。
出雲国の野義郡の黒田が奥非田の山林に着きたまひて…

島根県 広瀬町　「金屋子神社」祭文より

国道沿い千種岩野辺に建つ
金屋子神　降臨の碑

兵庫県千種の位置
兵庫県宍粟郡　岡山県との境

千種鉄　和鉄　発祥の地 千種 と 千種川

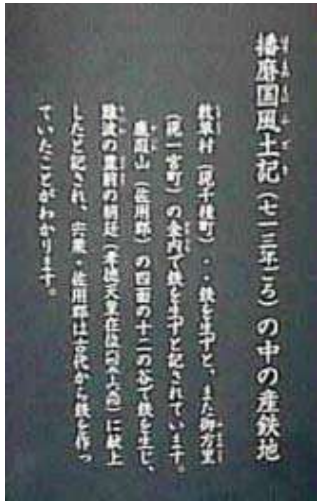
国道沿い千種岩野辺に建つ
金屋子神　降臨の碑

兵庫県の西端　中国山脈の南側山懐　岡山県との県境にそびえる三室山から氷ノ山にいたる山塊を背景にそこから流れ出る千種川に沿って千種の街が広がる。
ここは　中国山地の山懐千種川の源流に位置し、ここから算出する砂鉄を用いた「和鉄」発祥の地「千種鉄」の産地として古代から製鉄が盛んに行なわれたところである古代　金屋子神　千種 岩鍋の地への降臨伝説や「播磨風土記」にも記載があり、7,8世紀には盛んに製鉄が行なわれていたことが解っている.

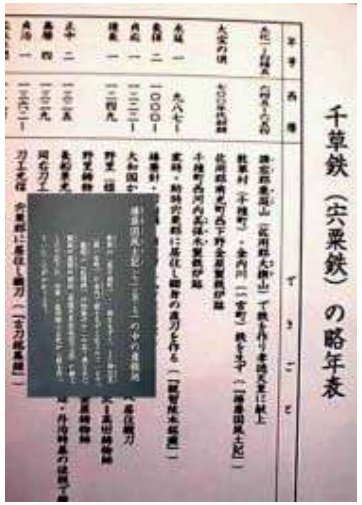
また　伝承によると神功皇后が朝鮮出兵の帰りに瀬戸内海を通られ、千種川の河口が濁っているのに驚かれ「なぜ濁っているのか」とお供の者に尋ねられると「この川上で天児屋根命の子孫が、鉄砂（カンナ）流しをしているからです。」と答えたと言い伝えられている。
千種が古代より製鉄の産地であったことがこれらの資料からもしのばれます。
千種川を下ると播州赤穂市、その隣には岡山県備前市があります。中世、千草鉄は備前の刀匠たちに珍重され、数多くの国宝重文の名刀を残しています。そして、西洋鉄に取って変られる明治まで、長きにわたって、和鉄の一大製鉄産地であった。

千種川の流れ出る三室山の峯峰

● 播磨風土記　記載


播磨国風土記（七一三年ごろ）の中の産鉄地

敷草村（現千種町）・・鉄を生ず と、また御方里（現一宮町）の金内で鉄を生ず と記されています。
庵岡山（佐用郡）の四面の十二の谷で鉄を生じ、鍛冶の農具の朝廷（孝徳天皇在位西暦六四五）に献上したと記され、宍粟・佐用郡は古代から鉄を作っていたことがわかります。


千草鉄（宍粟鉄）の略年表

713 年頃　「敷草村〔現千種村〕金内川〔現一宮町〕で鉄を生ず」との記載
千種「たたら学習館」展示より

● 金屋子神　伝承　と　千種　岩野辺〔岩鍋〕

島根県能義郡広瀬町の金屋子神社の祭文

『播磨国志相郡岩鍋なる桂の木に高天が原より、
はしらの神天降り座すあり。
民驚きて如何なる神ぞと問いまつる。
時に、神託げて曰く、
「われは是れ、作金者金屋子の神なり。
…吾は西の方を守る神なれば、むべ住むところあらん」として白鷺に乗りて西の国に趣たまふ。
出雲の国の野義の郡の黒田が奥非田の山林に着きたまひて……』

千種の岩鍋（現在の岩野辺）に天から金屋子の神が降り立ち、驚いた人々が何をされる神かと尋ねたら、金屋子の神であると応えさらにその地で鍋を作り、さらに金屋子の神は白鷺に乗 られて現在の島根県能義郡に行かれたとも書かれている。　岩野辺の地名の由来は、ここから来ているとも言われている。

● 金屋子神社は「たたら製鉄」の守り神　　島根県　広瀬町　金屋子神社　金屋子神神話

BY M.NAKANISHI 2001.1.7.

2.　千　種　天児屋たたら公園 と 天児屋鉄山跡

A.　整備前の旧天児屋鉄山跡　walk　1990.5.26.

わたしが最初に千種を訪問したのは 1990 年 5 月。
千種の街には立派な歴史資料館があり、そこには貴重なたたら関係の資料などが展示されている。
三室山の谷筋には現在も「たたら」の遺構〔天児屋鉄山遺跡〕が残っていると教えてもらい、千種の街の北側千種側沿いに広がる千種・三室高原へ登って行きました。
千種は岡山と兵庫の県境に位置し，周りを山に囲まれ　三室山を水源とするきれいな千種川が流れています.
この川の源流近くいく筋もの谷筋が砂鉄の宝庫で、古代からこの砂鉄をむ原料とした鉄生産が行なわれてきた。

〔資料によると千種の山々の花崗岩、閃緑岩、石英粗面岩などの地層にはすぐれた真砂砂鉄が含まれていて、今めざす天児屋鉄山跡ばかりでなく，高羅、荒尾鉄山など近世の遺跡や町内の至る所に点在する小規模な古い時代の「たたら」遺跡が点在している。〕

千種川とその川のふちに堆積した黒い砂鉄

川に下りるときれいな清流の川底には幾筋もの黒い堆積物があり、この川底の黒い堆積をすくいとり、磁石に近づけるとピッタリと吸いつき、紛れもなく砂鉄。今も川筋に在る砂鉄にビックリし、また　ここが千種鉄の発祥地であることに今更ながら納得。

この地が古代日本の鉄発祥の地。
「製鉄の神である金屋子神がこの千種に舞い降り、そこから吉備を経て奥出雲へ」という金屋子神伝説を頭に、透き通るような青空にそびえる県境の山々をながめながら、三室山の谷筋を上って行きました.
もっとも　金屋子神が舞い降りたといわれる「岩鍋の地」は今登ってゆこうとする千種の街から北に広がる千種三室高原とは異り、千種の街の南から東へ波賀町へ抜ける国道を峰床山越えの山々へ向って行

く途中にある。
この千種川の周辺の山々いたる所が　古くからの千種鉄の山地として活用されてきたのだろう。
千種高原三室山へは舗装された立派な道路が岡山県境へ伸びており、途中で谷筋へ分け入る道に曲がり、登って行くとその途中に「鉄山橋」の名の橋があり、そこから少し登ったところそこが天児屋鉄山跡の草ぼうぼうの山端の道沿いに石垣と倒れかかった天児屋鉄山の看板があるのみだった。
草ぼうぼうで中に入れず、荒れ果て道からは全くここが鉄山であることがわかりませんでした．看板だけが、鉄山跡であることを示していました．

千種　旧天児屋　鉄山跡　walk　　1990. 5. 26

三 室 山

鉄 山 橋

天児屋鉄山　勘定場跡

天児屋鉄山　金屋子さん

天児屋鉄山は元禄年間、千草屋源右衛門が切り開いて鉄を吹き、泉屋（住友の分家）が 経営していたこともあるそうです。
明治九年ごろの鉄山が終わりに近づいた時代（閉山は明治十八年）にも七十戸三百人以上の人たちが働いていたといわれ、近世たたら遺跡の中でも規模の大きなたたら遺跡であるが、その時は全くわからず。

何回か訪れている間にこの鉄山遺構が整備されはじめ、金屋児神を祭る祠をはじめとして、製鉄跡　カンナ流し場等が姿を現わしてきました．　そして 1997 年　川筋には立派な「たたら学習館」が立ち、鉄山跡も立派な製鉄遺跡として整備されました．

B. 整備された天児屋鉄山跡　天児屋たたら公園 と たたら学習館　1999.5.26.

スギの森の中に、山城を思わせるようなコケむした石垣が、段々状に続いて、草木の明るい若葉と対照的なコントラストを見せて道から少し上がったところには金屋子神が立派に祭られ「天児屋たたら公園」として整備されていました。

現在の天児屋鉄山跡　　天児屋たたら公園　1999. 5.

【天児屋たたら公園の標識】

【たたら学習館】

【天児屋鉄山遺跡　勘定場】

【天児屋鉄山遺跡　たたら場跡】

日本の「たたら」製鉄発祥の伝説の地「千種」に多くの人たちがかかわった「たたら」製鉄の主要現場がすべてそろって跡地として残っている．　それが、天児屋鉄山。
日本を造り、日本の発展を古代から今に至るまで支えた鉄。その日本固有の製鉄法である「たたら」の製鉄現場と勘定場など一連の作業場が鉄山としてこの製鉄発祥の地に復元整備されれば意義の深いものとなるとおもうのですが……

日本各地にある同じような幾つもの「たたら館」。それはそれでその地方を支えた鉄の歴史を担うものといて意義があるでしょうが…　。　　さあ　どうでしょう。

2001.1.8. 昔の資料を整理しつつ　　by M.Nakanishi

by M.Nakanishi 2001. 1. 8.

C.「たたら　学習館」

たたら学習館とその内部

たたら唄

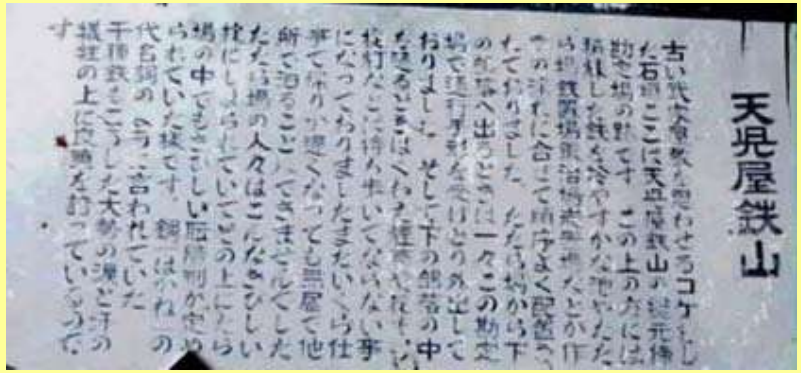
播磨風土記の記述　　初花の献額

D. 天児屋たたら遺跡

天児屋鉄山跡の一角　遺跡跡のそばを流れる川淵に在り、たたら製鉄の歴史や工程を模型や図表等で詳しく紹介展示。また千種町で生産された玉鋼を使って製作された日本刀なども展示されている。
すぐ横の道路を挟んだ右の山肌を階段状に切り開いた斜面状に石垣を積み、たたら場やかんな流し場ほか主要な天児屋鉄山の跡が整地され広がっている.

1999.5.15.　天児屋鉄山　勘定場跡　　1990.　5　.26.　天児屋鉄山　勘定場跡

天児屋鉄山の総元締　勘定場跡に立つ看板　1990.5.26.



古い武家屋敷を思わせるコケむした石垣。ここは天児屋鉄山の総元締勘定場の跡です。
この上の方には精練した鉄をひやす「かな池」や「たたら場」「鉄置場」「鍛冶場」「炭置場」などが作業の流れに合わせて順序よく配置されておりました。
「たたら場」から下の部落に出る時はいちいちこの勘定場で通行手形を受取り外出しておりました。 そして下の部落を通る時はくわえ煙草や???提灯などを持ち歩いてならない事になっておりました。
いくら仕事で帰りが遅くなっても無届で他所で泊まる事は出来ませんでした.
たたら場の人々はこんな厳しい掟にしばられていてその上たたら場の中でも厳しい職階制が定められい た様です。
鋼の代名詞のように言われていた千種鉄もこうした大勢の涙と汗の犠牲の上に良質を誇っていました.

整備されて「たたら公園 」となった天児屋鉄山遺跡 1999. 5. 15.

鉄穴流し跡 と 鉄山たたら場跡

BY M.NAKANISHI 2001.1.7.

「たたら」製鉄の神　金屋子神 降臨伝承の地

3. 岩 野 辺〔 岩 鍋 〕 1999.5.15.

iwnbe.htm by M.Nakanishi

千種　岩野辺

金屋子神社　祭文の写

金屋子神 千種岩鍋　降臨の伝承

播磨国志相郡岩鍋なる桂の木に高天が原より、はしらの神天降り座すあり。
民驚きて「如何なる神ぞ」　と問いまつる。
時に、神託げて曰く、「われは是れ、作金者金屋子の神なり。
…吾は西の方を守る神なれば、むべ住むところあらん」として、白鷺に乗りて西の国に趣たまふ。
出雲の国の野義の郡の黒田が奥非田の山林に着きたまひて・・・

島根県 広瀬町　「金屋子神社」祭文より

北の岡山・兵庫の県境から流れ出た千種川が山々が迫る細い谷合を南に流れ下る。源流地域から幾筋かの川が集まり、本流となって谷を下る丁度その出口少し広くなった盆地に千種の街があり、本流は瀬戸内海へ向って流れ下る. この千種川にそった一本道の両側に店が並ぶ千種の街並が広がっている。

神戸からやって来た眼には山奥のわりには明るい商店街を中心とした町並みである。
この千種の町にはいる手前の村には歌舞伎舞台が残っていて、今も農村歌舞伎が受け継がれていると言う. この山間の千種の街で千種川に沿って南の瀬戸内海へ抜ける街道と東西に中国山地の山間をぬって兵庫県・岡山県の町々を結ぶ山越の道国道429 号とが交わっている。山間の重要路ではあろうが、昔の賑わいはなく、静かな山間をそれぞれ一筋の街道が貫いている。
往時には　この山奥で作られた「千種鉄」が、この千種の街に集められ、これらの街道を日本各地に運ばれ, 多いににぎわったものと思われる.
千種歴史民俗資料館に残されている絵図に馬の背に積まれ運ばれて行く鉄と千種の街道の賑わいぶり

が描かれている。千種で作られた鉄が古代から明治の近代西洋の鉄がさかんになるまで、幾世代にも渡って運ばれて行った。 この街道の十字路を東へ少し入っていった次の集落が「古代製鉄の神　金屋子神降臨の伝承地　岩鍋」である。

千種の街道の賑わい　馬の背に載せて運ばれる鉄　　千種町歴史民俗資料館で

千種の街へはいる南の入口のところに街道の十字路があり、東西にのびる国道 429 号線を東へ千種の家並を抜け、山間の道を 1km ほどのぼっていく。
国道 429 号線の道路標識とともに岩野辺の地名が不意にあらわれ、岩野辺の部落の家々が途切れ、山へかかる峠の三叉路の道端に大きな『古代製鉄の神　金屋子神　降臨の地　岩鍋』の碑が建っていた。

振りかえると千種の街の向こうに「たたら」の山々が、また北も道が伸びる東にも山々がひろがっている。
時たま通る車以外にひとかげなし。静寂の中に　何の説明書きもなくこの碑がたっている。この周辺の山々には「たたら」製鉄の遺跡の印が至る所にいれられているが、この峠からはなにも見えない. ただ　幾重にも重なって見える周辺の鬱蒼とした森と山々が「たたら」製鉄の繁栄を築いたものと想像する。
「一度どんなところなのか　訪れたい」とおもってきたが、本当にあっけない出会いであった. こんなに千種の街近く　また　街道沿いが古代鉄発祥伝承の地「岩鍋」とはおもっても見なかった.
碑があるのみで　なにもごてごてした説明書きがないのもいい。周辺の山々を眺めながら, 少し三叉路をくだったり、まわりの山道を歩いたりしたが　今は本当に静かな山里である。

千種　岩鍋にて
by　M.Nakanishi　　1999.5.15.

金屋子神　降臨の伝承の地 千種岩鍋

BY M.NAKANISHI 2001.1.7.

製鉄の神　金屋子神の総社

1.2.　金屋子神社 と 金屋子神神話

島根県　広瀬町

hrse.htm by M.Nakanishi

広瀬町ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ より

1.　金 屋 子 神 社　Country Walk

〔広瀬町　金屋子神社　1999.3.12.〕

1999 年 3 月。米子の娘宅からは川沿いに中国山地へわけ行って車で 1 時間たらず城下町広瀬の街から更に山間に入ったところに「金屋子神社があった。 広瀬町の最奥部の重畳たる中国山地の小盆地、西比田に鎮座し、広瀬町の中心からおよそ 25km の南方にある。

古来タタラ神である金屋子神の社として、鉄山師達の厚い信仰を得、今も鉄関係者の参詣の多いことが、奉納された数々の品々やその本殿の立派さ　良く整備掃き清められた境内の様子からうかがえる。

「たたら」遺跡を訪れると必ず「金屋子さん」が祭られているのを見て、総社である広瀬町　金屋子神社は是非行きたいと思っていたところである。

金屋子神信仰の詳細は金屋子神神話として別に記載したが、「鉄山秘書」〔1784〕には金屋神と「たたら製鉄」との関係伝承を次のように載せている。

「太古ある旱天の日、土民が雨乞いをしていたところ、播州宍粟郡岩鍋に高天原から一神が降臨し、金属器の製作法を教えた。
神はさらに西方に飛び、出雲国能義郡比田の黒田に至り、休んでいると、たまたま狩りに出ていた安部氏の祖正重なるものがこれを発見。　やがて神託により、朝日長者なるものが宮を建立し、神主に正重を任じ、神は自ら村下となり、朝日長者は炭と粉鉄とを集めて吹くと、神通力によって鉄が限りなくわきでた」と。

鉄山秘書より

神社の大鳥居をくぐるとすぐ右手には、金屋子神信仰の中心にある金屋子神社の縁起や「たたら」にまつわる色々な事を映像や展示で示した立派な金屋子神話民俗館がある。

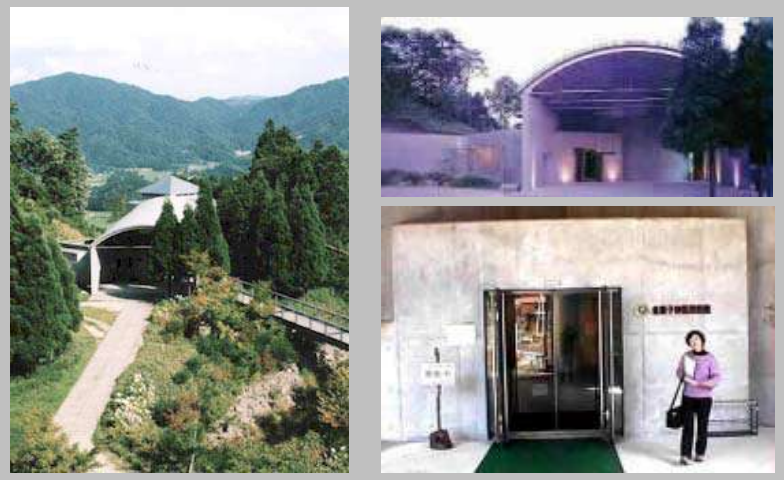
また　掃き清められた参道の正面奥に門越しに立派な本殿が見え、参道の片側道に沿って大きな「けら」が数個並べて置かれており、その奥に「金屋子神」が舞い降りたとされる「桂」の古木があった。

森につつまれた静けさの中に、掃き清められた境内に立派な本殿がある。

さすが製鉄の神　本殿には奉献された品々に各製鉄会社の名がずらっと並び、立派な本殿とともに、現在にいたるまでここが鉄の守り神であることを示している。

〔金屋子神社　参道脇に並べられた「けら」　1999.3.12.〕

2.　金屋子神話民俗館と金屋子神話



金屋子神社の大鳥居をくぐり参道の直ぐ左手の森に囲まれた丘の上に立派な金屋子神話民俗館があるり、有名な金屋子神神話がわかりやすく展示されている。

金 屋 子 神 話

金屋子神社に伝えられる製鉄と鍛治の神々の神話

大昔のある年の夏のことです。播磨の国岩鍋（今の兵庫県と岡山県との境）という山の谷あいにある村あたりいったいは、何日も雨がふらず、太陽が毎日ぎらぎらと大地をこがす日が続きました。村人たちは、このままでは川の水も干あ bb がってしまい、田畑の作物もすべて枯れてしまうと、山に集まって雨が降るよう天の神に祈ることにしました。

村人たちは、奥深い谷川の岩かげのふちで、まわりを清めて火をたき、村おさが岩に向かって手を合わせ、呪文を唱えて一生懸命神に祈ると、不思議にも空にはにわかに雲がわきおこり、大つぶの雨がふってきまかした。「雨だ、雨だ」、「これで畑の作物も枯れずにすむ」、村びとたちは雨にぬれながら、鉦や太鼓をたたいてよろこびの踊りをおどり始めました。

たかぶる雨乞いの祭りのなかで村おさは、自分のこころにひらめいた神に、「私たちの願いを、このようにかなえてくださったあなたは、いったいどなたさまなのか教えて下さい」と、感謝の気持ちをこめて聞きました。 神は、「わたしは、金山彦天目一個神ともいう金屋子の神です。生き物に生命をよみがえらせたり、田畑の作物を豊かにみのらせるためには、水は最も大切なものの一つです。 私は、この地ではさまざまな人びとの幸せをまもるために雨を降らせましたが、これからは遠く西の方へいき、そこで鉄を吹き、道具をつくることを多くの人に教えなければなりません」といって、白鷺にのって天空高くに飛び立ちました。 金屋子神は、出雲の国の上空までやってきました。 そして空から鉄づくりに最も通した地をさがしました。 昔から『たたら』と言い伝えられてきた鉄づくりには、山や川でとれる砂鉄と、鉄をとかすのに必要な大量の木炭と、炉をつくるのにふさわしい粘土がなくてはなりません。 金屋子神は、その三つの条件をかねそなえた地として能義郡西比田を選びました。そして、西比田黒田の森の桂の木に降り立ちました。

金屋子神を最初に見つけたのは、山に犬を何匹もつれて猟に来ていた、安部正重という人でした。

犬たちは、白鷺のからだから放たれる神の光明（ひかり）をみて、身をちじめて吠えています。 正重は、犬たちをなだめて神におそるおそる問いかけました。「あなたはこの地に何をしに来られたのですか」と。 すると神は正重に、「われは金屋子の神なり。このところに住いして、『たたら』を仕立て、鉄（かね）を吹くわざを始むべし」と告げ、自らも神としてその仕事がうまくいくよう協力することを約束しました。

神からのお告げをつつしんで受けた正重は、近くに住む長田兵部朝日長者にこのことを伝え、ふたりはまず神がおりた桂の木のわきに金屋子神のお宮を建てることから仕事をはじめました。 そして、正重はその宮の神主に、また長田兵部朝日長者は、これからつくる『たたら』の村下（技師長）をつとめることになりました。『たたら』の高殿（施設）の建設には、金屋子神をとりまくおおぜいの神々が天から地上に来てかかわったと伝えられています。

建設現場に最初にあらわれたのは、なんとおどろくことに７５人の子供の神々です。子供の神々は、まず７５種類の仕事に必要な道具をつくりました。始めは自分たちが村下となって土地を整備したり、杉の木を伐って『ふいご』をつくったりして、建設の総指揮にあたりました。

一方、朝日長者は山に入り砂鉄と炭を集めています。 高殿では炉がつくられ、そのまわりには、建物の中心となるたいせつな６本の大きな柱が建てられ、その柱を金屋子神をはじめ、木の神、日の神、月の神が、東西南北の方向を分担して守っています。 このほか屋根を火災から守る神、炉に風を送る風の神、風を送る『ふいご』などさまざまな道具をつかさどる神々、また、『たたら』には、数ぞえきれないほどおおぜいの神々が参加し、協力しています。

金屋子神は、奥出雲一帯に次々とたくさんの『たたら』の施設をつくりました。

金屋子神がかかわると、どこの『たたら』でも質のすぐれた鉄が限りなく産みだされました。

金屋子神がかかわると、どこの『たたら』でも質のすぐれた鉄が限りなく産みだされるので、金屋子神に対する信仰が、『たたら師』とよぶ、たたらで働く人たちのあいだにひろまっていきました。

たたら師たちからは、「金屋子さんは、生産を高める女の神さまだ」と信じる人も出てきました。 また、人によっては「いや、金屋子さんは男の神さまだ。いつも炉の中の強い火の光りばかり見ているので、片目をとられてしまった。一つ目の神さまだ」という人もあらわれました。
ある年の冬、金屋子神は村下をつれて『たたら』に向かう途中、高殿の前でとつぜんとびだしてきた犬に吠えられ、ふたりはなんとか逃げようとしましたが、びっくりした村下は、地面に落ちていた麻緒に、足の小指をとられころて転んで死んでしまいました。金屋子神は、集まってきた『たたら師』たちに、「村下の死骸は葬ってはいけません。そのまま高殿の元山柱にくくりつけて鉄を吹くのです」と、教えました。「たたら師」は、神のいわれるままにして仕事を続けると、いままで以上によい鉄を大量につくることができたということです。
金屋子神は、このように「死のけがれ」を好む不思議な性格の一面をもった神でもありました。

広瀬町　金屋子神話民俗館 資料より

2000.1.8.作成　by M.Nakanishi

姫路市　兵庫県立歴史博物館　ビデオライブラリー

1.3.　「千種鉄 と たたら製鉄」

hmzi1.htm by M.Nakanishi 2001.1.21.

千種町　千種川と砂鉄

千種　天児屋鉄山遺跡

金屋子神と岩野辺のたたら

日曜日　神戸に帰ったついでに、気になっていた歴史博物館のビデオライブラリーの「千種鉄」のフィルムを見にでかけた。 前に一度見た事があるのですが、もう一度「千種　たたら」の歴史について頭の整理のつもりでかけました
姫路城の北側　きれいに整備された公園の中に博物館がある。　中に入ると思いもかけず、兵庫歴博ゼミの講演会村上泰樹氏「発掘から見た兵庫の歴氏　兵庫の鉄」が開かれており、飛び込みで参加。
古代鉄と渡来人の関係や「日本での鉄の生産がいつはじまったのか?」など　自分のイメージ高めようと思っている時だったので、本当に良い機会となりました。
また　今　千種町と隣接する山崎町の山奥で「古代たたら遺跡」の発掘がはじまっていると聞きました.是非たずねようと思っています. ビデオライブラリ「千種　たたら」のフィルムから　千種「天児屋鉄山」の概観図や千種歴史博物館の絵図の写真が「金屋子神」を描いた物である事そして岩野辺の古いたたら遺跡の写真等を見ることできました。また千種のたたらに関係した千種の町の人たちに連綿と続く苗も。 ビデオからとった写真を少しスライド風にまとめました。　また、最初に千種町歴史民俗資料館を訪れた時に「千種鉄」関係の資料を整理まとめられた本を戴きましたが、今読み返してみても多くの資料が整理されています。先のまとめに記すのを忘れましたので参考に書名のみ記します。

●千種町教育委員会「たたらと村と百姓たち　-千種鉄関係資料集一」 昭和58年11月15日発行

2001.1.21. 神戸にて　M.Nakanishi

千　種　鉄　と　たたら製鉄

兵庫県立歴史博物館　ビデオ　ライブラリーから

1. 金屋子神話 と「たたら」製鉄図

2. 金屋子神　降臨伝承の地「千種　岩野辺」の製鉄遺跡

2001. 1. 27. M.Nakanishi

兵庫県立歴史民俗博物館　兵博ゼミナール

1.4. 「発掘が語る兵庫の歴史『兵庫の鉄』」

村上泰樹氏　講 演

ー中国伝来の弥生　鋳造鉄斧には既に熱処理による表面加工がおこなわれていたー

hmzi2.htm by M.Nakanishi 2001.1.21.

日曜日　神戸に帰ったついでに、気になっていた歴史博物館のホームライブラリの「千種鉄」のフィルムを見にでかけた。
博物館では思いもかけず、兵博ゼミの講演会村上泰樹氏「兵庫の鉄」が開かれており、飛び込みで参加。
丁度古代鉄と渡来人の関係や「日本での鉄の生産がいつはじまったのか?」など　自分のイメージ高めようと思っている時でしたので、本当に良い機会となりました。
また　現実に今　発掘がはじまっている山崎町での「古代たたら遺跡」の紹介是非たずねようと思っています.
ライブラリ「千種　たたら」のフィルムから千種「天児屋鉄山」の概観図や千種歴史博物館の絵図の写真が「金屋子神」を描いた物である事そして岩野辺の古いたたら遺跡の写真等を見ることできました。
また　千種のたたらに関係した苗字も
兵庫の地が発掘された弥生時代の鉄器・石器道具の分析から倭・大和とほぼ同じ先進の地であったという川村氏の考察　道具の見方　道具が語る考古学おもしろかったです。

また　紀元前　今から約 2000 年前　中国から伝来した鋳造鉄斧には、現在にも通ずる熱処理の原点とも言える脱炭の熱処理が行なわれていた事教えてもらいました。
鉄の技術の奥深さというか古代かにら脈々と流れる鉄の技術に触れることができました。
寒い冬　家にじっとしていようかとも思いましたが、やっぱり　出かけるとそれだけの価値有り.

福岡県比恵弥生遺跡から出土した中国製鋳造鉄斧　断面
弥生時代　中期　今から約 2000 年前

村上泰樹氏は「兵庫の鉄」講演の中で　村上恭通氏著「倭人と鉄の考古学」をベースに中国・朝鮮半島と「倭・日本」の交流・鉄伝来の歴史を解り易くレビューし、それらと兵庫で発掘された縄文遺跡・弥生遺跡からの出土鉄との関係を話された.
その中で道具　石器から鉄への変化　また、鉄の日本伝来が巻き起こす古代史の謎解明の手がかりとし

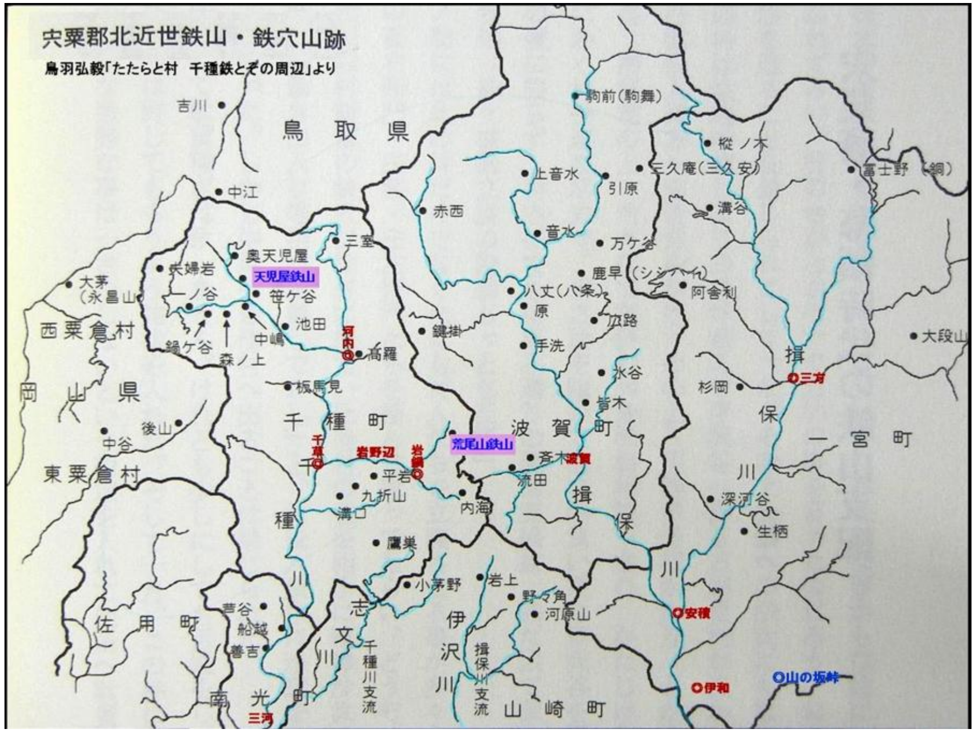
て、紀元前　今から約 2000 年前福岡の弥生遺跡から発見された中国大陸伝来の鋳物製鉄斧にスポットをあて、鉄伝来がの歴史を語られたが、実におもしろかった。
その中で出土した中国製の鋳造鉄斧の表面には　表面部をネバクするため均一の深さで脱炭層を付与する熱処理が施されている事知りました.（例えば　福岡県比恵遺跡鉄斧など）
村上恭通氏著「倭人と鉄の考古学」の表紙を飾る中国製鋳造鉄斧の断面写真は実にあざやかで、古代から現在へ通じる熱処理技術のまさに原点であると私も思います。
鉄器は韻鉄の加工がスタートといわれているが、紀元前中国では精練が既に行なわれ、その鉄を用途にあうように均一に熱処理する技術が既にあったこと驚きです。
また、低温加熱して鍛錬することで不純物や炭素を飛ばし、強靭化する技術(錬鉄)も既に紀元前にあったという。
いずれも現在に通じる鉄の技であり、7 世紀　古代丹後の「高チタン砂鉄によるたたら」の考え方が現在の溶接材料に通じる技であること見つけてびっくりしましたが、それよりもづっと以前に鉄の熱処理の技がほぼ完成された形で日本に入ってきていた事全く知らずビックリしました。
もっとも　日本では当時まだ作れず、日本で作れるようになるのはずっとあと 6～7 世紀。
おそらく　朝鮮半島と交流のあった北九州・吉備などに鉄製品や技法が最初に伝えられたと思われるが,倭・大和が次第にこの鉄のルート・製品の流れを支配することにより、　圧倒的な強さを持ち　群雄割拠していた日本各地の豪族を配下においていったに違いない. そして　その間　多くの渡来人を配下に鉄の精練・熱処理技術も学び取り、さらに巨大になっていったと考えられる.
今　日本で具体的な精練が行なわれたことがはっきりしているのは 6～7 世紀頃であり、それ以前の鉄の伝来・製造技術については良く判っておらず、日本誕生に間違いなく大きな役割を果したに違いない日本での鉄器の製造と日本誕生のロマンと重ね多くの古代史ファンや学者を魅了している.

千種川水系の兵庫県山崎町の一番北の端千種町と接するところ　丁度　古代製鉄発祥の伝承地である岩野辺から山を会して南側にあたる山奥小茅野後山で今古代のたたら遺跡の発掘が進んでいるとの事。今のところ平安時代には遡れるらしいが、調査が進めば, もっと古代へさかのぼれる可能性があるという.　「古代製鉄発祥の地」の伝承のある「千種」近隣地で本当に「古代へ遡れる遺跡が出て来ないか」と期待。
是非暖かくなればwalkしようと思っている.

2001.1.21.　　姫路　兵庫県歴史民俗博物館で　　By　M.Nakanishi

&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&&

播磨国　千　種　鉄
1.「たたら」製鉄の神　金屋子神　降臨伝承の地
和鉄のふる里『千種・岩野辺』
【完】



2. 播磨国風土記古代製鉄の一大生産地「讃容の里」Walk

兵庫県西播磨 佐用郡　大撫山製鉄遺跡群を訪ねて　2003.11.14.

佐用坂より　大撫山　　山崎断層に沿って広がる佐用町　　大撫山頂より

2003.12.31.　sayou00.htm　by M. Nakanishi

播磨国風土記(713 年(和銅 6 年)頃)讃容の里(佐用)の項　産鉄の記事
「(鹿庭山)々四面有十二谷　皆生鉄也　難波豊前於朝廷始進也」

『　山(鹿庭山)の四面に十二の谷があるみな鉄を産する。

難波の豊前の朝廷に始めて献上した　』

【　内　　容　】

1.　播磨国風土記に見る西播磨の産鉄記事と和鉄の道
2.　讃容の里　鹿庭山(大撫山)製鉄遺跡群を訪ねて
3.「讃容の里」Walk　まとめ

7 世紀初頭にまとめられた「播磨国　風土記」の中の「讃容の里」の項に産鉄の記録がある。
現在の兵庫県佐用郡　兵庫県の西の端　岡山県との境　中国山地の真っ只中　中央を南北に千種川が流れる山郷 。
また　中国山地の山々を東西にずらせた巨大な山崎断層が貫き、その断層に沿って中国縦貫道が通る。
中国山地を切裂き東西に走る山崎断層と山間を縫って千種川に流れ込む佐用川との十字路が「讃容の里」今の佐用町である。

千種川の北には「製鉄神　金屋子神の降臨の地」の伝承のある岩鍋。そして、後世「千種鉄」の一大製鉄地帯「千種」南には刀鍛冶の里「長船」。
また、大陸・西日本の日本海諸国から畿内へと続く「和鉄の道　Iron Road」の中間点 それを示す播磨国風土記の産鉄の記事。古代の大製鉄地帯吉備・美作・伯耆・出雲・丹後の諸国と畿内を結ぶ十字路にあって この地は中国山地の奥深い山里ながら、四方の山々から鉄を産する栄えた古代の一大製鉄地帯であつたという。
でも、今この地域の一角には巨大な放射光施設が座る先端科学技術の発信地
昔四面 12 の谷から鉄を産した大撫山(鹿庭山)の頂上には、日本最大のレンズを有する反射望遠鏡が座る県立播磨天文台が四方の天空をみすえる。
今「讃容の里」は星空が素晴らしい山郷　「星空の街」

南光町下三河千種川　と「讃容の里」佐用の町を見下ろしてそびえる大撫山の谷筋と県花「野路菊」

「千種」は知っていたもののあまり頭になかった佐用。千種川に沿った産鉄記録を調べようと訪れた姫路の県立歴史博物館で見つけた播磨風土記の記事。「風土記の考古学【2】播磨国風土記の巻」の「播磨の鉄」(執筆　土佐雅彦)の中に　播磨風土記　産鉄の山が周囲に古代の製鉄遺跡群を持つ現実の山として記録されていました。 訪れたかった山郷『佐用』と『「4 面 12 の谷から鉄を産した山」がその中央にどっかりと座っている』 全く宛てはありませんでしたが、五万分の一の地図を頼りに　11 月半ば　晩秋の『讃容の里』を訪ねました。

1.　播磨国風土記に見る西播磨の産鉄記事と和鉄の道

大撫山の南麓　　佐用川山崎断層に沿って広がる佐用町　　大撫山山頂より播磨の古代精鉄遺跡群

「日本で何時頃から製鉄がはじまったのか?
　古代大陸から何時? どのルートで製鉄技術が伝来したのか?」

日本誕生にも大きな影響を与えたこの製鉄技術の始まりは　最古の製鉄遺跡が 6 世紀の半ばまでさかのぼれ、北九州　出雲・丹後　吉備　畿内･近江などが候補地として考えられているが、まだ良く判っていない。
兵庫県の西の端　中国山地から西播磨を南に流れ下る千種川上流の山間の地である千種・岩鍋は製鉄の神「金屋子神」降臨伝

承の地。千種川に惹かれてもう何年にもなる。
11 月 6 日　千種川流域をもう一度調べたいと訪れた姫路の兵庫県立歴史博物館で
　　「風土記の考古学【2】播磨国風土記の巻」の「播磨の鉄」の項(執筆　土佐雅彦)
に西播磨の産鉄地域の歴史やたたら製鉄遺跡調査がレビューされ、忘れかけていた播磨国風土記の産鉄記事に再度接しました。
奈良時代の初頭和銅 6 年(713 年)撰進の命で作られた各国の「風土記」は和鉄誕生を考える貴重な資料。
現存する播磨・常陸・出雲の風土記の中に「産鉄」の記事があり、播磨国　風土記には吉備・美作・伯耆に接した播磨の西の端の山間地帯での産鉄の記事がある。
中国山地から南へ播磨を流れ下る「千種川」と「揖保川」流域の山間部である。
今まであまり気にとめていなかった千種川に流れ込む佐用川流域の山間部に大きな製鉄遺跡群がある。
その中心が佐用町古代の　「讃容の里」

播磨風土記にみる播磨の産鉄記事

【播磨国風土記　讃容の郡(佐用郡)の項】

◆　讃容の里

讃容というわけは、大神妹背二柱の神がさきをあらそって国を占められた時、妹玉津日女命が鹿を生け捕って寝ころがし、その腹を割いてその血にひたして稲をまかれた。
すると一夜のあいだに苗が生えたので、直ちにそれを取って植えさせた。
ここに大神は勅して「あなたは五月夜に植えなさったのか」と仰せられ、すぐさま他の処に去ってしまわれた。
だから五月夜の郡とよぶ。神を賛用都比売命と名づける。
現在も讃容町田がある。すなわち鹿を斬りさいた山を鹿庭山とよぶ。
山の四面に十二の谷がある。みな鉄を産する。難波の豊前の朝廷に始めて献上した。
その鉄を発見した人は別部犬で、その孫らがこれを献上し始めたのである。

【播磨国風土記　宍禾の郡(宍粟郡)の項　(抜粋)】

◆　柏野の里　敷草の村(千草)

草を敷いて神の御座所とした。だから敷草という。
この村に山がある。その南方十里ばかりのところに沢がある。広さは二町ばかりある。
この沢に菅が生え、笠を作るのに最適である。ヒノキ・スギ・栗・オウレン・黒葛などが生える。
鉄を産する。狼・熊が住む。

◆　御方の里(一ノ宮町)(抜粋)

大内川・小内川・金内川　大きい方の川を大内といい、小さいのを小内と称し、鉄を産するのを金内と称する。
その山にはヒノキ・スギ・黒葛などが生える。大神・熊が住む。

平凡社　東洋文庫　『風土記』　吉野裕訳より

「(鹿庭山)々四面有十二谷　皆生鉄也　　難波豊前於朝廷始進也」

『　山(鹿庭山)の四面に十二の谷がある。 みな鉄を産する。
難波の豊前の朝廷に始めて献上した　　』

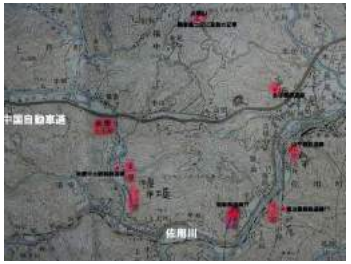
「山全体が鉄の山・・・・????????」　これは　凄い

歴史博物館で見た「播磨の鉄」では播磨風土記に記載された「鹿庭山」が佐用町の中心にそびえる「大撫子山」。この山の周りに沿って流れる佐用川・千種川流域に幾つかの古代の製鉄遺跡群があり、この流域一体が古代の一大製鉄地帯である事が調査レビューとともに記載されていました。

早速　国土地理院の地図に場所の書き込みチェック。
山また山の中　果たして今も製鉄遺が残っているだろうか・・・

地図で見ると大撫山には県立西播磨天文台とドライブウエイが伸び、「四面十二の谷」との記述どおり、高くはないが、周辺はみんな山。 山だけ見ることになるかもしれないが、それも良し。どんな山か興味深深。うまく行けば　古代の製鉄遺跡にも行けるかもしれない。
地図をにらみながら、何度となく訪れた「千種・岩鍋」のイメージをこの西播磨「讃容の里」に重ねながら、イメージを膨らませました。

播磨の古代製鉄遺跡群



古代風土記の産鉄記事「讃容の里」と製鉄遺跡群

兵庫県播磨地方の概略

佐用坂より　大撫山

山崎断層に沿って広がる佐用町　　大撫山山頂より

西播磨では中国山地が海岸地まで延び、山深い郷を形成している。
古代　畿内の周縁部にあたり、製鉄技術伝来の候補地のひとつ吉備地方(美作・備前・備中・備後)と密接な交流を有していた。
北から南へ流れ下る千種川上流域の宍粟郡千種・岩鍋は「古代製鉄の神　金屋子神　降臨の地」の伝承地。
また、千種川が流れ下る河口近くには備前長船の刀鍛冶の郷がある。
千草の北　但馬　氷ノ山の麓の街道筋にも何度か見かけたたたら遺跡の標識。
西播磨は古代からの産鉄の郷。

この千種川水系の佐用川と千種川が中国山地をながれくだり、巨大な東西に走る山崎断層にぶつかるところが佐用町。
正確には中国山地から流れ下ってきた千種川と佐用川は断層にぶつかり、断層に沿って東西に方向を捻じ曲げられ、断層を抜けた南で合流してまた南へ流れ下る。
千種川と佐用川が合流する手前の佐用川沿いの街が古代に編纂された播磨国風土記に産鉄の記事がある「讃容の里」佐用町である。
この「讃容の里」の北側に連なる壁としてそびえる山の中央に 4 面 12 の谷すべてから鉄を産する山　旧名「鹿庭山」と称する「大撫山」がある。
北の中国山地より深い山間をぬって南北に流れ下る二つの大河「千種川と揖保川」の流域に形成された西播磨。この山間の地は古代西から東へまた北の日本海沿岸から南へと大陸と日本を結び幾多の産鉄の民が往来し、日本に製鉄技術をもたらした和鉄の道があったに違いない。
でも神戸から出かけると通いなれた千種よりもさらに山深い郷というのが私のイメージ。
長い間静かな山里であったこの千種川流域では、今山崎断層に沿った狭い谷間を中国自動車道が東西に貫き、千種川に沿って智頭急行線が南北に開通。さらに鳥取から佐用を通って竜野を結ぶ横断高速道路も一部開通。
佐用町の南の千種川と揖保川にはさまれた丘陵地には播磨科学公園都市が整備され、その中心に設置され「放射光」施設が数々の新しい微量分析での成果をあげている。 また、佐用町には県立西播磨天文台が設置され、日本最大の反射望遠鏡が設置されるなど山深い郷に変わりないが、新しい街へ急速に変貌しつつある。
神戸に帰ったら　一番先にゆっくり　山里を歩きたい場所でした。

播磨の鉄　佐用町周辺の古代製鉄遺跡群

西下野製鉄遺跡群近傍　千種川

「山全体が鉄の山・・・・????????」 これは　凄い
古代　西播磨の山里「讃容の里」には　吉備地方や出雲など日本海諸国と畿内を結ぶ「和鉄の道・Iron Road」があった。中国山地の山また山の中　果たしてこの山間の町に製鉄遺跡はのこっているだろうか・・・
大撫山にはドライブウエイが伸び、県立西播磨天文台と広い公園になって　「星空の町」のベース基地になっている。「四面十二の谷」との記述どおり、高くはないが、周辺はみんな山。そして、狭い谷あいをぬって佐用川が流れている。

山だけ見ることになるかもしれないが、それも良し。
佐用川に沿って大撫山の山裾をその痕跡をイメージしながら歩いてみよう。
11.14.地図を片手に秋晴れの朝　佐用町　大撫山へ出かけました。

2.　讃容の里　鹿庭山(大撫山)製鉄遺跡群を訪ねて
兵庫県佐用町　203.11.14.

佐用町全景　　大撫山より　　2003.11.14.

【内　　容】

2.1.　山崎から千種川流域の佐用へ
　　－ 千種川沿いに拡がる南光町三河製鉄遺跡群と西下野製鉄遺跡 －
2.2.　佐用町の中央にそびえる古代製鉄の一大生産地　大撫山
　　－ 今は頂上に西播磨天文台 －
2.3.　大撫山　南面の谷にある永谷製鉄遺跡
2.4.　佐用川沿いの大撫山製鉄遺跡群を訪ねて
　　－　播磨風土記「讃容の里」Walk　－

国道 179 より　大撫山

大撫山頂上近傍

大撫山より南面とその麓にある永谷製鉄遺跡

2.1.　山崎から千種川流域の佐用へ
-千種川沿いに拡がる南光町三河製鉄遺跡群と西下野製鉄遺跡-

山崎-南光町間の峠道　　2003.11.14.

11.14.　　秋晴れの早朝　久しぶりに三木から加古川を横切って加西へ。
加西からは中国自動車道に沿って山裾を通って　揖保川を渡ると山崎。
ここは、攝津・播磨から美作や因幡・出雲へのちょうど中間点にあり、四方からの道が交差し、山深い中国山地へ分け入る要衝の地。
山崎の街中を通るのは４，５年ぶりであるが、西南の丘陵地を切り開いて播磨科学公園都市が出来た事や、中国自動車道を中心とした交通整備により、周辺の山間地の開発が進んだのだろう、以前よりも随分街が大きくなった様な気がする。
南の竜野から揖保川沿いに鳥取へ向かう因幡街道を山崎の街中で横切り、街中を通り抜け　、中国縦貫道に沿って西に向かうといよいよ奥深い山中。

山崎断層が中国山地を左右に切裂き、山間の狭い回廊を東西に作り、佐用町への道がこの回廊の中につづいている。
吉備・美作・伯耆の国に隣接して中国山地に点在する西播磨の古代からの一大製鉄地帯に入ってゆく。
もう　佐用町まで大きな町なし。交通量も激減し、良く手入れされたスギ林が続く山中を南光町へ向かう。
切窓峠を越えると揖保川の流域から、いよいよ千種川の流域に入る。相変わらず、狭い谷あいの道が続く。
山崎から約 30 分ほどで山間の小さな集落下三河の三叉路に出る。
前方に立ちはだかっている山裾を千種川が流れ、川に沿って北へ行くと千種　南へ行くと佐用である。

山崎-南光町間の峠道　　2003.11.14.

下三河の三叉路を南に折れて千種川に沿って佐用に向かう。
千種川が直角に西にまがり、正面にトンネルから抜け出した赤い高架橋が見えると西下野の集落。
この千種川に沿って両岸に約 30 を超える古代の製鉄遺跡があり、南光町三河製鉄遺跡群と呼ばれている。

山崎から佐用へ　西下野製鉄遺跡近傍

千種川　　南光町　下三河付近

この西下野には次ぎのような「たたら製鉄」に関係した昔の盆踊り唄が伝わっているという。

嫁にゆくなら　下野にござれ
　　下野山かげ　朝寝床　　（省略）
金もあるある　金谷の段に
　　ほしくば　やるぞ　　掘って取れ（省略）
金の鳥鳴く　　その声聞けば
　　やがて長者に　なるそうな　　（省略）

--「兵庫史を歩く」より --

人っ子一人いない静かな集落。
もう　こんな盆踊り唄も消えてしまったのか・・・・・・
両側から山が迫る狭い谷あいを川に沿って歩く。

まっすぐに見通せる狭い谷筋に清流の千種川が流れ、
緑の山肌をワインレッドの高架橋が走る。
ゆっくり風来坊するにはもってこいの場所である。
対岸中国縦貫道のむこうの山裾が奈良時代初頭の西下野製鉄遺跡と思われるが、どこも全く判らない。

西下野　中国縦貫道と千種川　対岸の山裾の谷に西下野製鉄遺跡がある　　2003.11.14.

やつと道路沿いの民家のおじいさんを見つける。　製鉄遺跡のことを聞くと、すぐ前の田圃も川向こうの山裾もみな製鉄遺跡跡だという。
地図を見せながら西下野製鉄遺跡の位置を聞く。
脇道の橋を渡って中国縦貫道くぐり　細い道を藪の中を山肌に沿って少し登ったところ。
教えてもらったとおり、中国縦貫道のトンネルを抜け、山裾を少し登ったところに広場があり、階段状に谷あいが何段か聖地された林になっている。
その奥に炭焼きか何かの建物が建っている。
位置的にはここが西下野製鉄遺跡の位置なのだが、どうもはっきりしない。

千種川南岸　西下野製鉄遺跡 ??? 2003.11.14.

三河製鉄遺跡群の点在する千種川　西下野近傍

この千種川に沿った山間にはいくつもの古代製鉄遺跡があり、古代ばかりでなく、中世・近世まで　種々のたたら遺跡があったというが、今は静かな谷あいの集落の中に埋もれている。
西下野製鉄遺跡では 5 つの炉床と共に工房跡や炭窯砂鉄置き場などが見つかり、比較的低チタンの砂鉄を原料とした奈良時代初頭の製鉄遺跡と見られている。

この三河製鉄遺跡群で使われた低チタン砂鉄原料は千種川の川砂鉄などとみられ､｢同時代の製鉄遺跡でありながら、隣接した佐用町の大撫山製鉄遺跡群が高チタンの製鉄原料であるのと対照的である」との調査結果に興味をつのらせている。
高チタン原料は精錬過程で形成したスラグがねばく、安定した鉄製造が難しく、低チタン原料に取って代わられてゆく。
後世　奥出雲でのたたら製鉄が盛んになったのも、この低チタン原料が豊富にあり、大量生産が安定して出来たからだと言われている。

一方　古代製鉄の黎明期　丹後のたたら製鉄（遠所製鉄遺跡）では、近くに低チタンの原料がありながら、高チタン原料が使われている。
丹後の特異点と思っていたが、丹後に近い西播磨でも同じような事象がみてとれる。
まだ安定した高温が得られにくい時代には　他の不純物成分とあいまって、高チタン原料の有する比較的低温での溶融が和鉄精錬には好まれたのではないか・・・・
私はむしろ高チタン原料を好んだ和鉄製鉄技術・産鉄の民がいたのではないと思っている。

（　もっとも　後世　西播磨の和鉄製造もその中心は讃容から低チタンの千種へと移り、
また、低チタン原料のこの三河の地では後世まで和鉄 製造が続いてゆく。　）

この西播磨は大陸から吉備・美作・奥出雲・丹後と畿内を結ぶ要衝の地。
そこに異なる製造プロセスの和鉄製造技術が時代を同じくして存在する事これこそがこの地を通る「和鉄の道」の重要性を物語っているのではないか・・・
高チタン原料から低チタン原料への移行がこの地で解き明かされるのではないか・・・
ここでどんなドラマがあったのか・・・・・
もののけ姫のイメージを思い浮かべながら　興味津々である。

2.2.　佐用町の中央にそびえる古代製鉄の一大生産地「大撫山」
-　今　頂上には西播磨天文台　-

千種川沿いに山間の徳久集落を抜け、南に流れ下る千種川と別れて北に佐用坂と呼ばれる峠道をのぼって佐用の町に入ってゆく。
幾つかの谷の出口の平地部中央に佐用川が流れ、その両側に街並と田圃があり、それを取り囲んでぐるっと山また山の狭い扇状地地形である。
街の北には街に接してどっしりと大撫山が構えている。
山また山ではあるが、山並みが低く視界が開けていて実に明るい。
中国山地に分け入って、兵庫県の奥の奥と思っていましたが、その陽気な明るさにビックリ。

大撫山頂上より　佐用の町　山崎からの中国縦貫道が見える　大撫山南東側　佐用の街へ入る中国道が見える

西播磨天文台の標識に従って､北に市街を突き抜け､また現れた中国縦貫道のガードをくぐったところから、高さ 436m 大撫山へのドライブウエイがついており、山へ登ってゆく。
ちょうど　野路菊の季節。
ドライブウエイのあちこちに野路菊の群生がみられる。途中　お地蔵さんが祭られたところが南面の展望台になっている。

そこからは南に広がる佐用の街並とそのむこうに果てしなく続く山並みが見え、やっぱり、奥深い山の中にいる事を実感する。
ここには石碑があり、お地蔵様の由来と共にこの山が昔「鹿庭山」と呼ばれ、古代製鉄の一大産地であったことが記されている。

大撫山中腹　地蔵堂横の展望台からの南面の展望　　2003.11.14.

古代製鉄に関する記述はこの石碑のみにあるだけで、この山が「鉄の山」であった痕跡は見当たらない。
そこから　少し登ってゆくと頂上。
頂上は天文台を戴く良く整備された広い公園になっていて、360 度山また山　どこまでも続く山並みの展望
本当に山また山　どこを見ても　山を実感する。
これは同時に夜になるとそれこそ眼の位置からどこまでもどこまでも広がる真っ暗な大空。全天星が輝く素晴らしい星のポイントと想像され、ここに天文台を誘致したこの街の人たちの眼力にもおどろく。

山腹に整備されたロッジと公園　　山頂の県立西播磨天文台　　360 度山また山を示す方向表示板

北西　那岐山　　北　後山・日名倉山　　南東　雪彦山　　南西-西　岡山・津山

【　大撫山　山頂からの眺望　　2003.11.14.　】

この地が古代の播磨国風土記に

「山(鹿庭山)の四面に十二の谷がある。みな鉄を産する。難波の豊前の朝廷に始めて献上した」

と記述されて、日本誕生にも大いに貢献した古代の一大製鉄地帯であることなど　全く忘れ去られている。

明るい天文台一色の山である。

四面十二の谷　どこの谷からも鉄が出たと言う谷を見ながら、頂上にある天文台の周りを地図片手に一周。

頂上付近のどこからでも　谷に降りれそうであるが、製鉄遺跡の場所など全く判らない。

野　路　菊　　西播磨天文台と地元の人達　　ドライブウエイ脇の赤土

公園整備をしている陽気な地元の人たちに製鉄遺跡の事を聞いて　色々教えてもらいました。

「　子供の頃には尾根につけられた旧道の山道のいたるところで　磁石を引っ張って砂鉄集めを良くした・・。

また、ドライブウエイの途中からまっすぐ下に下る旧道を降りれば、小さな池のある堰堤にでる降りると

そこが永谷池のはず。　そこに製鉄遺跡が確かあって、今も調査しているはず。小屋がたしかある。

でも　もう探さんかも・・・

」

大撫山南面の堰堤のある池　位置的には地図通り、永谷製鉄遺跡に違いなし。

また、ドライブウエイ脇の山肌では、真っ赤な土が帯状に連なっており、やっぱりこの山は鉄の山かも。

もう　和鉄の痕跡はさがせないものと思っていましたが、「四面　十二の谷　皆　鉄を産す」が現実味をもつて、永谷製鉄遺跡がある谷筋につけられた旧道を永谷池に向って下りました。

大撫山は 360 度の山の展望が楽しめる本当に明るい山。

山また山の中心にそびえ、低い山でありながら全く都会の裏山臭さがない。

夜には天空いっぱいに星空が広がる事だろう。

古代　産鉄の民がこの山を中心に世界へつながったと同様　今も天文台がこの街を世界へとつなげている。

全く　知らなかった山ですが、四面十二の谷が広がる山　360 度山また山が続く大展望や山腹に咲く県花「野路菊」が素晴らしい。 そして　その山の周りの狭い谷に広がる街には清流がながれ、日本の原風景　「讃容の里」 和鉄のふるさとはいまもやっぱり輝いていました。今度は一度泊まって星空を見に・・・・・・。

2.3.　大撫山　南面の谷にある永谷製鉄遺跡

大撫山からまっすぐ麓の永谷池へ下る旧道　　2003.11.14.

中国縦貫道の際　大撫山南面の谷にある永谷製鉄遺跡　全景　後ろは大撫山

永谷 B 遺跡　　池の底に遺跡が眠る永谷池　　杉林の中にスラグ原が拡がる永谷 C 遺跡

大撫山南面の谷にある永谷製鉄遺跡　(8 世紀半ばから 10 世紀にまたがる重複遺跡)

頂上からドライブウエイを下ったところから、まっすぐに尾根を下る道に入ってゆく。

車一台がやっと通れる程度のみちではあるが、ほとんど使われておらず、落ち葉が覆っている。

全く人気のない谷筋の山腹につけられた道をどんどん下ってゆく。

野路菊が美しい林の中の一本道。振り返ると頂上の天文台が見下ろしている。

引き返しもならず、ちょっと心配になりかけた頃　前方に池が見え、谷の出口の狭い田圃にクロスして中国道が前方をふさいでいる。 これが永谷池か・・・・

大撫山頂上から永谷池への谷筋の道

手前の田・奥の池・左手杉林にまで遺跡がひろがっている
池のすぐ下に小さな作業小屋があり、人影があるのを見てほっとする。
やっぱり、この池が永谷池　そして下ってきた道の反対側池の奥の林と池の下の田圃が製鉄遺跡跡だと教えてくれる。
資料ではここにはいくつかの製鉄遺跡が重複して存在し、この池の底にも遺跡が眠っていてる。
また、すぐ下の田圃からは 3 基の炉跡や砂鉄が出土。
池の西杉林の中はスラグ原。

永谷製鉄遺跡　　2003.11.14.

この杉林の奥からも一基の炉跡が確認され、ここがもっとも古く 8 世紀半ばまでさかのぼれる可能性があるが、しっかりした確認は取れていないとの事。
この池からまっすぐ北に谷筋が伸び、大撫山の頂上が見える。

杉林の中にスラグ原が拡がる永谷 C 製鉄遺跡

杉林の中のスラグ原　永谷 C 製鉄遺跡　　杉林の中のスラグ原で見つけた製鉄スラグ

大撫山製鉄遺跡群　永谷製鉄遺跡で　　2003.11.14.

教えてもらった左手の杉林の中に入ると数段の平地になっていて、その奥が山肌の傾斜地になって、製鉄遺跡らしい面影がある。
足元の雑草の中　あちこちにスラグが散らばっている。
何時の時代のものなのか、また発掘調査後のものなのかも不明であるが、資料にあるスラグ原であろう。思いもかけなかった製鉄スラグとの出会いでした。 見下ろす正面は古代讃容の里
振り返って見上げる山は鹿庭山。
誰一人いない谷の中で、播磨風土記の世界に思いやっていました。

2.4.　佐用川沿いの大撫山製鉄遺跡群を訪ねて
播磨風土記「讃容の里」Walk

大撫山南麓に沿って佐用町より西へ　上月町へ抜ける佐用川沿いの国道 179　佐用町吉福付近

資料「播磨の鉄」(執筆　土佐雅彦)の調査記録によると大撫山の周辺には約 55 の大撫山製鉄遺跡群があり、播磨国風土記の記載どおりだとすると 6 世紀にまでこの地での和鉄製造はさかのぼれる事になる。
大撫山製鉄遺跡群をチェックした五万分の一の地図を頼りに大撫山南面側佐用川沿いを製鉄遺跡を訪ねて佐用の町から上月町へ「讃容の里」の Walk。
晩秋　大撫山をみながら清流沿いの山里風景はまさに絵画の世界から出てきたような日本の原風景そのもの。
街道筋を集落の人に話を聞いたり、川を覗き込んで砂鉄の存在を調べたり。また、田圃のあぜにおりたり、谷筋の藪を覗き込んだり・・・・
製鉄遺跡の場所特定は出来ませんでしたが、その地名や谷からの出口の地形に製鉄遺跡のイメージを重ねながら、古代　播磨風土記ののどかな「讃容の里」Walk を楽しみました。

のどかな山郷の晩秋の夕暮れ時　穏やかな山並みをバックに清流が流れる田舎の夕景に見とれていました。

◆　山平製鉄遺跡・鍛冶屋製鉄遺跡近傍

佐用の街をでて、大撫山の南面に沿って流れる佐用川の川を見ながら上月町へ進む。
対岸の山裾を姫新線・智頭急行が走る。
この山裾に山平製鉄遺跡・鍛冶屋製鉄いせきがあるが、特定できなかった。

●　山平製鉄遺跡

8 世紀後半の製鉄遺跡で厚いスラグ層が出土
複数の炉が在ったようだが、未特定

●　鍛冶屋遺跡

弥生時代の住居跡と重複して製鉄炉が出土
時期は未詳

佐用町真盛より　佐用川越しに山脇・山平の集落

鍛冶屋遺跡のある山脇　鍛冶屋地区

◆　金屋中土居遺跡近傍

大撫山の西面に沿って流れる幕山川が佐用川に合流する金屋橋を北に幕山川に沿って　中土居・金屋の集落が広がる。
この幕山川と大撫山の山裾が広がる田圃・さらには谷を入ったところなどに製鉄遺跡があったと集落の人に教えてもらったが、今は痕跡なし。
平安時代の製鉄遺跡と見られている金屋中土居遺跡では重層・重複した 3 基の炉床が出土。
金屋中土居遺跡もこの田圃の中に眠っている。

上月町大撫山西麓を流れる幕山川と
中土居・金屋集落

金屋大撫山西の扇状地
この中に中土居遺跡が広がる

金屋地区
奥に大撫山頂上が見える

◆　播磨・吉備・美作の境　太平記の「杉坂峠」へ

太平記の杉坂峠　播磨と美作の境　　今は峠の下を中国道がトンネルで抜けている

大撫山の西面の中土居・金屋地区を北に通り抜け、西に曲がって中国縦貫道にそって山間の峠道を登ってゆくと、西播磨と美作の境　杉坂峠。
太平記　後醍醐天皇・児島高徳の歴史が刻まれた峠。全くひと気のない静まり返った峠である。
今は中国縦貫道がトンネルで抜けてゆくため、全く往来がなし。　静かな峠である。
播磨の鉄の山と吉備・美作の鉄の山を結ぶ道　讃容の里も美作の里も今はほとんど和鉄の痕跡を見つけられないが、古くからこの峠道を通って日本各地へ和鉄の技術が伝播して行ったに違いない。
確証はないが、私にとっては「太平記」の史実よりも鉄の歴史の方がもっと身近に感じられます。
昔はこの峠を越えて幾多のドラマが繰り広げられたに違いない。
この杉坂峠のすぐ手前　皆田集落には絵の中から飛び出してきたような素晴らしい萱葺きの屋敷がありました。

この地の大名主であった屋敷と土地の人に聞きましたが、この地が古くからの交通の要衝であったことがこの屋敷見て一人納得。素晴らしい屋敷でした。

杉坂峠下　皆田集落　萱葺きの大屋敷

播磨・吉備・美作の境　杉坂峠近傍

3. 播磨国風土記「讃容の里」Walk　まとめ

「(鹿庭山)々四面有十二谷　皆生鉄也　難波豊前於朝廷始進也」

山(鹿庭山)の四面に十二の谷がある。みな鉄を産する
難波の豊前の朝廷に始めて献上した

播磨国風土記(713 年(和銅 6 年)頃)　讃容(佐用)の項

東　佐用坂から大撫山

大撫山の南面に沿う佐用川

西　上月町側から大撫山

大陸からの文化がいち早く入った古代の大国　吉備・美作・伯耆・出雲・丹後などと畿内を結ぶ交流路の入り口にあたる西播磨。

中国山地の奥深い里ではあるが、早くから開けた土地。産鉄の民がこの山中に分け入り、この地でいち早く和鉄生産が始められた事を風土記は示している。

この西播磨で「製鉄の神　金屋子神　降臨伝承の地」で後世「千種鉄」として隆盛をきわめた「千種」については良く知っていましたが、同じ千種川水系にあって千種の南側に隣接する「讃容(佐用)」については知らず。播磨風土記の記事に接して出かけましたが、山また山の中に都会の喧騒からはかけはなれた独立した家並がある静かな郷でした。

古代　大陸からの和鉄精錬技術伝来の過程で大陸・西日本の大国と畿内とを結ぶ要衝の地にあって和鉄生産がスタートする。

鉄精錬技術伝播・継承の真っ只中にあって、日本誕生に大きな役割を与えたであろう。

まさに大陸・西国から畿内への「和鉄の道　Iron Road」の本道がこの山深い中国山地を中継地として通っていたのであろう。 この地でも丹後国であったと同様にどうも高チタンの製鉄原料の産地で生産が始まり、低チタンの製鉄原料の産地へと移ってゆく技術伝播の変遷が見られるという。

産鉄の中心地「鹿庭山(大撫山)」の頂上から 360 度山また山の景観と清流佐用川の流れを眺めていると、眼には見えぬこの山郷の山間でこの地を通過して行つた産鉄の民にイメージが膨らんでゆく。

そういえば　周辺の吉備・伯耆・丹後の山々では産鉄の鬼伝説があるが、ここでは消えている。

早くから畿内に組み込まれ、一通過点だつたのか・・・・それとも技術交流・交替がスムースに行ったのか・・・

中国山地から南へ流れ下る千種・佐用川水系のこの地にはまだまだ知らないドラマがあったろう。

今は本当に日本の田舎の原風景　静かな山里「讃容の里」。

古代製鉄のシンボル大撫山には日本一の反射望遠鏡のある天文台(今伊丹三菱電機で製作中と聞く)があり、全天見渡す限り星がきらめく星空の町。そして　この南には現代技術の最先端　大型放射光施設が設置された播磨科学公園都市。鉄の伝来・伝播が日本を作ったように今この地から新しい発信がなされている。

兵庫県の西の端「佐用」。私にとっては名前だけでよく知らなかったこの山里がなんとも暖かい親しみのある明るい街に感じられ、これからも何度となく通いたいところ。

晩秋　佐用川に映える夕日に送られながら

2003.11.14.夕　Mutsu Nakanishi

参考資料

「風土記の考古学」【2】播磨国風土記の巻「播磨の鉄」(執筆　土佐雅彦)

東洋文庫 145「風土記 」吉野裕訳　平凡社

播磨国風土記 古代製鉄の一大生産地「讃容の里」Walk

1. 播磨国風土記に見る西播磨の産鉄記事と和鉄の道
2. 讃容の里　鹿庭山(大撫山)製鉄遺跡群を訪ねて
3. 「讃容の里」Walk　まとめ

【完】

2003.12.31.　by　Mutsu　Nakanishi

3.

播磨風土記の和鉄【2】　御方里周辺(宍粟郡一ノ宮町)

安積山製鉄遺跡(平安時代末期の製鉄遺跡)　探 訪　2004. 2. 11.

1.　古代　産鉄の地　「讃容里」大撫山の夜明けと朝霧　　佐用郡佐用町
2.　古代　産鉄の地　「御方里」周辺　平安末期の安積山製鉄遺跡を訪ねて　　宍粟郡一宮町

azumiyama00.htm by M. Nakanishi　2004. 3. 1.

古代の御方里周辺　一宮町安積にあるこの地方で一番古い製鉄遺跡　安積山製鉄遺跡

讃容の里　大撫山の夜明けと朝霧

産鉄と縁の深い大国主命を祭る　播磨一宮　伊和神社

一番寒い時が過ぎ、やっと暖かくなりだした 2. 12. 早朝
兵庫県の西端　西播磨北部の佐用町大撫山に素晴らしい朝霧が出ると聞いて家内と二人出かけました。
また、同時に大撫山など佐用の山々を挟んで東側の揖保川が流れる一宮町一帯は古代には「御方里」と呼ばれたもうひとつの産鉄地。一宮町安積にある安積山製鉄遺跡を訪ねてきました。
「讃容の里　大撫山」は「四面十二の谷皆鉄を産する」と播磨風土記に産鉄の記事があり、昨年 11 月に訪れた所である。

播磨国風土記 古代製鉄の一大生産地「讃容の里」Walk 兵庫県佐用郡　大撫山製鉄遺跡群を訪ねて　2003. 11. 14.
http://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/sayou00.htm

山また山に囲まれた佐用町の中央にあって山また山の狭い盆地の山の間を朝霧が覆うという。
また、一宮町は町名の由来となった鉄と関係深い出雲の大国主命を祭る播磨国一の宮「伊和神社」があり、古代播磨風土記に「御方里」と呼ばれた産鉄の地はこの一宮町北部山間一帯(三方町)である。
ちょうど　次は揖保川水系の製鉄遺跡を訪れたいと計画していた事もあり、大撫山の日出にあわせ、真っ暗な早朝神戸を出て、朝靄の中に浮かぶ山々に朝日が輝く素晴らしい大撫山の光景。
一宮の街道筋の際の小高い丘にある安積山遺跡。　眼下に揖保川と一宮を見下ろす城山の南面の小高い丘今は周りの山肌に沿って鉄分を含む赤茶けた水が流れ込む湿地に潅木や雑草が埋め尽くしているが、谷に沿って幾段かになった地形と山肌の赤いベンガラ色が本当に印象的な製鉄遺跡でした。

1.　古代　産鉄の地「讃容里」　大撫山の夜明けと朝霧　　佐用郡佐用町
2.　古代　産鉄の地「御方里」平安末期の安積山製鉄遺跡を訪ねて　宍粟郡一宮町

兵庫県の西端　西播磨北部の中国山地は古代からの和鉄の一大製鉄地帯である。
播磨国一宮　伊和神社に出雲の大巳貴神(おおなむちのみこと別名　大国主命または大物主命　素戔嗚尊の子の孫という伝承もある)が祭られ、「出雲から播磨にやってきた大国主命がまず讃容の地にやって来て、その後　宍粟郡　御方里の地に本拠を置き、播磨国全体を治められた」と風土記に記されている。
出雲の神　大国主命伝承には産鉄族が強く結びついており、播磨北部のこの地が古くから産鉄の地で出雲と深く結びついていた事がうかがえる。
奈良時代に成立した播磨風土記には次の西播磨北部佐用郡や宍粟郡の揖保川や千種川の山間地に産鉄の記事がある。

播磨風土記に記された　西播磨北部　古代の産鉄の地

- **大撫山の山裾を千種川に注ぎ込む佐用川の山里「讃容の里」**(現在の佐用郡佐用町)
  『 山(鹿庭山)の四面に十二の谷がある　みな鉄を産する。難波の豊前の朝廷に始めて献上した 』
- **千種川のさらに上流「柏野里」の条　敷草村**　(現在の宍粟郡千種町)
  『草を敷いて神の御座所とした。　だから敷草という。　この村に山がある。　その南方十里ばかりの所に沢がある。二町ばかりである。
  (桧・杉・オウレン・黒葛などが生える。　鉄を産する。狼・熊が住む)』
- **揖保川水系　「御方里」の条　金内川**　(御方里は今の宍粟郡一ノ宮町　三方町)
  『御方と呼ぶわけは葦原志許乎命が天日槍命と黒土の志爾嵩(のちの生野銀山)にお行きになりお互いに黒葛を三条足につけて投げなされた。　その時葦原志許乎命の黒葛は一条は但馬の気多　一条は夜夫の郡に落ち、一条(三条目)はこの村に落ちた。　だから三条(ミカタ)という。
  あるいはこうもいっている。
  「大神が形見として御杖をこの村に立てられた。だから御形(ミカタ)という。
  大内川・小内川・金内川　大きい方のを大内といい、小さいのを小内と称し、鉄を産するのを金内と称する。　その山には桧・杉・黒葛などが生える。　狼・熊が住む」』
  (金内川は一ノ宮町の北で西から引原川を合流する前の揖保川本流の最上流部と考えられている)

このように古代　風土記の時代から、強く産鉄と結びついた伝承の残るこれら西播磨北部の一大製鉄地帯は地質的にも出雲から美作・播磨北部　丹後の地へ中国山地を東西に高品質の砂鉄を含む花崗岩の大ベルトが分布するその真っ只中に位置している。
この中国山地中央を東西に貫く花崗岩地帯には品質の良い鉄鉱物が含まれ、それらから山砂鉄・川砂鉄・浜砂鉄が採取され、たたら製鉄原料として用いられた。
特に千種川上流の千種　揖保川上流の波賀町は磁鉄鉱系の砂鉄が取れる花崗岩鉱脈があり、千種岩野辺には製鉄神「金屋子神」降臨の地として、和鉄発祥の地伝承が残り、近世には「千種鉄」の大産地として発展する。

また、揖保川水系の谷間　一宮には町名の由来となった播磨国一宮の伊和神社があり、製鉄と関係の深い出雲　大国主命が祭神で、さらに、揖保川を遡った三方町が古代の御方里で、多くのたたら遺跡がある。さらに、揖保川に合流する引原川の上流波賀町にも多くのたたら遺跡が残っている。

佐用町では品位は低いが比較的容易に溶融するチタン鉄鉱系の砂鉄を産出し、古代　播磨風土記の時代には讃容里として柏野里敷草村や御方里とともに和鉄の産地であった。

　一宮町はちょうど姫路・山崎から兵庫の背骨氷ノ山の南戸倉峠を越えて鳥取へ抜ける因幡街道の中間点。

また、千種より東へ岩野辺を通って山越えして揖保川沿いに下りたところ。

幾度か「たたら」の文字を見た街道筋。千草か街道筋に沿ってすぐそばにたたら遺跡があるとは露知らず。

1.15.　姫路の県立歴史博物館「播磨北部の生業と武士」の展示で古代の御方里　一宮町の揖保川本流が引原川と分流するその分流点の山に平安末期の大きな製鉄遺跡　安積山製鉄遺跡があることを知りました。

一宮町界隈を訪れにはちょうどいい機会になりました。

播磨国一宮伊和神社

伊和神社の森

宮山　神奈備山

伊和神社入口　社　殿

製鉄と関連の深い出雲　大国主命を祭る　播磨国一の宮　伊和神社

安積山製鉄遺跡のある一宮町　安積近傍

中央の写真　背後の山が南麓に安積山製鉄遺跡のある城山

右の写真　山裾を引原川が流れる

1.　古代の産鉄の地「讃容里」　大撫山の夜明けと朝霧　佐用郡佐用町

2月11日　まだ、夜明け前　神戸から中国道を通って、佐用ICへ。大撫山は佐用ICのすぐそばにある。

山崎断層が東西に伸びる山々に囲まれた狭い盆地に佐用の街があり、この盆地の中に佐用川と千種川の本流が流れ込み佐用の街の南で合流する。

この川霧が秋から冬にかけての寒い朝この狭い盆地を埋め尽くし、周りの山々を霧の中に浮かび上がらせる。

大撫山は佐用の街のすぐ北にあり、この佐用の盆地や周辺の山々を見下ろす絶好の位置にある。

ちょっと時期的には遅いのですが、朝霧が出ることを期待半分　周りの朝焼けの山々が見られるだけでも良いと思って出かけました。山口県の美祢盆地も朝霧が出る素晴らしい所　写真取れなかったので　写真が取れれば・・・とかすかな期待。

夜明け前の中国道　佐用　正面が大撫山

日の出を迎えた佐用の街　2004.2.11.

大撫山の日の出　　2004.2.11.

東の空がしらみはじめ、まだ日の出前の朝7時前に佐用の町につき、大撫山のドライブウエイを登りだす。

くっきりと山が見え残念ながら霧は全くなし。

人っ子一人いない大撫山山頂。山並みが続く東の空を真っ赤に染めながら朝日が昇ってくる。

眼下の佐用の街や山々の間にうっすらと霧が立ちこめ、山の朝の素晴らしい景色が見える。雲海に埋め尽くされた山の朝を期待しましたが、朝露に煙る山々の背後から、朝日が照らす山の静かな朝　やっぱり落ち着く素晴らしい景色である。

東の日名倉山の山腹のあたりには一条の朝霧がすっと横に糸を引き谷や小さな集落を覆い隠して、また違った朝霧の風景を見せている。

佐用町　大撫山の夜明け　朝霧　　2004.2.11.

心地よい寒さと共に周りの山々とよく調和した素晴らしい山の朝。やっぱり来た甲斐がありました。雲海が出る頃はおそらく　多くの人で一杯なのでしょうが、今日は二人で独り占め。
神戸から高速道路で約1.5時間　　山また山の夜明け　　素晴らしい風景が楽しめ　お奨めです。

2004.2.11.　　Mutsuo Nakanishi

【参考】　播磨国風土記 古代製鉄の一大生産地「讃容の里」Walk
兵庫県佐用郡　大撫山製鉄遺跡群を訪ねて　2003.11.　http://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/sayou00.htm

2.　古代産鉄の地「御方里」一帯

平安末期の安積山製鉄遺跡を訪ねて　宍粟郡一宮町

安積山製鉄遺跡のある一宮町　安積近傍
中央の写真背後の山が南麓に安積山製鉄遺跡のある城山
右写真　山裾を引原川が流れる

安積山遺跡（一宮町安積字丸山）

中国地方の東方に連なる宍粟郡の北部一帯では、近代にいたるまで砂鉄を原料とする製鉄が盛んに行われて来ました。古くは、奈良時代に成立した「播磨国風土記」の中に「御方里」に「鍛を生す土地があったことが記されています。

安積山遺跡は古城山の南麓に位置し、南東約1kの地点では揖保川本流と引原川が合流しています。この地域は、播磨地方と但馬地方および因幡地方とを結ぶ交通の要所として重要な役割を果たして来ました。

平成6年度に行われた発掘調査では、丸山の東向き斜面を削り出した3段の平坦部の上に築かれた12基の製鉄炉跡が確認されています。製鉄炉は、大型炉（6基）、小型炉（5基）、特殊な形の炉（1基）に分けられ、その構造から中国地方に多い「長方形箱形炉」と呼ばれる形態のものであったと考えられます。炉の周囲では原料の砂鉄置き場や燃料の木炭置き場なども確認されています。

安積山遺跡の製鉄炉群は、平安時代の終わりごろに操業されたとみられ、現在のところ宍粟郡内においては最も古い時期のものであり、なおかつ最大規模の製鉄遺跡と考えられます。

1.15.姫路の県立歴史博物館「播磨北部の生業と武士」の展示で　一宮町の揖保川本流が引原川と分流するその分流点の山に平安末期の大きな製鉄遺跡　安積山製鉄遺跡があることを知りました。
一宮町はちょうど姫路・山崎から兵庫の背骨氷ノ山の南戸倉峠を越えて鳥取へ抜ける因幡街道の中間点。
また、千種より東へ岩野辺を通って山越えして揖保川沿いに下りたところ。
幾度か「たたら」の文字を見た街道筋。でも　街道筋に沿ってすぐそばにたたら遺跡があるとは露知らず。
古代の御方里　一宮町界隈を訪れにはちょうどいい機会になりました。

佐用町から東へ一旦山崎町まで戻り、そこから揖保川に沿って北へ遡る。
昔から鳥取と姫路・大阪を結ぶ因幡街道の街道筋。山崎から北は中国山地奥に分け入る山深い道である。
両側を山に閉ざされた狭い平坦地を流れ下る揖保川に沿って遡ってゆく国道 29 号線因幡街道を北に向かう。
この街道筋の両側に家並が続き、揖保川と両側の山を眺めながら　中国山地の奥へ奥へと向う。
約 20 分ほどで道の左に森、右に道の駅。播磨一宮　伊和神社である。杉の大木が街道と境内を分けている。
出雲からやってきた大国主命を祭る大社である。背後の宮山は神奈火備山。出雲との交流の深さ　鉄とのかかわりを伝える神社である。

播磨国一宮伊和神社
伊和神社の森
宮山　神奈備山
伊和神社入口
社　殿

製鉄と関連の深い出雲　大国主命を祭る　播磨国一の宮　伊和神社

安積の街にある案内板

安積橋から　城山

目的地の安積山製鉄遺跡はさらに 10 分ほど北に行った安積にある。
ここは一宮町の中心で揖保川が東側からの引原川と西側から流れ下る本流とが合流する地点で、この合流点の山「城山」の南麓に安積山製鉄遺跡がある。
この城山の東側を揖保川本流に沿ってさらに遡ると古代の御方里　三方である。
今も　この奥には多くの製鉄遺跡が残っている。
御方里へはもう少し暖かくなってからゆっくり訪ね、製鉄遺跡ばかりでなく、谷筋の渓谷や古代遺跡などを歩き、温泉にも行って、山越えで生野へ抜けたいと思っている。また西側を引原川に沿ってさらに遡ると波賀町　ここにも多くの製鉄遺跡が残っている。
そんな御方里への入り口が安積　そこに平安末期の安積山製鉄遺跡がある。
このあたり一帯は古代から、時代を越えた和鉄の大製鉄地帯である。

【参考　播磨風土記に記述のある古代産鉄の地　御方里】　インターネット検索より

播磨国風土記（７１３～７１４年）御方里の条に
『御方と呼ぶわけは葦原志許乎命が天日槍命と黒土の志爾嵩(のちの生野銀山)にお行きになり、
お互いに黒葛を三条足につけて投げなされた。
その時葦原志許乎命の黒葛は一条は但馬の気多　一条は夜夫の郡に落ち、一条(三条目)はこの村に落ちた。　だから三条(ミカタ)という。
あるいはこうもいっている。
「大神が形見として御杖をこの村に立てられた。だから御形(ミカタ)という。
大内川・小内川・金内川　大きい方のを大内といい、小さいのを小内と称し、鉄を産するのを金内と称する。　その山には桧・杉・黒葛などが生える。　狼・熊が住む」』
とある「御方里」である。

この一ノ宮町三方周辺で周囲の山を水源として、三つの川が揖保川に流れ込む。そのひとつ公文川の川筋「公文」には金屋、タタラ場、鍛冶屋敷、堤ケ谷、カマス置場等、鉄に因んだ場所と、数ケ所のタタラ址があり、また、公文の枝郷小原、溝谷は木地師の里で木地屋、鉄山、うるし採取、炭焼き等、山は栄え、賑やかで、但馬との交流も多く、次のような古歌も残っているという。

「朝日さす、夕日かがやくこの奥は、真金千杯、うるし千杯」

また、この地には、大国主命を祭る御形神社や縄文時代から中世にかけて営まれた複合遺跡　家原遺跡などがあり、この地が産鉄地として古代から開かれた地であることがわかる。

御形神社社　　祭神は葦原志許男神で、現存する本殿は、三間社流造り、檜皮葺きで宝亀 3 年の創建から 3 度目の 1527 年に建立されたものです。
室町時代後期の様式や技法を伝える木組や彫刻があり、彩色が施されています。
昭和 42 年に国の重要文化財に指定。
家原遺跡公園　家原遺跡は、一宮北部の河岸段丘の上に営まれた縄文時代から中世にかけての大規模な住居跡複合遺跡。
公園内には、その家原遺で実際に発掘された遺構をもとに各時代の建物を忠実に復元。

御形神社社

家原遺跡公園

曲里・安積橋から眺める城山　2004.2.11.

伊和神社から　さらに 10 分ほど北に街道を進むと程なく三角形の小高い山が正面に見えてくる。それが、安積山製鉄遺跡群が南麓にひろがる城山。大きな曲里集落に入るとすぐに、右に大屋・八鹿・朝来町への標識がある揖保川にかかる橋に出る。揖保川はこのすぐ手前に北からの引原川と合流点があり、其処から西北に変えて、古代の御方里　三方など源流部にいたる。この安積橋を渡ると安積の集落。城山がすぐ前に迫る。

ここで国道と別れ、安積の集落に入り、八幡神社の脇を通りまっすぐ城山の山へ登ってゆく。八幡神社を南から北へ回りこむと林に包まれた小高い丘にでて北に城山がそびえる南麓に出る。

安積集落から安積山製鉄遺跡に登ってゆく八幡神社脇の道

西に向って小道が続くその正面に赤茶けた山肌を露出した小高い丘があり、道の南にはなだらかな雑草の生い茂った原っぱが広がり、道端に小さな説明板が立ち、ここが安積山製鉄遺跡である。

安積山製鉄遺跡　　正面が丸山　道の右手に城山がそびえる　　2004. 2. 11.

丸山の東斜面に沿って広がる湿地　安積山製鉄遺跡　　北側の城山　南麓側

道路のそばに立てられている「安積山製鉄遺跡」の説明板には下記のように記されている。

「平成 6 年度に行われた発掘調査では、丸山の東向き斜面を掘り出した 3 段の平坦部の上に築かれた 12 基の製鉄炉跡が確認された。

製鉄炉はいずれも中国地方に多い「長方形箱型炉」の形態をした大型炉 6 基小型炉 5 基特殊な形の炉 1 基に分けられる。炉の周囲では原料の砂鉄置き場や木炭置き場も確認された。

この製鉄遺跡群は平安時代の終り頃に操業されたと見られ、現在では宍粟郡内では最も古い時期でかつ、最大規模の製鉄遺跡である。」

製鉄炉が築かれた? 丸山東斜面　　説明板に載っていた発掘調査で出土した製鉄炉

おそらく看板が立てられたすぐ横の赤い土を露出している斜面が製鉄炉が建設された丸山東向きの斜面だろう。この斜面の下は背の高い雑草や潅木が生い茂る広い平坦な湿地が広がり、南の方に傾斜しながら幾つかの小さい支谷を形成し、小さな川が流れている。

この湿地に降りると中は生い茂る草と水でぐしょぐしょ。よく見ると水溜りは赤茶け、油が浮いたようになっていて、鉄分が本当に多い湿地である事がうかがえる。

丸山東面に沿って広がる湿地　安積山製鉄遺跡

丸山東面に沿って広がる湿地　安積山製鉄遺跡の平坦部を鉄分の多い水が湿地を覆っている

安積山製鉄遺跡の北側部　城山南麓の平坦部　　「釜床」の地名標識が見える

安積山製鉄遺跡の北側部　　城山南麓の平坦部に残る　苔むした石垣

湿地とは反対側の北　城山の南麓にも数段に分かれた平坦部があり、ここにも色々製鉄関係の施設があったに違いないが、今はもう全くわからず。ただ、道路沿いを含めて幾つかの平坦部があり、「釜床」の地名も見える。また、時代はわかりませんが、苔むした石垣が数段残っていました。製鉄遺跡を引き継いで関係した建物があったかも知れません。

この安積山製鉄遺跡　周辺は中国山地の真っ只中であるが、明るい尾根筋。
集落のすぐ裏山で、因幡街道のすぐ横で実に開放的な場所。山を分け入るという感じがしない。
他の製鉄遺跡が人里はなれて山深く　谷をつめた場所を切り開いて存在するのとはちょっと印象が違う。
これは、この地の山々の尾根筋が赤茶けた色で判るごとく周辺一帯が本当に砂鉄豊富な場所であり、この山の両側すぐ横に川が流れ、品質の良い原料が大量に容易に手に入れられる場所である事。そしてこのことを軸に古くからの鉄の通商路が開けた街道筋であったことによると思われる。
まさに大製鉄地帯の真っ只中にあることの証がこの製鉄遺跡の位置なのかもしれない。
こんなに街道筋に近く　大きな製鉄遺跡があったことにビックリ。

丸山頂上部から眼下に広がる安積の町と西麓を流れる引原川

また、この遺跡は平安末期の遺跡であるが、この遺跡の東北には古代播磨風土記の産鉄地　御方里が在る。そこさらに生野・八鹿・丹後への道が延びている。
東には　柏里敷草村　千種・岩野辺から吉備・美作から出雲へ
また北には波賀町から産鉄地伯耆国・出雲へ。
いまだ　この地で古代の製鉄遺跡は見つかってはいないが、その伝承など考えると　この地を含め、西播磨北部は間違いなく大陸から畿内　また中国山地に広がる産鉄国を結ぶ古代の鉄の通商路 Iron Road の交差点。
鉄とともに多くの人々・文化が通っていったに違いない。
次は是非　三方　古代の御方里へ　そして　丹後についてももう一度考えてみたい。
豊富な高品質な磁鉄鉱系の砂鉄がありながら、他所からチタン含有量の多い砂鉄を用いた丹後遠所遺跡の製鉄技術。佐用ではチタン系　千種・揖保川周辺では磁鉄鉱系砂鉄が使われ、ここも古代の大きな時代の転換にかかわっていると思われる。そして若狭から越の国も・・・・・・・・。
これらが　畿内　大和政権の伸長　渡来人を巻き込んだ日本の覇権をかけての争いにかかわって・・・・。

最近の新聞では
「最近の加速器 C14 による年代測定の成果は目覚しく、弥生時代の倭国の卑弥呼の時代が、
どうも古墳時代の幕開けの時代と重なっている。
そうなると卑弥呼も今までの巫女的役割から深く鉄の覇権の中心的存在としての側面が
浮かび上がってくる。奈良の古墳群の評価見直しが始まっている」
との研究成果を伝えている。

奈良の鉄屋の仲間が纒向遺跡や箸墓遺跡を訪れ、興味津々と前にメールくれましたが、現実味をおびてきました。
いよいよ、産鉄民の神奈備山　三輪山　と卑弥呼の時代が結びついてくる。
三輪山は山麓に古い製鉄遺跡のある鉄の山　三輪明神　大神神社（おおみわじんじゃ）は三輪山を御神体として、大物主神を祀る。
「山と渓谷」3 月号では　神社で許可をもらえばこの三輪山の頂上に立てる。その眺望はすばらしい・・と。
全く意外　知りませんでした。
本当に暖かくなるのが待ち遠しい。

2004. 2. 11.　一宮町安積　安積山製鉄遺跡の帰り
播磨国の製鉄遺跡から日本誕生の和鉄の道に思いをめぐらしながら
by　Mutsuo Nakanishi

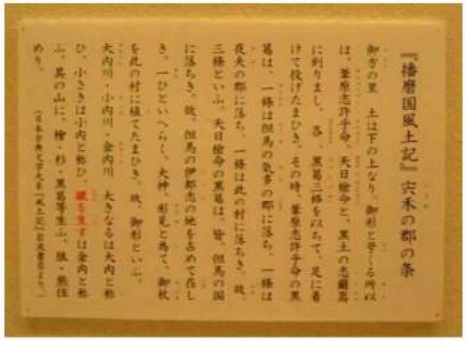
播磨風土記の和鉄【2】　御方里周辺　(宍粟郡一ノ宮町安積)
安積山製鉄遺跡(平安時代末期の製鉄遺跡)　探 訪　2004.2.11.

1. 古代産鉄の地「讃容里」大撫山の夜明けと朝霧　　佐用郡　佐用町
2. 古代産鉄の地「御方里」周辺　平安末期の安積山製鉄遺跡を訪ねて　　宍粟郡　一宮町　安積

【完】

播磨風土記にある鉄の里「御方里」一宮町「三方」を訪ねて

hrmkta.htm　by M. Nakanishi　2004.6.3.

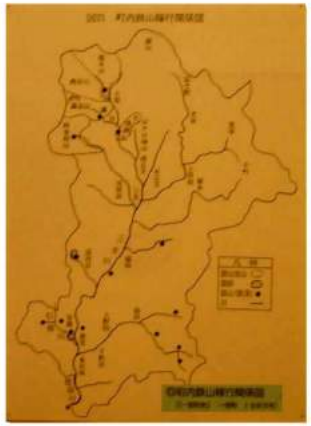
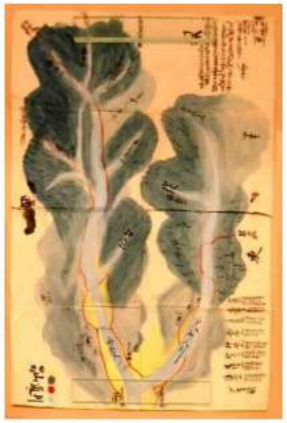

『播磨国風土記』宍禾の郡の条

御方の里　上は下の上なり。御形と平らぐる所以は、葦原志許乎命、天日槍命と、黒土の志爾嵩に到りまし、各、黒葛三條を以ちて、足に着けて投げたまひき。その時、葦原志許乎命の黒葛は、一條は但馬の気多の郡に落ち、一條は夜夫の郡に落ち、一條は此の村に落ちき。故、三條といふ。天日槍命の黒葛は、皆、但馬の国に落ちき。故、但馬の伊都志の地をもとめて在しき。一ひとへらくし、大神、形見と為て、御杖を此の村にぬきたまひき。故、御形といふ。大内川・小内川・金内川　大きなるは大内と称ひ、小さきは小内と称ひ、[illegible]は金内と称ふ。其の山に、檜・杉・黒葛生ふ。猿・熊住めり。

播磨風土記に産鉄の記載がある御方の里
2004.6.3.

４月に平安末期の製鉄遺跡「安積山製鉄遺跡」を「播磨風土記に記載のある産鉄地」揖保川流域の「御方里」周辺・一宮町として紹介しました。
その安積山製鉄遺跡のところで揖保川が左右の引原川と三方川にわかれ、その右側上流にあたる三方・公文川流域一宮町「三方」が播磨風土記記載の「御形」現在の「御方里」の中心地。
そこには、揖保川の上流三方川山にさえぎられ、三つの谷からの流れに分流する公文川が流れテいる。
播磨風土記にある大内・小内・金内川と考えられてきた。
そして、これら公文川流域にも古くからのたたら製鉄の痕跡が残っている。
山深い里でありながら、三方の扇状地の中央の丘には家屋遺跡があり、縄文・弥生時代から古墳時代へとづっと引き続いて集落があり、古代から中世には寝殿造りの立派な屋敷があり、この地がこの地方の中心地的存在であったと考えられる。

北の山間を縫って流れてきた左　引原川　右　三方川が安積山製鉄遺跡のところで合流した揖保川が山間を南に流れ下る。 引原川の奥も三方川の奥もそれぞれ、古い製鉄地帯。
またこの引原川流域から山一つ隔てた西が千種川流域の製鉄地帯である。

安積山製鉄遺跡のところから、狭い谷を三方川に沿って北へあが伝行くと以外にも奥深い谷筋に沿って広い平野部広がり、その奥は北の山々が壁になっている。この山の幾筋かの谷筋から、川がこの扇状地にながれこむ。ここが三方で、谷は南にのみ開いている。
この谷筋が古くは播磨風土記に記載がある産鉄地。また、この谷筋の製鉄地帯は江戸文化元年公文村山絵図として記録が残されている。
この「三方」の地からはいずれも山越えになるが、西には生野から但馬・丹後へ　北には但馬・伯耆そして、出雲へ　西には千種・美作　そして南には揖保川沿いに播磨へとつながる交通の要衝。
播磨・吉備・美作・伯耆・但馬・丹後と古代日本黎明の時代の中国山地に広がる大製鉄地を繋いでいる場所と見ることも出来る。

古代の和鉄の道の十字路にこの御方里が在ったのではないか・・・・
交通の便悪く中々いけませんでしたが、６月６日の午後やっと行ってきました。

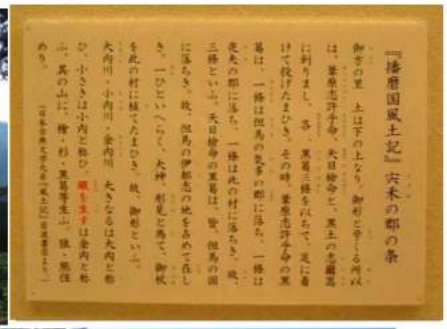
私達が実際に出かけたのは　山崎からまっすぐ揖保川沿いに一宮町を通って鳥取へ続く幹線国道ではなく、もう一つ西へ山並みを越えて、千種から、古代製鉄発祥伝説の地　岩野辺から山を越えて引原川の流域からまた、直接山を越えて三方に入った。
山から山へ谷をトラバースする道　おそらく古代の和鉄の道　周辺の山々には点々と産鉄の地の痕跡があるという山越えの道。 今は車１台がやっとの山越えで谷筋から谷筋へ渡る道。 古代和鉄のイメージが膨らむ山道だった。

一宮町立歴史資料館と家屋遺跡群のある史跡公園　　2004.6.3.

三方の中心の丘には家屋古墳群がひろがっており、周囲の山々が見渡せる。
今ここには一宮町歴史資料館が建ち、縄文・弥生から古墳・古代・中世の住居群が復元され良く整備された史跡公園となっている。歴史資料館にはこの一宮町の古代からの歴史並びに播磨風土記に記された古代から近年にいたる揖保川流域の製鉄について、安積山製鉄遺跡を中心に企画展示されていた。
このあたりの古代製鉄については、播磨風土記など伝承はあるもののきっちり製鉄遺跡として発掘調査整理されているのは安積山製鉄遺跡のみであり、その調査結果が展示されていた。
一番知りたかった古代製鉄の三方での痕跡については学芸員の方にも聞きましたが、安積山製鉄遺跡以前の遺跡は今もまだ見つかっていないとの事でした。

平安時代末期の製鉄遺跡　安積山製鉄遺跡展示　町立歴史資料館　播磨の鉄　企画展示より

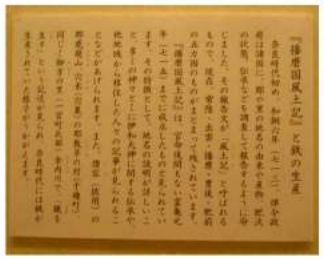
歴史資料館の少し北に行った山裾に播磨風土記に製鉄記事と共に記載があり、製鉄と関係深い大国主命を祭る御形神社がある。
「御形」「三方(三條)」の地名の起こりである。



大国主命を祭る御形神社　　2004.6.3.

千種から古代産鉄の地をたどる形で山越えの道をとって播磨風土記の「御方の里」へ入ったこともあり、本当に山また山の山奥にぱっと開けた地に出る。
古代においては表街道だったろう日本海側からくると本当にそんな気持ちになったろう。
そんな明るい地　古代和鉄の街道の十字路でなかったか・・・・
後背の山々を眺めながらそんなことを頭に浮かべていました。
帰りは南へ三方川沿いに「御方の里」の中を下って行く。
安積山製鉄遺跡の横へ出て、播磨一宮　伊和神社の森の横をそのまま一宮の町を山崎へ。　　気持ちの良い一日だった。
これで　随分長く引っかかっていた播磨風土記の鉄　千種岩野辺・敷草村　佐用・讃容　鹿庭山　一宮・宍粟　御方里　がやっとひとつにつながった。
いずれも　出雲・大国主命の足跡と関係した古代の先進製鉄群。
それらが盛衰を繰り返しながらも　大陸・朝鮮半島の技術を取り入れながらも大製鉄地へと発展してゆく。
このドラマがどんなだったのか・・・
　今はまだわからないが、千草鉄として日本の刀を支えた播磨の鉄黎明の歴史である。

2004.6.3.
夕日を横目に　揖保川沿いを姫路へ
Mutsu　Nakanishi



4.

奥播磨　古代の製鉄神 金屋子神降臨の伝承地 千種岩鍋にある近世の製鉄遺跡
大坂泉屋が経営した千種岩野辺(岩鍋)荒尾鉄山遺跡を訪ねる　2016. 7. 20.

古代の製鉄神 金屋子神降臨の伝承地の碑が建つ国道 429 号　岩鍋荒尾集落の入り口
右手奥に近世の鉄山跡が眠る荒尾山が見えている　2016. 8. 20.

.中国山地の峰が連なる古代からの奥播磨の製鉄地帯千種に是非訪ねたい製鉄遺跡がある。
中国山地から南へ流れ下る千種川水系と揖保川水系に挟まれた源流部一帯の谷筋には 千種鉄・宍粟鉄と呼ばれる古代からのたたらの郷　たたら跡が点在する。

二つの川を西の千種から鳥ヶ乢の山並みを隔てて東の波賀町斉木へ結ぶ国道429 号線。 古くからのたたらの郷を結ぶ街道である。
その千種側から鳥ヶ乢を越える峠道にかかる荒尾山の麓　荒尾集落の入り口に 「製鉄神 金屋子神降臨の伝承地 」の碑があり、 また　すぐそばに、10 年ほど前から荒尾山鉄山跡の案内標識が立っている。
この国道429 号を通るたびに気になり、資料も読んだこともあるのですが、たたら跡の現場に立ったことはなし。 ここから、荒尾山へ登る道が紹介されるようになり、その山歩きの記録の中に たたら跡が紹介されているのを幾つかが見つけ、 道筋が分かったので　ぜひ出かけようと。
7 月20 日早朝　　山中の様子がよくわからないので、朝早く飛び起きて ワクワクで出かけてきた久しぶりの古代製鉄神 金屋子神降臨の伝承地千種「岩鍋」 。やっと「荒尾山鉄山跡」を訪ねられたことに満足一杯でした。

奥播磨　佐用・宍粟の製鉄遺跡分布図

◆ 大坂泉屋が経営した千種岩野辺(岩鍋) 近世の荒尾鉄山遺跡

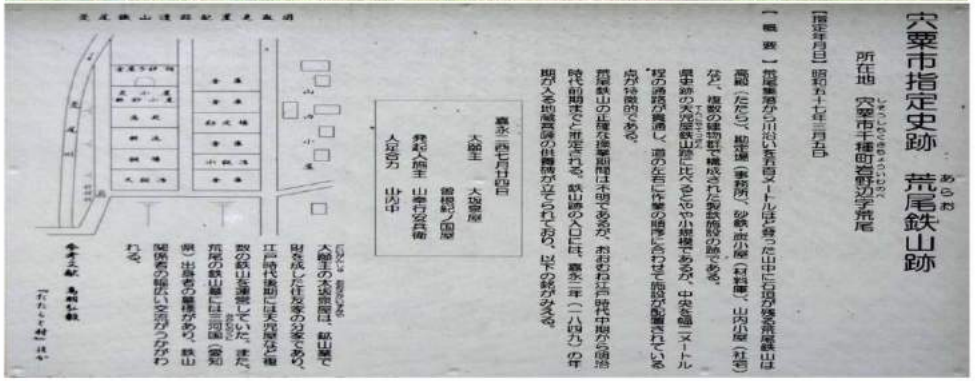
以前から国道429号線鳥ヶ巳の山越え道を通る毎に気にかかっていましたが、緑に包まれた山中に静かに残っていました。

夏の真っ青な空に堂々とした姿をくっきりと見せる鳥が巳の山々。緑の山中を流れ下る谷川　たたらの郷 岩野辺。荒尾の集落の奥　杉木立に包まれた荒尾山の林道に分け入ると　水しぶきを上げる谷川に沿って　幾段にも並んだ石組みが現れた。遺跡入口には、足元に小さな石仏が祀られて大岩が神々しく鎮座し、背後にそびえる荒尾山と相対する磐座を思わせ、一層　この一帯が「古代製鉄神　金屋子神降臨伝承地」との強い結び付きを感じました。

古代の製鉄神 金屋子神降臨の伝承地　千草岩鍋にある荒尾山鉄山製鉄遺跡　2016.7.20.

うれしい久しぶりの製鉄遺跡現地に身を置けて気分爽快。　遺跡の石組みを思い浮かべつつ、満足感いっぱい。

国道429号線の街道筋からは見えてこない　素晴らしいたたらの郷がひっそりと緑に包まれてありました。



ずっと気になっていた古代製鉄神 金屋子神降臨の伝承地「岩鍋」にある製鉄遺跡「荒尾山鉄山跡」
営まれた時代は古代からずっと後の江戸中期頃から明治初めの製鉄遺跡であるが、「岩鍋の地のどんなところで　鉄が吹かれたのか？」　興味津々でした。
緑に包まれた細い谷川が流れ下る荒尾山の山中の杉林の中に、ひっそり静かに鉄山跡の石組みが埋もれていました。本当に久しぶりに見る緑の中にうずもれたたたら跡　心地よい空間でした。

◎　案内板には石組みで区切られた鉄山の諸施設の位置と区割りが示されていましたが、石組みの台地の上には間伐された杉の枝や葉が覆われてたり、生い茂る樹木で覆われ、施設の痕跡を見ることはできませんでした。
◎　ただ　あちこち石組みの上を歩き回って、地面に落ちていた鉄スラグなどの小片を幾つか見つけることができました。荒尾山鉄山遺跡入口の大岩は今は緑に覆われた山中　余計に神々しく、遺跡背後にそびえる荒尾山と相対する磐座を思わせ、一層　この一帯が金屋子神降臨伝承地との強い結び付きを感じました。

なお、登山者の記録にこの鉄山の金屋子神の祠があるとあったので　あちこち鉄山の中を歩き回りましたが、見つけられませんでした。
(後日　千種町に照会しましたが、もう　今では祠跡はわからないでしょうということでした)
遺跡を後にして、荒尾集落を抜け、国道 429 号の集落入り口までもどって来ました。

このすぐ東の鳥が峠をトンネルで抜けて、揖保川水系の波賀町に抜ける。　この「峠」 不思議な地名であるが、千種周辺には「峠」とつく地名が多く、稜線越えの「峠」につけられた地名だという。
トンネルができるまでは鳥ケ峠の山の上まで登って、波賀町へ超える。　難度がかつて超えたことはあるのですが、トンネルができてからは越えたことなく、久しぶりに　鳥ケ峠の山の上の峠まで行ってきました。

古くからの街道筋であることを示す「峠」の伝承が残っている鳥が峠

7月20日　朝早く飛び起きて　ワクワクで出かけてきた久しぶりの千種のたたら跡
古代製鉄神　金屋子神降臨の伝承地「岩鍋」にある製鉄遺跡「荒尾山鉄山跡」を訪ねられたことに満足一杯。
うれしい久しぶりの製鉄遺跡現地に身を置けて気分爽快。　遺跡の石組みを思い浮かべつつ、満足感いっぱい。
国道 429 号線の街道筋からは見えてこない　素晴らしいたたらの郷がひっそりと緑に包まれてありました。
千種鳥ヶ巓の山並の山裾に広がるたたらの郷　岩野辺の田園を眺めながら千種の街へ下ってゆく。

奥播磨千種　製鉄神 金屋子神降臨の伝承地 千種岩鍋にある近世の製鉄遺跡
大坂の泉屋が経営した千種岩野辺(岩鍋)荒尾鉄山遺跡を訪ねる　2016.7.20.

ずっと気になっていた古代製鉄神 金屋子神降臨の伝承地「岩鍋」にある製鉄遺跡「荒尾山鉄山跡」
営まれた時代は古代からずっと後の江戸中期頃から明治初めの製鉄遺跡であるが、「岩鍋の地のどんなところで　鉄が吹かれたのか？」　興味津々でした。また、この製鉄遺跡が、別子の銅山開発で発展し、財閥になった住友の流れの泉屋の分家、泉屋理助家が千種などで広く鉄山経営をしていたその千種の鉄山の一つであることにも。

住友グループの住金も新日鉄のグループに入って　住友グループから遠くなってしまって、鉄の痕跡が消えていきそう。
相互に混じり合わぬ金属の水と油と 言われる鉄と銅。　でも銅鉱石には常に鉄鉱石成分が混じり隣り合う金属でもあり、
また　別子銅山でも銅から鉄の取り出しを試みたことがあると聞く。そんな金属商　泉屋の系譜の中にも、鉄商がある。
でも　泉屋と鉄のかかわりについてはよくわからず、住友の近代製鉄として取り上げられてきた。
でも　この千種ばかりでなく、中国山地のたたらの里には　ほかにも幾つか　泉屋の痕跡が残っている。
鉄商がどんな位置づけだったのかと　興味を抱いています。

緑に包まれた細い谷川が流れ下る荒尾山の山中の杉林の中に、ひっそり静かに鉄山跡の石組みが埋もれていました。
遺跡は私有地のためなのか、まだ詳細調査されぬままのようです。

◎　案内板には石組みで区切られた鉄山の諸施設の位置と区割りが示されていましたが、石組みの台地の上には
間伐された杉の枝や葉が覆われたり、生い茂る樹木で覆われ、施設の痕跡を見ることはできませんでした。
ただ　あちこち石組みの上を歩き回って、地面に落ちていた鉄スラグなどの小片を幾つか見つけました。

◎　荒尾山鉄山遺跡入口の大岩は今は緑に覆われた山中　余計に神々しく　遺跡背後にそびえる荒尾山と相対する
磐　磐座を思わせ、一層　この一帯が金屋子神降臨伝承地との強い結び付きを感じています。
そして、この入り口の大岩の下にある祠の地蔵尊の碑の裏には　この鉄山の安全や繁栄をを願う願主
泉屋の名が刻まれている。　「
鉄」と「銅」は常に隣り合う金属・鉱石であり、金属取り出しの製錬にも共通技術があったはず。
「分家とは言いながら技術の展開の中で、泉屋の分家が　鉄商を一括して担ってきたのではなかったか??」と
常々思いを巡らしてきました。
「鉄」と「銅」の近い関係を視点に　住友・泉屋が担った地域の産業育成・地域振興の役割などについても
さらにたたら跡がベールを脱げば　明らかになってゆくのではないかと期待している。

近い将来この遺跡や周辺がきっちり調査され、この岩鍋の地の製鉄伝承が
もっとクリヤーになっていくこにも期待したい。
暑いが、快晴の午後　たたらの郷千種の風を受けながら
久しぶりにたたら遺跡跡に立てた満足感一杯で千種を後にする

2016.7.20.　午後　満足感一杯で　千種川沿い原チャリを走らせながら

参考資料

1. 鳥羽弘毅氏著「たたらと村　千草鉄とその周辺で」 1997.3.10. 千種町教育委員会

2.【和鉄の道・Iron Road】　*by Mutsu Nakanishi*
西播磨の古代製鉄地帯　宍粟・佐用の製鉄関連遺跡　探訪 関連掲載

1. 古代鉄の大王国　播磨国 「千種鉄」「岩鍋」古代製鉄神　金屋子神　降臨伝承の地
http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/jstlbb01.pdf
2. 久しぶりに西播磨 古代からの製鉄の地「宍粟市千種」を訪ねる 2013.7.19.
千種天児屋たたら跡・岩鍋古代製鉄発祥の地伝承の碑を訪ねる
http://www.infokkkna.com/ironroad/2013htm/iron9/1308chigusa00.htm
3. 奥播磨　千種川に注ぐ志文川源流　たたらの郷　宍粟市山崎町小茅野（こがいの）集落を訪ねる　2010.7.20　.
http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/10iron08.pdf
4. たたらの郷に「ジキタリス」の花園を訪ねる　　2009.6.21.
奥播磨黒尾山西北山麓　宍粟市山崎町　野々隅原 大国牧場　花のWalk
http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/9iron07.pdf
5. たたら製鉄 砂鉄採取の地形　西播磨　砥峰高原　一面ススキが覆いつくす　砥峰高原　　2007.10.
http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/7iron18.pdf
6. 産鉄の地　「御方里」の里を訪ねて　一宮町　2004.6.
http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/4iron10.pdf
7.「御方里」周辺　安積山製鉄遺跡探訪　一宮町　2004.2.
http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/4iron07.pdf
8. 古代製鉄の一大生産地「讃容の里」Walk　　西播磨　佐用町　大撫山製鉄遺跡を訪ねて　2003.11.
http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/4iron01.pdf

鳥取県千種　製鉄神 金屋子神降臨の伝承地 千種岩鼻にある近世の製鉄遺跡
大坂の豪屋が経営した千種岩野辺(岩鼻)荒尾鉄山遺跡を訪ねる　2016.7.20.
「製鉄神 金屋子神降臨の伝承地」碑が建つ国道29号　千種岩野辺荒尾の標入口　2016.7.20.

鳥取県千種　製鉄神 金屋子神降臨の伝承地 千種岩鼻周辺のgoogle写真

1. 山崎と千種・佐用の境切窓峠を越えて
深い山間佐用下三河から千種川を遡って千種へ遡る
久しぶりに原チャリで 山崎断層の中 切窓峠を越える 2016.7.20.

中国山地千種・宍粟　三つの水系 たたらの山麓を結ぶ街道と広域基幹林道 峰山線
千種～鳥ガ峰トンネル・波賀～宍粟・一宮 佐方駅前・広域基幹林道・岩崎高原・神崎町寺前
(西) 千種川水系～鳥ガ峰～揖保川支系～播州高原(林道峰山線)～市川水系 (東)

千種 荒尾鉄山遺跡
千種川
小茅野
播州高原鉄山遺跡
千種 岩鼻
播磨社跡（佐用郡・宍粟郡）の製鉄遺跡

荒尾鉄山遺跡
荒尾鉄山遺跡見取図
荒尾川
山内小屋
岩野辺自治会

大坂屋たたら跡
荒尾山
千種町千種
千種荒野
小茅野
野々隅原
塩尾山
安部
切窓峠
下三河
土万
下野
佐用郡
千種川

宍粟郡北近世鉄山・鉄穴山跡
鳥取県
千種町
宍粟市
佐用郡

鳥取県千種　製鉄神 金屋子神降臨の伝承地 千種岩野辺にある近世の製鉄遺跡
大坂の豪屋が経営した千種岩野辺(岩鼻)荒尾鉄山遺跡を訪ねる　2016.7.20.
「製鉄神 金屋子神降臨の伝承地」碑が建つ国道29号　千種岩野辺荒尾の標入口　2016.7.20.

切窓峠を西へ下ると狭い荒原路に挟まれて狭い平地に田圃が広がる高根の集落
その中央を南へ千種川水系志文川が、千種川とは合流点へ流れ下る

高根の田圃を流れ下るたたらの郷をはぐくんだ千種川水系の志文川 2016.7.11.
中央に見える土万の集落から西へ峠を越えると 佐用・千種
まっすぐ志文川を北へ遡れば 山深い千種のたたらの道　千種・大沢や塩巣・小茅野・内海のたたらの郷へ

中国山地千種・宍粟　三つの水系 たたらの山麓を結ぶ街道と広域基幹林道 峰山線
千種～鳥ガ峰トンネル・波賀～宍粟・一宮 佐方駅前・広域基幹林道・岩崎高原・神崎町寺前
(西) 千種川水系～鳥ガ峰～揖保川支系～播州高原(林道峰山線)～市川水系 (東)

「製鉄神 金屋子神降臨の伝承地」碑が建つ国道29号　千種岩野辺荒尾の標入口　2016.7.20.

いつもは 峠を下って通過してしまう高根の集落の田圃の中に入り
志文川が流れ下ってきた 本郷土万集落の向こうに点々と散く千種のたたらの郷野に思いをはせる

佐用土万の海の山間を抜けると見慣れた山に囲まれた下三河の郷への街道 2016.7.20.
切窓峠を下ると千種・佐用の分岐の「下野」田圃が峠の広がる「字鍋の内」この山間に沿って
北の千種から南へ千種川が流れ下ってくる。 「字鍋 内」佐用 郡 千種 である

三隅の橋を渡げるとすぐそばを赤穂の千種川　JRに沿う人の姿。
小さな盆地が広がる千種川沿線の穂波的佐良心

佐用へ向かう県道55号と別れ　北へ千種川に沿って山奥を千種へ進む　2016.7.11.　三河の橋

「千種鉄の道」の千種下河野(しもげの)の一里塚　4327
江戸時代、主要街道沿いには一里塚が置かれましたが、それが地方に進出したものと考えられている。ウケコは4.1mの木造平屋建て、屋根は茅葺の宝形造り。
かつてはここから南へ、播磨峠を越えて佐天川沿いの大的集落へ出て、山崎方面と約3.5日道程であり、千種産の鉄や炭が、山崎からは食料品や衣料が、それぞれ運ばれて行ったという。
この播磨峠経えの道は　江戸時代　北の千種藩(3万石)に由来する藩山で作られた千種鉄のほとんんが、この峠道を通って、山崎から上方方面へ送られたといい、この播磨峠越の道は歴史街道"千種鉄の道"。

下河野の橋　さらに北へ千種川を遡ると正面に千種の山並み　三室山が見え、千種の街は近い

下河野の橋　さらに北へ千種川を遡ると正面に千種の山並み　左に　右に三室山が見え、千種の街は近い

下河野の橋　橋を渡ると　千種川の谷間には　両岸に山が迫り　[illegible]

かつては大いに栄わった播磨鉄山跡の中心地の中の一つ千種の町。今は静かであるが、千種川に沿って今もふる里感のある風景が観光客を誘っている。
最新の金沢鉄の産地は北東の点在する藩領地、千種の地はいまもその中心であることに変わりはない。　千代鉄鉄の生産が「千草」の千種で、いろいろな交通会社その営業エ[illegible]たちが[illegible]ある風景が点在しも千草・大蔵高原へ真っすぐ行くのですが、少しふりに寄へ[illegible]して　国道429号線へ。

七野の橋に入ると渓谷がひらけ、笹石山から後山・駒の尾山へと続く千種川の西岸の山並みをバックに千種の街が遠望される　2016.7.11.　10:32

千種からまっすぐ東へ　国道429号線が鳥ヶ崎を越えて、新宮川が流れ下る多賀町へ延びている。北には姫和山から笹間山　鳥ヶ崎山山並みが望とり、南には高尾山の北面に延びるなだらかな丘陵地に挟まれた広い谷間を鳥ヶ崎より谷筋沿いが流れ下る。この山間の神崎の集落の前側山の中には古いたたら跡の高たたらの跡が点在する広くらの高炉跡や千種のたたら製鉄地帯である。
この岩野辺に近いの河内区辺の民間伝承には　かつて近隣の石だった岩野辺のサクら集落が点在。その一番奥　荒尾山の鳥ヶ崎の神社にかかるところに岩野辺荒尾集落があり、この国道429号の集落へ入り口のところに、「古代製鉄神 金屋子神伝承の地」碑が建っている。この国道の北、荒尾山山中の谷沿いにたがら荒尾集落の奥に目指すJR中国から明治の初めにかけて、大規模製が経営した荒尾鉄山跡がひっそりと残っている。資料や天然質たちの案内等で何度か探索を試みたことはあるのですが、今もこのたたら跡の山は私有地で立ったり調査のもてない状態。
千種を抜けるたびに　眺めにはいつも国道429号。
「古代製鉄神 金屋子神伝承の地」の碑や荒尾集落入口にある「荒尾山鉄山道跡」の案内掲示を始めるのですが、荒尾山のたたら跡に足を踏み入れたことはなく、今回が初めて。
降雨凍々で岩野辺川沿いに広がる岩野辺集落の郵国風景を楽しみながら千種から東へ。

千種から西へ国道429号　千草で　岩野辺川に沿う谷筋を岩野辺荒尾　荒尾山鉄山道跡へ

千種から西へ国道429号　千草で　正面に鉄鉄山が見える　2016.7.20　10:40

千種から西へ国道429号 千草で 岩野辺川に沿う谷筋を岩野辺荒尾 荒尾山鉄山道跡へ 10:39

千草の街から　国道429号を東へ　岩野辺地区に入る　2016.7.20　10:43
正面に　荒尾山の山並みが迫っている
千種の周辺には「鉄」比ゴ地名が多くの残っていて、鉄鉄や鉄鉄を越える「峠」の意味でつけられている。

千草の街から　国道429号を東へ　岩野辺地区に入る　2016.7.20.

岩野辺川近傍に荒尾山・島ヶ嶽の山並　2016.7.20.

国道429入口から奥の谷筋　荒尾山を望む

荒尾川の岩野辺川岸より　岩野辺地区を眺める　2016.7.20.

岩野辺より　振り返って西側千種の街&千種川西岸　鍋山鉄鉱の山並　2016.7.20.
右端に牛神の祠が見得　現在は、その使うに祠は見えなくなって見えている　10:49

後の北側　奥の谷に岩野辺荒尾山集落がある
樹木の陰に家が見えるのが、荒尾山　この山中の谷筋に　荒尾山たたら遺跡が残っている。

荒尾集落へ入る　山肌に取り囲まれた小さな荒尾川のお屋敷一本道が奥へ奥へと誘ってゆく
母屋の山の麓斜面に連座く農地がある　集落の家屋は その様
また　集落の背後　奥に荒尾山の峰が見えている。　2016.7.20.

国道429号から　後の岩野辺川の谷から荒尾山・島ヶ嶽の山並　2016.7.20.

国道道脇に「古代製鉄神 金屋子神伝来の地」碑が建つ岩野辺荒尾集落入口　2016.7.20.

荒尾集落は10数軒でしょうか？　小さな集落　2016.7.20.
すぐ裏の杉林で集落を抜け、林道が荒尾山山麓に延びていました。

岩野辺の集落を抜け、島ヶ嶽の峠道にかかる　交通量も少なく静かな山中である　2016.7.20.

国道道脇に「古代製鉄神 金屋子神伝来の地」碑が建つ岩野辺荒尾集落入口　2016.7.20.

川に沿って林道へ道が続く

荒尾の集落を抜けさらに奥へ少し行くと林道の入り口　獣除け柵があり、
傍らに荒尾山登山口の案内標柱がたっていました　荒尾山鉄山はこの奥である　2016.7.20.　11:01

荒尾の集落を抜けさらに奥へ林道を行く　2016.7.20.
集落を抜けるとすぐ砂利道の長いカーブに差掛かる。整備された荒尾茶の畑が幾分。
この辺りは昭和「荒尾茶」の生産量が第二位の時期の頃に、茶畑の山々一帯は代々荒尾家によって　守られてきたのだろう。

地元の人たちによって建てられた案内板が建つ荒尾川沿いの荒尾山鉄山跡への入口　2016.7.20.

谷あいの中　荒尾川に沿う林道を少し登ると林道がエ字カーブする角に看板が立っているのが見える
この場所が、案内板のある道を右荒尾山鉄山跡への入口である　2016.7.20.

荒尾山鉄山跡入口　荒尾川沿いの道への入口が十字路　2016.7.20.

荒尾山鉄山跡入口にある地蔵さんを拝んで祈願所　2016.7.20.
傍の裏に刻まれた銘文から、高石地域の鉄山を運営していた大阪豪商らが山内の安全や
良質の鉄の製造を祈願したものと思われる。

古代の製鉄神 金屋子神祭祀の伝来地　千早赤阪村にある荒尾山鉄山跡遺跡　2016.7.20.
[illegible]

荒尾山鉄山の入口　大岩と荒尾山鉄山の説明板　2016.7.20.　11:09

江戸中期から明治初め　近世の鉄山　荒尾山鉄山跡　20106.7.20.
石組みで段々に整地された鉄山施設があった場所の中央を
高殿のある上部奥へ真っすぐ　坂道がのびている。
この道が鉄山の中央道だろう

江戸中期から明治初め　近世の鉄山　荒尾山鉄山　施設配置図

江戸中期から明治初め　近世の鉄山　荒尾山鉄山跡　20106.7.20.
石組みで段々に整地された鉄山施設があった場所の中央を
高殿のある上部奥へ真っすぐ　坂道がのびている。
この道が鉄山の中央道だろう

荒尾山鉄山跡　20106.7.20.
鉄山製造所があった石組みで段々に整備された台地には　踏ならしたおの跡や木本や
広木などが高殿を囲っていて、鉄山製造所の建屋はよくわからない

荒尾山鉄山跡　最上部(中央道左)　この立派な石組みの上が高殿と思われる　2016.7.20.

荒尾山鉄山跡　左に荒尾川が流れる石組みで段々に整備された最上部(中央道左)　20106.7.20.
この部分が高殿と思われるが、大きな石組みの上が平屋かよくわからない。

荒尾山鉄山跡　最上部(中央道左)　高殿と思われる石組みの上　2016.7.20.

荒尾山鉄山跡 最上部(中央道左) 高殿と思われる石組みの上
荒尾山鉄山跡 最上部(中央道右)

荒尾山鉄山跡 上部

荒尾山鉄山跡 最上部

荒尾山鉄山跡 上部

荒尾山鉄山跡 左に荒尾川が流れる石組みで段々に整備された跡地を上から眺める(中央道左)" (2016.7.20)

荒尾山鉄山跡 上部の谷地で見つけたたら 鉄塊 2016.7.20

荒尾山鉄山跡 上部の谷地で見つけたたら 鉄塊 2016.7.20

荒尾山鉄山跡 中央道石山後背地から眺める 2016.7.20
右奥に高殿跡のある石組みが見える

荒尾山鉄山跡 中央道 2016.7.20

荒尾山鉄山跡 山間の水流れを眺望用 2016.7.20

荒尾山鉄山跡 上部の谷地から荒尾川を眺める 2016.7.20

荒尾山鉄山跡を後にして次の目的地へ 2016.7.20 12:00

杉木立の中の林道を戻る 2016.7.20

林道入口に戻って 荒尾川の水面に入って 川面を眺めながら昼食に 12:00

ずっと気になっていた古代製鉄神 金屋子神降臨の伝承地「岩屋」にある製鉄遺跡「荒尾山鉄山跡」
渡来人と時代は古代からずっと後の江戸中期頃から明治初めの製鉄遺跡であるが、「岩屋の地のどんなところで 鉄が吹かれたのか？」興味津々でした。
谷に沿された細い谷川が流れ下る荒尾山の山中の杉林の中に、ひっそり静かに昔山頂の石組みが埋もれていました。本当に人しぶりに見る緑の中にうずもれたたたら跡 心地よい空間でした。
◎ 案内板には石組みで区切られた鉄山の諸施設の位置と説明が示されていましたが、石組みの台地のようには 貫性された杉の枝や葉が覆われてたり、生い茂る樹木で覆われ、施設の痕跡を見ることはできませんでした。
◎ ただ、あちこち石組みの上を歩き回って、地面に落ちていた鉄スラグなどの小片を幾つか見つけることができました。
荒尾山鉄山遺跡入口の大岩は今は林に覆われた山中 森林に神々しく
遺跡発掘にさりまた荒尾山と検索する解説を書わず、
一帯 この一帯が金屋子神降臨伝承地と中国い地分付きを感じ、
また、昔山香の登頂にこの鉄山の金屋子神の祠があるとあったので あちこち鉄山の中を歩き回りましたが、
見つけられませんでした。(後日 千種氏に聞きましたが、もう そこは神跡はわからない」ようなことでした)
集落の背後に荒尾山がそびえる荒尾集落に戻ってくる 2016.7.20. 12:50

旧国道429「鳥ヶ亀」の峠はどんなとこ？ 行ってみました
宍粟市
千種町
入口
国道429
鳥ヶ亀トンネル
内海
国道429 鳥ヶ亀 旧道分岐

「鳥ヶ亀」 国道429号はこの下のトンネルで抜けている 2016.7.20. 12:35
荒尾山の登山口の鉄柵が道の脇に立っている

宍粟市指定史跡 荒尾森山城

「鳥ヶ亀」 トンネル分岐から一気に内海の集落を抜けて 曲がりくねった谷道を イロハ ループ状に登り詰めると道は峠の中早部になり、鳥のトリカのモニュメントがある峠に
ここが「鳥ヶ亀」でした 2016.7.20. 12:38

トリガダワの由来
鳥ヶ亀の由来の案内板 2016.7.20. 12:40

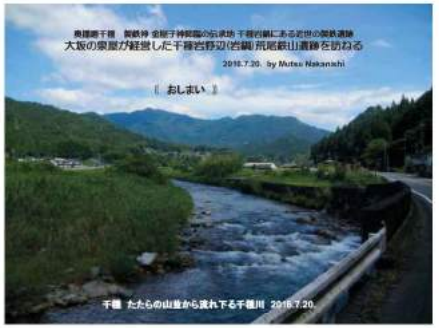
荒尾山登山口にある大岩とその下にある地蔵さんを「縛んだ石」 2016.7.20.
峠の道に刻まれた歴史から、昔は峠の頂上を渡っていた大事な道から外れ山中の安全や
豊作の願の意味を示唆しているのではないか。

奥播磨千種 製鉄神 金屋子神祠跡の伝承地 千種町鳥にある近世の製鉄遺跡
大坂の泉屋が経営した千種岩野辺(岩鍋)荒尾森山遺跡を訪ねる 2016.7.20.

峠の石碑に出会った日 2016.7.20.
奥播磨（宍粟郡）山の中に、鉄に生きる人々の風景が浮かび、
それをつなぐ道が山の峠を越えて広がっていた。

関連遺跡に古代製鉄神 金屋子神伝承の地」碑が建つ岩野辺荒尾尾根入口 2016.7.20.

参考資料
1. 鳥羽弘毅氏著「たたらと村 千草炭とその周辺」1997.3.10. 千種町教育委員会
2. 【和鉄の道-Iron Road】 by Mutsu Nakanishi
西播磨の古代製鉄地帯 宍粟・佐用の製鉄関連遺跡 探訪
1. 古代鉄の大王国 播磨国「千種鉄」が鉄(古代製鉄神 金屋子神 鳥羽伝承の地
2. 久しぶりに西播磨 古代たたらの製鉄の地「宍粟市千種」を訪ねる 2013.7.16.
千種文化館「たたら館」 地域古代製鉄有材の地位の地を訪ねる
3. 奥播磨 千種川に立て金文化国風 たたらの源 神聞市山崎町小茅野（こがいの）海湯を訪ねる 2010.7.20
4. たたらの郷の「ジャ小ジル」の花園を訪ねる 2009.6.21.
奥播磨千種山間部 宍粟市山崎町、新宮町鳥居 大国駅等 花のWalk.
5. たたら製鉄 砂鉄採取の地形 西播磨 姫路市屋 一宮氏入りが建いつ(ず 姫路市屋 2007.10.
6. 道跡の地「陣方屋」の道を訪ねて 一宮町 2004.6
7. 陣方屋（陣屋）安倍山製鉄遺跡探訪 一宮町 2004.2.
8. 古代製鉄の一大生産地「蔵掌の里」(Wall. 西播磨 佐用郡 大津山製鉄遺跡を訪ねて 2002.11.


奥播磨千種 製鉄神 金屋子神祠跡の伝承地 千種町鳥にある近世の製鉄遺跡
大坂の泉屋が経営した千種岩野辺(岩鍋)荒尾森山遺跡を訪ねる
2016.7.20. by Mutsu Nakanishi
『 おしまい 』
千種 たたらの山並から流れ下る千種川 2016.7.20.

古代の製鉄神 金屋子神降臨の伝承地 不草岩鼻にある荒尾山製鉄遺跡
山紫から国道429号線沿いを約1.5キロ進み道を渡り橋に気づかずにいましたが、峠に刻まれた山中に静かに佇っていました。
夏の暑い青い空に突かれた石碑をくぐりと見せる鳥が鳴のはず 峠の山中を流れ下る谷川 たたらの郷 砂鉄採 荒尾の森 砂鉄加工技術と荒尾山の林道に分け入ると 対しかをよけ谷川に沿って 海岸に生息した石鳥が現れた。 遺跡入口 見出に小さな石碑が建ててある天神さまが、 背後にそびえる荒尾山と対峙する関係を思わせる。
一説 この一帯が金屋子神降臨伝承地とされ強い地位付けを感じました。 うれしい久しぶりの製鉄遺跡現地に身を置けて気分爽快。 遺跡の石碑が見あい思わずパシャ。 清涼感いっぱい。
国道429号線沿の街道沿から約更天そこ近い 美味しいおいたらの郷がひっそりと峠に売られてあり買った。
千種鳥ヶ亀の山王の山頂に立がったたらの郷 岩野辺の竹屋谷の近から千種の街へ下って行く。
「古代製鉄神 金屋子神伝承の地」碑が建つ岩野辺荒尾尾根入口を通過して千種へ 2016.7.20. 12:50

岩野辺川正面に荒尾山・鳥ヶ亀の山塊 2016.7.20.

A鷲巣山
A三国山
東京
大阪
京都
A室谷山
A南今城
岡内
佐文
三方峠
千種
鳥ヶ亀
内海
姫路高原
広域農道
梅山
高原
大河内発電所
小茅野
鳥居山A
宍粟
一宮町
伊和神社
宮原
社の石碑
神岡町
中垣
佐用町
下三河
佐用町下新
中国山地千種・宍粟 三つの水系 たたらの山並を縫う姫路と広域高速幹線道 梅山隧
千種～鳥ヶ亀トンネル～峠賀～一宮～佐方坂峠 ～広域高速幹線道～姫路高原～神岡町中垣
(西)：千種川水系～鳥ヶ亀～千種川支系～播州高原(幹線道梅山隧)～市川水系 (東)

和鉄の道・Iron Road　宍粟・佐用の鉄　関連 掲載記事　URL: アクセスリスト

和鉄の道・Iron Road 日本の源流・製鉄関連遺跡探訪リスト　by Mutsu Nakanishi

和鉄の道・Iron Road に掲載してきた「西播磨のたたら製鉄」関連遺跡や地域探訪記事をリストアップしました
次ページにある掲載記事のURLリンクをclickすることで、記事のインターネットファイルにアクセスできます

和鉄の道・Iron Road　宍粟・佐用の鉄　関連 掲載記事　URL: アクセスリスト

1. たたらの話 あれこれ（たたら製鉄概説）－ 風来坊　和鉄の道を訪ねて －　2010. 1 月
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/10iron01.pdf
   - Iron road　たたらの源流
   - 日本独自の直接製鉄法　たたら製鉄
   - たたらの起源 & 関連の言葉や地名
   - 奥出雲・播磨　たたら「金屋子神」の伝承
   - 日本各地に残る和鉄の道　風景リスト
   - 東アジア　鉄の歴史年表　中国・朝鮮・日本
2. 古代鉄の大王国 播磨国「千種鉄」 古代製鉄神　金屋子神　終焉伝承の地「岩鏡」 2001. 1 月
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/jstlbb01.pdf
3. 播磨国 風土記　和鉄の道【1】
   古代製鉄の一大生産地「讃容の里」Walk　2003. 11 月
   西播磨佐用町　大撫山遺跡を訪ねて
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/4iron01.pdf
4. 播磨国 風土記　和鉄の道【2】
   「御方里」周辺 安積山遺跡（平安末期の遺跡）探訪　一宮町　2004. 2 月
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/4iron07.pdf
5. 播磨国風土記　和鉄の道【3】
   産鉄の地　「御方里」の 里を訪ねて　一宮町
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/4iron10.pdf　2004. 6 月
6. たたら製鉄の原料　砂鉄採取の地形が残る西播磨　砥峰高原　2007. 10 月
   花咲く西播磨の火山郷　一日ススキが輝くすすき　砥峰高原
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/7iron18.pdf
7. 奥播磨　かつてのたたらの郷に「ジキタリス」の花園を訪ねる　2009. 6 月
   奥播磨上郡北山麓　宍粟市山崎町野々隅原　大蛇敷場　花のWalk
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/9iron07.pdf
8. 奥播磨　千種川に注ぐ枝川流域　2010. 7 月
   たたらの郷　宍粟市山崎町小茅野（こがしの）集落を訪ねる
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/10iron08.pdf
9. 千種川流域に咲くひまわり畑と製鉄神「天目一箇神」を祭る「天一神社」を訪ねる　2012. 8 月
   ひまわりの里 2012　古代たたらの郷　佐用　西播磨佐用町（旧南光町）林崎
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/12iron06.pdf
10. 久しぶりに西播磨 古代からの製鉄の地「宍粟市千種」を訪ねる」　2013. 7 月
    千種天児屋たたら跡・岩鏡古代製鉄発祥の地伝承の碑を訪ねる
    1. 江戸初期から明治まで操業の千種 西河内 天児屋鉄山跡再訪
    2. 今コリ火の花咲く帝のちぐさ高原の「コリ園」に立ち寄る
    3. 千種川水系家千種から東の揖保川水系へ　山越ルート国道４２９号線
    宍粟の製鉄地帯の中心部　岩鏡の古代製鉄発祥の地碑 & 波賀・一宮町から山崎へ
    http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/13iron10.pdf
11. 雨に先駆けて山麓の湿地に　ひっそり咲くピンクの花　クリンソウ
    千種 天児屋たたら跡に咲くクリンソウを訪ねる　2015. 5. 月
    http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/15iron08.pdf
12. 奥播磨千種 古代の製鉄神金屋子神終焉の伝承地 千種岩野辺（岩鏡）　2016. 8. 月
    近世の製鉄遺跡 大坂豪商が経営した荒尾山鉄山遺跡を訪ねる
    1. 山崎と千種・佐用の境切畑峠を越えて　佐用下三河から千種川を遡って千種へ
    2. 千種から西へ国道 429 号　岩野辺川沿道を岩野辺荒尾　荒尾山鉄山遺跡へ
    3. 荒尾山鉄山製鉄遺跡　荒尾山山中のたたら跡を歩く
    4. 国道２９号線がトンネルで抜ける鳥ケ乢　旧４２９号で山を登り鳥ヶ乢の「峠」へ
    http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/16iron09.pdf
13. 奥播磨の中国山地から古代たたらの郷を流れ出た千種川の河口　赤穂 】　2017. 8. 月
    兵庫 100 名山 赤穂市「黒鉄山」と赤穂千種川河口walk－千種川 砂鉄の源流を探して －
    http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/17iron06.pdf

【番外】■「初期大和王権の成立に大きな役割を演じた西播磨」
西播磨で古墳時代後期末の鉄器伴出の竪穴式住居 伊孔・井田遺跡を訪ねる　2011. 3 月
http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/11iron02.pdf

【番外】■ 和鉄の道 【3】 口絵 2003
たたら製鉄が地域 の自然や文化に与えた影響　2004. 1 月
赤穂に塩田を作りだした播磨北部のたたら製鉄より
http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/ir3kc04.pdf

和鉄の道・Iron Road 掲載　西播磨の鉄【宍粟・佐用】主要記事　リスト by Mutsu Nakanishi

1. たたらの話 あれこれ〔たたら製鉄概説〕－ 風来坊　和鉄の道を訪ねて －　2010.1 月

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/10iron01.pdf

- Iron road　たたらの源流
- 日本独自の直接製鉄法　たたら製鉄
- たたらの語源 ＆ 関連の言葉や地名
- 奥出雲・播磨　たたら「金屋子神」の伝承
- 日本各地に残る和鉄の道風景リスト
- 東アジア　鉄の歴史年表　中国・朝鮮・日本

2. 古代鉄の大王国 播磨国「千種鉄」古代製鉄神　金屋子神　降臨伝承の地「岩鍋」2001.1 月

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/jstlbb01.pdf

3. 播磨国 風土記　和鉄の道【1】　2003.11 月

古代製鉄の一大生産地「讃容の里」Walk　西播磨　佐用町　大撫山製鉄遺跡を訪ねて

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/4iron01.pdf

4. 播磨国 風土記　和鉄の道【2】　2004.2 月

「御方里」周辺　安積山製鉄遺跡(平安末期の遺跡)探訪　一宮町

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/4iron07.pdf

5. 播磨国風土記　和鉄の道【3】　2004.　6 月

産鉄の地　「御方里」の 里を訪ねて　一宮町

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/4iron10.pdf

6. たたら製鉄の原料　砂鉄採取の地形が残る西播磨　砥峰原　2007.10 月

初秋の 西播磨の山郷　一面ススキが覆いつくす　砥峰高原

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/7iron18.pdf

7. 奥播磨　かつてのたたらの郷に「ジキタリス」の花園を訪ねる　2009.6 月

奥黒尾山西北山麓　宍粟市山崎町野々隅原　大国牧場　花の Walk

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/9iron07.pdf

8. 奥播磨　千種川に注ぐ恋文川源流　2010.7 月

たたらの郷　宍粟市山崎町小茅野（こがいの）集落を訪ねる

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/10iron08.pdf

9. 千種川流域のひまわり畑 と 製鉄神 天目一筒神の「天一神社」を訪ねる　2012.8.月

ひまわりの夏 2012　古代たたらの郷　佐用　西播磨佐用町（旧南光町）林崎

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/12iron06.pdf

10. 久しぶりに西播磨 古代からの製鉄の地「宍粟市千種」を訪ねる」　2013.7 月

千種天児屋たたら跡・岩鍋古代製鉄発祥の地伝承の碑を訪ねる

1. 江戸時代初期から明治まで操業の千種 西河内　天児屋鉄山跡再訪
2. 今ユリの花満開のちぐさ高原の「ユリ園」に立ち寄る
3. 千種川水系家千種から東の揖保川水系へ　山越ルート国道４２９号線

宍粟の製鉄地帯の中心部　岩鍋の古代製鉄発祥の地碑　波賀・一宮町から山崎へ

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/13iron10.pdf

11. 雨に先駆けて山麓の湿地に　ひっそり咲くピンクの花　クリンソウ　2015.5.月

千種 天児屋たたら跡に咲くクリンソウを訪ねる

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/15iron08.pdf

12. 奥播磨千種 古代の製鉄神金屋子神降臨の伝承地 千種岩野辺(岩鍋)　2016.8.月

近世の製鉄遺跡 大坂泉屋が経営した荒尾山鉄山遺跡を訪ねる

1. 山崎と千種・佐用の境切窓峠を越えて　佐用下三河から千種川を遡って千種へ
2. 千種から西へ国道 429 号　岩野辺川に沿う谷筋を岩野辺荒尾　荒尾山鉄山遺跡へ
3. 荒尾山鉄山製鉄遺跡　荒尾山山中のたたら跡を歩く
4. 国道２９号線がトンネルで抜ける鳥ケ乢　旧４２９号で山を登り　鳥ヶ乢の「峠」へ

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/16iron09.pdf

13. 【風来坊･Country Walk】 毎年春になると待ちかねて　出かける播州路　2017.4.12.

2017 春 たたらの郷 西播磨佐用へ　原チャリで駆ける

2.1. 古代たたらの里の一本桜 漆野 光福寺の大糸桜

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/walk/17walk06.pdf

14. 奥播磨の中国山地から古代たたらの郷を流れ出た千種川の河口　赤穂 】　2017.8.月

兵庫 100 名山 赤穂市「黒鉄山」と赤穂千種川河口 walk－千種川 砂鉄の痕跡を探して －

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/17iron06.pdf

【番外】■「初期大和王権の成立に大きな役割を演じた西播磨」

西播磨で古墳時代後期末の鍛冶炉跡が出土有年 牟礼・井田遺跡を訪ねる　2011.3 月

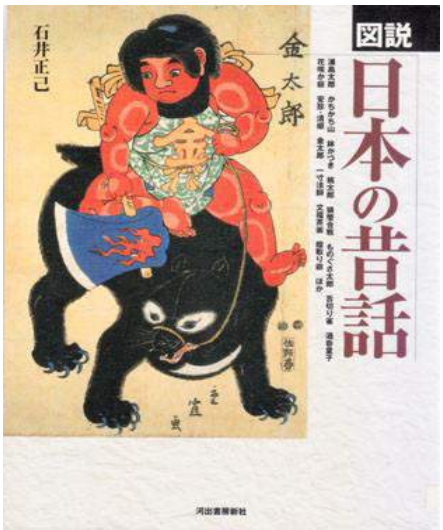
【番外】■　和鉄の道　【3】口絵　2003　たたら製鉄が地域 の自然や文化に与えた影響

赤穂に塩田を作りだした播磨北部のたたら製鉄より

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/ir3kc04.pdf

上記リストのほか、毎年四季折々の風景を訪ねて西播磨を訪問した記事　西播磨たたらの里の四季の掲載記事が多数「風来坊 Country walk」に掲載しています

滋賀県湖北 伊吹山山麓 近江国旧坂田郡 長浜市西黒田に残る金太郎伝承



坂田金時　金太郎さんは　古代の鍛集団・鉄の古代豪族　息長氏の子供だという
それで　赤い顔して　金印の腹当てをして鉞をかつぐのだという
初めて知る　息長氏の本拠地・長浜に伝わる金太郎の古代鉄との治つながり伝承

坂田金時といえば「相模の国　足柄山の金太郎さん　熊にまたがり、お馬の稽古。成人して、大江山の酒呑童子を退治をした源頼光の四天王の一人に」と童謡・絵本通りに信じていましたが、
先日 TV を見ていたら、**「坂田金時」は滋賀県長浜の出身で、鍛冶集団の息子として誕生したという。**
長浜は滋賀県坂田郡　そして近くには足柄山もあるといい、童謡・絵本に登場する「赤い顔して金印の腹当てをして、鉞をかつぐ姿」。それは鍛冶集団の象徴なのだという。
そういえば湖北はたたら製鉄の先進地であり、古代の豪族で北陸の継体天皇を擁立した鍛冶集団息長氏の本拠地でもある。そして、背後にそびえる伊吹山にも数々のたたら伝承が残る。
そうだったのか・・・・　金太郎さんは古代の鉄鍛冶伝承の一つとの見方もあるのか・・・・と。

坂田金時にはこの相模や近江のほか日本各地に種々異説があり、湖北長浜の伝承もその一つ。
伝承の残る長浜西黒田地区では、この坂田金時の伝承を街にしっかり残そうと、
町興しが推進されているという。
「たたらの伊吹山」と言いながら、なかなか近江側の伊吹山とたたら製鉄が結びつかなかっのですが、こんなにすぐ近く長浜の街にたたらでんしょうのひとつとして金太郎伝承が残っているとは知りませんでした。
ぜひ、今年は伊吹山に登りがてら、金太郎伝承の長浜西黒田の街を歩いてみようと・・・

近江の不思議　”金太郎”こと坂田金時は、旧坂田郡の人だった？

https://www.keibun.co.jp/saveimg/mizuumi/0000000026/pdf_sub_208_20150925103446.pdf

滋賀銀行　季刊文化情報誌「湖」　/2015 秋号　　2015.9.25.　より

“金太郎”こと坂田金時は、旧坂田郡の人だった？

マサカリかついだ金太郎サンは、なんと近江出身という説があるのをご存知でしょうか。湖北を駆け回って元気に育った金太郎が、長じて坂田金時を名乗ったというのです。

近江の不思議

金太郎伝説のある西黒田の集落。右の写真は西黒田公民館に建つ金太郎のモニュメント

長浜市西黒田に「金太郎の里」がある

日本全国知らない人はいないといえる金太郎サン。「気は優しくて力持ち」のキャラクターは、五月人形でもおなじみだ。しかし金太郎といえば足柄山。それは相模国つまり箱根に近い東国の伝説だとばかり思っていたのだが……。いやはや近江の長浜に、金太郎伝説が伝わっているとは驚いた。さっそく、金太郎の里「長浜市西黒田を訪ねると、そこには足柄神社があれば、足柄山もある。旧坂田郡で産んだ金時説は、じつは金太郎に由来するのではないかと思えてくる。

西黒田地区で金太郎伝説を活かしたまちづくりが始まったのは、一九九八（平成十）年のことだという。もともとこの地には、古くから金太郎伝説があったというでも、それは郷土史に関心を持つ人たちが語る程度で、まちづくりに着手した当初は住民の大半が「あの有名な金太郎サンが？」と半信半疑だったそうだ。

1）雷岳（ぼんふところ）と桜丸地蔵。金太郎はここで育ったとされている　2）毎年9月に開催される金太郎相撲大会（写真は2014年の大会／長浜市立西黒田小校庭提供）　3）本正寺の芦柄神社（現在は足柄来宮（足柄明神）。ここにも金時伝説が伝わる

坂田で生まれ育った金太郎

長浜の金太郎伝説とはこうである。金太郎は平安時代中期、近江国坂田郡布勢郷（現在の長浜市西黒田布勢町）に、この地に勢力のあった古代豪族、息長氏の一族として生まれた。布勢と隣りあう小一条には雷岳（ぼんふところ）と呼ばれる地があるが、それは「乳母が懐」がなまったもので、金太郎はこの辺りで乳母に育てられたとの言い伝えがある。いまもお地蔵さんが祀られ、母乳を授かる授乳地蔵として信仰を集めているのは、そのような由緒からだという。

こうしてすくすくと育った金太郎は、熊岡山（現在の熊岡神社）や足柄山（現在の来原市）の麓で遊び相撲を取ったり、舟崎（現在の米原市）の翠ケ池でコイに乗ったり、動物たちとかけっこをして遊ぶ怪童ぶりを発揮。やがて青年となり、地元で鉱冶仕事に就く。当時ここの地では製鉄業が盛んで、金太郎のトレードマークである「赤い肌」「金の字の腹掛け」「マサカリ」は、古代の製鉄作業を表すというわけだ。

二十歳を過ぎた金太郎に、大きな転機が訪れる。受領として紀守の任期を終えた源頼光が京の都へ戻る途中、箱根関に通じる黒田海道を足柄山にさしかかったときのこと。頼光は付近にただならぬ気配を感じて、家臣の渡辺綱に探ってこいと、さっそくこいたのが金太郎。頼光に請われ、金太郎は家来として都に上ることを決心。頼光四天王のひとり坂田金時となって、さまざまな退治に出向いた手柄話は有名だ。

金太郎伝説で住民一丸となってまちづくり

近江の不思議

1）西黒田公民館は1999年「金太郎伝説を活かしたまちづくり活動」で「第52回滋賀県民総文祭入選事業」を受賞した　2）この大看板もまちづくり活動の一環　3）まちづくり活動の案内板で金太郎伝説をアピール

金太郎は息長氏の子孫か

長浜市の南東部にある西黒田地区は、なるほど金太郎伝説にふさわしい古代史を眠らせている。琵琶湖と伊吹山の間に「鳳凰山（通称「横山」）がその名の通り龍が伏せたように横たわり、その西麓に西黒田はある。古代、この坂田の地を治めた有力豪族は息長氏。その息長氏の一大勢力を支えたのは鉄生産であったともいわれ、西黒田の布勢町から小一条町には「タタレン」「ズズ」「金神山」「蹴尾」といったなら難読に関わる地名が多くみつかる。布勢町の鍛冶屋地区が鉄冶産業が軒を連べたとされるほどだ。

そんな西黒田でも、住民たちの意識から古い歴史が遠ざかりつつあったころ、金太郎はまちづくりの宝物であるとして、金太郎伝説がよみがえった。まず手がけたのが、地域で行われるすべての行事に「金太郎」の冠をつけること。「金太郎運動会」「金太郎ソフトバレーボール大会」「きんたろう転倒予防教室」などだ。次に「金太郎のさと」にしようだ。「ここは〇〇町」という町名案内板を手づくりして設置。そして有志で結成した「きんたろう会」が、伝説普及のための出前講座に地区内を駆け回った。

全国伝承地からみた長浜の伝説

意外なことに、全太郎伝説は長浜ではほかにも、全国に数多いのだという。金太郎伝承地は、北は宮城県から南は鳥取県まで、全国二十カ所以上にものぼるそうだ。そして、その伝承は①金太郎生誕と怪童伝説、②金太郎を育てた山姥の伝説、③成人後の坂田金時の武勇譚と、大きく三つに分けられる。長浜はもちろん②③は長野、新潟、宮城など山国に伝わり、なぜか山姥が金太郎を育てたことになっている。③は大江山の酒呑童子退治や伊吹山の強力二郎退治など。

全国に数多くの伝承地があるとはいえ、水家水元ともいえる東国足柄山の金太郎伝説は、神奈川県から静岡県まで六市町にまたがっている。こうして見ていくと、①の金太郎の出自や成長伝説が伝わっているのは、東国の足柄山周辺のほかには長浜だけのようである。

二〇〇二年には「第四回全国金太郎ファミリーの集い」が長浜市西黒田で開催された。このイベントは神奈川県南足柄市から始まり、西黒田地区も同じ伝承地として「親祭」誘致を受けた。その際、南足柄市の方々に「坂田を地名にもつのは長浜だけ。私たちの地と伝説の内容がよく似ており、近江は歴史が古く、都にも近く、伝説発祥の地の可能性も」と一目置かれ、イベント開催地に選ばれた経緯がある。

金太郎伝説はなぜ全国にこれほどまでに多いのか。金太郎は実在したのか、西黒田「きんたろう会」の持論は、「どこが本家か元祖かというのではなく、あくまでもロマンとして金太郎伝説をふるさと振興に役立て、金太郎を通じて各地の方々と交流し、この伝説を未来に受け継ぎ、発展させることが大切」と強調する。

「地区以外では伝説はまったくまだ知られていないですが、子孫代、孫の代には誰もが知る伝説になるように、そのためには親が「金太郎サンはここで生まれやはったんやで」と言い聞かせればそうなります」と、きんたろう会（会長は語る。「気は優しくて力持ちの金太郎サンは、時代は変われど日本人にとって永遠の憧れであるようだ。

4）坂田金時が誕生したという大字「伊吹山字三郎」の伝説が残る伊吹山（ひろこピクリーズピューロー提供）
5）2002年「第4回全国金太郎ファミリーの集い」には全国の伝承地から約300人の仲間が長浜に集合。歴史ある獅子舞も披露された

Profile
文・写真●**関田正子**（くろだ・まさこ）
編集者・エッセイスト。同郷人も知っていそうで知らない身近な“不思議”を追跡する「京都の不思議」「京都の不思議II」を出版。著書は他に「京都語録案内」「それは京都ではじまった」（いずれも文神社寺書房）など。

参考文献／「西黒田の金太郎伝説」（西黒田公民館きんたろう会研究部）、金太郎ゆかりの地調査グループ編「金太郎伝説・碑とさと史跡の伝説巡ガイド」（2000年刊）

足柄山も、足柄神社も、長浜にある！

近江の不思議

“金太郎”こと坂田金時は、旧坂田郡の人だった？

マサカリかついだ金太郎サンは、なんと近江出身という説があるのをご存知でしょうか。
湖北を駆け回って元気に育った金太郎が、長じて坂田金時を名乗ったというのです。

近江の不思議

金太郎伝説のある西黒田の集落。右の写真は西黒田公民館に建つ金太郎のモニュメント

長浜市西黒田に「金太郎の里」がある

日本全国知らない人はいないといえる金太郎サン。「気は優しくて力持ち」のキャラクターは、五月人形でもおなじみだ。しかし金太郎といえば足柄山（あしがらやま）、それは相模国（さがみのくに）つまり箱根に近い東国の伝説だとばかり思ってきたのだが……。いやはや近江の長浜に、金太郎伝説が伝わっているとは驚いた。さっそく「金太郎の里」長浜市西黒田を訪ねると、そこには足柄神社があれば、足柄山もある。旧坂田郡で盛んな奉納相撲

足柄山も、足柄神社も、長浜にある！

近江の不思議

も、じつは金太郎に由来するのではないかと思えてくる。

西黒田地区で金太郎伝説を活かしたまちづくりが始まったのは、一九九八（平成十）年のことだという。もともとこの地には、古くから金太郎伝説があった。といっても、それは郷土史に関心を持つ人たちが語る程度で、まちづくりに着手した当初は住民の大半が「あの有名な金太郎サンが？」と半信半疑だったそうだ。

1）番所（ばんふところ）と授乳地蔵。金太郎はここで育ったとされている　2）毎年9月に開催される金太郎相撲大会（写真は2014年の大会／長浜市立西黒田公民館提供）　3）本庄町の芦柄神社（明治初年までは足柄神社）。ここにも奉納相撲が伝わる

坂田で生まれ育った金太郎

長浜の金太郎伝説とはこうである。金太郎は平安時代中期、近江国坂田郡布勢郷（現在の長浜市西黒田布勢町）に、この地に勢力のあった古代豪族・息長氏の一族として生まれた。布勢と隣りあう小一条には番所（ばんふところ）と呼ばれる地があるが、それは「乳母が懐」がなまったもので、金太郎はこの辺りで乳母に育てられたとの言い伝えがある。いまもお地蔵さんが祀られ、母乳を授かる授乳地蔵として信仰を集めているのは、そのような由緒からだという。

こうしてすくすくと育った金太郎は、熊岡山（現在の熊岡神社）や足柄山（列見寺山）で熊と相撲を取ったり、舟崎（現在の米原市）の鯉ヶ池でコイに乗ったり、動物たちとかけっこをして遊ぶ怪童ぶりを発揮。やがて青年となり、地元で鍛冶仕事に就く。当時この地では製鉄業が盛んで、金太郎のトレードマークである「赤い肌」「金の字の腹

金太郎伝説で住民一丸となってまちづくり

近江の不思議

掛け」「マサカリ」は、古代の製鉄作業を表すというわけだ。

二十歳を過ぎた金太郎に、大きな転機が訪れる。受領として上総守の任期を終えた源頼光が京の都へ戻る途中、琵琶湖に通じる黒田海道を足柄山にさしかかったときのこと。頼光は付近にただならぬ気配を感じて、家臣の渡辺綱に探させると、そこにいたのが金太郎。頼光に請われ、金太郎は家来として都に上ることを決心。頼光四天王のひとり坂田金時となって、さまざまな退治に出向いた手柄話は有名だ。

1) 西黒田公民館は1999年「金太郎伝説を活かしたまちづくり活動」で「第52回優良公民館文部大臣表彰」を受賞した　2) この大看板もまちづくり活動の一環　3) 手づくりの町名案内板で金太郎伝説をアピール

金太郎は息長氏の子孫か

長浜市の南東部にある西黒田地区は、なるほど金太郎伝説にふさわしい古代史を眠らせている。琵琶湖と伊吹山の間に、臥龍山（通称「横山」）がその名の通り龍が伏せたように横たわり、その西麓に西黒田はある。古代、この坂田の地を治めた有力豪族は息長氏。その息長氏の一大勢力を支えたのは鉄生産であったともいわれ、西黒田の布勢町から小一条町には「タタレン」「穴伏」「金神山」「焼尾」といった「たたら製鉄」に関わる地名が多くみつかる。布勢町の鍛冶屋場庄司は、鎌倉時代になると名剣を打つ鍛冶屋が軒を並べたとされるほどだ。

そんな西黒田でも、住民たちの意識から古い歴史が遠ざかりつつあったころ、金太郎はまちづくりの宝物であるとして、金太郎伝説がよみがえった。まず手がけたのが、地域で行われるすべての行事に「金太郎」の冠をつけること。「金太郎運動会」「金太郎ソフトバレーボール大会」「きんたろう転倒予防教

室」などだ。次に「金太郎のさと、にしくろだ　ここは○○町」という町名案内板を手づくりして設置。そして有志で結成した「きんたろう会」が、伝説普及のための出前講座に地区内を駆け回った。

全国伝承地からみた長浜の伝説

意外なことに、金太郎伝説は長浜のほかにも、全国に数多いのだという。金太郎伝承地は、北は宮城県から南は島根県まで、全国二十カ所以上にものぼるそうだ。そして、その伝承は①金太郎生誕と怪童伝説、②金太郎を育てた山姥の伝説、③成人後の坂田金時の武勇譚と、大きく三つに分けられる。長浜はもちろん①。②は長野、新潟、宮城など山国に伝わり、なぜか山姥が金太郎を育てたことになっている。③は大江山の酒呑童子退治や伊吹山の弥三郎退治など。

全国に数多くの伝承地があるとはいえ、本家本元ともいえる東国足柄山の金太郎伝説は、神奈川県から静岡県まで六市町にまたがっている。こうして見ていくと、①の金太郎の出自や成長伝説が伝わっているのは、東国の足柄山周辺のほかには長浜だけのようである。

二〇〇二年には「第四回全国金太郎ファミリーの集い」が長浜市西黒田で開催された。このイベントは神奈川県南足柄市から始まり、西黒田地区も同じ伝承地として視察訪問を受けた。その際、南足柄市の方に「坂田を地名にもつのは長浜だけ。私たちの地と伝説の内容がよく似ており、近江は歴史が古く、都にも近く、伝説発祥の地の可能性も」と一目置かれ、イベント開催地に選ばれた経緯がある。

金太郎伝説はなぜ全国に、これほどまでに多いのか。金太郎は果たして実在したのか。西黒田「きんたろう会」の皆さんは、どこが本家か元祖かというのではなく、あくまでもロマンとして金太郎伝説をふるさと振興に役立て、金太郎を通じて各地の方々と交流し、この伝説を未来に受け継ぎ、発展させることが大切と強調する。

「地区以外では伝説はまだまだ知られていないですが、子の代、孫の代には誰もが知る伝説にしたい。そのためには親が『金太郎サンはここで生まれやはったんやで』と付け加えればそうなります」と「きんたろう会」会長は語る。「気は優しくて力持ちの金太郎サン」は、時代は変われど日本人にとって永遠不滅であるようだ。

4）坂田金時が退治したという大男「伊吹山の弥三郎」の伝説が残る伊吹山（びわこビジターズビューロー提供）
5）2002年「第4回全国金太郎ファミリーの集い」には全国の伝承地から約300人の仲間が長浜に集合。歴史ある獅子舞も披露された

Profile
文・写真●黒田正子（くろだ・まさこ）
編集者・エッセイスト。京都人も知っていそうで知らない身近な"不思議"を追跡する『京都の不思議』『京都の不思議Ⅱ』を出版。著書はほかに『京都語源案内』『それは京都ではじまった』（いずれも光村推古書院）など。

参考文献／「西黒田の金太郎伝説」（西黒田公民館きんたろう会研究部）、金太郎・山姥伝説地調査グループ編『金太郎伝説―謎ときと全国の伝承地ガイド』（2000年刊）

金太郎伝説地の西黒田

http://nishikuroda.sakura.ne.jp/

長浜市西黒田　街づくりセンター　ホームページ

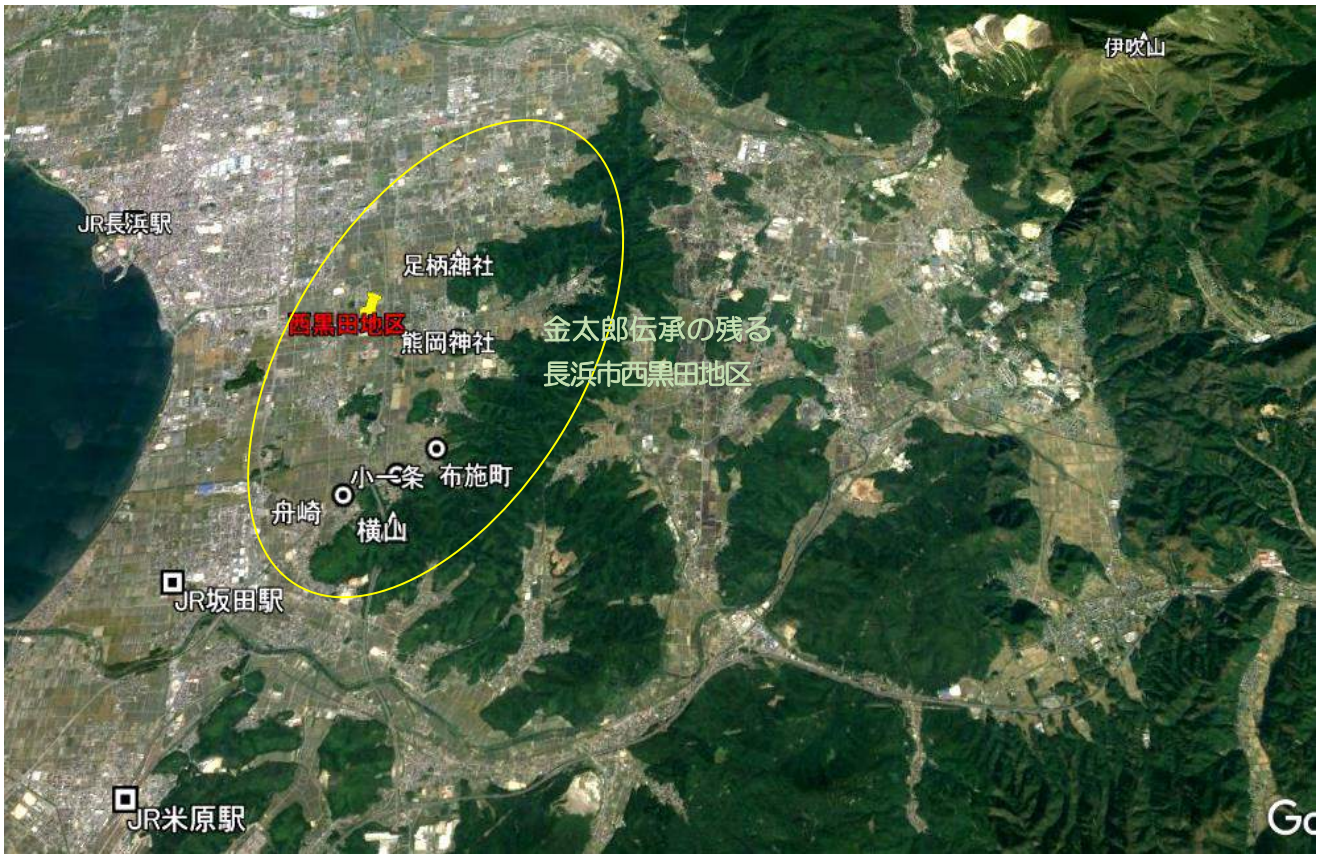
また、　長浜市西黒田のホームページにも　下記のように金太郎伝承が掲載されている。

金太郎は、平安時代中期の摂関政治全盛時代、天暦9(955)年に近江国坂田郡布勢郷に生まれました。
たいへん大きな赤ん坊でした。
金太郎の親は、明らかではありませんが、当時この地に勢力のあった息長氏の一族として生まれたのです。
息長氏は、天皇家や新羅の王子「天日槍」とも血縁関係にある由緒正しい一族であることから、金太郎は、小一条の諸頭山のふもとにある「うばがふところ」で乳母によって育てられました。　その後、金太郎は西黒田の里山を駆け回るいきいきとした少年へと育ちました。
金太郎は、舟崎の鯉ヶ池で鯉に乗ったり、常喜の熊岡や足柄山で熊と相撲を取ったり、横山一帯では動物たちとかけっこをしたりして遊ぶ、元気で明るい子どもでした。
また、足柄神社の奉納相撲にも出向き見事な力を発揮していました。　そして、金太郎は少年時代、遊ぶだけでなく、付近の菅原道真ゆかりの名超寺、富施寺などで、学問にも励んでいました。
まさに文武両道の優等生だったのです。

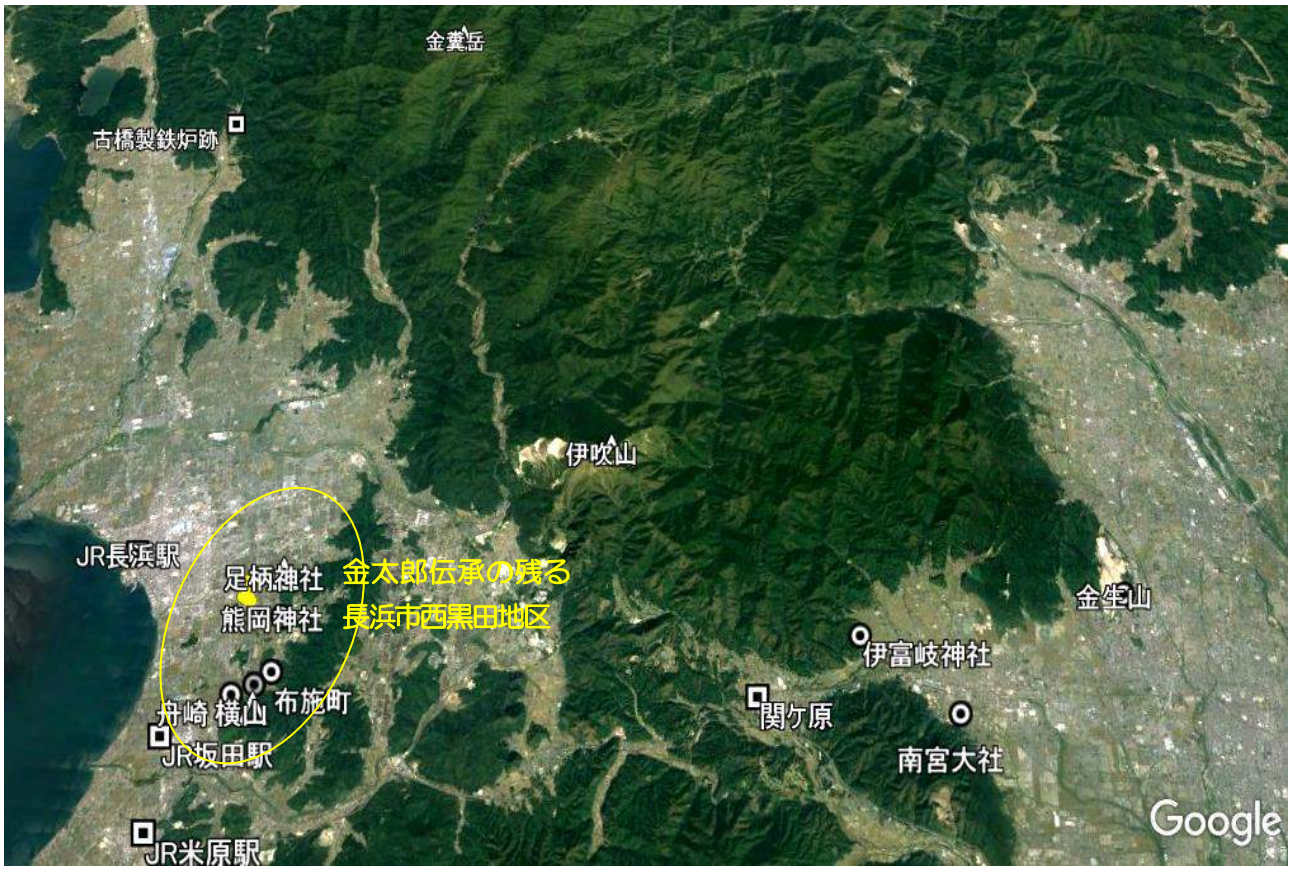
青年となった金太郎は、地元の鍛冶屋で働き始めます。
当時この地は、製鉄業が盛んだったのです。
そして、このころから、広く知られるようになった金太郎の格好になっていったのです。
その格好とは「金の文字の描いた腹掛け」、「赤い肌」、「まさかり」です。

腹掛けは、製鉄作業の際、ふりかかる火の粉を防ぐために着用し、金の文字は「かね(鉄)」を表します。赤い肌は、製鉄作業時の強い火力で熱せられて生じました。
まさかりは、製鉄作業に使用する木材を伐採するために持っていたのです。
金太郎は、一生懸命働き、その名声は日に日に高まっていきました。そして、金太郎自身は、息長家の一族として、たくさんの苦しんでいる人々のため、役に立つ仕事がしたいと思うようになっていたのです。

それから数年が過ぎ、20 歳となった金太郎に転機が訪れます。天延 4(976)年、旧暦 3 月 21 日、上総守の任期を終え、黒田海道を上京中の源頼光が足柄山にさしかかったとき、頼光はこの地にただならぬ気配を感じ、誰か素晴らしい人傑がいるに違いないと思いました。
そして、かねてから頼光は伊吹山の山賊を退治するため、このあたりの地理に明るい若武者を家来にしたいと思っていたこともあり、家来の渡辺綱に人材を捜させました。
そのとき目にとまったのが、金太郎だったのです。
頼光は、金太郎の非凡なる形相を認め、金太郎に名前などを尋ねました。金太郎は「息長の一族で、名前は金太郎。」と答えました。頼光はさすがにと思い、家来にならないかと言いました。金太郎もかねてから、世の中の人々のために役立つ仕事をしたいと思っていたこともあって、頼光の家来となることを決心しました。
上京後、金太郎は名を坂田金時と改め、頼光のもと様々な手柄をたてました。
そして、正暦 5(994)年、ついに金太郎が住んでいた村の人々を苦しめている、伊吹山の山賊を退治することになります。金太郎は、地理に明るいこともあって、一番乗りの大手柄を立て、地元に凱旋しました。
地元の人々は、さすが金太郎だと口々に言いました。
そうして、金太郎は、渡辺綱、卜部季武、碓井貞光とともに、頼光の四天王と称されるまでになったのです。
そして、この地では、金太郎をたくましくて優しい子どもの理想像として掲げ、現在まで尊敬をしているのです。



この西黒田地区は、元々、近江国坂田郡近江坂田の地名から、坂田金時へ
近江の琵琶湖周辺は南も北も古代製鉄の先進地でありたたら製鉄関連地が数多くあり、
湖北にそびえる伊吹山もたたら関連地名であると知っていましたが、伊吹山の南西山麓に当たるこの長浜周辺とたたら製鉄とのかかわりについてはよく知りませんでした。まさか息長氏から金太郎でつながるとは・・・・・と。
長浜から東へ　関が原を超えた伊吹山の東側山麓には鉄鉱石を算出する金生山　そして鍛冶神金山彦を祭神とする南宮大社とその北側　井吹の里は鉄に関係した渡来人伊福氏の本拠地である。
また、伊吹山の北にある琵琶湖北岸のマキノ・木之元から金糞岳周辺に至る山郷は鉄鉱石を産し、古代の古橋製鉄遺跡などもある。琵琶湖の南岸　瀬田丘陵　西岸の比良蓮舫の山裾もまた古代からの製鉄遅滞である。
もうずいぶん足を入れていない湖北・伊吹山　今年は是非歩かねば・・・・・・・と思っています。
長浜に鉄鍛冶の子供として育った金太郎の伝承があると聞いて、インターネットを調べて　本資料作成しました。
2018.6.1.　　by Mutsu Nakanishi



【 参考　和鉄の道・Iron Road　by Mutsu Nakanishi 】

1. 鍛冶屋の祭り　「鞴祭り・ふいごまつり」　2004.11.8.
   兵庫県三木市金物神社・岐阜県垂井町南宮大社ふいご祭り
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/4iron14.pdf
2. 瀬田丘陵 の源内峠製鉄遺跡・野路小野山遺跡を訪ねて
   大型量産製鉄炉を確立し、 古代官営大製鉄コンビナートに発展させた近江の製鉄技術
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/7iron03.pdf
3. 日本各地に残る和鉄の道・iron road の風景
   http://www.infokkkna.com/ironroad/tatara/tatara05.pdf
4. 「和鉄の道・Iron Road」から見た日本誕生前夜の北近江・若狭
   www.infokkkna.com/ironroad/2011htm/2011iron/11iron17.pdf

2018 Iron
06

Iron Road【18】2018

「国生み神話の島淡路島」から「国生みの島　淡路島」へ

弥生時代後期 淡路島北部中央津名丘陵に　鉄器加工・製塩などの生産工房を有する山間地集落群が出現

淡路島の海人たちが　畿内・ヤマトに 先駆けて先進的な鉄器文化持ち込み、日本の国造りに貢献した ．

津名丘陵の山間地集落群の中心「舟木遺跡」現地探訪　　2018.8.29.

淡路島の実像に興味津々　特に淡路島の海人の里や淡路島の山間地集落群の展開された津名丘陵。

その山間地とはどんな場所なんだろうか?　舟木遺跡の現地も確かめたい。

やっぱり現地を歩かねばと気になりながらも遅れていた淡路島の北西部

野島海岸・津名丘陵の舟木遺跡周辺を訪ねました。

1. 淡路島の西北部の狭い海岸に点々と続く野島海人の郷「野島」
弥生後期の製塩工房 豊船神社遺跡 淡路市野島大川海岸

2. 弥生後期　鉄器など生産工房を持つ淡路島山間地集落群の中心 交易拠点「舟木遺跡」
野島海岸を見晴らす津名丘陵の頂上部 樹木に包まれた古代から続く淡路市舟木集落

【参考】インターネット検索 & Iron Road 資料整理
PDF「国生み淡路島の実像-津名丘陵山間地集落群の中心集落 舟木遺跡概要-」

国生み神話の淡路島が　卑弥呼の時代から古墳時代の日本の国造り謎を解き明かす?

卑弥呼・大和連合諸国の流通・半島交易の拠点が淡路島に? 国生み神話が現実に

「国生みの島 淡路島」 記紀神話は国生み神話の最初に淡路島を挙げる。
また　淡路島北部の津名丘陵周辺からは、弥生中期から後期にかけての大規模な鍛冶工房跡である「五斗長垣内遺跡」。
さらに瀬戸内を見晴らす津名丘陵の上には　舟木遺跡を中心とする鉄器加工や製塩•干イイダコなど の生産工房を持つ山間地集落群が展開していたことが、明らかになってきた。
一方、淡路島南部の三原平野からは弥生時代の終焉を告げると言われる大量の埋納銅鐸（松帆銅鐸）が出土した。
朝鮮半島の鉄素材の確保と流通支配が最も重要 だった日本の国造り（国生み）の時代を読み解く重要な発掘が「国生みの島、淡路島」で相次いでいる。
国生み神話はあったものの、ほとんど注目されてこなかった淡路島ですが、
「卑弥呼の時代から初期ヤマト王権への転換を読み解く鍵を握っている」と今にわかに淡路島に注目が集まっている。

多くの人たちの目は「国生み神話」や「卑弥呼と初期大和ヤマト王権」や「松帆銅鐸」に向いているが、これらの事象が生まれた淡路島の実像をもっと具体的に知りたい。

津名丘陵の山間地に展開された鉄器加工や製塩など生産工房村群とその中心舟木遺跡は淡路島の海人たちの生業・交易をうかがわせ、今　淡路島の海人たちの役割を大きくクローズアップするとともに、
淡路島で出土した鉄器工房の実像にも新たな光をあてる。
この時代　　鉄素材を中心とした半島交易は　卑弥呼の邪馬台国・大和王権の生命線
「淡路島での鉄器加工や製塩・特産品の生産工房　そして航海術に優れた海人たち」
半島交易の中心的な担い手が「淡路島並びに淡路島の海人たち」との構図が注目される。
まさに　「国生み神話の島から　国生みの島」へ　淡路島の姿が変貌する。

文字記録のない謎に包まれてきた卑弥呼・初期大和王権の時代、まだ　鉄素材を製造できぬ日本の国造り
具体的な実像がよくわからぬ鉄の時代の謎解きの key が淡路島にあるかもしれぬ。
現地をしっかり歩かねば・・・・・。
是非歩きたいと思いながら行けなかった舟木遺跡へ
中央を南北に津名丘陵が走る淡路島北部　西に瀬戸内の海が広がる野島海人の郷　野島海岸から東に見上げる
津名丘陵の山間地　舟木集落遺跡。好奇心と興味を頭にいっぱい詰めて訪ねることに。

◎ 津名丘陵が走る淡路島西北海岸には「野島」と頭につく郷が転々と続き、 古代航海術にたけた「野島海人」の里という。また、淡路島南部にも三原の海人がいたと聞く。
航海術にたけ、朝鮮半島・日本各地と交易する淡路の海人たちの初期ヤマトとの密接な関係が「記紀」に記載されている。
瀬戸内から朝鮮半島へ航路をつないだこの海人たちの活躍が畿内へ鉄器や製塩他の先進技術・文化をもたらし、暮らしを変えていったに違いない。
（ 淡路島の「国生み神話」の原型も海人たちの伝承を初期大和王権が取り込んだとの説もある。 ）

◎ 背後の丘陵には 海人と密接な関係を示す鉄製漁具などの鉄器加工・製塩・干イイダコなど生産工房を営む山間地集落群が出現する。その中心が野島海岸背後丘陵の頂上部に出現した舟木集落遺跡である。
生産工房の先進技術・文化は淡路の海人たちが、畿内に先立って持ち込んだのではないか?
「舟木遺跡を中心とした山間地集落遺跡群は海人たちの交易拠点」との姿が浮かび上がってきている。

◎「淡路島の国生みと関係する」と注目を集める鉄器加工・鍛冶工房。畿内ではまだ鉄器が広く普及していない時代であり、出土品の主は漁具などの小さな実用鉄器で、武器は出土していない。
常々頭にある淡路島対岸の六甲の山裾の高地性集落会下山遺跡からは鉄鏃などの武器が出ており、鉄器工房の性格を考える上で、今後重要なポイントになるのではないかと・・・・・・・。

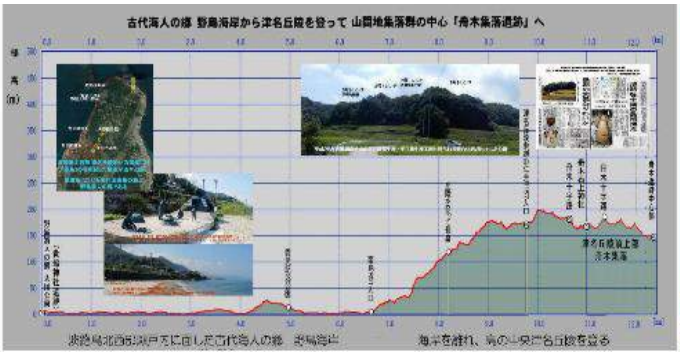
「国生みの島」淡路島の発掘調査は津名丘陵　舟木集落遺跡も含め、まだほんの一部である。
これから何がでてくるのか　期待いっぱい。
そんなこともあって、是非現地をしっかり歩きたい。
国内最大級の鍛冶工房村　五斗長垣内遺跡の出土以来　何度もでかけたこの淡路島北西部沿岸の丘陵地ですが、五斗長垣内遺跡以外に山間地集落遺跡周辺を歩いたこと無し。また 野島の海岸もいつも海を眺めながらバスしてきた場所。
国内最大級の鍛冶工房村 五斗長垣内遺跡の出土以来　何度も訪れた淡路島、和鉄の道・Iron　road にも淡路島の探訪記録掲載していますが、
いずれも断片的で淡路島の実像に迫れず。
　余り頭になかった「野島海人の郷」や「津名丘陵舟木遺跡周辺」をしっかり歩きたいと期待をつのらせ、この夏の終わりに　淡路島西北部の野島海岸から津名丘陵の頂上部の舟木集落へ出かけてきました

野島海岸を見降ろす津名丘陵頂上部の舟木集落沿って広がる弥生後期の山間地集落群の中心　舟木遺跡

【現地探訪 Photo 抜粋】

国生みの淡路島　津名丘陵の山間地集落群の中心【舟木遺跡】現地探訪 2018.8.29.

古代淡路島の海人の郷　野島海岸から津名丘陵を登って　弥生後期の山間地集落群の中心舟木遺跡へ



1.	瀬戸内を見晴らす古代の野島海人の郷 淡路市野島大川公園 古代の貴船神社製塩遺跡 野島大川の海岸の遺跡跡に復元された古代の製塩と野島海人像
2.	野島海岸 北淡震災記念公園より東の津名丘陵を登り、丘陵の上部「舟木集落」へ
3.	国生みの時代　津名丘陵の頂上部の山間地集落群の中心だった「舟木集落」
4.	今なお残る「女人禁制」の舟木石上神社（古代の祭祀場　舟木石神座） 北緯34度32分の線 春分&秋分の日に太陽が通る「太陽の道 日の神信仰」の一番西の端の磐座 林に包まれた磐座の後側にも幾つも巨石・石組があり、2000年を経る今も守り継がれている祭祀場
5.	海人たちの交易拠点　生産工房を持つ山間地集落群の中心【舟木遺跡】
6.	舟木集落から真っ直ぐ西の野島海岸へ下る

1. 淡路市野島大川公園 古代の貴船神社製塩遺跡

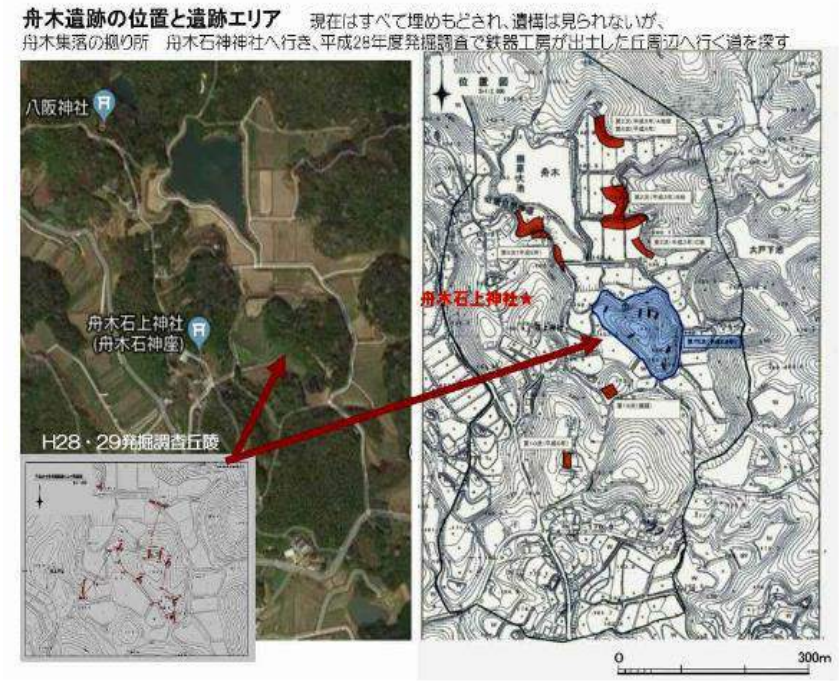
「瀬戸内を見晴らす古代の野島海人の郷 野島大川」の海岸の遺跡跡に復元された古代の製塩と野島海人像

野島の浦に位置する古墳時代から奈良時代にかけての製塩遺跡。熱効率の良い石敷炉が発見され、 大量生産した塩は王権にも供されたと考えられる。日本書紀に登場する「野嶋の海人（あま）」の活動拠点とされ、現在は海人が生業とした土器製塩の様子をモニュメントで 見ることができる。（淡路島日本遺産　貴船神社遺跡　http://kuniumi-awaji.jp/heritage/16kifune/　より）

2. 野島海岸 北淡震災記念公園より 東の津名丘陵を登り、丘陵上部の舟木集落へ

津名丘陵の山裾がすぐ横に迫る一本道　海岸道路を南の野島北淡震災公園へ　反対側には津名丘陵の山並みがみえる

3. 国生みの時代　津名丘陵の頂上部の山間地集落群の中心だった「舟木集落」



4. 今なお残る「女人禁制」の舟木石上神社（古代の祭祀場　舟木石神座）

「北緯 34 度 32 分の線 春分&秋分の日に太陽が通る太陽の道」の「日の神信仰」一番西の端にある磐座

林に包まれた磐座の後側にも幾つも巨石・石組があり、2000 年を経る今も守り継がれている祭祀場

舟木集落　舟木石上神社（舟木石上座）の鳥居前
小さな鳥居の前に「女人禁制」の石標と石上神社の概説案内板があり、
家内を残して、この奥神域の森の中に入ると大きな磐座が祀られていました

舟木神社磐座　舟木石上座
この周辺からも弥生時代の遺物が出土　今に至るまで　舟木の集落が守ってきた磐座
この磐座後ろ側には　磐座を取り囲んで、巨石や組石が幾つも有り、祭祀の場であった

北緯 34 度 32 分の線 春分&秋分の日に太陽が通る「太陽の道」に位置する舟木石上神社

奈良県の箸墓古墳を中心にして　東の端がアマテラス大神を祀る伊勢となり海上の島、神島へ。同じく箸墓古墳からほぼ同じ距離を西の端へと進むと淡路島にある伊勢の森の伊勢久留麻神社があり、その西の峠を越えたところに舟木石神座がある。太陽を信仰する地には、「日を迎える座」と「日を追う座」があるといい、それぞれ朝日に向かって、夕日に向かって祭事を行う。 前者は男性が、後者は女性が祭事を司るとされ、当社は前者にあたり、長らく女人禁制が守られてきた」という。

林に包まれた磐座の後側に回り込むと　幾つも巨石・石組があり　、2000年を経る今も守り継がれている祭祀の場

また、この舟木石神座は弥生時代後期の舟木遺跡域の一部で、標高約 150 メートルに位置し、約 40 ヘクタールに及ぶ舟木遺跡の中央部伊勢の森とも呼ばれる地。その巨石祭祀跡として位置づけられ、 2000 年以上続く現役の祭祀場で、祭祀は今も厳粛に続けられていい、この地は弥生時代から続く交通の要衝でもあり、重要集落であったろう。

5. 海人たちの交易拠点　生産工房を持つ山間地集落群の中心【舟木遺跡】

淡路島北部　弥生後期の山間地集落遺跡群の中心集落「淡路市　舟木遺跡」
近くの五斗長短内遺跡を上回る新たな「弥生の鉄器拠点とみられる国内最大級の鍛冶工房跡」が出土
2017. 1. 26.　神戸新聞他の朝刊より

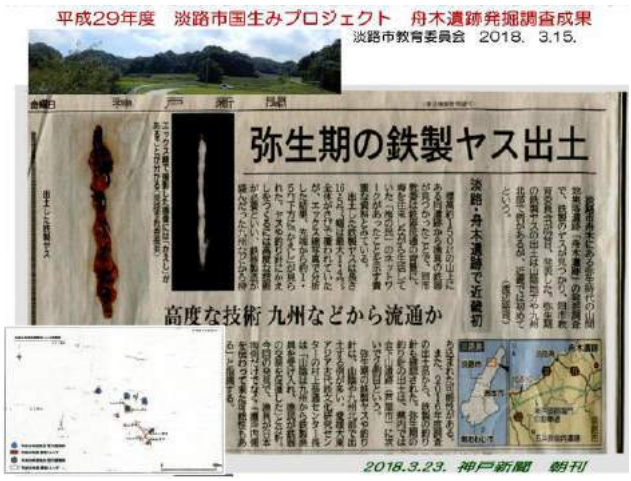
鉄器の交易なりわいか
淡路に近畿最大の工房跡
「海の民」との関係も推認
郡馬台国前の社会、解明期待

淡路 弥生期の鉄器拠点
舟木遺跡
工房跡発見、近畿最大か
「五斗長短内」近く　小型工具も出土

圃場整備された舟木集落の田圃　椹原大池を中心とした舟木遺跡エリアの中央部

平成28年発掘調査地点の丘と鉄器生産・手工業生産工房と見られる竪穴住居が出土した位置

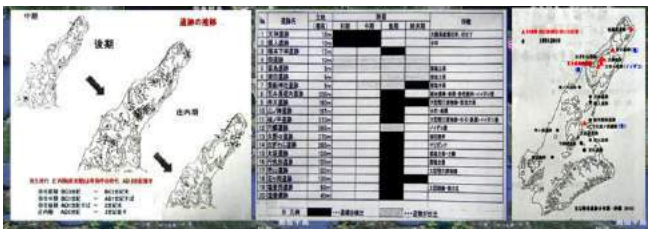
平成28年度舟木遺跡出土鉄器
武器は出土せず　ヤス・釣り針など
小型漁労関係具とその加工工具が多い


平成29年度　淡路市国生みプロジェクト　舟木遺跡発掘調査成果
淡路市教育委員会　2018. 3.15.

弥生期の鉄製ヤス出土
高度な技術 九州などから流通か
2018.3.23. 神戸新聞　朝刊

淡路島津名丘陵に出現した山間地集落群
稲作が行えぬ高地に出現した軍事的性格は持たぬが、
生産工房など多様な生活様式を営む弥生後期の集落遺跡群

島では海岸よりも山間地を貫く方が幹線道路として機能しやすかった事情で生まれたとする向きもり、西に四国や山陰山



陽西国につながる瀬戸内と東の大阪湾から畿内そして大和へつながる淡路島の位置が海人の存在と相まって　この山間淡路島の中央を南北ら連なり炉、海岸に迫る津名丘陵　そして　丘陵を乗越せば簡単に反対側に出られる。
まさしくこの乗越の位置にある舟木遺跡。交通路の要衝の位置にあり、海岸をたどるのが古代の幹線道の固定観念が覆る。津名丘陵の上は今は温暖な気候を利用した田園がひろがっている。 今回は津名丘陵の東側へは乗越さなかったが、東側も今は田園地が広がる豊かな地。　そして　丘陵の上を南北に明石から鳴門へ本四連絡道が貫いている。
国造りの時代にも津名丘陵の上を幹線道路が貫き、それらと海岸をつなぐ道路網があっても何ら不自然でないとおもえる。舟木遺跡と山間地集落群はそんな視点も教えてくれる。

6. 舟木集落から真っ直ぐ西の野島海岸へ下る

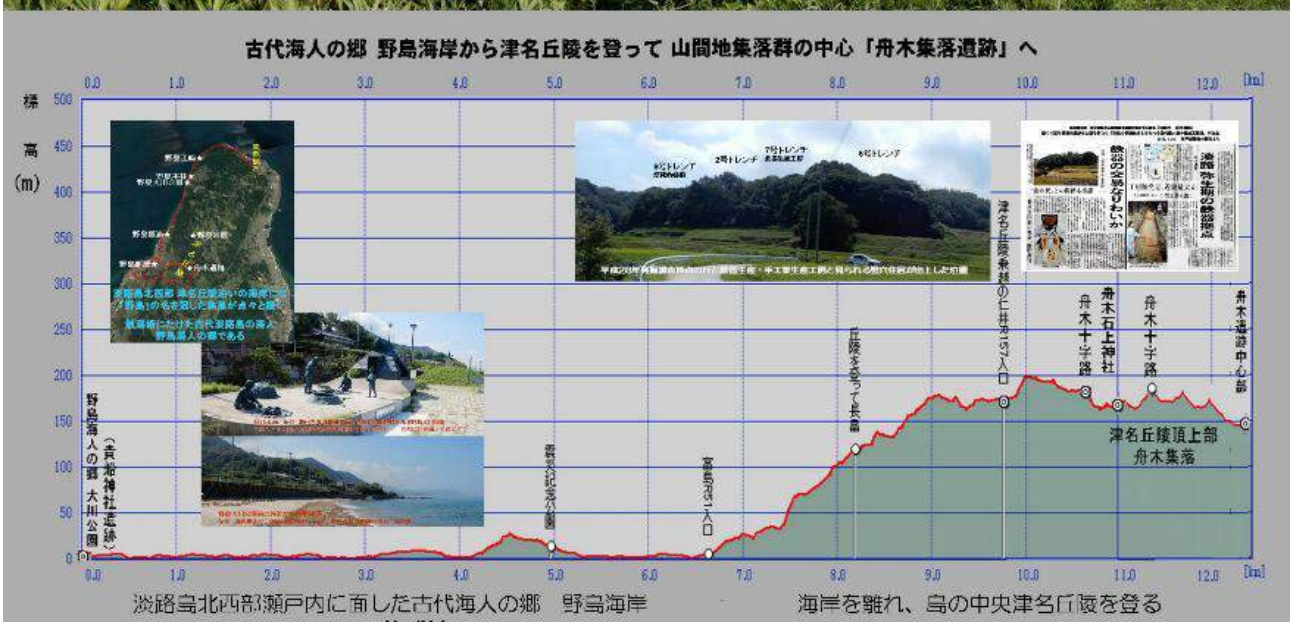
卑弥呼・初期大和連合の国造りの始まり
畿内で　先駆けて鉄器文化を持ち込みにほんのくにづくりで役割を演じたとみられる
淡路島　国生み神話の実像が見えてきた。
巧みな航海術を持つ淡路島の海人たちが淡路島山間地に鉄・塩などの生産工房を持ち、
広く交易拠点として活躍し、日本の国造り「国生み」に役割を演じたろう。

また、この舟木集落の中心にある舟木石上神社・舟木石神坐（磐座）が、
女人禁制として今尚祀られているのを知り、びっくりする。
卑弥呼のイメージもだぶらせ、思いつきかもしれませんが、
国生み神話とこの集落の結びつきにも思いを馳せています。

弥生後期の津名丘陵に五斗長垣内遺跡に続く鉄器工房の出土に是非とも訪ねてみたかった舟木遺跡。うれしい津名丘陵の山間地集落の中心　舟木遺跡探訪となりました。

明石大橋を渡りながら　2018.8.29.　Mutsu Nakanishi

卑弥呼・大和連合諸国の流通・半島交易の拠点が淡路島？ 国生み神話が現実に
津名丘陵の山間地集落群の中心【舟木遺跡】探訪　2018.8.29.
国生みの島 淡路島　弥生後期の淡路島北部の津名丘陵
海人族と密接な鉄器加工・製塩などの生産工房を持つ山間地集落群が出土
毎日　明石海峡越しに眺める　淡路島　津名丘陵
国生みが現実に!!
でも 調査はまだ これから　楽しみにしています
2018.9.5. Mutsu Nakanishi


古代海人の郷 野島海岸から津名丘陵を登って 山間地集落群の中心「舟木集落遺跡」へ
標高(m)
[km]
野島海人の郷 大川公園
(大貝神社遺跡)
西浦公園
富島公園入口
丘陵を登って長畑
津名丘陵尾根の上井戸バス入口
舟木十字路
舟木石上神社
舟木十字路
舟木遺跡中心部
津名丘陵頂上部
舟木集落
淡路島北西部瀬戸内に面した古代海人の郷　野島海岸
海岸を離れ、島の中央津名丘陵を登る

明石海峡
舟木遺跡
播磨灘
大阪湾
国内最大級の
鍛冶工房村
五斗長垣内遺跡
大量の埋納銅鐸
出土地
南淡路市松帆
紀淡海峡
鳴門海峡
紀伊水道

【 参考資料　書き写し引用資料・図表 ＆ インターネット検索 】

◆ 弥生時代後期　淡路島山間地集落群とその中心　舟木遺跡　参考図 ◆

弥生時代の後期　津名丘陵周辺に出現した弥生の集落遺跡　と山間集落群

No.	遺跡名	立地（標高）	時期 前期	中期	後期	終末期	特徴
1	天神遺跡	15m	■	■			大陸系磨製石斧、石生丁
2	横入遺跡	10m	■	■			木棺
3	橋本下林遺跡	17m			■		
4	伺遺跡	10m			■		
5	富島遺跡	5m					製塩土器
6	畑田遺跡	5m					製塩土器
7	貴船神社遺跡	5m				■	製塩土器
8	五斗長垣内遺跡	200m			■		鍛冶遺構・鉄器・赤色顔料・イイダコ壺
9	舟木遺跡	180m			■	■	大型竪穴建物跡・製塩土器
10	山ノ神遺跡	187m			■		合石・鉄器
11	柿ノ平遺跡	210m			■		大型竪穴建物跡・合石・鉄器・イイダコ壺
12	穴郷遺跡	260m					イイダコ壺
13	久野々遺跡	270m			■		溶状鉄滓
14	おぎわら遺跡	260m			■		ヤリガンナ
15	大坂遺跡	100m			■		製塩土器・土錘
16	行免形遺跡	105m			■		製塩土器
17	秀山遺跡	122m			■		大型竪穴建物跡
18	尼ヶ岡遺跡	130m			■	■	
19	塩壺西遺跡	60m			■		大型鉄鋌・焼土坑
20	塩壺遺跡	40m			■		

※ 凡例　■…遺構を検出　▒…遺物が出土

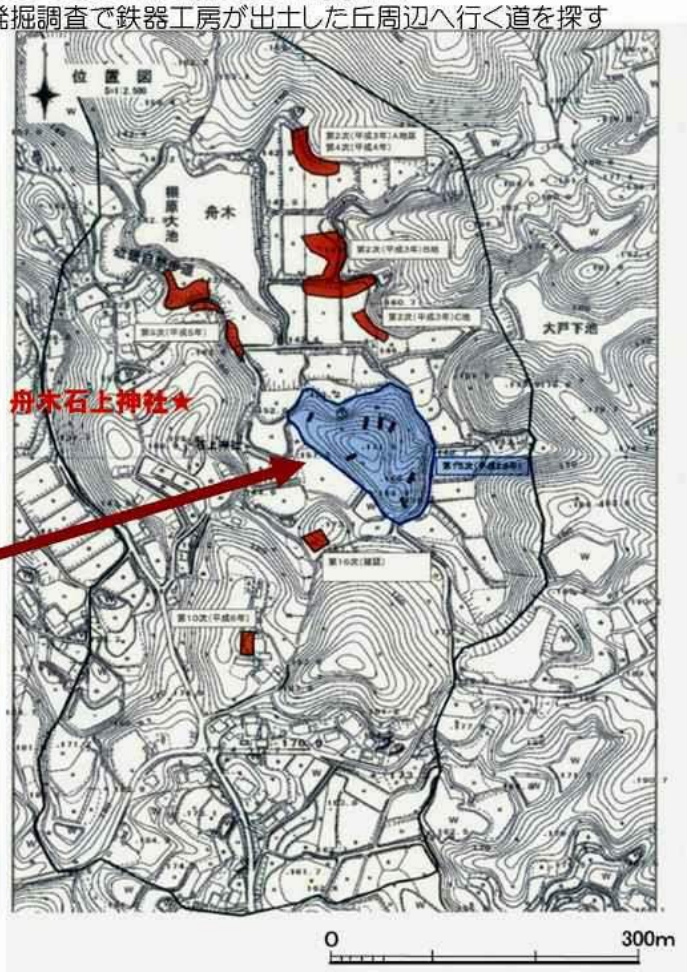
弥生時代の後期　津名丘陵周辺に出現した山間集落群

津名丘陵周辺　稲作が行えぬ高地に出現した軍事的性格を持たぬが、生産工房など多様な生活様式を営む弥生時代後期の集落遺跡群。
島では海岸よりも山間地を貫く方が幹線道路として機能しやすかった事情で生まれたとする向きもあり、流通の拠点集落と考えられている

大阪弥生文化博物館　2016.5.29.伊藤宏幸氏講演スライドより

舟木遺跡の位置と遺跡エリア

現在はすべて埋めもどされ、遺構は見られないが、
舟木集落の拠り所　舟木石神神社へ行き、平成28年度発掘調査で鉄器工房が出土した丘周辺へ行く道を探す



◆　和鉄の道・Iron road 「国生みの淡路島」関連の主要記事リスト　◆

1. 卑弥呼の時代を解き明かす? 淡路島弥生後期の大山間地集落群淡路市舟木遺跡
弥生期の鉄製ヤスが出土　海の民や北部九州とのつながりを示す? 神戸新聞より 2018.3.23.
■ PDF ： http://www.infokkkna.com/ironroad/2018htm/2018iron/18iron03.pdf

2　淡路島弥生時代の鉄器拠点「淡路市 舟木遺跡」鉄器の交易をなりわいか?
近くの五斗長垣内遺跡を上回る新たな「弥生の鉄器拠点　国内最大級の鍛冶工房跡」が出土
■ HTM : http://www.infokkkna.com/ironroad/2017htm/iron13/1702funaki00.htm
■ PDF : http://www.infokkkna.com/ironroad/2017htm/2017iron/17iron01.pdf

3. 大阪弥生文化博物館 2016 年春季特別展第３回考古学セミナー
淡路市教委 伊藤宏幸氏講演「淡路島 五斗長垣内遺跡にみる弥生時代の鉄器生産」
聴講 まとめ by Mutsu Nakanishi　　2016. 5.28.
■ HTM ： http://www.infokkkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1607awaji00.htm
■ PDF ： http://www.infokkkna.com/ironroad/2016htm/2016iron/16iron07.pdf

4. 淡路文化資料館　淡路市教育委員会　伊藤宏幸氏講演資料　　2015.12.12.
「淡路島の弥生時代と山間地集落 五斗長垣内遺跡と舟木遺跡」
■ PDF ： http://www.infokkkna.com/ironroad/2017htm/iron13/1702funakiR3awajiregime.pdf

5. 弥生後期から卑弥呼の時代へ　ベールを脱いだ「弥生の Iron Road 和鉄の道」
淡路島　五斗長垣内遺跡の謎　シンポ 2010.11.21. 聴講 して
■ HTM ： http://www.infokkkna.com/ironroad/2010htm/iron6/1012gossa00.htm
■ PDF ： http://www.infokkkna.com/ironroad/2010htm/2010iron/10iron14.pdf

6. 弥生時代から卑弥呼の邪馬台国・大和初期王権へ 国家形成の時代を動かした「鉄」
2010 年秋 関西各地で開催された特別展とそのシンポジュウム ＆ 連続講演会 聴講まとめ
■ HTM ： http://www.infokkkna.com/ironroad/2010htm/iron6/1012hmko00.htm
■ PDF ： http://www.infokkkna.com/ironroad/2010htm/2010iron/10iron13.pdf

7. 淡路島 松帆銅鐸は出雲と同じ鋳型の兄弟銅鐸　国生神話の出雲・淡路は強い結びつき　2016.10.14..
■ PDF ： http://www.infokkkna.com/ironroad/2016htm/2016iron/16iron14.pdf

8. 「伊弉諾神宮 国生み神話の島」　淡路島で　大量の埋納銅鐸出土【1】　2015.5.20.
大和の進出による新旧勢力交代による　国づくりの始まりを示すのか?
国譲り神話の出雲の大量の埋納銅鐸出土（加茂岩倉・荒神谷遺跡）とそっくり
■ HTM ： http://www.infokkkna.com/ironroad/2015htm/iron11/1506doutaku00.htm
■ PDF ： http://www.infokkkna.com/ironroad/2015htm/2015iron/15iron10.pdf

9. 「伊弉諾神宮 国生み神話の島」淡路島で大量の埋納銅鐸出土【2】　2015.7.1
南淡路でみつかった埋納銅鐸　松帆銅鐸　（弥生時代前期末～中期前半）
■ PDF ： http://www.infokkkna.com/ironroad/2015htm/2015iron/15iron11.pdf

10. 近畿 弥生時代後期　淡路島に西日本最大級の鍛冶工房村が現れた時代の２・３世紀　2011.3.5.
■ PDF ： http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/11iron01.pdf

11. 南北市糴（してき）　朝鮮半島と倭を結ぶ「和鉄の道」　　2011.9.1.
魏志倭人伝の時代　朝鮮半島の鉄との交易品は何か・・・・
■ PDF ： http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/11iron01.pdf

番外１.　淡路・出雲・高千穂　三大神話の郷に伝わる　神楽の競演
【スライド動画】淡路島伊弉諾神宮 三大神話 神楽祭　2011.9.23.
■ HTM ： http://www.infokkkna.com/ironroad/2011htm/iron7/1110awji00.htm

番外２.　弥生の高地性集落【4】 弥生の高地性集落に「弥生の戦」・「日本人のルーツ」を探して
■ PDF ： http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/6iron14.pdf

◆ 新聞記事 & インターネット 参考資料 ◆

【PDF 資料】

1. インターネット検索 & Iron Road 資料整理
「国生み淡路島の実像 -津名丘陵山間地集落群の中心集落 舟木遺跡 概要-」 2018.8.25.
◎ 淡路島北部 瀬戸内海を見晴らす古代の海人の郷 淡路市野島
◎ 畿内に先駆けて鉄器文化を取り入れ、鉄器加工や製塩など生産工房群を展開した山間地集落群の中心 舟木遺跡
■ PDF : http://www.infokkkna.com/ironroad/2018htm/iron14/1809awajifunakiwebkensaku.pdf
2. 平成28年度舟木遺跡の発掘調査成果について 淡路市教育委員会(資料アレンジ整理) 2018.1.24.
■ PDF : http://www.hyogo-c.ed.jp/~board-bo/kisya28/2901/290125funaki.pdf
3. 平成29年度 舟木遺跡の発掘調査成果について 淡路市教育委員会 2018.3.25.
■ PDF : https://www.city.awaji.lg.jp/uploaded/life/22931_51066_misc.pdf
4 広報淡路 2018年5月号 近畿初の鉄製ヤスが出土 2018.5.5.
■ PDF : https://www.city.awaji.lg.jp/uploaded/attachment/20384.PDF

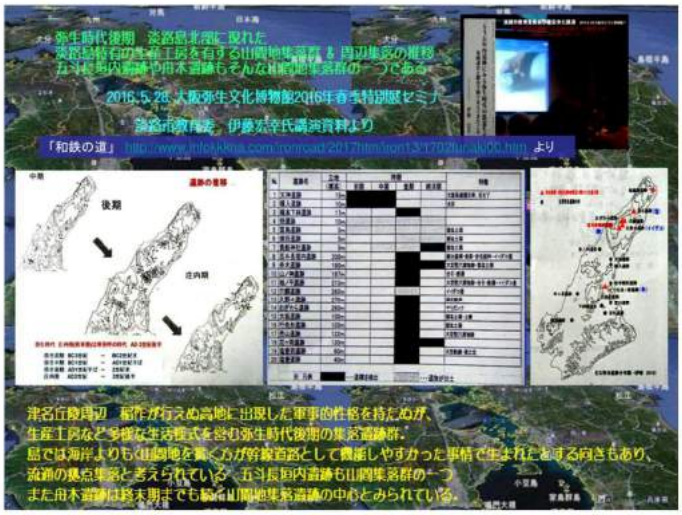
【淡路島 舟木遺跡・松帆銅鐸 関係新聞報道記事 & インターネット検索収集】

1. 2018.3.23. 神戸新聞掲載記事 弥生期の鉄製ヤス出土
2. 2017.1.26. 神戸新聞掲載記事 淡路 弥生期 鉄器拠点 & 鉄器の交易なりわいか ほか
3. 神戸っ子 2016年3月号 掲載記事 舟木遺跡
4. 『神戸・兵庫の郷土史』Web研究館 淡路島の大規模鉄器生産基地をうかがわせる「舟木遺跡」
http://kdskenkyu.saloon.jp/tale70fun.htm
5. 淡路市教育委員会 2017.1.24.
淡路市国生みプロジェクト成果発表 平成28年度 舟木遺跡の発掘発掘調査成果について
6. 淡路市教育委員会 2018.3.15.
平成29年度 淡路市国生みプロジェクト 舟木遺跡発掘調査成果報告会資料
7. 2018.3 3 神戸新聞NEXT 淡路で古代史シンポ 海人や国生み神話に新視点
海人や国生み神話をめぐるシンポジウム「淡路島古代史の魅力を探る」より
https://www.kobe-np.co.jp/news/sougou/201803/0011034677.shtml
8. 『古事記』の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」～古代国家を支えた海人の営み～
淡路市教育委員会 社会教育課長 伊藤宏幸
http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/nihon_isan/pdf/nihon_isan30.pdf
9. 貴船神社遺跡 (緑の道しるべ大川公園) & 野島の海人
淡路島日本遺産 貴船神社遺跡 http://kuniumi-awaji.jp/heritage/16kifune/ ほか
10. 宮本常一「海に生きる人々 」 1964. 8
11. 日本書紀などに記された淡路島の海人
「大和国家の成立～神武東従伝承～」 https://ameblo.jp/taishi6764/entry-11977217634.html
2018.3 3 神戸新聞NEXT 淡路で古代史シンポ 海人や国生み神話に新視点
海人や国生み神話をめぐるシンポジウム「淡路島古代史の魅力を探る」より
https://www.kobe-np.co.jp/news/sougou/201803/0011034677.shtml

◆ Web 収蔵File 和鉄の道・Iron Road 津名丘陵の山間地集落群の中心【舟木遺跡】現地探訪
http://www.infokkkna.com/ironroad/2018htm/iron14/1809awajifunaki00.htm
◎ mp4 スライド動画【8:25・41MB】
http://www.infokkkna.com/ironroad/2018htm/iron14/1809awajifunaki.mp4
◎ スライド原図 Photo Album 【129P・18MB】
http://www.infokkkna.com/ironroad/2018htm/iron14/1809awajifunakiphoto.pdf

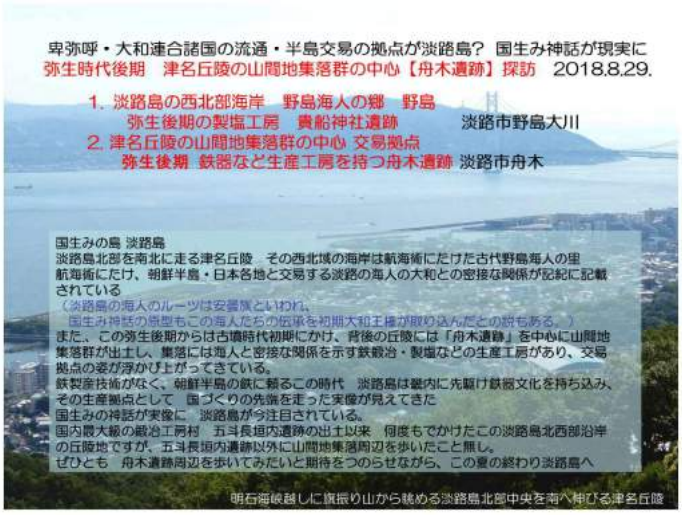
卑弥呼・大和連合諸国の流通・半島交易の拠点が淡路島？ 国生み神話が現実に
津名丘陵の山間地集落群の中心【舟木遺跡】探訪 2018.8.29.
国生みの島 淡路島 弥生後期の淡路島北部の津名丘陵
海人族と密接な鉄器加工・製塩などの生産工房を持つ山間地集落群が出土
弥生期の鉄製ヤス出土
鉄器の交易なりわいか
淡路 弥生期の鉄器拠点
明石海峡越しに旗振り山から眺める淡路島北部中央を南へ伸びる津名

国生み神話の淡路島が 卑弥呼の時代から古墳時代の日本の国造り謎を解き明かす？
淡路島日本遺産 弥生後期から終末期 津名丘陵の山間地集落群の中心集落 舟木遺跡探訪 2018.8.29.
❶ 淡路島北部 瀬戸内海を見晴らす古代の海人の郷 淡路市野島
❷ 畿内に先駆けて鉄器化を取り入れ、鉄器加工や製塩などの生産工房群を擁した山間地集落群の中心 舟木遺跡を訪ねる
卑弥呼の時代を解き明かす？ 淡路島
弥生後期の大山間地集落群 淡路市舟木遺跡から弥生期の鉄製ヤスが出土
海の民や北部九州とのつながりを示す？ 2018.3.23. 神戸新聞より
弥生期の鉄製ヤス出土
鉄器の交易なりわいか
淡路 弥生期の鉄器拠点


弥生時代後期 淡路島北部に現れた
淡路島特有の生産工房を有する山間地集落群 & 周辺集落の推移
五斗長垣内遺跡や舟木遺跡もそんな山間地集落群の一つである。
2016.5.28. 大阪弥生文化博物館2016年春季特別展セミナー
淡路市教育委 伊藤実幸氏講演資料より
「和鉄の道」 http://www.infoKina.com/romroad/2017html/rom13/s17021ur-ak00.htm より
後期
近畿
津名丘陵周辺 耕作が行えぬ高地に出現した軍事的性格を持ためが、
生産工房など多様な生活様式を営む弥生時代後期の集落遺跡群。
島では海岸よりも山間地を選べが幹線道路として農業しやすかった事情で生まれたとする向きもあり、
流通の拠点集落と考えられている、五斗長垣内遺跡も山間集落群の一つ
また舟木遺跡は終末期までも続く山間地集落遺跡の中心とみられている。

鉄器の交易なりわいか
淡路 弥生期の鉄器拠点
海の民、との関係も推証
工房跡発見、近畿最大か
小型工具も出土

古代海人の郷 野島海岸から津名丘陵を登って 山間地集落群の中心「舟木集落遺跡」へ
淡路島北西部瀬戸内に面した古代海人の郷 野島海岸
海岸を離れ、島の中央津名丘陵を登る


卑弥呼・大和連合諸国の流通・半島交易の拠点が淡路島？ 国生み神話が現実に
弥生時代後期 津名丘陵の山間地集落群の中心【舟木遺跡】探訪 2018.8.29.
1. 淡路島の西北部海岸 野島海人の郷 野島
弥生後期の製塩工房 貴船神社遺跡 淡路市野島大川
2. 津名丘陵の山間地集落群の中心 交易拠点
弥生後期 鉄器など生産工房を持つ舟木遺跡 淡路市舟木
国生みの島 淡路島
淡路島北部を南北に走る津名丘陵 その西北域の海岸は航海術にたけた古代野島海人の里
航海術にたけ、朝鮮半島・日本各地と交易する淡路の海人の大和との密接な関係が記紀に記載されている
（淡路島の海人のルーツは安曇族といわれ、
国生み神話の島型もこの海人たちの伝承を初期大和王権が取り込んだとの説もある。）
また、この弥生後期からは古墳時代初期にかけ、背後の丘陵には「舟木遺跡」を中心に山間地集落群が出土し、集落には海人と密接な関係を示す鉄鏃冶・製塩などの生産工房があり、交易拠点の姿が浮かび上がってきている。
鉄製産技術がなく、朝鮮半島の鉄に頼るこの時代 淡路島は畿内に先駆け鉄器文化を持ち込み、その生産拠点として 国づくりの先端を走った実像が見えてきた
国生みの神話が実像に 淡路島が今注目されている。
国内最大級の鍛冶工房村 五斗長垣内遺跡の出土以来 何度もでかけたこの淡路島北西部沿岸の丘陵地ですが、五斗長垣内遺跡以外に山間地集落周辺を歩いたこと無し。
ぜひとも 舟木遺跡周辺を歩いてみたいと期待をつのらせながら、この夏の終わり淡路島へ
明石海峡越しに旗振り山から眺める淡路島北部中央を南へ伸びる津名丘陵

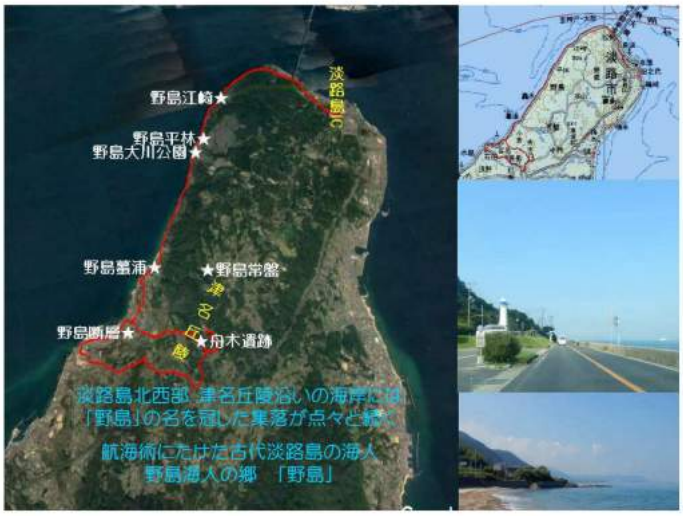
舟木遺跡
明石市
明石海峡
大川公園
野島海人像
淡路市
野島断層
震災記念公園
山間地集落群の中心
舟木遺跡
木曽川
五斗長垣内遺跡
淡路市
国生みの島 淡路島
淡路島北部を南北に走る津名丘陵
その西北域の海岸は古代野島海人の里
朝鮮半島・日本各地と交易する淡路の
海人は大和との密接な関係が記紀に記
載されている
また背後の丘陵からは
舟木遺跡を中心に海人と密接につなが
る鉄器加工・製塩などの生産工房を持
つ山間地集落群が出土
淡路島は畿内に先駆け鉄器文化を持ち
込み、その生産拠点として 国づくり
の先端を走った実像が見えてきた
国生みの神話が実像へ

淡路市
野島
舟木
津名丘陵周辺の瀬戸内海に面した北西部の
海岸「野島」は 野島海人の郷
Google

津名丘陵の丘陵上にある舟木遺跡へは淡路ICをでて、淡路島北西部　西に播磨灘が広がり、東は南北に伸びる津名丘陵獣の狭い海岸沿って集落が続く一本道を南へ。
野島大川にある野島の海人像や古代の製塩作業が再現されている大川公園を見て、さらに南の富島漁港の海岸部　野島断層が展示されている北淡震災記念公園へでる。
そこから、東へ入り組んだ丘陵地の中　集落や田園が段々に幾つも広がる津名丘陵に登り、舟木遺跡のある舟木集落へ。丘陵地というより、山は低いが、幾つもの枝谷が入り組んだ山麓の感がする。

地図では舟木集落が記載されて入るが、集落内は丘陵地の上部幾つもの丘に小さな道が入り組んで記載されているのみで、集落内を遺跡への道は難しいと聞く。
また、舟木遺跡は私有地で、すでに埋め戻され、勝手に遺跡の周知には入れず、道もよくわからないだろうと。「集落・舟木遺跡の中心部にある石上神社まで行けば、舟木遺跡周辺の地理的状況がわかるだろう」と聞く。
幸い舟木集落・舟木遺跡の中心部　磐座のある石上神社へのドライブナビが入ったのでこれを頼りに車を走らせることにして、8.29.朝　9時過ぎ、淡路ICをでる。
播磨灘に面した淡路島北西部の海岸を南へ野島の海岸部大川にある野島の海人像や古代の製塩作業が再現されている大川公園へ。さらに南へ下り、野島断層が展示されている北淡震災記念公園へ。

舟木集落の位置は山は低いが、幾つもの枝谷が入り組んだ山麓の感。
地図には舟木集落が記載されて入るが、集落内は丘陵地の上部幾つもの丘に小さな道が入り組んで記載されているのみである。
また舟木遺跡は私有地ですでに埋め戻され、
勝手に遺跡の周変には入れず、道もわかりにくいと聞く。
自動車のナビに頼って舟木石上神社まで登ってゆくことに。



貴船神社遺跡

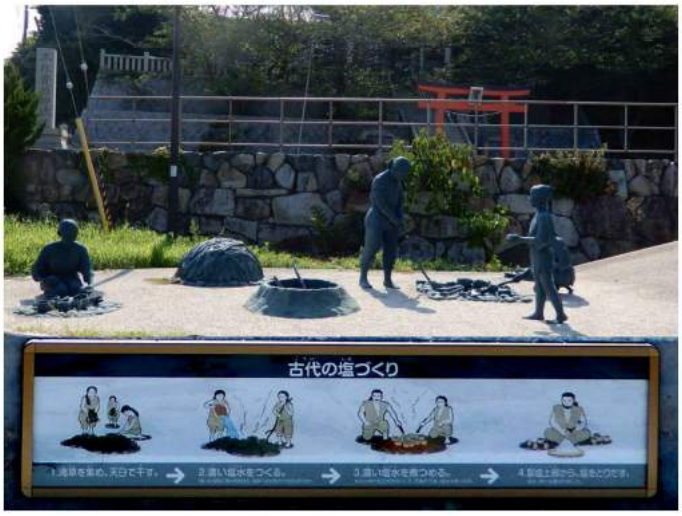
ここ大川公園一帯は、弥生時代から古代にかけて塩づくりを行っていた貴船神社遺跡が存在していました。兵庫県では、はじめての石敷炉が確認された遺跡であり、塩づくりの課程が推測できる貴重な遺跡です。播磨灘に面した海岸部に立地しており、明石市から西播磨の海岸はもとより瀬戸内海に浮かぶ家島諸島・小豆島や四国まで進出できます。塩づくりの遺跡は弥生時代末から奈良時代にかけて長期間にわたって継続しています。

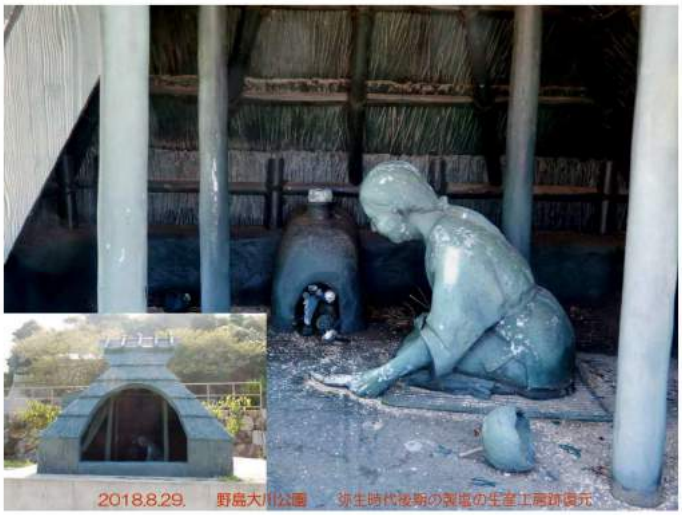
塩づくりには、濃縮した海水を作る行　とその塩水を煮詰めて塩を取り出す２つの工程があります。そのはじめの工程には「万葉集」に見られる「藻塩焼き」をあてる考えがありますが、今回は明らかにできませんでした。調査で明らかになったのは塩を取り出す工程です。濃縮した塩水を製塩土器に入れ、石敷きの炉に並べて煮詰め塩を取り出す作業を行っており、炉跡が22基以上確認されています。そのうちの19基は古墳時代末から奈良時代で、天乾潟沿岸では塩づくりが興盛する時期にあたります。

また、塩づくりに携わった古代人は万葉集や日本書紀にみられる野島海人と考えられます。貴船神社遺跡で最も盛んに塩づくりをした時期が野島海人の活躍したことと関係あるかもしれません。

塩づくり復元想像図

遺跡航空写真




2018.8.29.　野島大川公園　弥生時代後期の製塩の生産工房跡復元

2018.8.29.　野島大川公園

新しい技術　石式炉が出土
貴船神社遺跡
16

野島海人の郷　野島海岸、野島大川　2018.8.29.
野島大川公園前の砂浜から南側を遠望

野島海人の像が立つ野島大川公園　2018.8.29.　9:17
弥生時代後期の製塩の生産工房跡復元されている

2018.8.29.　9:17　野島大川公園
手前の大川公園が弥生時代後期の製塩の生産工房跡復元
右部に野島海人の像が立つ

2018.8.29. 古代野島の海人の郷 野島大川公園前の海岸線

2018.8.29. 古代野島の海人の郷 野島大川公園前の海岸線

弥生時代後期 津名丘陵の山間地集落群の中心【舟木遺跡】探訪 2018.8.29.
2. 津名丘陵の山間地集落群の中心 交易拠点
弥生後期 鉄器など生産工房を持つ舟木遺跡 淡路市舟木
2.1. 淡路島西北海岸 野島から津名丘陵へ登って 舟木集落へ
2.2. 弥生後期 鉄器加工など生産工房を持つ舟木遺跡
9:35 野島大川公園から舟木遺跡のある津名丘陵への入口北淡震災公園へ向かう

2. 津名丘陵の山間地集落群の中心 交易拠点
弥生後期 鉄器加工など生産工房を持つ舟木遺跡
2.1. 淡路島西北海岸 野島から津名丘陵へ登って 舟木集落へ
大石 9:45

野島蟇浦野から津名丘陵 大戸山周辺を遠望 2018.8.29. 9:47
この山の右側 丘の奥に目指す舟木集落がある
五斗長垣内遺跡のシンボなどで何度も訪れた北淡震災記念公園はすぐ南
北淡震災記念館から淡路島北西部の海岸を離れ 東へ津名丘陵へ登ってゆけば
目的の舟木集落・弥生後期に丘陵地に広がった鉄や製塩・干しイイタコなどの加
工・交易拠点集落群（淡路島山間地集落群）の中心「舟木遺跡」である
野島蟇浦野から津名丘陵 大戸山周辺を遠望(1)
この山の右側 丘の奥に目指す舟木集落がある 2018.8.29. 9:47

野島蟇浦野から津名丘陵 大戸山周辺を遠望（2）
この山の右側 丘の奥に目指す舟木集落がある 2018.8.29. 9:47

北淡サンピーチ横 地図を再度確認する
震災記念館近く、カーナビは北淡路記念館の横を通過し、
旧北淡町富島漁港から東へ折れて 県道を丘陵地を登り、
舟木集落へ入る コースを示している。
でも調べた地図では 野島断層・震災記念館から東へ折れて、
まっすぐ丘陵地へ登れば舟木集落があるはず。
少しゆくと左手に北淡震災記念館の標識がある三叉路。
この道に入れば、東へ道なりに丘陵地を登れば舟木集落へ行けそうであるが、
でも 丘陵地の上は細い生活道路ばかりで、道の状態はよくわからない。
南の津名丘陵の上にある五斗長垣内遺跡へ当初出かけた時に
道が細い生活道路のみで迷った経験があるので気になっている。
野島断層

弥生時代後期 山間地集落群の中心
舟木遺跡への道 概略
北淡サンピーチ
野島断層
北淡震災記念公園
富島漁港
山間地集落群の中心
舟木遺跡
大戸山
上仲社
舟木
長垣
上井
上井バス停
国土地理院の地図で一応舟木遺跡までの道は調べ、
北淡震災記念館からまっすぐ東へ津名丘陵を登れ
は、舟木集落まで行けそう。
でも車のナビは県道を通って、津名丘陵を登って、
南から舟木集落にゆくことをリコメンドする。
丘陵の上で車が動けなくなるのも嫌なので
舟木集落周辺の津名丘陵を眺めた少し登り、丘陵
地の様子を見て引き返し、ナビの通り県道を進み、
南側から舟木集落に入ることにする。
Google

海岸線を離れ東へ　北淡震災記念館の標識がある三叉路を東へ入る　2018.8.29.　9:48
すぐに北淡記念館の標識が見えるが、津名丘陵の山並み　舟木集落周辺部の状況が知りたくて、
そのまま東へ丘陵地を登ってゆく。

北淡震災記念館の東へ入ると淡路島北部中央を南北に伸びる津名丘陵　2018.8.29.
丘陵を一段上へ上がった丘陵の上が正面に　長畠の集落か？丘の上にも集落が見える
舟木の集落はもっと左手の丘の上である。　また道の左側は丘陵地の斜面に沿う崖

北淡震災記念館の東へ入ると淡路島北部中央を南北に伸びる津名丘陵　2018.8.29.
道は左へループして丘陵地をの登って、舟木集落周辺の丘が見えてくる

野島断層・震災記念館の東　津名丘陵の中腹の十字路　　丘陵地の正面上が舟木集落のようだ
交差する道に沿って　入り組んだ谷筋が広がる入り組んだ地形。でもこのまま行けんこともな
ナビはやっぱり県道をゆくことを進める。
なんと言っても野島断層が走る丘陵地帯　無理せずに戻って、県道を舟木集落へゆくことに。

震災記念公園の東　津名丘陵中腹の十字路から眺める舟木集落周辺　2018.8.29.

津名丘陵の中腹から見下ろす野島震災記念公園周辺の海岸部　　2018.8.29.
眼下には丘陵地の斜面を使った太陽光パネルがいくつも設置され、
震災記念公園から登ってきた道や海岸部が見え、随分登ったことがわかる

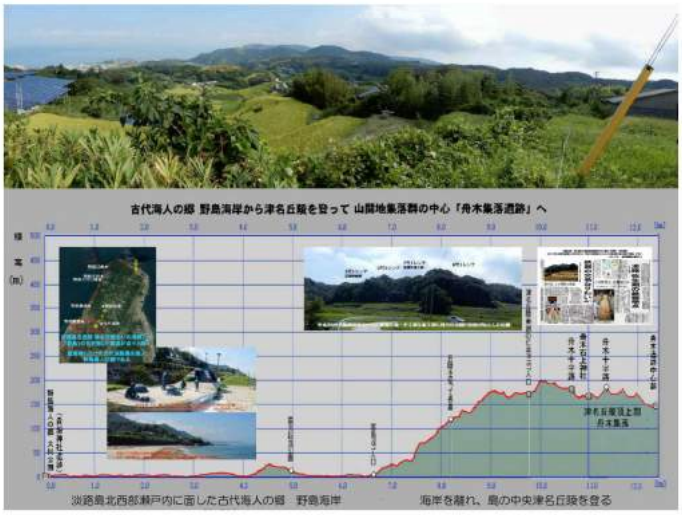
震災記念公園の東　津名丘陵へ登る道　2018.8.29.

北淡震災記念館駐車場から眺める津名丘陵　舟木集落周辺遠望（1）　2018.8.29.

北淡震災記念館周辺から眺める津名丘陵　舟木集落周辺遠望(2)　2018.8.29.

北淡震災記念館周辺から眺める津名丘陵　南東側　舟木集落から仁井周辺遠望
北淡震災記念館周辺から眺める津名丘陵　南西側　富島 周辺
震災公園内には台風20号で倒れたシンボルの大型風力発電風車の残骸が見える

車のナビ通り、南の富島から東へ県道71号に入り、津名丘陵の山腹を斜めに登りを過って、
津名丘陵を登って、長畠の集落から丘陵の最上部　仁井の集落から北へ丘陵の最上部を
北に走る県道157号を舟木集落にゆく。　9:55
山間地集落群
の中心集落
舟木遺跡
舟木
淡路市


古代海人の郷 野島海岸から津名丘陵を登って 山間地集落群の中心「舟木集落遺跡」へ
淡路島北西部瀬戸内に面した古代海人の郷　野島海岸
海岸を離れ、島の中央津名丘陵を登る

野島断層
震災記念公園
富島
小倉
舟木
山間地集落群
ひやく集落
舟木遺跡
舟木集落の位置は山は低いが、幾つもの枝谷が入り組んだ山麓の感。
地図には舟木集落が記載されて入るが、集落内は丘陵地の上部幾つもの丘に
小さな道が入り組んで記載されていないのみである。
また舟木遺跡は私有地ですでに埋め戻され、勝手に遺跡の周知には入れず、
道もよくわからないだろうと聞く。
自動車のナビに頼って舟木石上神社まで登ってゆくことに。

海岸沿いの富島の街から東へ　島の中央　津名丘陵を乗越して
東西の海岸線つなぐ県道71号線に入る

津名丘陵を東へ越える県道71号　長畠集落から眺める北側　2018.8.29.　10:04
先程 震災記念公園から東へ入った谷筋が下に見えている

県道71号　長畠集落から眺める津名丘陵の山腹に広がる棚田　2018.8.29.　10:04

県道71号　長島集落から眺める津名丘陵の山麓に広がる棚田　2018.8.29.10:04

西から東へ　津名丘陵の乗越しにある仁井集落標識　2018.8.29.【1】10:08
県道71号は津名丘陵を乗越して、東海岸へ
舟木集落へはすぐ先の十字路を北へ津名丘陵の上を進む県道157号に入る

西から東へ　津名丘陵の乗越しにある仁井集落標識　2018.8.29.【2】
県道71号は津名丘陵を乗越して、東海岸へ
舟木集落へはすぐ先の十字路を北へ津名丘陵の上を進む県道157号に入る

仁井集落から津名丘陵の上を北に走るやっと車がすれ違える狭い県道157号
集落のない樹林の中曲がりくねった道を行く

県道157　舟木集落入口　西の富島・野島断層から続いてきた道との十字路　2018.8.29.
仁井の集落で教えてもらった十字路を左手　北に曲がれば舟木の集落
あとで理解したのですが、実は津名丘陵を途中まで登ってきた道がこの道だった
Google Earth より

県道157号線十字路から南へ舟木集落へは急な坂道を下る

竹林の広がる丘を南に抜けるとぱっと視界がひらけ、
津名丘陵　丘陵地の丘の上　舟木集落に到着

津名丘陵の上にある舟木集落　到着　google earth

舟木集落　舟木石上神社前　【1】　2018.8.29.
車のナビはここで終了　　右へコンクリートの坂道への登り口に見落としそうな
「石上神社」と小さな標識。車一台が通れる坂道　このすぐ上が舟木石神神社だった

舟木集落　舟木石上神社前　【1】　石上神社の案内標識　2018.8.29.　10:11
右へコンクリートの坂道への登り口に見落としそうな「石上神社」と小さな標識。
車一台が通れる坂道　このすぐ上が舟木石神神社だった

2. 津名丘陵の山間地集落群の中心 交易拠点
弥生後期 鉄器など生産工房を持つ舟木遺跡　淡路市舟木
2.1. 舟木集落の絆　舟木石上神社（舟木石神座）
2.2. 平成28年発掘調査で鉄器工房などが出土した現地周辺
Google Earth

舟木遺跡の位置と遺跡エリア　現在はすべて埋めもどされ、遺構は見られないが、
舟木集落の拠り所　舟木石神神社へ行き、平成28年度発掘調査で鉄器工房が出土した丘陵辺へ行く道を探す
八阪神社
舟木石上神社
（舟木石神座）
H28・29発掘調査丘陵
舟木石上神社★
0
300m

舟木集落　舟木石上神社（舟木石上座）の鳥居前　【1】　2018.8.29. 10:13
小さな鳥居の前に「女人禁制」の石標と石上神社の概説案内板があり、
家内を残して、この奥神域の森の中に入ると大きな磐座　石上座が祀られていました

舟木集落　舟木石上神社（舟木石上座）の鳥居前　【2】
小さな鳥居の前に「女人禁制」の石標と石上神社の概説案内板があり、
家内を残して、この奥神域の森の中に入ると大きな磐座が祀られていました

舟木石神座と女人禁制
★日の神の信仰
★祭
★日を迎える座と日を送う座
女人禁制

今なお残る「女人禁制」の舟木石上神社（古代の祭祀場　舟木石神座）
春分&秋分の日に太陽が通る「太陽の道」の「日の神信仰」一番西の端にある磐座
林に包まれた磐座の後側には幾つも巨石・石組があり、
2000年を経る今も守り継がれている祭祀場である
この舟木石神座は弥生時代後期の舟木遺跡の一部で、標高約150メートルに位置し、
約40ヘクタールに及ぶ舟木遺跡の中央部伊勢の森とも呼ばれる地。その巨石祭祀跡として
位置づけられ、2000年以上続く現役の祭祀場で、祭祀は今も厳粛に続けられている。
この地は弥生時代から続く交通の要衝でもあり、重要集落であったろう。
「ライン北緯34度32分の線 春分&秋分の日に太陽が通る太陽の道」
奈良県の巻向古墳を中心に東の端がアマテラス大神を祀る伊勢となり海上の島、神島へ
縄文古墳からほぼ同じ距離を西の端へ進むと 淡路島 伊勢の森の伊勢久留麻神社があり、
その西の岬を越えたところに舟木石神座が居る。
「太陽を信仰する地には、『日を迎える座』と『日を送う座』があるといい、
それぞれ朝日に向かって、夕日に向かって祭事を行う。
前者は男性が、後者は女性が祭事を司るとされ、
この舟木石神座は前者にあたり、長らく女人禁制が守られてきたという

舟木神社磐座　舟木石上座

舟木神社磐座　舟木石上座
この周辺からも弥生時代の遺物が出土　今に至るまで　舟木の集落が守ってきた磐座
この磐座後ろ側には　磐座を取り囲んで、巨石や組石が幾つも有り、祭祀の場であった

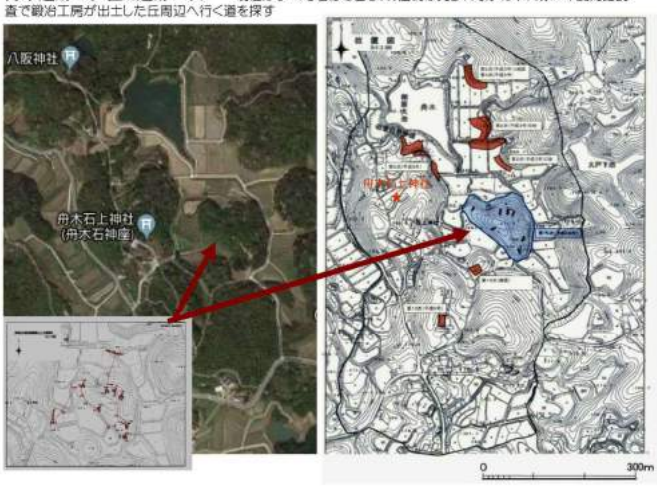
林に包まれた磐座の後側に回り込むと　幾つも巨石・石組があり　、2000年を経る今も守り継がれている祭祀の場

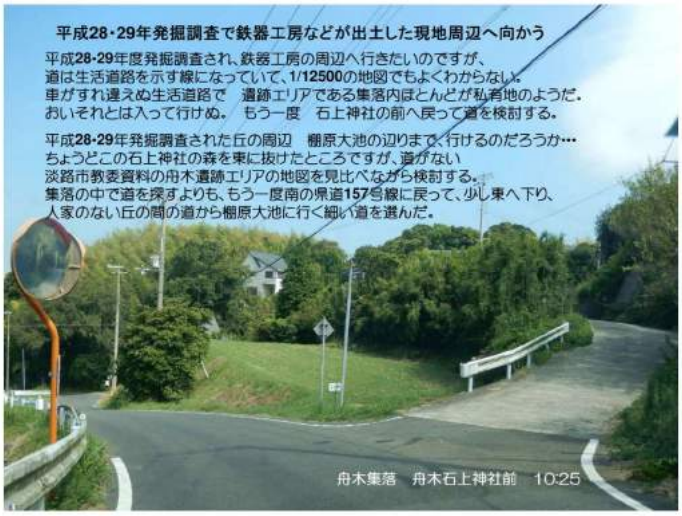
舟木神社　舟木石上座　【2】

[illegible]の神域には入れませんが、下の谷筋から[illegible]
[illegible]ていました。
舟木石上神社　神官に入れぬ女性のための丘の下から舟木石上座を拝する道【1】

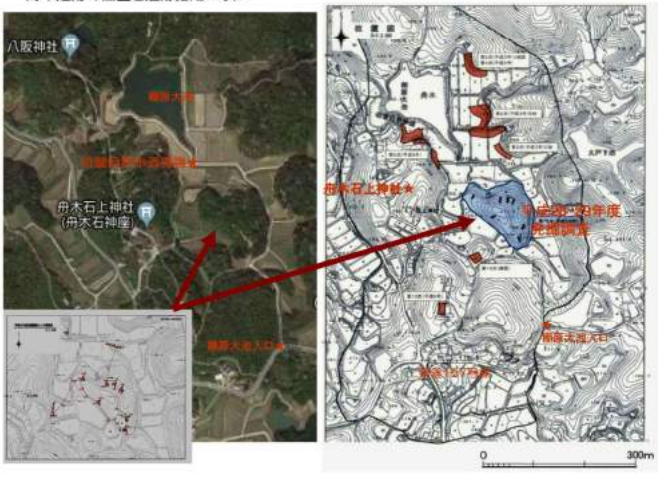
舟木石上神社　神官に入れぬ女性の為の丘の下から舟木石上座を拝する道【2】

舟木遺跡の位置と遺跡エリア　現在はすべて埋めもどされ、遺構は見られないが、平成28年度発掘調査で鍛冶工房が出土した丘周辺へ行く道を探す





舟木遺跡の位置と遺跡指定エリア



舟木遺跡の位置と遺跡指定エリア

淡路島北部 弥生後期の山間地集落遺跡群群の中心集落「淡路市 舟木遺跡」
近くの五斗長垣内遺跡を上回る新たな「弥生の鉄器拠点とみられる国内最大級の鍛冶工房跡」が出土
2017. 1. 26. 神戸新聞他の報刊より

淡路弥生期の鉄器拠点

舟木遺跡

工房跡発見、近畿最大か

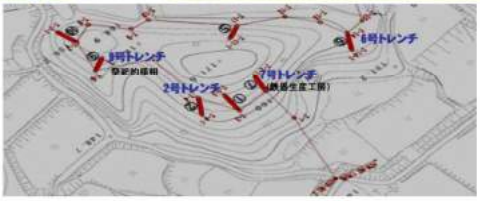
「五斗長垣内」近く 小型工具も出土

鉄器の交易なりわいか

淡路に近畿最大の工房跡

「海の民」との関係も推認

邪馬台国前の社会 解明期待

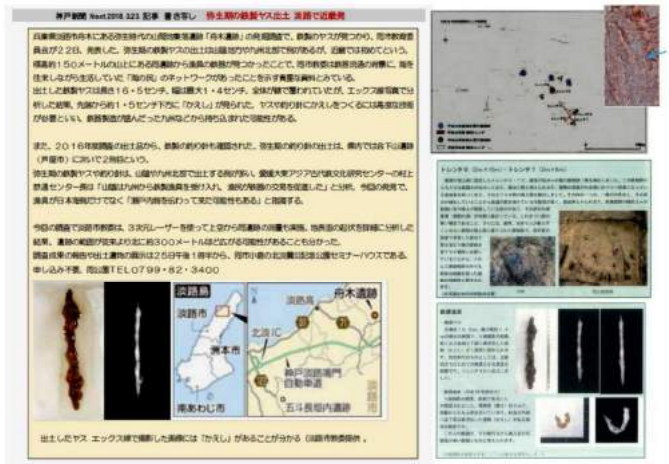


平成28年発掘調査地点の丘と鉄器生産・手工業生産工房と見られる竪穴住居が出土した位置

平成28年発掘調査地点の丘と鉄器生産・手工業生産工房と見られる竪穴住居が出土した位置

平成28年度舟木遺跡出土鉄器
武器は出土せず　ヤス・釣り針など
小型漁労関係具とその加工工具が多い

平成29年度　平成28年度と同じ丘陵部　前年度出土した3棟の竪穴住居を見下ろす頂上部で1棟の鍛冶炉のある大型竪穴住居が出土。また本年も104点の鉄器のほか土大量の土器や出土。其の中に鉄製ヤスも含まれていました。　わかに　イイタコ壺や製塩土器もふくまれていました



圃場整備された舟木集落の田園　棚原大池を中心とした舟木遺跡エリアの中央部

弥生時代後期-終末期の淡路島山間地集落群の中心集落「舟木遺跡」概要【1】

平成29年2月　淡路市教委　淡路市国生みプロジェクト「平成28年舟木遺跡発掘調査結果報告」より整理

http://www.hyogo-c.ed.jp/~board-bo/kisya28/2901/290125funaki.pdf

淡路島北西部の海から約２ｋｍ、標高１５０ｍの内陸丘陵地で、南北約８００ｍ、東西５００ｍの推定４０万㎡の広大な遺跡で、淡路市の丘陵部津名丘陵に点在する約200カ所の弥生時代後期の遺跡群淡路島山間地集落群の中心的集落遺跡。

弥生時代後期の鉄器生産工房を持つ遺跡「五斗長垣内遺跡」から東北に約６ｋｍの位置に、昭和４１年小学生の土器発見により、この弥生遺跡「舟木遺跡」の存在が明らかになり、平成２年から圃場整備事業などの開発工事に伴う発掘調査で、大型の竪穴建物跡、中国鏡の破片や器台、製塩土器、イイダゴ壺などが出土していました。

平成27年淡路島における古代の歴史文化を明らかにしようと始まった「淡路市国生み研究プロジェクト事業」として、平成２８年舟木遺跡の本格的な発掘調査が実施されました。

遺跡発見の端緒となった土器が出現した尾根（約１ha）の７カ所（総調査面積１２８㎡）に設定した幅２ｍのトレンチ（調査溝）のうち、４カ所から竪穴建物跡、５７点にも及ぶ鉄器（小さな針状の工具類や鍛冶に関わるもの）、その他台石、叩石、磨石、砥石などの石器が４２点出土。

発掘された大型の竪穴建築物跡４棟のうち３棟は直径１０ｍ以上の円形、しかもそのうち１棟は赤く焼けた炉跡４基あって、炉の近くから鉄片が発見され、鍛冶用と考えられる砥石・敲石など石製工具も発見され、中央部が広く作業に適した工房跡（鉄器製作を行った鍛冶工房）と思われます。

また、４棟全てから鉄器製作用とみられる多数の石器類、鉄器の類がでました。

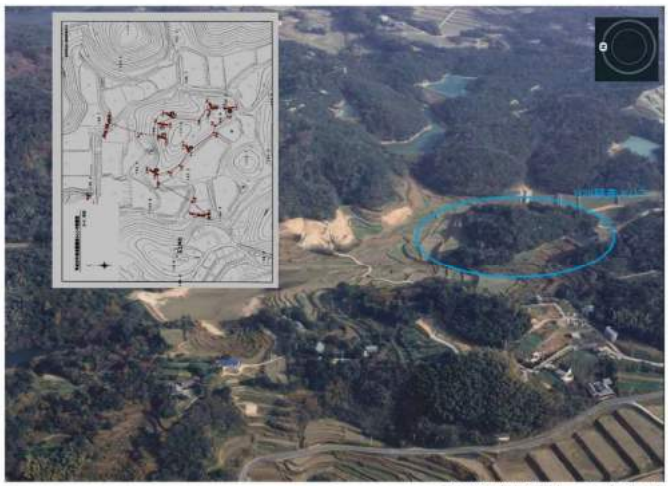
「舟木遺跡」は、武器類の鉄器が多く出た近隣の「五斗長垣内遺跡」とほぼ同時期に存在していましたが、現在のところ武器類以外の生活用？鉄器が中心で、「五斗長垣内遺跡」よりも長く鉄器生産を続けていたと考えられています。

平成28年の調査は、広大な遺跡エリアの中心部に位置する狭い尾根に、限定された地点をトレンチするという方式で、全面発掘ではありませんでしたが、これだけ多くの発見がありました。

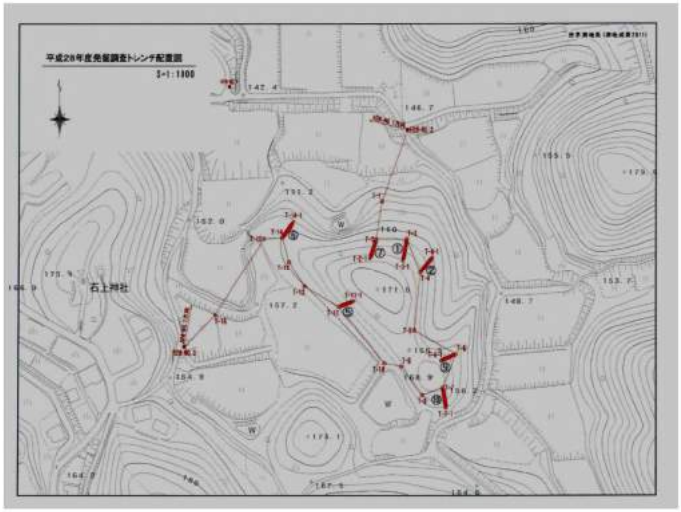
また、遺跡エリア内に古くから祀られている石上神社の磐座　石上神社周辺からも大型の器台形土器が発見されている。

平成27年度に中国鏡野発見につながった出土遺物の再整理に続き、本年度は遺跡発見の契機となった尾根を対象として発掘調査を行い、限られた調査面積であったにもかかわらず、五斗長垣内遺跡に続き、多数の鉄器が出土し、ほか　大型の工房建物の存在が明らかになるなど、弥生字体の鉄器文化を解明する上で、極めて重要な遺跡である可能性見えてきた。

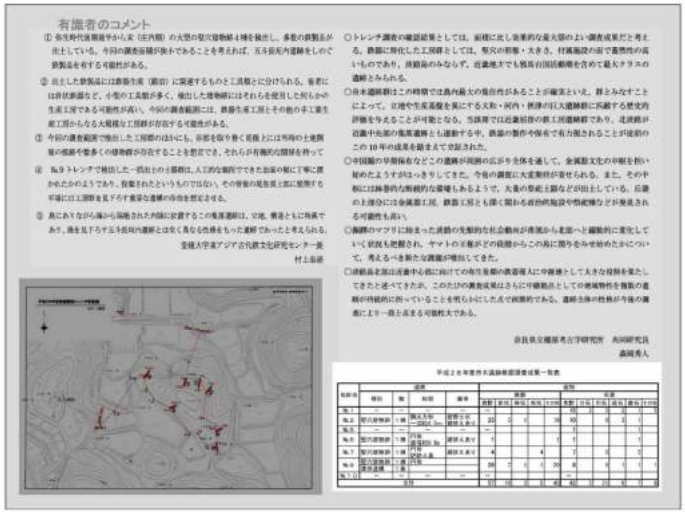
舟木遺跡の位置と遺跡指定エリア



平成 28 年度発掘調査エリア航空写真



平成 28 年度舟木遺跡出土鉄器



有識者のコメント

① 弥生時代後期後半から末（庄内期）の大型の竪穴建物跡４棟を検出し、多数の鉄製品が出土している。今回の調査区域が狭小であることを考えれば、五斗長垣内遺跡をしのぐ鉄製品を有する可能性がある。

② 出土した鉄製品には農具（鍬先）に関連するものと工具類とに分けられる。後者には伐採鉄器など、小型の工具類が多く、検出した建物跡にはそれらを使用した何らかの生産工房である可能性が高い。今回の調査範囲には、鉄器生産工房とその他の手工業生産工房からなる大規模な工房群が存在する可能性がある。

③ 今回の調査範囲で検出した工房群の様子にも、谷筋を取り巻く尾根上には市岡の上遺跡等の墓跡や数多くの建物群が存在することを想定でき、それらが有機的な関係を持って

④ 丸9トレンチで検出した一辺約５ｍの建物は、人工的な盛土でできた台座の様に丁寧に敷かれたかのようであり、設置されたというよりでは無い、その背後の尾根筋と対に配置され平屋に付工房群を見下ろす重要な遺構の存在を想定させる。

⑤ 島にありながら海から隔絶された内陸に位置することの意味遺跡は、立地、構造ともに特異であり、海を見下ろす五斗長垣内遺跡と対をく為ならば性格をもった遺跡であったと考えられる。

全国大学実アジア古代鉄文化研究センター長　村上恭通

○トレンチ調査の確認結果としては、面積に比し効果的な最大限のよい調査成果だと考える。鉄器に特化した工房群としては、竪穴の形態・大きさ、付属施設の面で高度性の高いものであり、淡路島のみならず、近畿地方でも牧島台国跡遺構を含めて最大クラスの遺跡とみられる。

○舟木遺跡群はこの時期では島内最大の集住性があることが確実といえ、群とみなすことによって、立地や生産基盤を異にする大和・河内・摂津の巨大遺跡群に匹敵する歴史的評価を与えることが可能となる。当該期では近畿初期の鉄工房遺跡群であり、北淡郡が近畿中央部の集荷遺跡とも連動する中、鉄器の製作や保有で有力視されることが確認のこの 10 年の成果を踏まえて公証された。

○中国圏の早期採有などこの遺跡が周囲の広がり全体を通して、金属器文化の解を担い始めたようすがはっきりしてきた。今後の調査に大変期待が寄せられる。また、その中核には陸墓的な集落も存在するようで、大量の祭祀土器などが出土している。伝播の上流分には金属器工房、鉄器工房とも深く関わる政治的拠点や祭祀機などが発見される可能性も高い。

○海峡のマツリに始まった波路の先駆的な社会動向が南部から北部へと緩慢的に変化していく状況も把握され、ヤマトの王権がどの段階からこの島に関与を示せ始めたかについて、考えるべき新たな課題が現出してきた。

○波路島北部は近畿中心部に向けての海外交易の最前線として中継地として大きな役割を果たしてきたと述べてきたが、このたびの調査成果はさらに中継拠点としての地域特性を複数の意味が時期的に担っていることを明らかにしたとで画期的である。遠絡北陸の性格が今後の調査により一段と高まる可能性大である。

奈良県立橿原考古学研究所　共同研究員
森岡秀人

平成２８年度舟木遺跡発掘調査成果一覧表

発掘地	遺構				遺物										
	種別	数	時期	備考	須恵器					土師器					
					壺類	甕類	鉢類	高台付	不明	壺類	甕類	鉢類	高台付	不明	
丸７	—	—	—	—	—					多			少		
丸８	竪穴建物跡	１棟	弥生末期～古墳初期	建物立柱穴	多	少	少		多	多	少	少			
丸９	—	—	—	—	—										
丸９	竪穴建物跡	１棟	弥生末期～古墳初期	建物立柱穴	1					1					1
丸７	竪穴建物跡	１棟	弥生末期～古墳初期	建物立柱穴	4			4		7			3		5
丸８	竪穴建物跡	１棟	古墳		28	7	1	1	20	8		4		1	1
丸１０	竪穴建物跡	１棟	—	—	—										
計		5	3		33	7	1	5	20	46	1	7	3	1	7

弥生時代後期-終末期の淡路島山間地集落群の中心集落「舟木遺跡」概要【2】
平成29年度　淡路市国生みプロジェクト　舟木遺跡発掘調査成果
淡路市教育委員会　2018. 3.15.

弥生期の鉄製ヤス出土

高度な技術 九州などから流通か

2018.3.23. 神戸新聞　朝刊

今月の
クローズアップ　舟木遺跡

広報淡路 2018年5月号　2018.5.5.

https://www.city.awaji.lg.jp/uploaded/attachment/20384.PDF

近畿初　鉄製ヤスが出土

～平成29年度 舟木遺跡の発掘調査成果を発表～

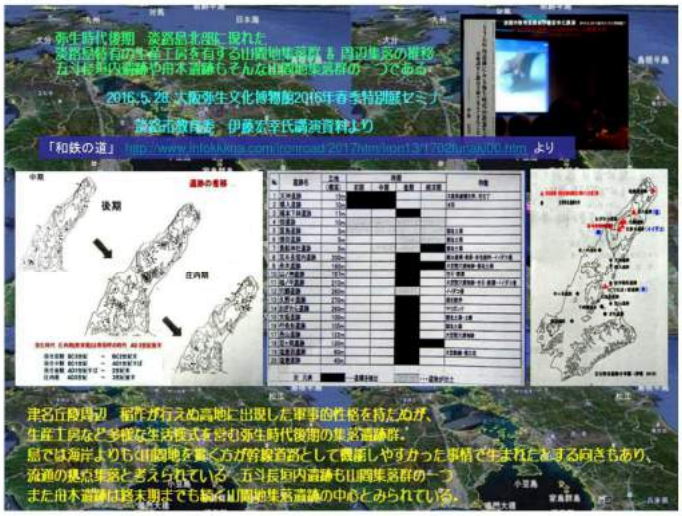
神戸新聞 Next 2018.3.23 記事　書き写し　弥生期の鉄製ヤス出土 淡路で近畿発

淡路島

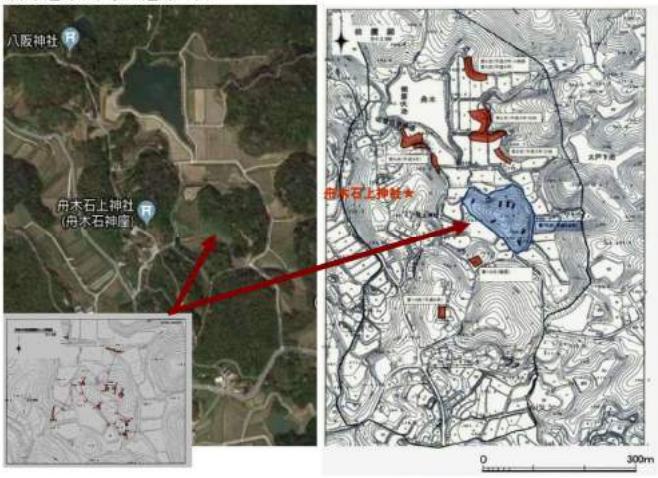
舟木遺跡

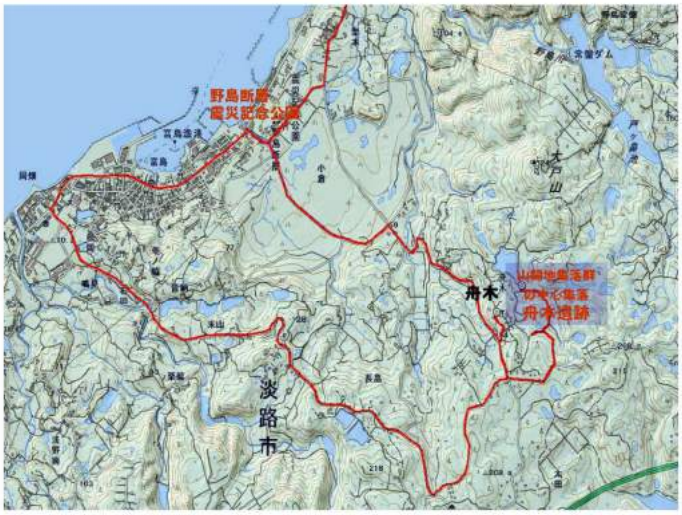
出土したヤス　エックス線で撮影した画像には「かえし」があることが分かる（淡路市教委提供）。

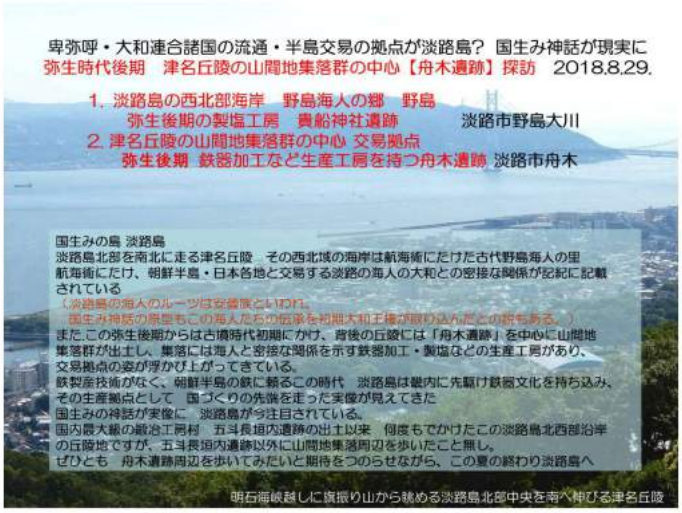
平成29年度　平成28年度と同じ丘陵部　前年度出土した3棟の竪穴住居を見下ろす頂上部で1棟の鍛冶炉のある大型竪穴住居が出土。また本年も104点の鉄器のほか土大量の土器や出土。其の中に鉄製ヤスも含まれていました。　わかに　イイタコ壺や製塩土器もふくまれていました

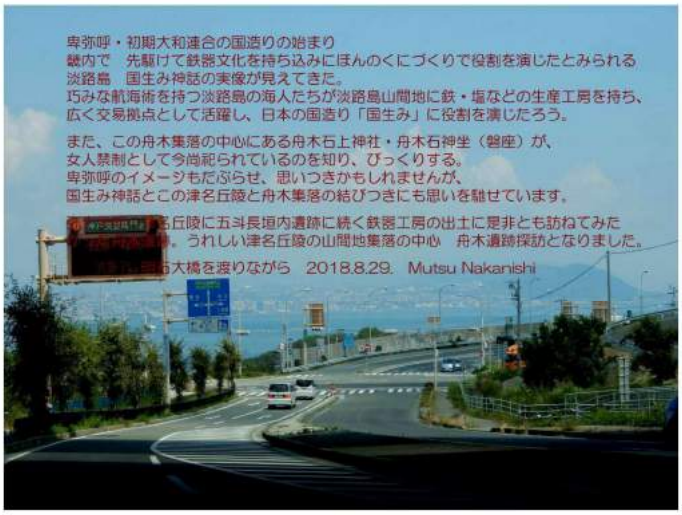


舟木遺跡の位置と遺跡エリア









■ 和鉄の道・Iron Road by Mutsu Nakanishi 【1】

1. 卑弥呼の時代を解き明かす？　2018.3.23. 神戸新聞より
淡路島弥生後期の大山間地集落群淡路市舟木遺跡．
弥生期の鉄製ヤスが出土 海の民や北部九州とのつながりを示す？
■PDF： http://www.infokkkna.com/ironroad/2018htm/2018iron/18iron03.pdf
2. 淡路島弥生時代の鉄器拠点「淡路市 舟木遺跡」鉄器の交易をなりわいか？
近くの五斗長垣内遺跡を上回る新たな「弥生の鉄器拠点　国内最大級の鍛冶工房跡」が出土
■html： http://www.infokkkna.com/ironroad/2017htm/iron13/1702funaki00.htm
■PDF： http://www.infokkkna.com/ironroad/2017htm/2017iron/17iron01.pdf
3. 大阪弥生文化博物館2016年春季特別展第3回考古学セミナー
淡路市教委 伊藤宏幸氏講演「淡路島 五斗長垣内遺跡にみる弥生時代の鉄器生産」
聴講 まとめ by Mutsu Nakanishi　2016. 5.28
■html： http://www.infokkkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1607awaji00.htm
■PDF： http://www.infokkkna.com/ironroad/2016htm/2016iron/16iron07.pdf
4. 淡路文化資料館　淡路市教育委員会　伊藤宏幸氏講演資料　2015.12.12.
「淡路島の弥生時代と山間地集落 五斗長垣内遺跡と舟木遺跡」
■PDF： http://www.infokkkna.com/ironroad/2017htm/iron13/1702funakiR3awajiregime.pdf
5. 弥生後期から卑弥呼の時代へ　ベールを脱いだ「弥生のIron Road 和鉄の道」
淡路島　五斗長垣内遺跡の謎　シンポ 2010.11.21. 聴講 して
■html： http://www.infokkkna.com/ironroad/2010htm/iron6/1012goss00.htm
■PDF： http://www.infokkkna.com/ironroad/2010htm/2010iron/10iron14.pdf
6. 弥生時代から卑弥呼の邪馬台国・大和初期王権へ 国家形成の時代を動かした「鉄」
2010 年秋 関西各地で開催された特別展とそのシンポジュウム & 連続講演会 聴講まとめ
無手勝流で 鉄をキーワードに 弥生から邪馬台国・大和王権への変遷を整理
■html：http://www.infokkkna.com/ironroad/2010htm/iron6/1012hmko00.htm
■PDF：http://www.infokkkna.com/ironroad/2010htm/2010iron/10iron13.pdf

■ 和鉄の道・Iron Road by Mutsu Nakanishi 【2】

7. 淡路島 秋帆銅鐸は出雲と同じ鋳型の兄弟銅鐸　2016.10.14..
国生神話の出雲・淡路は強い結びつき
■PDF： http://www.infokkkna.com/ironroad/2016htm/2016iron/16iron14.pdf
8. 「伊弉諾神宮 国生み神話の島」　淡路島で　大量の埋納銅鐸出土【1】
2015.5.20.　大和の進出による新旧勢力交代による　国づくりの始まりを示すのか ???
国譲り神話の出雲の大量の埋納銅鐸出土（加茂岩倉・荒神谷遺跡）とそっくり
■html： http://www.infokkkna.com/ironroad/2015htm/iron11/1506doutaku00.htm
■PDF： http://www.infokkkna.com/ironroad/2015htm/2015iron/15iron10.pdf
9. 「伊弉諾神宮 国生み神話の島」淡路島で大量の埋納銅鐸出土【2】　2015.7.1
南淡路でみつかった埋納銅鐸 松帆銅鐸 （弥生時代前期末～中期前半）
■PDF： http://www.infokkkna.com/ironroad/2015htm/2015iron/15iron11.pdf

■ インターネット他 参考資料

国生み神話の淡路島が 卑弥呼の時代から古墳時代の日本の国造り謎を解き明かす？

1. 概要資料　淡路島日本遺産　弥生時代後期の山間地集落群の中心舟木遺跡　2018.8.25.
◎ 淡路島北部 瀬戸内海を見晴らす古代の海人の郷 淡路市野島
◎ 畿内に先駆けて鉄器文化を取り入れ、
鉄器加工や製塩など生産工房群を展開した山間地集落群の中心 舟木遺跡
■PDF http://www.infokkkna.com/ironroad/2018htm/14iron/1809awajifunakiwebkensaku.pdf
2. 平成28年度　舟木遺跡の発掘調査成果について　淡路市教育委員会　2017.1.24.
資料アレンジ整理しました
■PDF： http://www.hyogo-c.ed.jp/~board-bo/kisya28/2901/290125funaki.pdf
3. 平成29年度　舟木遺跡の発掘調査成果について　淡路市教育委員会　2018.3.25.
資料アレンジ整理しました
■PDF：https://www.city.awaji.lg.jp/uploaded/life/22931_51066_misc.pdf
4. *広報*淡路 2018年5月号　近畿初の鉄製ヤスが出土　2018.5.5.
■PDF：https://www.city.awaji.lg.jp/uploaded/attachment/20384.PDF

弥生時代後期 淡路島北部中央津名丘陵に 鉄器加工・製塩などの生産工房を有する山間地集落群が出現
淡路島の海人たちが 畿内・ヤマトに 先駆けて先進的な鉄器文化持ち込み、日本の国造りに貢献した．

津名丘陵の山間地集落群の中心「舟木遺跡」現地探訪 2018.8.29.

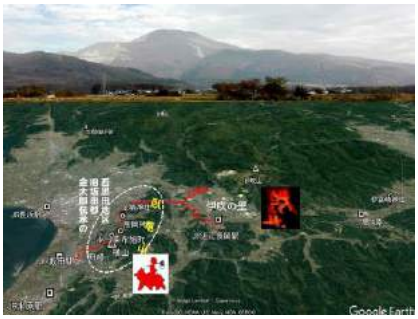
野島海岸を見降ろす津名丘陵頂上部の舟木集落沿って広がる弥生後期の山間地集落群の中心 舟木遺跡

2018 Iron 07

【スライド動画】&【Photo アルバム】

古代たたらの故郷　湖北
伊吹山山麓　たたらの里に眠る「金太郎」伝承　walk
長浜市西黒田地区(旧坂田郡西黒田村)　2018. 11. 12.

2018.12.5.　1812ibuki00.htm　by Mutsu Nakanishi



本年６月　Iron Road に転記ご紹介しました「たたらの郷　湖北 伊吹山山麓 旧坂田郡のに残る金太郎伝承」

◎ 湖北 伊吹山山麓 近江国 旧坂田郡に残る金太郎伝承 長浜市 旧坂田郡 長浜市西黒田　2018.6.1.

http://www.infokkkna.com/ironroad/2018htm/iron14/1806nagahamakintarou.pdf

たたらの山　伊吹山西麓のたたら関連地に「桃太郎」伝承が残ると知って、

湖北伊吹山西麓のたたらの郷 伊吹 & 桃太郎伝承の残る長浜市西黒田地区を訪ねました。

湖岸沿いに広がる長浜市。なんで 湖岸の長浜に伊吹山のたたらの関連地金太郎の伝承があるのだ。

私の頭では長浜は米原の北。そんなに伊吹山と長浜は近いのか?でも、今回しっかり地図を眺めてわかりました。

長浜市の東の境界は臥竜山の丘が南北に走り、その丘の後ろに伊吹山がそびえる米原市伊吹の里がある。

湖岸の長浜の街の背後に、南北に長く臥竜山の丘が寝そべり、その後ろに伊吹山がそびえる伊吹の里だと初めて理解できました。長浜の街からは伊吹山の山体は見えないが、いつも頭をのぞかせ、長浜と伊吹の里は昔も今も密接につながっていると初めて理解。長浜と米原市の伊吹の里との間に寝そべる臥竜山の山裾　長浜市の南部旧坂田郡長浜市西黒田地区が桃太郎の伝承地。そして古代この伊吹山を背に北陸から湖北全体に勢力を誇ったのが、古代鉄の豪族息長氏。金太郎は息長氏一族の鍛冶屋の子として 伊吹山山麓この臥竜山が寝そべる長浜市西黒田の郷で生まれ、周囲の丘を遊び場にして　たくましく育ったという。

■ 伊吹山の山麓 長浜市西黒田に残る坂田の金時伝承の概要 ■

滋賀銀行　季刊情報文化誌「湖」2015 秋号　「“金太郎”　坂田の金時は旧坂田郡の人だった?　」より

https://www.keibun.co.jp/saveimg/mizuumi/0000000026/pdf_sub_208_20150925103446.pdf

伊吹山の山麓　長浜市西黒田に残る坂田の金時伝承

滋賀銀行　季刊情報文化誌「湖」2015秋号　“金太郎”　坂田の金時は旧坂田郡の人だった?
https://www.keibun.co.jp/saveimg/mizuumi/0000000026/pdf_sub_208_20150925103446.pdf

平安時代中期　近江国坂田郡布施郷(現長浜市西黒田布施町)に本拠地を持つ古代豪族息長氏一族に生まれた。
布施町に隣り合う小一条町に「番所・ばんふところ」の地名が残るが、これは「乳母が懐」と言われ、この辺りで乳母に育てられたとの言い伝えがある。　今もお地蔵さんが祀られ、授乳地蔵として信仰を集めている。
金太郎は熊岡山(熊岡神社)や足柄山(列見寺山)で熊と相撲を取ったり、舟崎の鯉ケ池で鯉に乗ったり、海童ぶりを発揮。
青年になるとこの地で盛んだった鍛冶の仕事に就いた。
金太郎のトレードマーク「赤い肌」「鉞」「金の字の腹掛け」は鍛冶の作業を表すという。
そして、20歳となった金太郎に転機が訪れる。天延4年(976)、旧暦3月21日、上総守の任期を終え、黒田海道を上京中の源頼光が足柄山にさしかかったとき、金太郎は頼光の目にとまり家来となった。
上京後、金太郎は名を坂田金時と改め、頼光のもと様々な手柄をたててゆく。
　正暦5年(994)、金太郎が住んでいた村の人々を苦しめている伊吹山の山賊(酒呑童子・伊吹童子)をついに退治し、渡辺綱、卜部季武、碓井貞光とともに頼光の四天王と称されるまでになる。(大江山・伊吹山の鬼退治伝承の一つ)

なお、坂田の金時の鬼退治伝承の多くは、大江山伝説の形をとっているが、伊吹山山麓では、上記のごとく伊吹山の山賊(酒呑童子・伊吹童子)退治の形でも伝承されている
また、この布施町から小一条町にかけては「タタレン」「穴伏」「金神山」「焼尾」といったたたら製鉄に関係した地名が残り、
鎌倉時代　布施町鍛冶屋場庄司には名剣を打つ鍛冶屋が軒を連ねていたという。

■ 琵琶湖取り囲む山々の山麓は たたら製鉄を育んだ和鉄の故郷 古代の鉄の王国「近江」■

琵琶湖周辺の山々には鉄鉱石があり、古代からその山麓には点々と製鉄遺跡や製鉄関連　そして、湖北から北陸にかけては古代の鉄の豪族息長氏の本拠地。そんな湖北の和鉄の故郷のひとつ伊吹山山麓　旧坂田郡西黒田は「坂田の金時・金太郎」の伝承地 たたらの里で生まれ、周辺の山で育った金太郎　その象徴が赤い肌・鉞・丸金の腹掛けだという。

金太郎の伝承地はいくつかあるが、「坂田」の地での伝承を持つのはこの伊吹山麓のみという。金太郎伝承が伊吹山山麓のたたらの里にあると初めて知りました。

久しぶりに知る各地に残る「桃太郎」「羽衣」ほかの昔話とたたらの関係。湖北へは何度も出かけ、伊吹山登山や湖岸沿いの長浜へは何度も行ったことあり、また関ヶ原を東に越えた美濃側の製鉄遺跡関連地垂井鞴祭りの南宮神社や濃赤坂金生山へも出かけましたが、伊吹の里を歩いたことなし。

11 月 12 日　伊吹山麓に加療のため帰ったという仲間の顔を見がてら、金太郎伝承の里を歩いてきました。

古代たたらの故郷　湖北 伊吹山山麓　たたらの古代豪族息長氏の里に「金太郎」伝承を訪ねる

【伊吹山西麓 米原市伊吹の里 & 桃太郎伝承の里 walk】Album 抜粋

琵琶湖湖岸　長浜と伊吹山の間に東西に長く寝そべる臥竜山の山裾
金太郎伝承が眠る長浜市西黒田地区(旧坂田郡西黒田村)

寝そべる臥竜山の丘の山裾　長浜市金太郎伝承の里

米原市　伊吹の里の背後にそびえる雄大な伊吹山

1.	伊吹山の山懐 伊吹の里の秋景色　伊吹山から流れ出る水の分水が伊吹の里の豊かさの象徴か?
2.	臥竜山が寝そべる山裾　桃太郎の伝承地 長浜市西黒田の里の秋景色
3.	桃太郎の伝承地長浜市西黒田の里から眺める 臥竜山 & 伊吹山遠望の秋景色

桃太郎伝承の残る古代たたらの故郷　湖北 伊吹山山麓　伊吹の里 &　長浜市西黒田地区(旧坂田郡西黒田村)
の walk の詳細は スライド動画 & photo album に記録収蔵していますので、こちらも合わせご覧ください。

【 保存　File: 古代たたらの故郷　湖北　伊吹山麓　たたらの里に眠る「金太郎」伝承　walk 】
■ 和鉄の道 URL: http://www.infokkkna.com/ironroad/2018htm/iron14/1812ibuki00.htm
◎ スライド動画　URL: http://www.infokkkna.com/ironroad/2018htm/iron14/1812ibuki.mp4
◎ photo album URL: http://www.infokkkna.com/ironroad/2018htm/iron14/1812ibukiphoto.pdf

1. 伊吹山の山懐 伊吹の里の秋景色 伊吹山から流れ出る水の分水が伊吹の里の豊かさの象徴か?

2. 臥竜山が寝そべる山裾　桃太郎の伝承地 長浜市西黒田の里の秋景色

3. 桃太郎の伝承地長浜市西黒田の里から眺める 臥竜山 & 伊吹山遠望の秋景色

4. 夕闇迫る中　坂田駅への道を急ぎつつ　今日一日の伊吹 walk をふりかえる

金太郎伝承の地　西黒田地区では東西に長く寝そべった臥竜山の丘の向こうにいつも大きな伊吹山が頭をのぞかせ、この地区が伊吹山と一体であること再認識しました。
残念ながら、里にはもう金太郎やたたらの痕跡はほとんど見つけられませんが、いくつもの枝尾根を張り出し、東西に長く寝そべる臥竜山の丘の山裾にを縫って続く古道をつないで、古い家並みが点々と続く。どこにでもあるのかもしれませんが、紅葉した森に接し、ゆったりと時間が流れる集落の中。
そのいくつかには今も古い古墳があり、丘には小さな社。家並みと接して続く丘の向こう伊吹の里にどっしりと座る伊吹山が頭をのぞかせ、里を見下ろしている。
日本の原風景そのものの古道が金太郎伝承・たたらの郷 Iron Road の痕跡

　また、今まで湖岸の長浜の街に何度も訪れたことがありましたが、あのどでかい伊吹山を眺めるのは米原を過ぎて　東へ東海道新幹線や東海道線の車窓から…。　湖岸に沿って北陸線で北の長浜へ行くときにはほとんど意識していませんでした。　長浜の街と伊吹山山麓伊吹の里がこんなに近く、また密接に結びつき、近江の国のたたらの郷として伊吹山を感じたのも初めてでした。
鉄の王国「近江」には随分あるいたつもりでいましたが、空白になっていた伊吹山山麓まったく抱いていた印象と違うのにびっくりです。
鉄の山伊吹山　湖北伊吹に和鉄伝承と重なる金太郎伝承　半信半疑でしたが、
伝承地の長浜西黒田地区が伊吹の里・伊吹山とつながっていることや、そして、この臥竜山の寝そべる西黒田地区が鉄を背景に北陸から近江に勢力を伸ばし大和政権に大きな影響力を持った息長氏の存在についても　ちょっとわかったような気がしました。

一番後になりましたが、伊吹山山麓の伊吹の里　もっと山深い山郷と思っていましたが、
湖岸長浜とも密接につながった豊かな田園地であることにびっくり。
そして、広い田園地が続くその中央にいきなりどっしりと構えて里を見下ろす伊吹山。
とにかくどでかい。圧倒される大きさ。しばらくは声も出ず、見入っていました。
また、伊吹の里の豊かさの源に豊富な伊吹山のみずの分水網にあることも　初めて知りました。
書き忘れましたが、西黒田長浜農業高校の銀杏並木とその上に浮かぶ伊吹山。今年一番の秋景色でした。
湖北を支えるどでかい山「伊吹山」その大きさに圧倒されたwalk。
花の伊吹山にもう一つ古代の和鉄の興味の加わった今回のwalk
暖かくなったら、伊吹の里からゆっくり伊吹山の頂上へ歩こうと思っています。
加療中の仲間の元気な姿も見られたし、うれしい伊吹の里walkになりました。
なお、今回のwalk 伊吹の里についた途端に　いつも記録代わりに手にするデジカメが故障で
全く使えず。　やむなくスマホをデジカメ代わりにするとともに、walkingの行程記録の随処に
Google MAP やGoogle Earth　Street View の画像を使わせていただきました。
いちおうその旨入れていますが、多少違和感のある画像ありますが、お許しください。

2018.11.12.　夕闇近く　金太郎の里を振り返りつつ
Mutsu Nakanishi

参考補足　1.　伊吹山への登山口　JR 東海道線　近江長岡駅　でも今長浜からゆくのも便利に

今回　長浜市と米原市とが南北に細長く伸びる臥竜山の丘を境に並び相互に結びついていることを記しました。
しかし、伊吹山といえば、伊吹山の南側にある近江長岡駅を出発点。したがって、東海道線が走る南側からすると長浜は随分北に見え、その伊吹の里へも近江長岡駅からゆくものと思っていました。

近年関西の交通網が再整備され、関西圏から長浜へ新快速が走るようになり、むしろ湖北長浜から伊吹の里経由で登山口へ行く道、ならびに臥竜山をトンネルで抜けて伊吹の里へ入る道が随分便利になっている。
かつては　どうか　どちらも湖北　古代は息長氏が勢力を張る同じ湖北の生活圏。　時代とともに感じ方が、随分変化している。でも　今も近江長岡駅に降り立って眺める伊吹山のどでかさは変わらず。やっぱり伊吹山に登るには近江長岡駅から伊吹の里に入るのが一番か…

参考補足　2.　金太郎伝承と息長氏のたたら伝承が重なる長浜西黒田地区

坂田の金時の伝承地 臥竜山西麓　長浜市旧坂田郡黒田地区

- **●臥竜山**　琵琶湖と伊吹山の間を南北に竜が伏せたように横たわる里山
  この西麓の山際に沿って金太郎伝承の西黒田地区の集落がある。
- **●熊岡山(熊岡神社)・足柄山(列見寺山)・舟崎鯉が池**
  南北に横たわる臥竜山の麓　金太郎の子供のころの遊び場
- **●長浜市布施町**　出生地
- **●長浜市小一条番所**　乳母に金時が育てられた場所
- **● たたら関連の地名が残る布施町・小一条町**
  「たたれん」「穴伏」「金神山」「焼尾」などたたら関連地名が残る

謎の多い古代豪族 息長氏 と 坂田の金時の伝承地　概略

長浜市旧坂田郡黒田地区

古代東山道，北陸道の要衝であり，琵琶湖に朝妻港をもつ交通の拠点であった伊吹山の西麓　近江国坂田郡息吹（現，坂田郡米原町と長浜市の一部）を本拠とした古代　鉄の王国近江の大豪族。
古事記ほかの伝承によれば、古墳時代の王族　意富富杼(おほほど)王の後裔と伝えられ、息長帯日売命（神功皇后）や息長真若中比売（応神天皇妃）など息長の氏名を冠する皇妃を輩出し，大王家との姻戚関係を伝える。

息長の名義発祥の由来は、
新羅から渡来した天之日矛（あめのひぼこ）の末裔の鍛冶集団で、上古から持つ製鉄・鍛冶に関する技術から生じたとする説や本拠地の伊吹山山麓荒ぶる山「息吹」に発するといわれる。
この坂田郡天野川流域には息吹氏と関係すると考えられる5世紀末～6世紀後半の息吹古墳群がある。
また、伊吹の里の北には　敏達天皇の皇后「息長広姫」の御陵息長陵とされる村居田古墳。金太郎の里臥竜山の山裾　長浜市旧坂田郡黒田地区にも布施町の布施古墳ほかいくつかの古墳があり、この地に勢力のあった生息長氏との関係が見られる。
金太郎の出生地伝承をこんな息長氏につながる鍛冶屋の子として、
息長氏の本拠地　伊吹山西麓　臥竜山の山裾ですくすくと育ったと伝えている。

■　参考・一部転載させていただいた資料 ■

1. 滋賀銀行 季刊情報文化誌「湖」2015 秋号　“金太郎”　坂田の金時は旧坂田郡の人だった?
   https://www.keibun.co.jp/saveimg/mizuumi/0000000026/pdf_sub_208_20150925103446.pdf
2. .金太郎伝承の地の黒田　長浜市西黒田　街づくりセンター　ホームページ
   http://nishikuroda.sakura.ne.jp/
3. 金太郎伝承の地の黒田　金太郎の里マップ
   http://nishikuroda.sakura.ne.jp/sisekimeguri.html
4. .Google Earth & Google map　street view　米原市　& 長浜市
5. 酒呑童子の出生伝説
   https://nohmask21.com/oni/densetsu02.html　ほか
6. 桃太郎伝説の吉備路 walk?? 鬼ノ城を訪ねる　2010.1.15.　ほか
   http://www.infokkkna.com/ironroad/2010htm/iron6/1002kinojyo00.htm

和鉄の道・iron road by Mutsu Nakanishi

1. 湖北 伊吹山山麓 近江国 旧坂田郡長浜市西黒田 に残る金太郎伝承　2018.6.1.
   http://www.infokkkna.com/ironroad/2018htm/iron14/1806nagahamakintarou.pdf
2. 鬼の住む山 大江山 鬼の伝説 に「Iron Road」のロマンをかきたてて
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/jstlbb06.pdf
3. 日本三彦山の一つ　越後 弥彦山　Walk　弥彦山に鍛冶神の痕跡を探して
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/7iron10.pdf
4. 旧暦霜月８日(11 月８日)　金山まつり・鞴まつり　伊吹山　美濃垂井　南宮大社の鞴祭りほか
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/4iron14.pdf
5. 日本各地に残る和鉄の道の風景
   http://www.infokkkna.com/ironroad/tatara/tatara05.pdf
6. .和鉄の道からみた日本誕生前夜の北近江・若狭
   http://www.infokkkna.com/ironroad/2011htm/2011iron/11iron17.pdf
7. 瀬田丘陵　源内峠製鉄遺跡　野路小野山製鉄遺跡を訪ねて
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/7iron03.pdf

【参考】「近江の鉄」　和鉄の道掲載リスト　by Mutsu Nakanishi

古代鉄の先進地　近江の鉄　掲載記事を書き出してみました

1. 大和政権を支えた近江国の鉄　瀬田丘陵 の製鉄地帯　2002.3.
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/jstlbb13.pdf
2. 2005 年青春キップの旅 古代鉄の足跡を訪ねて
   p12-p30 木ノ本　古橋製鉄遺跡 &北マキノ　2005.8.
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/5iron13.pdf
3. 比叡山延暦寺造営を支えた生産工房　大津市堅田　上仰木製鉄遺跡　2006.2.
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/6iron04.pdf
4. 瀬田丘陵　源内峠製鉄遺跡　野路小野山製鉄遺跡を訪ねて　2007.7.
   古代官営大製鉄コンビナートに発展させ た近江の製鉄技術
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/7iron03.pdf
5. 卑弥呼の時代からの大陸への玄関口　若 狭・北近江の「若狭街道」　2008.9.1.
   大陸・朝鮮半島の鉄を求めて続く若狭・北近江の「和鉄の道」を訪ねて
   分水嶺「水坂峠」の両側　北近江「高島　熊野本」と若狭「上中町熊 川宿&脇袋 」
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/8iron09.pdf
6 .湖南　南郷の古代の製鉄遺跡を訪ねて　袴腰山を巡る　2009.7.30.
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/9iron09.pdf
7. 古墳時代 朝鮮半島との交流玄関口「若狭」を再度訪ねる　2011.8.30.
   脇袋古墳群など若狭の王墓からの出土品見学? & 若狭小浜港・遠敷の里 Walk
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/11iron10.pdf
8. 北近江安曇川安曇あずみ会でのプレゼンスライド　2011.12.1.
   「和鉄の道 Iron Road 」から見た日本誕生前夜-北近江・若狭が輝いた時代-
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/11iron17.pdf
9. 琵琶湖交通・北陸や東日本と畿内をつなぐ交通の重要な結接点 近江の彦根　2016.12..
   纒向遺跡に匹敵する大型建造物のある鉄器物流を担う拠点都市集落が出土
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/16iron16.pdf

古代の鉄の王国「近江」
琵琶湖取り囲む山々の山麓は　たたら製鉄を育んだ和鉄の故郷

琵琶湖周辺の山々には鉄鉱石があり、その山麓には点々と古代から製鉄遺跡
そして湖北から北陸にかけては古代の鉄の豪族息長氏の本拠地である
そんな湖北の和鉄の故郷　伊吹山山麓　旧坂田郡西黒田は「坂田の金時・金太郎」の伝承地
たたらの里で生まれ、周辺の山で育った金太郎　その象徴が赤い肌・鉞・丸金の腰掛けだと。
金太郎の伝承地はいくつかあるが、「坂田」の地での伝承を持つのはこの伊吹山麓のみという。
金太郎伝承が伊吹山山麓のたたらの里にあると初めて知りました。
久しぶりに知る各地に残る「桃太郎」「羽衣」ほかの昔話とたたらの関係。
湖北へは何度も出かけ、伊吹山登山や湖岸沿いの長浜へは何度も行ったことあり、また関ヶ原を東に越えた美濃側の製鉄遺跡関連地垂井稲祭りの南宮神社や美濃赤坂金生山へも出かけましたが、伊吹の里を歩いたことなし。
11月12日
伊吹山麓に帰ったという仲間の顔を見がてら、金太郎伝承の里を歩いてきました。

謎の多い古代豪族 息長氏 と 坂田の金時の伝承地　概略
長浜市旧坂田郡黒田地区

古代東山道,北陸道の要衝であり,琵琶湖に朝妻港をもつ交通の拠点であった伊吹山の西麓　近江国坂田郡息吹(現,坂田郡米原町と長浜市の一部)を本拠とした古代　鉄の王国近江の大豪族。
古事記ほかの伝承によれば、古墳時代の王族　意富富杼(おほほど)王の後裔と伝えられ、息長帯日売命(神功皇后)や息長真若中比売(応神天皇妃)など息長の氏名を冠する皇妃を輩出し,大王家との姻戚関係を伝える。

息長の名義発祥の由来は、
新羅から渡来した天之日矛（あめのひぼこ）の末裔の鍛冶集団で、上古から持つ製鉄・鍛冶に関する技術から生じたとする説や本拠地の伊吹山山麓荒ぶる山「息吹」に発するといわれる。
この坂田郡天野川流域には息吹氏と関係すると考えられる5世紀末～6世紀後半の息吹古墳群がある。
また、伊吹の里の北には　敏達天皇の皇后「息長広姫」の御陵息長陵とされる村居田古墳。金太郎の里臥竜山の山裾　長浜市旧坂田郡黒田地区にも布施町の布施古墳ほかいくつかの古墳があり、この地に勢力のあった生息長氏との関係が見られる。
金太郎の出生地伝承をこんな息長氏につながる鍛冶屋の子として、息長氏の本拠地　伊吹山西麓　臥竜山の山裾ですくすくと育ったと伝えている。

伊吹山の山麓　長浜市西黒田に残る坂田の金時伝承

滋賀銀行　季刊情報文化誌「湖」2015秋号　"金太郎"　坂田の金時は旧坂田郡の人だった?
https://www.keibun.co.jp/saveimg/mizuumi/0000000026/pdf_sub_208_20150925103446.pdf

平安時代中期　近江国坂田郡布施郷(現長浜市西黒田布施町)に本拠地を持つ古代豪族息長氏一族に生まれた。
布施町に隣り合う小一条町に「番所・ばんふところ」の地名が残るが、これは「乳母が懐」と言われ、この辺りで乳母に育てられたとの言い伝えがある。　今もお地蔵さんが祀られ、授乳地蔵として信仰を集めている。
金太郎は熊岡山(熊岡神社)や足柄山(列見寺山)で熊と相撲を取ったり、舟崎の鯉ケ池で鯉に乗ったり、海童ぶりを発揮。
青年になるとこの地で盛んだった鍛冶の仕事に就いた。
金太郎のトレードマーク「赤い肌」「鉞」「金の字の腰掛け」は鍛冶の作業を表すという。
そして、20歳となった金太郎に転機が訪れる。天延4年(976)、旧暦3月21日、上総守の任期を終え、黒田海道を上京中の源頼光が足柄山にさしかかったとき、金太郎は頼光の目にとまり家来となった。
上京後、金太郎は名を坂田金時と改め、頼光のもと様々な手柄をたててゆく。
　正暦5年(994)、金太郎が住んでいた村の人々を苦しめている伊吹山の山賊(酒呑童子・伊吹童子)をついに退治し、渡辺綱、卜部季武、碓井貞光とともに頼光の四天王と称されるまでになる。(大江山・伊吹山の鬼退治伝承の一つ)

なお、坂田の金時の鬼退治伝承の多くは、大江山伝説の形をとっているが、伊吹山山麓では、上記のごとく伊吹山の山賊(酒呑童子・伊吹童子)退治の形でも伝承されている
また、この布施町から小一条町にかけては「タタレン」「穴伏」「金神山」「焼尾」といったたたら製鉄に関係した地名が残り、
鎌倉時代　布施町鍛冶屋場庄司には名剣を打つ鍛冶屋が軒を連ねていたという。

米原駅で北陸線長浜へ向かう新快速を降りて　伊吹山の南側　天野川に沿って走る東海道線大垣行で伊吹山の登山口の駅　近江長岡駅へ向かう。
伊吹山と湖岸の間には臥竜山の里山が南北に伸びていて、いつも新幹線から見えるあの巨大な姿は見えない。
天気は下り坂　晴れてはいるものの薄曇り。
天野川の向こうの山並みの奥に伊吹山の山頂部がかすんで見える。何度か伊吹山へは登りましたが、近江長岡の駅に立つのは本当に久しぶり。ほとんど記憶なし。
また　伊吹山の登山口伊吹の里を歩いたこともなく、楽しみ。
醒ヶ井にはいると伊吹山の山麓　田園地が広がり、山並みの奥に伊吹山がかすんで見える。次は近江長岡駅　東の伊吹山と臥竜山の細い間を北に広がる田園地帯
伊吹山の登山口　伊吹の里への入り口　近江長岡です。

2018. 11. 12. 10:51　近江長岡駅着
駅の背後に巨大な覆いかぶさるがごとく伊吹山が見える

2018. 11. 12. 10:51　近江長岡駅着
駅の背後に巨大な覆いかぶさるがごとく伊吹山が見える
視野の中に入りきらぬドデカイ山
今日はさえぎるもののない田園が広がる伊吹の里の向こうに
伊吹山全体をみるのが楽しみ

本当に大きな山である　今日は伊吹の里から田園の向こうに
大きく広がる伊吹山全体をまじかでみるのが楽しみ

米原市観光マップ 近江長岡駅・伊吹山周辺
近江長岡駅前にある米原観光マップ
シーズン外れとあって　ひっそりとしたもの　伊吹山の山裾に広がる
伊吹の里を通って長浜へ抜けるバスがあり、それに乗って伊吹の里へ
療養中の仲間を見舞って、午後　walkingをはじめる。

2018. 11. 12.　伊吹の田園からながめる伊吹山
バスが近江長岡駅から街中を抜け、田園に入ると車窓からは雄大な伊吹山が眺めら
れました。手前には収穫を終わった広大な田園地帯がひろがり、伊吹山のめぐみが
感じられる穏やからしい景色です。　午後の里歩きが楽しみ。

伊吹の里 MAP
敏達天皇皇后廣姫
忍長陵(村居田古墳)
姉川
井之口
三菱ケミカル
(株)滋賀事業所
道の駅 伊吹
の里彫彩の森
伊吹の里
石田山公園
野一色
石田
観音坂トンネル
朝日
米原市
市場
伊吹高校
春照
米原市役所
臥竜山
鳥羽上
旧坂田郡西黒田地区
金太郎の伝承地
三友エレクトリック(株)
びわこ産業(株)
東海道新幹線
米原市 山東庁舎
米原市立山東小
Google
近江長岡駅

伊吹の里 MAP
敏達天皇皇后廣姫
忍長陵(村居田古墳)
姉川
井之口
三菱ケミカル
(株)滋賀事業所
道の駅 伊吹
の里彫彩の森
伊吹の里
石田山公園
野一色
石田
観音坂トンネル
朝日
米原市
市場
伊吹高校
春照
米原市役所
臥竜山
鳥羽上
伊吹・金太郎の伝承地walkのスタートは伊吹の里の真ん中　伊吹高校
前のバス停から。　12:15
すぐ横が市場の十字路　西へ行けば、臥竜山をとんねるでぬけて、金
太郎の伝承地長浜の西黒田地区　右行けば南東の近江長岡へ、また南
へまっすぐ下れば醒ヶ井。北へ取ると田園地帯の中に小さな集落が点
在する伊吹山の山裾。その山裾を伊吹山から流れ出た北へ姉川が方向
を北にとって流れ下る伊吹山麓。
まずは　田園が広がる伊吹の里の背後にそびえたつ伊吹山の姿をしっ
かり眼に収め、伊吹山麓から引き返して、長浜金太郎の里へ向かう。
現地に来て初めて知る長浜市と米原市の位置関係。　みんな湖北なん
だとびっくりしました。長浜の街の重要性も再認識。
もう一つ、問題発生。カメラが故障。撮影がストップ。
仕方なくスマホで撮影。詳細はあとでgoogle earthのストリートビュ
で保管することにしましたので、記録もこの写真が混在しています。
Google

1. 伊吹の里 walk　市場から北の伊吹山の山裾　井之口・伊吹へ
伊吹高校前すぐ横の市場十字路から県道19号を北へ
伊吹山の山裾　地図でみた井之口集落へ向かう
はやく　伊吹山全体が見える田園地帯へと　2018.11.12. 12:15
まもなく　東の関ヶ原から伊吹の里を西抜けて湖北を結ぶ
国道365線野一色の集落の信号十字路
奥に伊吹山の姿が見えるが全体は見えない
正面の野一色の集落を抜ければ田園地帯に出れる。
Google photo　市場十字路から北へ県道19号を伊吹山へ

伊吹の里の豊さの象徴か？ 伊吹山の水と里全体に張り巡らされた分水

坂田の金時の伝承地 臥竜山西麓　長浜市旧坂田郡黒田地区

- **臥竜山**　琵琶湖と伊吹山の間を南北に竜が伏せたように横たわる里山
  この西麓の山際に沿って金太郎伝承の西黒田地区の集落がある。
- **熊岡山(熊岡神社)・足柄山(列見寺山)・舟崎鯉が池**
  南北に横たわる臥竜山の麓　金太郎の子供のころの遊び場
- **長浜市布施町**　　出生地
- **長浜市小一条番所**　乳母に金時が育てられた場所
- **たたら関連の地名が残る布施町・小一条町**
  「たたれん」「穴伏」「金神山」「焼尾」などたたら関連地名が残る

トンネルを抜けると長浜市石田町
西側の展望が一挙にひらけ、湖岸まで一望。
でもまだ、標高は低い。平野に降りてゆく道筋に
石田町の家並みが続く。
石田三成生誕の街だという
長浜市
米原市
横出

臥竜山の山裾　西へ張り出した枝尾根に沿って石田町の家並み
下の写真に見える森が石田三成生誕の地といい、臥竜山に沿って
田園と小さな集落が点々と続く。

振り返った石田町の家並みの向こうに伊吹山が顔を出していました
臥竜山の山裾　張り出した枝尾根をぬうように西黒田地区の集落をつなぐ道が南へ続き、
石田町の次の集落が八条町。集落の入口には「金太郎の里西黒田　ここは八条町」との案
内板があり、東西に横たわる臥竜山の丘越しに伊吹山の頂上部が見えている。

北東側　石田町の向こう丘越しに伊吹山が見えている
八条町の入口周辺から眺める南北に横たわる臥竜山の丘　2018.11.12.　14:35
南西側　八条町の後　西に張り出した丘の山裾の端に足柄神社がある

南へ八条町の街並みを抜けた山裾の先端に足柄神社　2018. 11. 12.　14:50
金太郎が幼少の頃　金太郎が遊んだのは　丘からいくつも張り出した枝尾根か??

基準点
常喜湖　八条町と本庄町の境　ここで南北に走る県道２４３号に出た
石田町から西へ張り出した枝尾根の先端部で

金太郎のさと西黒田
ここは本庄新町
南北に寝そべる延臥竜山からまるで竜の足のごとく幾つもだ尾根が西へはりだし、
その先端部をつないで　長浜の東部を南へ国道243号が走る西黒田地区
街並みの向こう　先端部に熊岡神社がある足柄山といわれる次の枝尾根が見えてい
2018. 11. 12.　国道243沿い 西黒田地区 本庄新町周辺

西黒田まちづくりセンター
金太郎のさと西黒田
ここは常喜町
2018. 11. 12. 国道243沿い西黒田地区本庄新町の隣常喜町の西黒田まちづくりセンター
臥竜山の山裾に沿って点々と集落が並ぶ西黒田地区　このほぼ中央が常喜町
ここにも東の伊吹の里から長浜へトンネルで臥竜山を抜ける道がある

近江長岡
伊吹の中
野一色
市場
朝日
観音坂
トンネル
643×470
石田町
八条山公園
八条町
足柄神社
本庄町
熊岡神社
名越町
布施町
小三条町

Google photo 熊岡神社
常喜町から南に見えていた丘の先端に金太郎伝承の熊岡神社
この背後の丘が金太郎が幼少の頃遊んだ足柄山?

2018. 11. 12.　15:12　足柄山? の山裾　熊岡神社

2018. 11. 12.　臥竜山の枝尾根が張り出した裾　熊岡神社前　国道243より

2018. 11. 12.　臥竜山の枝尾根が張り出した山裾熊岡神社前　国道243より

2018. 11. 12. 熊岡山の南　次の枝尾根の手前にきれいな銀杏並木が見える

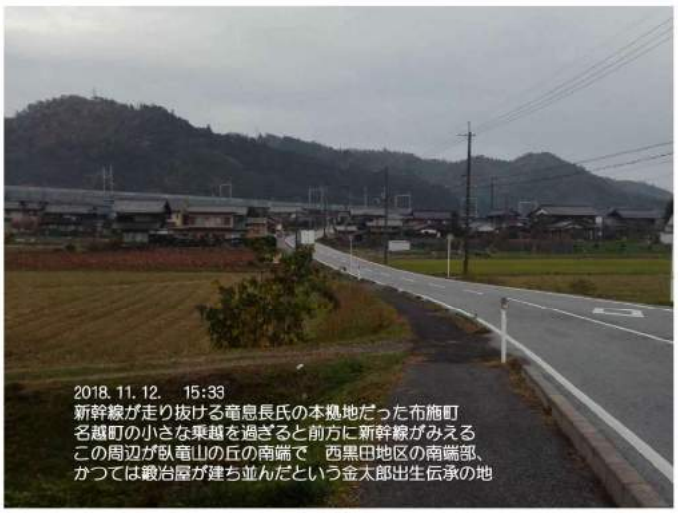
長浜農業高等学校
農産物販売会
2018. 11. 12.　長浜農業高校入口の素晴らしい銀杏並木
あいにく霧雨になりましたが、背後に伊吹山がけぶり、素晴らしい伊吹山麓の秋景色

2018. 11. 12.　素晴らしい伊吹山麓の秋景色　長浜農業高校 銀杏並木

2018. 11. 12.　素晴らしい伊吹山麓の秋景色　長浜農業高校銀杏並木

2018. 11. 12.　長浜農業高校　銀杏並木を前に　金太郎が熊と遊んだという山??

2018. 11. 12.　張り出した小さな丘の乗越　名越町



2018. 11. 12.　15:33
新幹線が走り抜ける竜息長氏の本拠地だった布施町
名越町の小さな乗越を過ぎると前方に新幹線がみえる
この周辺が臥竜山の丘の南端で　西黒田地区の南端部、
かつては鍛冶屋が建ち並んだという金太郎出生伝承の地

2018. 11. 12.　臥竜山の丘を背に広がる息長氏の本拠地
金太郎出生の地　布施町　鎌倉時代には鍛冶屋が建ち並んだという

2018. 11. 12.　布施町の入口にある布施古墳

2018. 11. 12.　臥竜山の丘の端　北陸道の高架が見える家並み
布施町の隣の小一条町

布施町の隣　小一条町 Map

2018. 11. 12.　国道からはなれ、小一条の家並にはいる

小一条町の家並の出口には金太郎が「飛び出し注意」
そういえば　西黒田地区のあちこちで　見かけました

小一条の街並みから国道に出ると、今歩いてきた臥竜山沿いの西黒田地区そ
してその背後に伊吹山が一望。いよいよ　西黒田地区walkもおわり。
この北陸道の高架のすぐ横の山裾に
小一条番所「金太郎が乳母に育てられた所」の案内板がありました。

高架のすぐ横の山裾に「小一条番所　金太郎が母に育てられた所」の案内板

2018. 11. 12.　16:00　金太郎伝承の地　walkが終了

2018. 11. 12.　小一条番所から眺める臥竜山の山並みとその上に見る伊吹山

Walkを終わって、帰路につく。
広い国道バスか何かあるだろうと思いましたが、歩くしか手段なし。
米原駅はまだまだ遠いし、最短は北陸線坂田駅へ行くのが一番だと
聞く。　そうか　ここは旧坂田郡　坂田の金時の里
日が傾いてきましたが、街中を約1時間ぶらぶら歩いて坂田駅へ。
すぐ湖岸と思ってもいましたが、これもはずれ。意外でした。
でも　北陸道をくぐり、新幹線がもうスピードで駆け抜けてゆく。
北陸と湖北を結ぶ幹線国道8号線　長浜・米原は交通の要衝。
次々と新しい街が生まれているのを知りました。
もう夏っ暗になりかけた5時過ぎ
坂田駅にたどり着き、新快速に飛び乗って　神戸に帰りました。
時代が大きく動いていると知った坂田の街でもありました。

Google photo　小一条町から　新幹線をくぐり、国道243号線を
ひたすら湖岸近く西の坂田駅へ

Google photo　国道8号線の幹線へ出て、やっと一息　でもやっぱり歩くしかなし

Google photo　国道8号線を渡り伊吹中間　再度国道243を西へ
約1時間ほどで坂田にたどり着きました

2018. 11. 12.　小一条番所から眺める歌笛山の山並みとその上に浮かぶ伊吹山
長浜西黒田地区は古くから密接に結びついていると感じる風景です

2018. 11. 12.　伊吹の里 野一色周辺からながめる雄大な伊吹山

Google photo　すぐ東伊吹山の山裾を北に姉川が流れる井之口の集落
邑中には水路が巡り、美しい邑中でした

2018. 11. 12. 12:46　姉川上流側の小田分水からの水をさらに分ける　井之口分水

2018. 11. 12.　南西へ米原市場へ戻る途中　小田の邑中を下った所に小田分水
ここも水量豊か　また通過した小田の邑中も本当にきれいな道筋でした

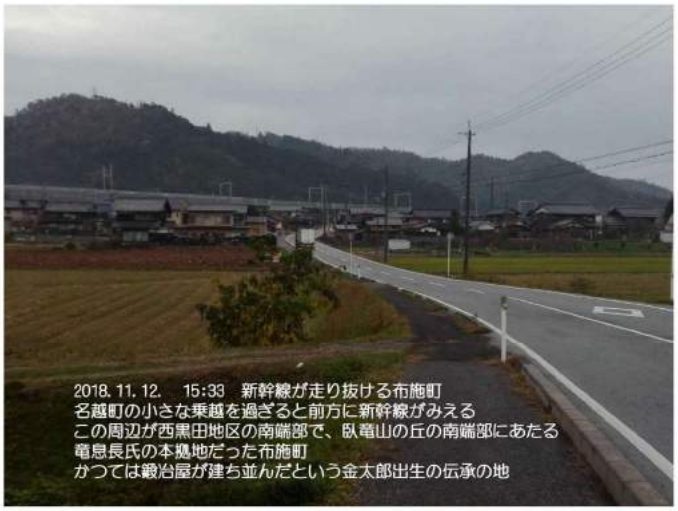
トンネルを抜けると長浜市石田町
視界の展望が一機にひらけ、湖岸まで一望。
そのまま、標高は低い、平野に降りてゆく道筋に
石田町の家並みが続く。
石田三成生誕の街だという
長浜市
米原市

南へ八条町の街並みを抜けた山裾の先端に足神神社　2018. 11. 12.　14:50
金太郎が幼少の頃　金太郎が遊んだのは　丘からいくつも張り出した枝尾根が??

2018. 11. 12.　素晴らしい伊吹山麓の秋景色　長浜農業高校銀杏並木

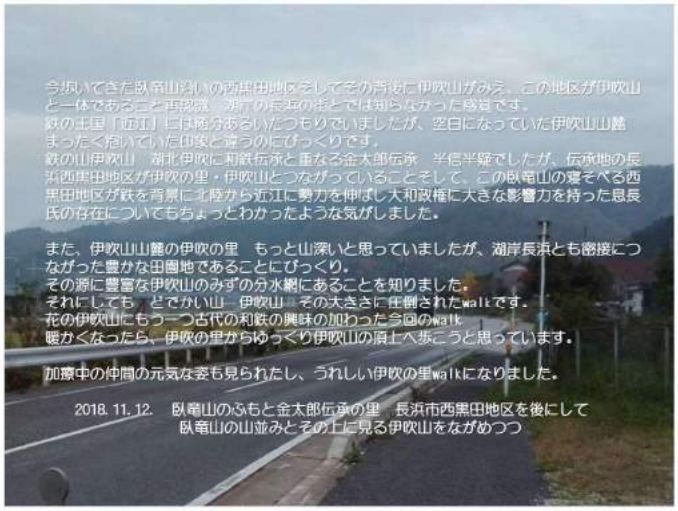
2018. 11. 12.　素晴らしい伊吹山麓の秋景色　長浜農業高校 銀杏並木

金太郎のさと
にしくろだ
ここは名越町
2018. 11. 12.　張り出した小さな丘の乗越で　名越町


2018. 11. 12.　15:33　新幹線が走り抜ける布施町
名越町の小さな乗越を過ぎると前方に新幹線がみえる
この周辺が西黒田地区の南端部で、臥竜山の丘の南端部にあたる
竜息長氏の本拠地だった布施町
かつては鍛冶屋が建ち並んだという金太郎出生の伝承の地

2018. 11. 12.　臥竜山の丘を背に広がる布施町
息長氏の本拠地　金太郎出生の地
鎌倉時代には鍛冶屋が立ち並んだという

金太郎のさと西黒田
ここは小一条町
小一条町の家並の出口には金太郎が「飛び出し注意」
そういえば　西黒田地区のあちこちで　見かけました



近江長浜西黒田の金太郎伝承walk　参考・一部転載させていただいた資料

1. 滋賀銀行 季刊情報文化誌「湖」2015秋号
   "金太郎"　坂田の金時は旧坂田郡の人だった?
   https://www.keibun.co.jp/saveimg/mizuumi/0000000026/pdf_sub_208_20150925103446.pdf
2. 金太郎伝承の地の黒田　長浜市西黒田　街づくりセンター　ホームページ
   http://nishikuroda.sakura.ne.jp/
3. 金太郎伝承の地の黒田　金太郎の里マップ
   http://nishikuroda.sakura.ne.jp/sisekimeguri.html
4. Google Earth & Google map　street view　米原市　& 長浜市
5. 酒呑童子の出生伝説
   https://nohmask21.com/oni/densetsu02.html
6. 桃太郎伝説の吉備路walk　鬼ノ城を訪ねる　2010. 1. 15.　ほか
   http://www.infokkkna.com/ironroad/2010htm/iron6/1002kinojyo00.htm

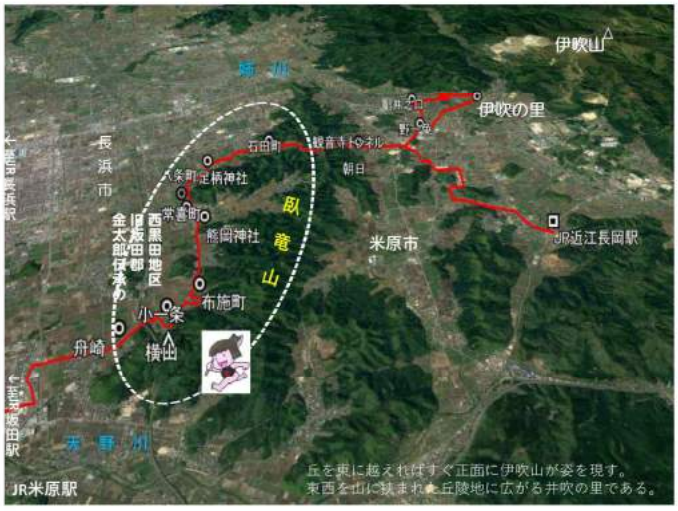
和鉄の道•iron road by Mutsu Nakanishi

1. 湖北 伊吹山山麓 近江国 旧坂田郡に残る金太郎伝承　2018. 6. 1.
   旧坂田郡 長浜市　旧坂田郡 長浜市西黒田
   http://www.infokkkna.com/ironroad/2018htm/iron14/1806nagahamakintarou.pdf
2. 鬼の住む山 大江山 鬼の伝説 に「Iron Road」のロマンをかきたてて
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/jstlbb06.pdf
3. 日本三彦山の一つ　越後 弥彦山　Walk　弥彦山に鍛冶神の痕跡を探し て
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/Tiron10.pdf
4. 旧暦霜月8日(11月8日)　金山まつり・鞴まつり
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/4iron14.pdf
5. 日本各地に残る和鉄の道の風景
   http://www.infokkkna.com/ironroad/tatara/tatara05.pdf
6. 和鉄の道からみた日本誕生前夜の北近江・若狭
   http://www.infokkkna.com/ironroad/2011htm/2011iron/11iron17.pdf
7. 瀬田丘陵　源内峠製鉄遺跡　野路小野山製鉄遺跡を訪ねて
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/Tiron03.pdf

【参考】「近江の鉄」　和鉄の道掲載リスト　by Mutsu Nakanishi

古代鉄の先進地　近江の鉄　掲載記事を書き出してみました

1. 大和政権を支えた近江国の鉄　瀬田丘陵 の製鉄地帯　2002. 3.
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/jstlbb13.pdf
2. 2005年青春キップの旅　古代鉄の足跡を訪ねて　p12-p30　2005. 8.
   木ノ本　古橋製鉄遺跡 &　北マキノ
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/5iron13.pdf
3. 比叡山延暦寺造営を支えた生産工房　大津市堅田　上仰木製鉄遺跡　2006. 2.
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/6iron04.pdf
4. 瀬田丘陵　源内峠製鉄遺跡　野路小野山製鉄遺跡を訪ねて　2007. 7.
   古代官営大製鉄コンビナートに発展させ た近江の製鉄技術
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/Tiron03.pdf
5. 卑弥呼の時代からの大陸への玄関口　若 狭・北近江の「若狭街道」　2008. 9. 1.
   大陸・朝鮮半島の鉄を求めて続く若狭・北近江の「和鉄の道」を訪ねて
   分水嶺「水坂峠」の両側　北近江「高島　熊野本」と若狭「上中町熊 川宿&脇袋 」
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/8iron09.pdf
6. 湖南　南郷の古代の製鉄遺跡を訪ねて　袴腰山を巡る　2009. 7. 30.
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/9iron09.pdf
7. 古墳時代 朝鮮半島との交流玄関口「若狭」を再度訪ねる　2011.8.30.
   脇袋古墳群など若狭の王墓からの出土品見学 & 若狭小浜港・遠敷の里 Walk
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/11iron10.pdf
8. 北近江安曇川安曇あずみ会でのプレゼンスライド　2011. 12. 1.
   「和鉄の道Iron Road 」から見た日本誕生前夜-北近江・若狭が輝いた時代-
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/11iron17.pdf
9. 琵琶湖交通・北陸や東日本と畿内をつなぐ交通の重要な結接点 近江の彦根　2016.12..
   纒向遺跡に匹敵する大型建造物のある鉄器物流を担う拠点都市集落が出土
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/16iron16.pdf



概略 謎の多い古代豪族 息長氏 と 坂田の金時の伝承地

長浜市旧坂田郡黒田地区

古代東山道.北陸道の要衝であり.琵琶湖に朝妻港をもつ交通の拠点であった伊吹山の西麓　近江国坂田郡息吹(現.坂田郡米原町と長浜市の一部)を本拠とした古代　鉄の王国近江の大豪族。
古事記ほかの伝承によれば.古墳時代の王族　意富富杼(おほほど)王の後裔と伝えられ、息長帯日売命(神功皇后)や息長真若中比売(応神天皇妃)など息長の氏名を冠する皇妃を輩出し.大王家との姻戚関係を伝える。

息長の名義発祥の由来は、
新羅から渡来した天之日矛（あめのひぼこ）の末裔の鍛冶集団で、上古から持つ製鉄・鍛冶に関する技術から生じたとする説や本拠地の伊吹山山麓荒ぶる山「息吹」に発するといわれる。
この坂田郡天野川流域には息吹氏と関係すると考えられる5世紀末～6世紀後半の息吹古墳群がある。
また、伊吹の里の北には　敏達天皇の皇后「息長広姫」の御陵息長陵とされる村居田古墳。金太郎の里臥竜山の山裾　長浜市旧坂田郡黒田地区にも布施町の布施古墳ほかいくつかの古墳があり、この地に勢力のあった生息長氏との関係が見られる。
金太郎の出生地伝承をこんな息長氏につながる鍛冶屋の子として、
息長氏の本拠地　伊吹山西麓　臥竜山の山裾ですくすくと育ったと伝えている。

坂田の金時　酒呑童子の鬼退治伝承

「酒呑童子の出生伝説」　大江山･伊吹山･越後英彦山

酒呑童子伝説の多くは、大江山伝説の形をとっているが、
日本各地では酒呑童子の出生とかかわる伝説を残し、
それを物語化したり絵巻としているところが他にもみられる。
大江山鬼退治伝承を残す大江山も含め、
酒呑童子出生伝承を残す伊吹山･英彦山の山麓は古代鉄伝承の鉄の山。
荒ぶる鉄の山が酒呑童子の伝承を生んだともいえる

●　新潟県　越後英彦山の伝承

「御伽草子」は、酒呑童子の出生地を越後としているが、
新潟県(越後国)には、酒呑童子出生にまつわる伝説が、かなり残っている。
なかでも弥彦山系の国上山にある国上寺(分水町)には、「大江山酒呑童子」絵巻と共に、
寺の縁起が　残され、酒呑童子の生い立ちがくわしく記されている。
平安初期に越後国で生まれた彼は、手のつけられない乱暴者で、国上寺(新潟県燕市)の
稚児となった。
絶世の美少年であったため多くの女性に恋され恋文をもらったが、
貰った恋文を読みもせず全て焼いてしまったところ、
想いを伝えられなかった女性の恋心が煙となって、
彼の周りを取り囲み、その怨念によって鬼になったという。
そして鬼となった彼は、各地の山々を転々とした後に、大江山に棲みついたという。
一説では越後国の鍛冶屋の息子として産まれ、母の胎内で16ヶ月を過ごしており、
産まれながらにして歯と髪が生え揃い、すぐに歩くことができて、
5～6歳程度の言葉を話し、4歳の頃には16歳程度の知能と体力を身につけ、
気性の荒さもさることながら、
その異常な才覚により 周囲から「鬼っ子」と疎まれていたという。

臥竜山西麓　長浜市旧坂田郡黒田地区

西黒田金太郎の里マップ

http://nishikuroda.sakura.ne.jp/sisekimeguri.html

(1) 八条の古墳
(2) 八条の西小公園の不動石
(3) 三百坊遺跡
(4)立石
(5) 能岡神社
(6) 王杉様(御杉様)
(7) 列見寺山(足柄山)
(8) 鳥羽上城跡
(9) 横山隧道
(10) 観音堂お杉さん
(11) 赤塚遺跡
(12) 左手地蔵さん
(13) 名超寺の大門跡
(14) 鍛冶屋場庄司
(15) 布勢古墳
(16) 穴伏
(17) 金太郎と鉄との 関係地名
(18) 足柄神社と「おこない」
(19) 戸柄神社と奉納相撲
(20) 能岡神社の御輿
(21) 春日神社と幟旗
(22) 番所と地蔵さん

㉒ 春日神社と幟旗（布勢町）

春日神社の祭神は布勢大明神と称する。
四基の幟旗は春日神社の祭礼の時 神を迎える目代(おぢしろ) として立てたものである。
蒲平、矛、剣刷、剣き置き、ばんばら、
幟旗からなりたち、本来に伝統的文化財といって も過言ではない。
特に灰の色を表す幟旗は、布勢の地が鉄生産(タタラ)に関係ある土地柄といわれる由縁でもある。

㉑ 番所と地蔵さん（小一条町）

番所は「ばんふぇどこ」と呼ばれ「高程が橋」がなまったものと伝えられている。
農民家の子供であった金太郎がこの地で気絶に陥ったというお話がある。
この地に祀られている地蔵さんは「陸気地蔵」といわれ、お祈りをすると、母乳が湧かせ子宝長寿を集めている。

臥竜山西麓　長浜市旧坂田郡黒田地区

http://nishikuroda.sakura.ne.jp/sisekimeguri.html

① 八条の古墳（八条町）

古墳と思われるところが4ヶ所あり、いずれも墓長に関係する墓誌の墓と伝えられる。
その中で仏廟宮古墳は、大きな三角東の形をした墓石があり「朝日さし、夕日さす此の地に金の鶏をうめ置く」という伝説がある。

② 八条の西小公園の不動石（八条町）

中央の不動石は牛の形に似ていることから、子どもたちに「牛さん」の愛称で呼ばれ、町民の憩いの場となっている。
この石には、「稚量和銅」と刻まれており、稚量制の名残りと、聖徳太子の「和を以て貴しとなす」を町の教訓として示したものである。

③ 三百坊遺跡（本庄町）

この地には多くの寺が存在していたという言伝の地で、僧兵も多く生活していたと伝えられているが、戦争の過程ですべて亡び現在は地名として残るのみである。

④ 立石（常喜町）

常喜町と本庄町の境界に大小2つの石がある。立石と呼ばれるこの石は1300年の昔に出来た権現和の板田九郎と十条の間に流れるようで、北祭田・南祭田と言われるもとともなっている。

⑤ 能岡神社（常喜町）

武の神様であると言われ、春の大祭は5月3日に新神興の渡行があり定められた道を子ども応援行列とともに町内を一巡し賑しく町民が押し寄せる。
能神興は金銅七金属神興としては国宝に保存すると言われている。

⑥ 王杉様(御杉様)（常喜町）

能岡神社境内に樹高30メートル余の平様大杉が古墳伝説地点の中央にある。
幼児すると不思議に町内民の火災の時としての役を送られている。
さらに言葉とは「おましやす、通一列」と口にして急いで通る風習が残っている。

⑦ 列見寺山(足柄山) の由来（本庄町・常喜町）

源義光が相州から京に帰る途中、足柄山で金太郎と遭い金太郎の報恩、孝道に感じたという物語（怪太平記）と、列見という言葉の意味が古代の文武官採用試験だったことを考えると、列見寺山は足柄山だったことを証明できはしないだろう

⑧ 鳥羽上城跡（板羽上町）

観音切崩丸と鳥羽上山麓丸の2つの砦遺を保存するための構造で、天分2年(1534) 戸倉定頼 率いる江南軍に対し京都義晴、浅井亮政の江北軍と合戦があったとされ、織主は京都方民間と郡住権代表であった。付近の遺構はよく残っており、大墓、城越、丸太等名残りの小字が多い。

⑨ 横山隧道（鳥羽上町）

鳥羽上と曽江を結び、大正12年(1923) 竣工した、幅4.4m、長さ164mの煉瓦造、坑門は日本型デザインでイギリス積み、入口には3mを超す記念碑が立てられており、手くせ人力に頼った工事の困難と苦労の奇力勤勉をうかがうことができる。

⑩ 観音堂おお杉さん（鳥羽上町）

承久年間(1219～1222) 後鳥羽上皇が神威祭のお杉観音堂の地に杉を植え様大になったという。「お杉さん」と称した木は老木になり台風によって倒れ、2代目が平成10年に植えられている。観音石像も建てられ上皇の面影がしのばれる。

⑪ 赤塚遺跡（鳥羽上町）

赤塚山入口とに大きな円墳があった。現在その形を見ることはできないが建設されたとされる大小の石が散在する。
明治32年尾崎寺跡に移設されるまで墓地となっていた。

⑫ 左手地蔵さん（名超町）

小暗山麓側に祀られている地蔵さんで、左利きが右利きに直るという言い伝えがある。
首二箇を供え一箇を持ち帰り右手で食事をすると右利きになり、今も遠くからお参りする人もある。

⑬ 名超寺の大門跡（名超町）

横山隧道から東へ山東の山道に通じる山麓天道、名超寺への参道でもあるが中ほどの3つの大門があったが、兵火により焼失、中門の上の石がただ一つ残存している。
残存される深川は後鳥羽上皇が本陣いの虎、綾川と呼ばれている。

⑭ 鍛冶屋場庄司（布勢町）

鎌倉時代後期の頃、後鳥羽上皇が長々本定期を巡行に鎌倉御所を経て石勢を訪たせたという。
当時鉄生産が盛んに行われると同時に鎌倉屋が多く軒を並べていた所である。

⑮ 布勢古墳（布勢町）

形は大小二箇の円墳で、大は直径10m余、小は8mの円を重ねて墳墓りに設置で樹木を植え三方を囲っている。
東主は布勢藤原4呼王(ふせおふとおう)であるという。

⑯ 穴伏（小一条町）

穴伏(あなふせ) とは穴を掘く、つまり踏みふんで芦の中へ風を送り隠い川をおこし鉄を生産するさまをいう。
付近は豊富な水の湧れと少しも存在し砂鉄となっている。
ここから西北山を向下水は興味色の酸化鉄を含んで金気水で鉄生産に関係があるといわれている。

⑰ 金太郎と鉄との関係地名（布勢町・小一条町）

成長した金太郎は荒勢の鉄吉屋場庄兵の刀匠のもとで働き、そのたくましい体で大槌をふるっていたといわれている。
付近には鉄生産に関わる地名が多く点在している。
「タタレシ」「ニイーレ」「灰原」「穴伏」「金神山」「地蔵」等である。

⑱ 足柄神社と「おこない」（八条町）

後鳥羽上皇家の御子盛隆卿が建保年行の途中七条村に立ち寄った時、八条村南谷の地に足柄神社を勧請し、草堂を営み、これに奉祀したのが足柄神社の縁起といわれている。
また、社近辺さきと八条村の浮ケ谷にあったが、盛隆卿は足柄神社とともに心神二尊に絶せし賜うたという記録がある。
その後年川村に移住移し代々相続されて来た。
この様に足柄神社と光祥寺の親密な関係は今も「おこない」という形で継続され、荒町女王の神霊設置は他に例を見ない重要深いもので、誠に三大「おこない」の一つに数えられている。

⑲ 戸柄神社と奉納相撲（本庄町）

（明治初年以前は足柄神社と称した）
祭神大歳の神で894年菅原道真公の勧請により建立された。
古来有名なのは秋の祭礼に行われた奉納相撲で、力自慢の老者がこぞって参加したという。
950年主まれの金太郎(荒田金時)も相撲大会に参加し、強豪ぶりを大いに発揮したと伝えられている。
明治以降時代の機械として、人馬あるいは鬼熊山谷五郎は、幼少の時 本庄に滞在し、腕自りを手伝いながら相撲の手ほどきを受け、異相撲でも腕も相手になれないほど強くなったので真剣に入門したといわれる。

⑳ 能岡神社の神輿（常喜町）

本体　木造ウルシ塗
総高：246.0cm
金具：528.4cm
幅　：131.0cm
金具　銅・銅張および真鍮
象徴七宝、彫金、鍍金、鍍銀

鳥羽の時代に「天和4年月三月吉日奉 第八番住神輿 村田西五郎門」の刻銘がある。
造りも堅牢で、ほとんど全面を銅金具で覆う装飾性をみせ、特に軒を受ける12本の柱すべてに立象鳳金具を巻き、12本の軒端が全て異なる意匠を施りてある。
全国神輿の中の三指に入ると評され、2003(平成15) 年には、京都公立博物館に展示された。